

中学校、義務教育学校の後期課程、
中等教育学校の前期課程

教科用図書調査研究の結果

(令和3・4・5・6年度使用)

令和2年6月

神奈川県教育委員会

本資料は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令に基づき、神奈川県内の採択権者が教科用図書を選定するための基礎的な資料として作成した。
 本資料は、教科用図書調査研究の各観点に基づき、21の調査項目を定め、全発行者の教科用図書について調査した結果の概要を発行者ごとにまとめたものを【資料Ⅰ】とし、その詳細を【資料Ⅱ】として構成した。

目 次

発行者の記載順は、文部科学省発行の中学校用教科書目録（令和3年度使用）の掲載順による

		ページ
令和3年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点について		観点1～5
教科名（種目）	発行者の略称	
国語（国語）	東書 三省堂 教出 光村	国語1～16
国語（書写）	東書 三省堂 教出 光村	書写1～12
社会（地理的分野）	東書 教出 帝国 日文	地理的分野1～11
社会（歴史的分野）	東書 教出 帝国 山川 日文 育鵬社 学び舎	歴史的分野1～17
社会（公民的分野）	東書 教出 帝国 日文 自由社 育鵬社	公民的分野1～13
社会（地図）	東書 帝国	地図1～6
数学（数学）	東書 大日本 学図 教出 啓林館 数研 日文	数学1～27
理科（理科）	東書 大日本 学図 教出 啓林館	理科1～17
音楽（一般）	教出 教芸	一般1～6
音楽（器楽合奏）	教出 教芸	器楽合奏1～5
美術（美術）	開隆堂 光村 日文	美術1～10
保健体育（保健体育）	東書 大日本 大修館 学研	保健体育1～11
技術・家庭（技術分野）	東書 教図 開隆堂	技術分野1～10
技術・家庭（家庭分野）	東書 教図 開隆堂	家庭分野1～7
外国語（英語）	東書 開隆堂 三省堂 教出 光村 啓林館	英語1～17
特別の教科 道徳（道徳）	東書 教出 光村 日文学 学研 廣あかつき 日科	道徳1～16

<参考> 発行者一覧

発行者	発行者の略称	発行者	発行者の略号
東京書籍株式会社	東書	株式会社大修館書店	大修館
大日本図書株式会社	大日本	株式会社新興出版社啓林館	啓林館
教育図書株式会社	教図	株式会社山川出版社	山川
開隆堂出版株式会社	開隆堂	数研出版株式会社	数研
学校図書株式会社	学図	日本文教出版株式会社	日文
株式会社三省堂	三省堂	株式会社学研教育みらい	学研
教育出版株式会社	教出	株式会社自由社	自由社
株式会社教育芸術社	教芸	株式会社育鵬社	育鵬社
光村図書出版株式会社	光村	株式会社学び舎	学び舎
株式会社帝国書院	帝国	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき
		日本教科書株式会社	日科

＜本資料の見方＞

1 【資料Ⅰ】と【資料Ⅱ】について

(1) 【資料Ⅰ】

各教科・種目について、発行者ごとに、すべての観点の調査研究の結果の概要を一覧にした。

(2) 【資料Ⅱ】

【資料Ⅱ】は、観点ごとに、調査研究の結果を一覧にした。

各学年に1冊ずつの教科書があるものについては、学年ごとに記載した。

全学年で1冊の教科書となっているものや、各学年に1冊ずつの教科書があるものの、該当観点の内容が各学年とも同様のものは、まとめて記載した。

2 【資料Ⅰ】の「2 かながわ教育ビジョンとの関連」における④～⑥の観点について

(1) ④の観点である「思いやる力」については、さらに具体的な項目としての（共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育）の一つを取り上げて記載した。

(2) ⑤の観点である「たくましく生きる力」については、さらに具体的な項目としての（公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力）の一つを取り上げて記載した。

(3) ⑥の観点である「社会とかかわる力」については、さらに具体的な項目としての（生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動）の一つを取り上げて記載した。

※ 具体の項目として取り上げることが難しい場合は、観点のみで示した。

※「令和3年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針」より抜粋

令和3年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書調査研究の観点について

令和3年度使用中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程教科用図書が、学習指導要領に定められた各教科の目標や本県の生徒の学習等に鑑み、題材等の取扱いが適切なものであるか、工夫や配慮がなされているかという視点に基づき、以下に具体的な「観点」の項目を定める。

ア 教科・種目に共通な観点

(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

- 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。
 - ・生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮
 - ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮
 - ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

(4) かながわ教育ビジョンとの関連

- 教育目標（めざすべき人間力像）に掲げた、次の内容に沿っているか。
 - ・[思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。
 - ・[たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。
 - ・[社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。

(ウ) 内容と構成

- 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮
 - ・他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮
- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。
 - ・言語能力の確実な育成
 - ・伝統や文化に関する教育の充実
 - ・体験活動の充実

- ・学校段階間の円滑な接続
 - ・情報活用能力の育成
 - ・生徒の学習上の困難さに応じた工夫
- 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

(I) 分量・装丁・表記等

- 各内容の分量とその配分は適切であるか。
- 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。
- 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。

イ 教科・種目別の観点

(7) 国 語（書写を除く）

- 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。
- 語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。
- 読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。

(4) 書写

- 毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。
- 文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。
- 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。

(ウ) 社会（地図を除く）

- 生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方（地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方）」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。
- 社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。
- 課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。

(I) 地図

- 一般図・拡大図・主題図・索引などは適切に配列されているか。
- 統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、生徒の発達の段階に即したものが適切に取り上げられているか。
- 生徒が自主的に学習に取り組み、情報を読み取る技能及びまとめる技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。

(II) 数学

- 数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。
- 言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。
- 不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。

(III) 理科

- 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。
- 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。
- 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。

(IV) 音楽

- 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、〔共通事項〕をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。
- 「A 表現」や「B 鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。
- 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。

(ク) 美術

- 生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。
- 生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。
- 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。

(ケ) 保健体育

- イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなど信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。
- 生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。
- 生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。

(コ) 技術・家庭

- 実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。
- 「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。
- 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。

(カ) 英語

- 「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。
- 小学校と関連した構成となるよう、小学校外国語活動及び外国語科で扱った音声や語彙、表現を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。
- 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などを、生徒の発達の段階や興味・

関心に即して効果的に取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。

(シ) 特別の教科 道徳

- 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え方、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。
- 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。
- 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語》

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-16)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい国語 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、活字と書き文字、画数、筆順などの漢字の知識を扱った『漢字道場』のコーナー、学習する内容を扱った『言葉の力』のコーナーが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の学びの学習事項の導入として『学びの扉』のコーナーが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『本で世界を広げよう』のコーナーに『戦争・平和』『福祉・共生』などに分類された作品が紹介されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「生命の尊厳」について、原爆の惨禍の中で受け継がれる命を扱った『生ましめんかな』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報を見極める必要性を論じた『「正しい」言葉は信じられるか』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、タンポポの謎を扱った『私のタンポポが研究』などが、各学年で取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各教材の冒頭において問いかけが記され、最後の『てびき』のコーナーに『目標』『言葉の力』『振り返り』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、例えば、義肢装具士の義足開発への思いを描いた『風を受けて走れ』では、他教科に関連するマークと、関連する教科として道徳科と保健体育科が記されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、学習のポイントが『飛べ かもめ』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーにおいて掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、筆者のものの見方や考え方、表現の仕方、当時の状況や作者の思いを捉える『伊曾保物語』『枕草子・徒然草』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、体験したことを場面に応じた形式で書く活動が『依頼状やお礼状を書こう』などに掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、『学習を始める前に』が設けられているほか、小学校の学習事項を踏まえ、系統的に中学校の学習事項及び『言葉の力』のコーナーが配置されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年にメディア・リテラシーを扱った『「正しい」言葉は信じられるか』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『話し合いで理解を深めよう』の学習事項が『学びの扉 分類する・比較する』のコーナーに掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 情報の扱い方、言葉の特徴・使い方などを扱った巻末基礎編『学びを支える言葉の力』、『文法解説』、資料編『発想の方法』、折込『学びを支える言葉の力』のコーナー一覧などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 各領域の資質・能力を育成することについて、例えば「読むこと」では、詩を鑑賞する言語活動が『詩の心一発見の喜び』の『言葉の力』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにすることについて、文章中の表現や語句について考える課題が『辞書に描かれたもの』などの『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図ることについて、各学年とも『読書への招待』のコーナーで著名な作家の作品を取り上げ、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 巻頭詩、『目次』『1年で学ぶこと』『学習の進め方・教科書の使い方』『言葉の学習を始めよう』など、本編1章～7章、巻末『基礎編』『資料編』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語》

※詳細については、資料Ⅱ（国語-5～国語-16）を参照。

発行者の略称	三省堂	書名	現代の国語 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、四字熟語など漢字の知識を扱った『漢字のしくみ』のコーナー、学習する内容を扱った『構成を考えるとときのポイント』のコーナーが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の捉え方、考え方を扱った『思考の方法』のコーナーが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』では、『生き方』『心』などに分類された作品が紹介されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標（めざすべき人間力像）に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「生命の尊厳」について、被爆者の伝言や後世の人々の思いを扱った『壁に残された伝言』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、メディアの利点と限界を扱った『情報社会に生きる—メディア・リテラシー』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、世界の水問題を扱った『一〇〇年後の水を守る』などが、各学年で取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『学びの道しるべ』のコーナーに『目標の確認』『学習の流れ』『ポイント』『振り返り』の学習過程が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科と関連して、『源平合戦の名場面』の年表が『平家物語』の折り込みページに掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、学び方の確認『「短歌合評会」のポイント』が『短歌・俳句 表現の仕方』を工夫して豊かに表す』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、音読して古典の世界を感じ取り、ものの見方や感じ方・考え方を捉える『竹取物語』『枕草子・徒然草』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、経験に基づいてわかりやすく伝える文章を書く活動が『体験に向き合い意味づける』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、未知の世界へ勇気をもって飛び出す姿を描いた物語『竜』、社会の中での自己の生き方を考える『「文殊の智恵」の時代』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『情報社会に生きる—メディア・リテラシー』を読み、情報と適切に関わって生きることを扱った『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『思考の方法』のコーナーで、筆者の思いを抽象化して考える方法が、図解を用いて『希望』に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 読書や我が国の伝統文化などを扱った巻末資料編『小さな図書館』『落語 桃太郎』などが、また折込で『思考の方法一覧』などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》（それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照）</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 各領域の資質・能力を育成することについて、例えば「読むこと」では、考えを伝え合う言語活動が『空中ブランコ乗りのキキ』の『学びの道しるべ』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにすることについて、『断固』の意味を、似た意味の語句と比較する課題が『玄関扉』などの『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図ることについて、各学年とも『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 『目次』『領域別教材一覧』『この教科書の使い方 確かな言葉の力をつけるために』、本編1章～9章、巻末『文法のまとめ』『読書の広場』『資料編』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語》

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-16)を参照。

発行者の略称	教出	書名	伝え合う言葉 中学国語3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、漢字の多義性などの知識を扱った『漢字の広場』のコーナー、学習する内容を認識する手だてを扱った『学びナビ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の伝え合う力を高める『学びのチャレンジ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『広がる本の世界』のコーナーに『表現／対話／思想』『自然／環境／科学』などに分類された作品が紹介されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「生命の尊厳」について、生きることの意義や人権、平和への思いを受け継ぐことを扱った『夏の葬列』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「情報化」について、情報を批判的に読み解く力を扱った『メディア・リテラシーはなぜ必要か』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「自然や人とのふれあい体験」について、森と海をつなぐメカニズムを扱った『森には魔法つかいがある』などが、各学年で取り上げられている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各教材の冒頭に目標が記され、『みちしるべ』のコーナーに『言葉と表現』『振り返り』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、学んだことを学校行事などで役立てられることが『説得力のある提案をする』『学びを生かそう』のコーナーに掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、学習に入る前に、学びに向かう構えとして『学びナビ』のコーナーが『調べた内容で聞く』などに掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、音読して内容を捉え、古人のものの見方や考え方、情景・心情を考える『物語の始まり』『敦盛の最期』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、体験をもとに情報を集め、整理して文章を書く活動が『材料を整理して案内文を書く』などに掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、中学での文学作品の学習の仕方を扱った『文学入門』や『学びナビ 物語と小説って何?』のコーナーなどが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、編集されたメディアの特徴を扱った『全ては編集されている』など、各学年でメディア・リテラシーに関する教材が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『虹の足』などの始めに『学びナビ』のコーナーが設定され、取り組む学習について図解が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 言葉の特徴や使い方、読書などを扱った巻末資料『言葉の自習室』『話すこと・書くことテーマ例集』、折込『表現に役立つ言葉』のコーナーなどが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 各領域の資質・能力を育成することについて、例えば「読むこと」では、文章の構成を捉える言語活動が『自分の脳を知っていますか』の『学びナビ』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにすることについて、文章中の表現や語句について考える課題が『自分の脳を知っていますか』などの『表現と言葉』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図ることについて、各学年とも『読書への招待』のコーナーで著名な作家の作品を取り上げ、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 巻頭文、『目次』『言葉の地図』、本編一章～九章(3学年一章～八章)、『学びのチャレンジ』のコーナー、『言葉と文法解説編』『言葉の自習室』『折込』『漢字』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『画数や筆順が正確に理解できるよう配慮した書体を、本文に使用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを、タイトルの一部に使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語》

※詳細については、資料Ⅱ(国語-5～国語-16)を参照。

発行者の略称	光村	書名	国語3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、漢字の組み立てと部首などの漢字の知識を扱った『漢字』のコーナー、学習する内容を扱った『学習の窓』のコーナーが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」各領域の思考方法を扱った『思考の地図』のコーナーが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『本の世界を広げよう』のコーナーに『中学校生活』『ファンタジー』などに分類された作品が紹介されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「生命の尊厳」について、戦時下の生活の様子や、平和への思いを扱った『大人になれなかった弟たちに……』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「情報化」について、メディアの選び方を扱った『メディアの特徴を生かして情報を集めよう』などが、各学年で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「自然や人とのふれあい体験」について、自然環境の保全を扱った『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』などが、各学年で取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各教材の冒頭に目標が、『学習』のコーナーに『見通しをもつ』から『振り返る』までの学習過程が、それぞれ掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、美術科と関連して、名画の『解剖学』『遠近法』『明暗法』が『君は「最後の晩餐」を知っているか』に掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、学習する内容が『助言を自分の文章に生かそう』の『学習の窓 自分が書いた文章をよりよくするには』のコーナーなどに掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、音読して古典の世界に親しみ、表現の仕方や文体の特徴に着目し読み味わう『蓬萊の玉の枝』『扇的』などが示されている</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、「書くこと」の領域では、日常の体験から題材を選び目的に応じた文章を書く活動が『根拠の適切さを考えて書こう』などに掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校での既習事項の確認『言葉に出会うために』や高校での古典学習に向けて『文語の活用』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『情報を集めよう』『情報を読み取ろう』『情報を引用しよう』などを扱った『情報整理のレッスン』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『情報を整理して書こう』などの章末に、学習の手順が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを扱った巻末『思考のレッスン』一覧、表現テーマ例集、『語彙を豊かに』、折込『学習の窓一覧』などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 各領域の資質・能力を育成することについて、例えば「読むこと」では、場面や描写を結び付けて読む言語活動が『星の花が降るころに』の『学習の窓』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 語彙を豊かにすることについて、言葉を集めたり比べたり選んだりする課題が『言葉を集めよう もっと伝わる表現を目ざして』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 読書活動の充実を図ることについて、各学年とも『読書コラム』のコーナーが設けられ、『翻訳作品を読み比べてみよう』では異なる訳者の『星の王子様』の翻訳の一部などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 巻頭詩、『目次』『この教科書で学習するみなさんへ』など、本編1章～8章、巻末『文法・漢字・振り返り』『学習を広げる』(『学習の窓一覧』など)で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、手書き文字との差異が少ない明朝体を開発し、本文に使用しています。』『新出漢字の送り仮名や読書案内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《国語》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、第1学年では、活字と書き文字、画数、筆順などの漢字の知識を扱った『漢字道場』のコーナーが掲載されている。『メモを取り、質問する』などの学習する内容を扱った『言葉の力』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第2学年では、『形の似た漢字』などの漢字の知識を扱った『漢字道場』のコーナーが掲載されている。『文章と図表などを結びつけて理解する』などの学習する内容を扱った『言葉の力』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第3学年では、『他教科で学ぶ漢字』などの漢字の知識を扱った『漢字道場』のコーナーが掲載されている。『相手や目的に応じて、話の内容や構成を考える』などの学習する内容を扱った『言葉の力』のコーナーが掲載されている。
三省堂	「知識・技能」の習得について、第1学年では、部首と成り立ちなどの漢字の知識を扱った『漢字のしくみ』のコーナーが掲載されている。『構成を工夫して魅力を伝える』など学習する内容を扱った『構成を考えるときのポイント』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第2学年では、熟語の構成・熟字訓などの漢字の知識を扱った『漢字のしくみ』のコーナーが掲載されている。『情報を関連付けて根拠を明確に示す』など学習する内容を扱った『投稿文を書く時のポイント』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第3学年では、四字熟語などの漢字の知識を扱った『漢字のしくみ』のコーナーが掲載されている。『状況に応じて話す力を養う』など学習する内容を扱った『状況に応じて話すときのポイント』のコーナーが掲載されている。
教出	「知識・技能」の習得について、第1学年では、漢字の部首など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字の広場』のコーナーが掲載されている。『内容を整理して説明する』などの学習する内容を認識する手だてを扱った『学びナビ』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第2学年では、漢字の多義性など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字の広場』のコーナーが掲載されている。『相違点を明確にして聞く』などの学習する内容を認識する手だてを扱った『学びナビ』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第3学年では、異字同訓など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字の広場』のコーナーが掲載されている。『説得力のある批評文を書く』などの学習する内容を認識する手だてを扱った『学びナビ』のコーナーが掲載されている。
光村	「知識・技能」の習得について、第1学年では、漢字の組み立てと部首など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字』のコーナーが掲載されている。『描写に着目する』などの学習する内容を扱った『学習の窓』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第2学年では、熟語の構成など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字』のコーナーが掲載されている。『明確な意見文を書くには』などの学習する内容を扱った『学習の窓』のコーナーが掲載されている。 「知識・技能」の習得について、第3学年では、熟語の読み方など漢字の知識を深める解説と練習問題を扱った『漢字』のコーナーが掲載されている。『話し合っ合意を形成するには』などの学習する内容を扱った『学習の窓』のコーナーが掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、話の中心を明確にし構成を考えることを扱った『中心を明確にして話そう』が掲載されている。『描写や表現技法を用いる』など、各領域の学びの導入を扱った『学びの扉』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、根拠の適切さについて吟味し、工夫して、意見文を書くことを扱った『根拠を吟味して書こう』が掲載されている。『相手の立場を踏まえ、考えを深める』など、各領域の学びの導入を扱った『学びの扉』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、登場人物の思いを考えながら、自分の意見を持つことを扱った『故郷』が掲載されている。『論理的に読む』など、各領域の学びの導入を扱った『学びの扉』のコーナーが掲載されている。
三省堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、話題や展開にそって話し合いをつなげることを扱った『グループディスカッション』が掲載されている。各領域の捉え方、考え方を扱った『思考の方法 仮定する』などのコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることを扱った『情報を関連付けて根拠を明確に示す』が掲載されている。各領域の捉え方、考え方を扱った『思考の方法 順序立てる』などのコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、小説の構成や場面の展開を捉え、その効果を評価することを扱った『握手』が掲載されている。各領域の捉え方、考え方を扱った『思考の方法 多角的に見る』などのコーナーが掲載されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、自分の経験と関連づけて読み、自分の考えをまとめることを扱った『子どもの権利』が掲載されている。各領域の伝え合う力を高める問題を扱った『学びのチャレンジ』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、集めた情報を整理して課題を解決することを扱った『観点を明確にして伝える』が掲載されている。各領域の伝え合う力を高める問題を扱った『学びのチャレンジ』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、読み手に説明するために構成を工夫して書くことを扱った『具体例をもとに説明文を書く』が掲載されている。各領域の伝え合う力を高める問題を扱った『学びのチャレンジ』のコーナーが掲載されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、実際にスピーチを行い振り返りをして、感想を伝え合うことを扱った『話の構成を工夫しよう』が掲載されている。各領域の場面や目的に応じた思考方法を扱った『思考の地図』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、題材を決めて情報を集め、完成した作品の感想を伝え合うことを扱った『多様な方法で情報を集めよう』が掲載されている。各領域の場面や目的に応じた思考方法を扱った『思考の地図』のコーナーが掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、登場人物の人物像や心情を読み取り生き方や価値観を考えることを扱った『握手』が掲載されている。各領域の場面や目的に応じた思考方法を扱った『思考の地図』のコーナーが掲載されている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

東書	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の『本で世界を広げよう』のコーナーでは、『戦争・平和』に分類された『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』や、『福祉・共生』に分類された『義足のアスリート山本篤』などの作品が紹介されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の『本で世界を広げよう』のコーナーでは、『考え方・生き方』に分類された『たまごを持つように』や、『日本文化』に分類された『日本の食を考える』などの作品が紹介されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の『本で世界を広げよう』のコーナーでは、『国際理解・人権』に分類された『医者のおまご、世界を転がる。』や、『現代社会』に分類された『働くってどんなこと？人はなぜ仕事をするの？』などの作品が紹介されている。</p>
三省堂	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』では、『生き方』に分類された『才能とは続けられること』や、『心』に分類された『自分を好きになる本 新装改訂版』などの作品が紹介されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』では、『生き方』に分類された『ぼくは恐竜探検家！』や、『心』に分類された『考える練習をしよう 普及版』などの作品が紹介されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』では、『生き方』に分類された『世界を、こんなふうに見てごらん』や、『心』に分類された『14歳からの哲学』などの作品が紹介されている。</p>
教出	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の『広がる本の世界』のコーナーでは、『表現／対話／思想』に分類された『こだまでしょうか、いいえ、誰でも。』や、『自然／環境／科学』に分類された『自分では気づかない、ココロの盲点 完全版』などの作品が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の『広がる本の世界』のコーナーでは、『自己／他者／物語』に分類された『エイジ』や、『自然／環境／科学』に分類された『ぼくの職場は富士山です』などの作品が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の『広がる本の世界』のコーナーでは、『自己／他者／物語』に分類された『あるような ないような』や、『人権／多様性／平和』に分類された『無言館の青春』などの作品が掲載されている。</p>
光村	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の『本の世界を広げよう』のコーナーでは、『中学校生活』に分類された『数の悪魔』や、『ファンタジー』に分類された『空色勾玉』などの作品が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の『本の世界を広げよう』のコーナーでは、『外国文学』に分類された『赤毛のアン』や、『戦争・平和』に分類された『綾瀬はるか「戦争」を聞く』などの作品が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の『本の世界を広げよう』のコーナーでは、『本の本』に分類された『旅する絵描き』や、『社会』に分類された『転換期を生きるきみたちへ』などの作品が掲載されている。</p>

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。

(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)

東書	<p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第1学年では、原爆の悲劇を扱った『碑』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『太陽ときみの声』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第2学年では、戦時中の日本に生きる家族の絆を扱った『字のない葉書』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『おれのおばさん』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第3学年では、原爆の惨禍の中で受け継がれる命を扱った『生ましめんかな』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『医者のおたまご、世界を転がる。』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p>
三省堂	<p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第1学年では、家族のきずな、生命を尊ぶ態度を扱った『字のない葉書』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『テオの「ありがとう」ノート』などが『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第2学年では、被爆者の伝言や後世の人々の思いを描いた『壁に残された伝言』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『犬が来る病院』などが『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第3学年では、強制収容所から生還し、希望を失わずに生き延びた人物を描いた『希望』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『サクリフェイス』などが『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で紹介されている。</p>
教出	<p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第1学年では、差別・迫害問題や人権、平和への思いを受け継ぐことを扱った『ベンチ』が取り上げられている。『広がる本の世界』のコーナー及び『言葉の自習室』のコーナーで、[思いやる力]に関連した図書『杉原千畝物語』などが紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第2学年では、生きることの意義や人権、平和への思いを受け継ぐことを扱った『夏の葬列』が取り上げられている。『広がる本の世界』のコーナー及び『言葉の自習室』のコーナーで、[思いやる力]に関連した図書『共に生きるということ』などが紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第3学年では、戦時下の生き方や人権、平和への思いを受け継ぐことを扱った『薔薇のボタン』が取り上げられている。『広がる本の世界』のコーナー及び『言葉の自習室』のコーナーで、[思いやる力]に関連した図書『いのちの食べ方』などが紹介されている。</p>
光村	<p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第1学年では、戦時下の生活や戦争、平和への思いを扱った『大人になれなかった弟たちに…』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『生きもののおきて』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第2学年では、親子の心の結びつきを描いた『字のない葉書』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『101人が選ぶ「とっておきの言葉」』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p> <p>[思いやる力]の「生命の尊厳」について、第3学年では、隣り合わせにある平和と戦争について述べた『挨拶-原爆の写真に寄せて』が取り上げられている。[思いやる力]に関連した図書『旅する絵描き』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p>

⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。

(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)

東書	<p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年では、情報を見極める必要性を取り上げた『ニュースの見方を考えよう』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『義足のアスリート山本篤』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第2学年では、事実と言葉の関係性を取り上げた『「正しい」言葉は信じられるか』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『敗北を力に!』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第3学年では、情報メディアの意義について考えを深める『いつものように新聞が届いた—メディアと東日本大震災』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『14歳からの仕事道』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p>
三省堂	<p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年では、『複数の情報を関連付けて考えをまとめる』で、防災に関するデータと文章を関連付けて考えをまとめる課題が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『才能とは続けられること』などが『小さな図書館』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第2学年では、『複数の情報を関連付けて考えをまとめる』で、共生社会に関するデータと文章を関連付けて考えをまとめる課題が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『夢へ翔けて』などが『小さな図書館』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第3学年では、『複数の情報を関連付けて考えをまとめる』で、メディアがもたらす利点と限界を扱った『情報社会に生きる—メディア・リテラシー』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『君たちはどう生きるか』などが『小さな図書館』のコーナーで紹介されている。</p>
教出	<p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年では、メディアの編集の可能性と危険性を扱った『全ては編集されている』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『池上彰のメディア・リテラシー』などが『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第2学年では、SNSの利用を扱った『SNSから自由になるために』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『コミュニケーションの日本語』などが『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第3学年では、メディア・リテラシーを扱った『メディア・リテラシーはなぜ必要か』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『語彙力を鍛える』などが『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで紹介されている。</p>
光村	<p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年では、情報収集を扱った『情報を集めよう』などが掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『精霊の守り人』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第2学年では、メディアの選び方を扱った『メディアの特徴を生かして情報を集めよう』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『ロビンソン・クルーソー』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「情報化」について、第3学年では、実用的文章の生活の中での生かし方を扱った『実用的な文章を読もう』が掲載されている。[たくましく生きる力]に関連した図書『学ぶこと 思うこと』などが『読書案内 本の世界を広げよう』で紹介されている。</p>

⑥ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)

(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)

東書	<p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第1学年では、在来種と外来種のタンポポの謎を扱った『私のタンポポ研究』が掲載されている。[社会とかかわる力]に関連した図書『音のない世界と音のある世界をつなぐ』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第2学年では、スズメの減少とその住処を扱った『スズメは本当に減っているか』が掲載されている。[社会とかかわる力]に関連した図書『ミライの授業』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第3学年では、人間社会と自然とのかかわりを扱った『自然との共存—小笠原諸島』が掲載されている。[社会とかかわる力]に関連した図書『大人になったらしたい仕事』などが『読書案内』の『本で世界を広げよう』のコーナーで紹介されている。</p>
三省堂	<p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第1学年では、クジラの生態について説明した教材『クジラの飲み水』が掲載されている。『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で、[社会とかかわる力]に関連した図書『10代からの情報キャッチボール入門』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第2学年では、世界の水問題を扱った『一〇〇年後の水を守る』が掲載されている。『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で、[社会とかかわる力]に関連した図書『私、日本に住んでいます』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第3学年では、科学的な思考力と柔軟な想像力を扱った『フロン規制の物語—<杞憂>と<転ばぬ先の杖>のはざままで』が掲載されている。『読書の広場』のコーナーの『小さな図書館』で、[社会とかかわる力]に関連した図書『聞く力、話す力』などが紹介されている。</p>
教出	<p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第1学年では、森と海をつなぐ科学的なメカニズムを扱った『森には魔法つかいがある』が掲載されている。『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『木のいのち木のこころ』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第2学年では、富士山麓の雄大な自然の恩恵を扱った『水の山 富士山』が掲載されている。『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『ぼくの職場は富士山です』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第3学年では、自然の流れと生命のありようを扱った『生命とは何か』が掲載されている。『広がる本の世界』のコーナーや『言葉の自習室』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『NASAより宇宙に近い町工場』などが紹介されている。</p>
光村	<p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第1学年では、身近な生き物の生態を観察に基づき、自然環境の保全の大切さに気づかせる『「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ』が掲載されている。『読書案内 本の世界を広げよう』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『学習に役立つ! なるほど新聞活用術』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第2学年では、大自然の中に身を置く主人公の生き方について自分と比較しながら考える『アイスプラネット』が掲載されている。『読書案内 本の世界を広げよう』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『多文化に出会うブックガイド』などが紹介されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、第3学年では、自然環境の保全に寄与する力に関する『作られた「物語」を超えて』が掲載されている。『読書案内 本の世界を広げよう』のコーナーで、[社会とかかわる力]に関連した図書『転換期を生きるきみたちへ』などが紹介されている。</p>

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、『オオカミを見る目』で冒頭に問いかけが記され、最後の『てびき』のコーナーに『目標』『言葉の力』『振り返り』が掲載されている。興味を引きつけたり、わかりやすく伝えたりするための、文章の書き方の工夫について話し合う課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、『黄金の扇風機』『サハラ砂漠の茶会』で冒頭に問いかけが記され、最後の『てびき』のコーナーに『目標』『言葉の力』『振り返り』が掲載されている。2つの文章を読み比べ、美についての主張を読み取る課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、『幸福について』で冒頭に問いかけが記され、最後の『てびき』のコーナーに『目標』『言葉の力』『振り返り』が掲載されている。文章を読んで自分の考えを持ち、議論の仕方を踏まえて話し合うことが掲載されている。</p>
三省堂	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、『クジラの飲み水』で『学びのみちしるべ』のコーナーに『目標の確認』『学習の流れ』『ポイント』『振り返り』の学習の過程が掲載されている。『ペンギンの防寒着』と読み比べて考えたことを発表する課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、『セミロングホームルーム』で『学びのみちしるべ』のコーナーに『目標の確認』『学習の流れ』『ポイント』『振り返り』の学習の過程が掲載されている。話の主人公が誰かについて理由と合わせてグループで話し合う課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、『希望』で『学びのみちしるべ』のコーナーに『目標の確認』『学習の流れ』『ポイント』『振り返り』の学習の過程が掲載されている。人間が生きる上での『希望』について話し合い、考えを深める課題が掲載されている。</p>
教出	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、『オツベルと像』の冒頭に目標が示され、『みちしるべ』のコーナーに『言葉と表現』『振り返り』が掲載されている。読みを深めるために、『学びナビ』のコーナーに、『語り手と視点人物』についての説明が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、『夏の葬列』の冒頭に目標が示され、『みちしるべ』のコーナーに『言葉と表現』『振り返り』が掲載されている。読みを深めるために、『学びナビ』のコーナーに、『時間と構成』についての説明が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、『A Iは哲学できるか』の冒頭に目標が示され、『みちしるべ』のコーナーに『言葉と表現』『振り返り』が掲載されている。読みを深めるために、『学びナビ』のコーナーに、『批判的に読みながら主張に迫る』ことについての説明が掲載されている。</p>
光村	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、『ちょっと立ち止まって』で冒頭に目標が、単元末『学習』のコーナーには『見通しをもつ』から『振り返る』までの学習過程が掲載されている。結論を導くために、序論と本論が果たしている役割について考える課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、『アイスプラネット』で冒頭に目標が、単元末『学習』には『見通しをもつ』から『振り返る』までの学習過程が掲載されている。主人公の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる課題が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、『作られた「物語」を超えて』で冒頭に目標が、単元末『学習』には『見通しをもつ』から『振り返る』までの学習過程が掲載されている。自分の体験や見聞きした事例を根拠にして、筆者の主張に共感できるか否かを話し合う課題が掲載されている。</p>

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、義肢装具士の義足開発への思いを描いた文章が道徳科・保健体育科に関連することが、『風を受けて走れ』にマークで掲載されている。社会科、理科、技術・家庭科、保健体育科の学習で使われる漢字が『漢字道場』のコーナーに掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、社会科、数学科、理科、技術・家庭科、保健体育科の学習で使われる漢字が『漢字道場』のコーナーに掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、文章の内容が理科に関連していることが、『絶滅の意味』にマークで掲載されている。社会科、数学科、理科、技術・家庭科、保健体育科の学習で使われる漢字が『漢字道場』のコーナーに掲載されている。</p>
三省堂	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、序論・本論・結論といった説明文の基本構造について『読み方を学ぼう1 ペンギンの防寒着』のコーナーに掲載されている。総合的な学習と関連して、『編集会議』『記事を書く』『紙面を作る』『読み合う』の学習活動が『グループ新聞』に掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、人物と人物相互の関係について『読み方を学ぼう1 人物設定』のコーナーに掲載されている。社会科と関連して、『源平合戦の名場面』の年表が『平家物語』の折り込みページに掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、批判的な読みについて『読み方を学ぼう2 「批判的に読む」とは』のコーナーに掲載されている。技術科(情報)と関連して、ポスターの『比較の観点』が『実用文 広告の読み比べ』に掲載されている。</p>
教出	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、自分の意見を明確にすることが『資料から得た根拠をもとに意見文を書く』の『学びを生かそう』のコーナーに掲載されている。説明的文章における序論・本論・結論の文章構成について『学びナビ 文章の構成を捉える』のコーナーに掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、学校行事などで自分の意見を提案するときに役立つことが『説得力のある提案をする』の『学びを生かそう』のコーナーに掲載されている。湧水をめぐって富士山麓のしくみや構造に注目した内容が、理科との関連学習として『水の山 富士山』に掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、レポートを書く方法について『具体例をもとに説明文を書く』の『学びを生かそう』のコーナーに掲載されている。裁判員が『評議』で根拠を踏まえて主張し、話し合いで一つの結論を導くことに触れた内容が、社会科との関連学習として『自分の意見を述べるとき』に掲載されている。</p>
光村	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、理科、技術・家庭科(家庭分野)と関連して、ダイコンの器官の説明と味や調理法の違いについて『ダイコンは大きな根?』に掲載されている。道徳科の自主・自立、向上心に関連した内容が『考える人になろう』に掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、美術科と関連して、名画の『解剖学』『遠近法』『明暗法』を説明した内容が『君は「最後の晩餐」を知っているか』に掲載されている。道徳科の生命の尊さ・家族愛に関連した内容が『字のない葉書』に掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、社会科と関連して、フォト・ジャーナリストが内戦下の国に生きる少女について描いた内容が『エルサルバドルの少女 ヘスース』に掲載されている。道徳科の国際理解に関連した内容が『作られた「物語」を超えて』に掲載されている。</p>

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、第1学年では、学習のポイントが『飛べかもめ』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。メモを取り、質問することについて『話を聞いて質問しよう』に掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、学習のポイントが『サハラ砂漠の茶会』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。情報を集めることについて『郷土の良さを伝えよう』に掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、学習のポイントが『絶滅の意味』の『言葉の力』のコーナーや『学びの扉』のコーナーなどに掲載されている。俳句を鑑賞することについて『俳句の読み方、味わい方』に掲載されている。
三省堂	言語能力の育成について、第1学年では、『課題を決めるときのポイント』が掲載されている。『詩の表現技法』に表現力をつける学習活動が『レポート 調べたことを整理してわかりやすくまとめる』に掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、『「短歌合評会」のポイント』が掲載されている。『創作文』に読み手を引きつける言語能力を高める学習活動が『短歌・俳句 表現の仕方を工夫して豊かに表す』に掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、『情報を発信するときのポイント』が『ポスター 情報の信頼性を確かめて考えを発信する』に掲載されている。言語能力を高める学習活動が『読み方を学ぼう』のコーナーに掲載されている。
教出	言語能力の育成について、第1学年では、『調べた内容を聞く』の課題解決の方法や結果を考えることについて『学びナビ 予想する』のコーナーに掲載されている。資料を読み取る力と表現力を高める学習活動が『学びのチャレンジ』のコーナーに掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、文学作品を読む上での語り手の位置について、『走れメロス』の『学びナビ 変化する語り』のコーナーに掲載されている。表現による違いを知る学習活動が『少しだけ変えてみる』に設定されている。 言語能力の育成について、第3学年では、一人称で語られた小説の特徴について『故郷』の『学びナビ 「私」が語る<私>』のコーナーに掲載されている。言語能力を高める基本的な視点が『助詞のはたらき』に記載されている。
光村	言語能力の育成について、第1学年では、学習する内容が『助言を自分の文章に生かそう』の『学習の窓 自分が書いた文章をよりよくするには』のコーナーに掲載されている。『レポートの例』が『根拠を示して説明しよう』に掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、学習する内容が『モアイは語る—未来の地球』の『学習の窓 論理の展開を吟味する』のコーナーに掲載されている。『自分の立場・意見』の例が『立場を尊重して話し合おう』の『考えをまとめる』に掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、学習する内容が『人間と人工知能と創造性』の『学習の窓 文章を批判的に読む』のコーナーに掲載されている。『合意形成に向けて話し合おう』の『座標軸で整理した例』が掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる『伊曾保物語』が掲載されている。現代語とは異なる言葉や表現に注意して音読し、古典の世界に触れる『竹取物語』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える『枕草子・徒然草』が掲載されている。表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界に親しむ『平家物語』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ『万葉・古今・新古今』が掲載されている。当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ『おくのほそ道』が掲載されている。
三省堂	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、古典の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界を感じ取る『竹取物語』が掲載されている。訓読の仕方を知り、漢文調のリズムを意識して音読する『故事成語—矛盾』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、自然や人間に対する、筆者のものの見方や感じ方を捉える『枕草子・徒然草』が掲載されている。語句の意味に注意しながら音読し、古典のリズムを味わう『平家物語』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る『和歌の世界』が掲載されている。歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉える『おくのほそ道』が掲載されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、古典の仮名遣いに注意して音読し、物語の内容を捉える『物語の始まり』が掲載されている。いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する『故事成語』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、登場人物の言動や心情について話し合い、作品の理解を深める『教盛の最期』が掲載されている。古人のものの見方や考え方に対して自分の考えを持つ『随筆の味わい』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、情景や心情について話し合ったり、古典の一節を引用した文章を書いたりする『旅への思い』が掲載されている。古人のものの見方や考え方について話し合い、自分の考えを深める『和歌の調べ』が掲載されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、仮名遣いに注意しながら音読し、古典のリズムを通してその世界に親しむ『蓬萊の玉の枝』が掲載されている。漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ『今に生きる言葉』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、作品の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ『扇の的』が掲載されている。漢詩を朗読し、独特の言葉や調子を生かして読み味わう『漢詩の風景』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、詠まれた状況や歴史的背景を理解し、和歌の世界に親しむ『君待つと』が掲載されている。歴史的背景などに注意し、表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わう『夏草』が掲載されている。

⑪ 体験活動の充実

東書	<p>体験活動の充実について、第1学年では、「書くこと」において運動会の案内状を書く活動が『案内や報告の文章を書こう』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」においては、自己紹介を聞いてインタビューする活動が『話を聞いて質問しよう』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、「書くこと」において職場体験の依頼状・お礼状を書く活動が『依頼状やお礼状を書こう』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」においては、相手の考えを聞き、自分の考えと比べる活動が『考えを比べながら聞こう』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、「書くこと」において調べたことを新聞にまとめる活動が『編集して伝えよう』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」においては、場面を想定したスピーチをする活動が『場面に応じて話そう』に掲載されている。</p>
三省堂	<p>体験活動の充実について、第1学年では、「書くこと」において体験したことを随筆に書く活動が『体験に向き合い意味づける』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」では少人数で意見交換をする活動が『話題や展開にそって話し合いをつなげる』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、「書くこと」においてお礼や報告、依頼などの文を書く活動が『心をこめてわかりやすく書く』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」では編集会議で話し合い文章にまとめる活動が『地域の魅力を振り返って』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、「書くこと」において社会生活の課題についてのポスターを書く活動が『情報の信頼性を確かめて考えを発信する』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」では公の場で提案や主張をする活動が『状況に応じて話す力を養う』に掲載されている。</p>
教出	<p>体験活動の充実について、第1学年では、「書くこと」において合唱発表会案内文を書く活動が『材料を整理して案内文を書く』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」では話し合いで他のグループとの共通点や相違点をもとに考えをまとめる活動が『調べた内容を聞く』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、「書くこと」において職場体験のお礼状を書く活動が『構成を明確にして手紙を書く』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」ではよりよい対話の方法を知り、人との関係を深める活動が『質問する力をつける』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、「書くこと」において自分が書いてきた作品をまとめる活動が『情報をまとめて作品集を作る』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」では意見を共有しながら話し合う活動が『「対話力」とは何か』に掲載されている。</p>
光村	<p>体験活動の充実について、第1学年では、「書くこと」においてわかりやすく説明する文章を書く活動が『情報を整理して書く』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」においてたぐみな質問で話を引き出し対話する活動が『聞き上手になろう』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、「書くこと」において意見を明確に伝える文章を書く活動が『根拠の適切さを考えて書こう』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」において相手が知りたい情報を集め印象に残る提案をする活動が『魅力的な提案をしよう』に掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、「書くこと」において伝えたいことを魅力的に表現する文章を書く活動が『文章の種類を選んで書こう』に掲載されている。「話すこと・聞くこと」において自分の考えと比べ意識して聞く活動が『評価しながら聞く』に掲載されている。</p>

⑫ 学校段階間の円滑な接続

東書	<p>学校段階間の円滑な接続について、小学校との接続として、第1学年の資料編に『学習を始める前に』が設けられており、『ノートの書き方』『情報の調べ方』『辞書の引き方』などの、国語学習を進める上での基本事項が掲載されているほか、小学校の学習事項を踏まえ、系統的に中学校の学習事項及び『言葉の力』のコーナーが配置されている。</p> <p>高校との接続として、第3学年の資料編に発展学習としての『古典の文法』の知識が整理して掲載されている。</p>
三省堂	<p>学校段階間の円滑な接続について、小学校との接続として、第1学年の初めに、未知の世界へ勇気をもって飛び出す姿を描いた物語『竜』が掲載されている。小学校で学習した読解の基礎・基本の確認が『ペンギンの防寒着』に掲載されている。</p> <p>高校との接続として、第3学年の最後に、社会や世界の変化の中で違いを認めながら自己の生き方を考える論説『「文殊の智慧」の時代』が掲載されている。</p>
教出	<p>学校段階間の円滑な接続について、小学校との接続として、第1学年に、中学校での文学作品の学習を扱った『文学入門』が掲載されている。小学校で扱われた物語文が『学びナビ 物語と小説って何?』のコーナーで触れられている。</p> <p>高校との接続として、第3学年に、二十歳の主人公の生き方や心情について扱う教材『パースディ・ガール』が掲載されている。</p>
光村	<p>学校段階間の円滑な接続について、小学校との接続として、第1学年の初めに、中学校の学習の心がけを記した単元『言葉に出会うために』が掲載されている。また既習事項の確認ができるように、ノートの取り方や辞典の引き方などが掲載されている。</p> <p>高校との接続として、第2学年に『形』、第3学年に『高瀬舟』『温かいスープ』、発展的な内容として『文語の活用』が掲載されている。</p>

⑬ 情報活用能力の育成

東書	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、ニュースを比べて、その見方について自分の考えを持つことが『ニュースの見方を考えよう』に掲載されている。著作権を学び、情報を調べたり引用したりする方法が『資料編』の『著作権と引用』に掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、事実の述べ方が読み手に与える印象の違いが『「正しい」言葉は信じられるか』に掲載されている。誰もが著作者であることを学び、正しく利用する方法が『資料編』の『著作権について考える』に掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、情報やメディアの意義について考えを深めることが『いつものように新聞が届いた』に掲載されている。情報を吟味し、信頼できる情報を選ぶ方法が『資料編』の『情報の信頼性を確かめる』に掲載されている。</p>
三省堂	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『防災に関するデータ』グラフと、『「みんなでいるから大丈夫」の怖さ』の文章を関連づけて、地域の人々の防災意識を高める手立てを考え深める『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『共生社会に関するデータ』の3つのグラフと、『自立とは「依存先を増やすこと」』の文章を関連づけて、共生社会の実現に向けた課題を考える『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『情報社会に生きる—メディア・リテラシー』を読み、『広告の読み比べ』と関連づけて、実生活で情報と適切に関わって生きる大切さを考える『複数の情報を関連づけて考えをまとめる』が掲載されている。</p>
教出	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、編集されたメディアの特徴を扱った『全ては編集されている』が掲載されている。写真を見る時の観点を知り、写真の特徴を理解し、多様な活用法を考えることが『写真で「事実」を表現する』に掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、SNSとのつき合い方を扱った『SNSから自由になるために』が掲載されている。小説と脚本を構成する情報を整理し、それぞれの効果について考え、小説を脚本に書き換えることが『脚本で動きを説明する』に掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、メディアの便利さと危険性を扱った『メディア・リテラシーはなぜ必要か?』が掲載されている。新聞を構成する情報を整理し、それぞれの効果について考え、社説を比較して読むことが『新聞が伝える情報を考える』に掲載されている。</p>
光村	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『情報を集めよう』『情報を読み取ろう』『情報を引用しよう』を扱った『情報社会を生きる』が掲載されている。情報の整理や分析を扱った『情報整理のレッスン 比較・分類』のコーナーが掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『メディアを比べよう』『メディアの特徴を生かして情報を集めよう』『「自分で考える時間」を持つ』を扱った『情報社会を生きる』が掲載されている。情報整理の方法を扱った『情報整理のレッスン 思考の視覚化』のコーナーが掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、実用的文章を読もう』『報道文を比較して読もう』を扱った『情報社会を生きる』が掲載されている。情報の編集を扱った『情報整理のレッスン 情報の信頼性』のコーナーが掲載されている。</p>

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫

東書	<p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第1学年では、『話し合いで理解を深めよう』のポイントが『学びの扉 分類する・比較する』のコーナーに、漫画で掲載されている。下欄に『学びを支える言葉の力』の参照ページが付され、そこで内容が詳細に説明されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第2学年では、『ハトはなぜ首を振って歩くのか』のポイントが『学びの扉 情報を図や表に整理する』のコーナーに、まとめて漫画で掲載されている。下欄に『学びを支える言葉の力』の参照ページが付され、そこで内容が詳細に説明されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第3学年では、『観察・分析して論じよう』のポイントが『学びの扉 多面的に捉える』のコーナーに、漫画で掲載されている。下欄に『学びを支える言葉の力』の参照ページが付され、そこで内容が詳細に説明されている。</p>
三省堂	<p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第1学年では、情報の分類の方法が、『調べたことを整理してわかりやすくまとめる』の『思考の方法』のコーナーに、図解を用いて掲載されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、下段に『学習の流れ』が示され、学習する内容が可視化されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第2学年では、説明文を仮定を用いて読解する方法が、『一〇〇年後の水を守る』の『思考の方法』のコーナーに、図解を用いて掲載されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、下段に『学習の流れ』が示され、学習する内容が可視化されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第3学年では、筆者の思いを抽象化して考える方法が、『希望』の『思考の方法』のコーナーに、図解を用いて掲載されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、下段に『学習の流れ』が示され、学習する内容が可視化されている。</p>
教出	<p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第1学年では、『桜蝶』の描かれ方について、『桜蝶』の『学びナビ 物語と小説って何?』のコーナーに図解で掲載されている。言葉の基礎事項について、生徒同士の会話のやりとりで説明した『言葉の小窓』や『文法の小窓』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第2学年では、『虹の足』の表現方法について『虹の足』の『学びナビ 比喩・象徴』のコーナーに図解で掲載されている。言葉の基礎事項について、生徒同士の会話のやりとりで説明した『言葉の小窓』や『文法の小窓』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第3学年では、随筆について『立ってくる春/なぜ物語が必要なのか』の『学びナビ 独自の見方考え方・固有の経験』のコーナーに図解で掲載されている。言葉の基礎事項について、生徒同士の会話のやりとりで説明した『言葉の小窓』や『文法の小窓』が掲載されている。</p>
光村	<p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第1学年では、『集める・整理する』『組み立てる』『表現する』『振り返る』といった手順が『情報を整理して書こう』に掲載されている。単元名に続いて、学習を始める動機と学習する内容を語りかけるリード文が記されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第2学年では、『見通しを持つ』『読み深める・考えを持つ』『振り返る』といった手順が『仁和寺にある法師』の『学習』に掲載されている。人物像について論じた文章の例が、発展学習『人物の特徴を捉えて論じよう』に、構成の説明とともに記されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、第3学年では、『集める・整理する』『組み立てる』『伝え合う』『振り返る』といった手順が『合意形成に向けて話し合おう』で掲載されている。単元名に続いて、学習を始める動機と学習する内容を語りかけるリード文が記されている。</p>

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

東書	各学年とも、巻末に情報の扱い方、言葉の特徴・使い方などを扱った基礎編『学びを支える言葉の力』、『文法解説』、資料編で読み物、古典、読書案内、『話すこと・書くこと題材例』、発想・整理の方法、各種書き方、漢字一覧、折込で『学びを支える言葉の力のまとめ』などが掲載されている。『学びの扉』のコーナーなどにおいて、中学生のキャラクターが描かれた漫画を使って示されている。
三省堂	各学年とも、読書や我が国の伝統文化などを扱った巻末資料編『読書の広場 小さな図書館』『落語 桃太郎』『参考資料』、折込『思考の方法一覧』などが掲載されている。各教材が『目標』から始まり振り返りで終わるように構成されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では学習の流れが記載され、「読むこと」では内容の整理など学習のステップが掲載されている。『読み方を学ぼう』のコーナーで『人物相関図』『人物設定』などが図解で掲載されている。
教出	各学年とも、言葉の特徴や使い方、読書などを扱った巻末『言葉と文法解説編』、読書や古典常識、アイデアの出し方、『話すこと・書くことテーマ例集』、学習に必要な用語などを扱った『言葉の自習室』、漢字一覧、折込『表現に役立つ言葉』『理解に役立つ言葉』などが掲載されている。教材の冒頭に『学びナビ』のコーナーが、教材の最後に『みちしるべ』のコーナーが掲載され、学習の見通しと振り返りができるように構成されている。
光村	各学年とも、言葉の特徴や使い方を扱った巻末『文法・漢字振り返り』、情報の扱い方や我が国の伝統文化などを扱った『学習を広げる』の『思考のレッスン』、『情報整理のレッスン』一覧、表現テーマ例集、読み物、古典、『語彙を豊かに』のコーナー、漢字一覧、折込で『学習の窓一覧』などが掲載されている。『言葉に出会うために』の『書き留める』でノートの手書き方例が掲載されている。「読むこと」の各教材の手びきがあり目標から振り返りまでの学習の過程が掲載されている。

⑯ 学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域(話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと)の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。

東書	各領域の資質・能力を育成することについて、第1学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「読むこと」では、詩を鑑賞する言語活動が『詩の心一発見の喜び』の『言葉の力』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第2学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「書くこと」では、より効果的に伝わるように推敲する言語活動が『郷土の良さを伝えよう』の『言葉の力』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第3学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「話すこと・聞くこと」では、話の内容や表現の仕方を評価する言語活動が『評価しながら聞こう』の『言葉の力』のコーナーに掲載されている。
三省堂	各領域の資質・能力を育成することについて、第1学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「読むこと」では、考えを伝え合う言語活動が『空中ブランコ乗りのキキ』の『学びの道しるべ』に掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第2学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「書くこと」では、文章の構成や展開を工夫して説得力のある文章を書く伝える言語活動が『論説文』に掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第3学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「話すこと・聞くこと」では、状況に応じて表現を工夫し話す力を養う言語活動が『パブリックスピーキング』に掲載されている。
教出	各領域の資質・能力を育成することについて、第1学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「読むこと」では、文章の構成を捉える言語活動が『自分の脳を知っていますか』の『学びナビ』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第2学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「書くこと」では、課題を設定する言語活動が『新聞の投書を書く』の『学びナビ』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第3学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「話すこと・聞くこと」では、一般化しながら合意形成をする言語活動が『意見を共有しながら話し合う』の『学びナビ』のコーナーに掲載されている。
光村	各領域の資質・能力を育成することについて、第1学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「読むこと」では、場面や描写を結び付けて読む言語活動が『星の花が降るころに』の『学習の窓』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第2学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「書くこと」では、作品の魅力や効果的に伝える言語活動が『魅力を効果的に伝えよう』の『学習の窓』のコーナーに掲載されている。各領域の資質・能力を育成することについて、第3学年では、各領域の『目標』において、学習する事項が掲載されている。例えば「話すこと・聞くこと」では、話し合っ合意形成する言語活動が『合意形成に向けて話し合おう』の『学習の窓』のコーナーに掲載されている。

⑰ 語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮がなされているか。

東書	<p>語彙を豊かにすることについて、第1学年では、『様子を表す言葉』を探す活動が『さんきち』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第2学年では、『人物像を表す言葉』を考える活動が『辞書に描かれたもの』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第3学年では、『批評する言葉』を探す活動が『百科事典少女』の『広がる言葉』のコーナーに掲載されている。『論理的な言葉の力』『文学的な言葉の力』『対話的な言葉の力』について、系統的な学習として、巻末『学びを支える言葉の力』に掲載されている。</p>
三省堂	<p>語彙を豊かにすることについて、第1学年では、『断固』の意味を、似た意味の語句と比較する課題が『玄関扉』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。『日本語と英語の音節』のコーナーに、日本語と英語の音節の数の違いが掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第2学年では、意味がそれぞれ微妙に異なる、大きいことを表す言葉について考える課題が『一〇〇年後の水を守る』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。日本語と英語の語順の違いについて『日本語と英語の語順』のコーナーに掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第3学年では、『間』を含んださまざまな表現がどのような場面で使われるかについての課題が『間の文化』の『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。日本語と英語の慣用表現の言葉の選び方の違いが『日本語と英語の慣用表現』のコーナーに掲載されている。</p>
教出	<p>語彙を豊かにすることについて、第1学年では、3つの言葉の意味の違いを考える課題が『自分の脳を知っていますか』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『考え方やイメージに関わる言葉』などが『理解に役立つ言葉』のコーナーに、『意見を述べる活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第2学年では、接尾語の使われ方について考える課題が『紙の建築』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『出来事や様子に関わる言葉』などが『理解に役立つ言葉』のコーナーに、『自分の考えを書く活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第3学年では、語句の意味、用例について考える課題が『問いかける言葉』の『言葉と表現』のコーナーに掲載されている。『慣用句・ことわざ』などが『理解に役立つ言葉』のコーナーに、『質問や評価をする活動』の言葉などが『表現に役立つ言葉』のコーナーに掲載されている。</p>
光村	<p>語彙を豊かにすることについて、第1学年では、集めた言葉から気持ちや状況にふさわしい表現を探す課題が『言葉を集めよう もっと伝わる表現をみざして』に掲載されている。表現するときの参考となる『心情・様子・行為を表す言葉』が『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第2学年では、抽象的な概念を表す言葉を類義語と比べて理解する課題が『言葉を比べよう もっと伝わる表現をみざして』に掲載されている。表現するときの参考となる『抽象的な概念、見方や考え方を表す言葉』が『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。</p> <p>語彙を豊かにすることについて、第3学年では、言葉の変化について理解し、相手に応じて言葉を選ぶ課題が『言葉を選ぼう もっと伝わる表現をみざして』に掲載されている。表現するときの参考となる『見方や考え方を表す言葉、慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語』が『語彙を豊かに』のコーナーに掲載されている。</p>

⑱ 読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。

東書	<p>読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書への招待』のコーナーで芥川龍之介の『トロッコ』などの作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第2学年では『読書への招待』のコーナーで夏目漱石の『坊っちゃん』などの作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第3学年では『読書への招待』のコーナーで森鷗外の『最後の一句』など作品が紹介され、『作家と作品』では作家の略歴や他の作品などが紹介されている。</p>
三省堂	<p>読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『本を読むことのおもしろさ』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第2学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『生涯の友と出会う』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第3学年では『私の読書体験』のコーナーで著名な作家による『谷間の君へ』という文章が掲載され、その作家の作品が紹介されている。</p>
教出	<p>読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書への招待』のコーナーで芥川龍之介の『蜘蛛の糸』などの作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第2学年では『読書への招待』のコーナーで夏目漱石の『坊っちゃん』などの作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第3学年では『読書への招待』のコーナーで森鷗外の『最後の一句』など作品が紹介され、『作品解説』や作家の略歴などが掲載されている。</p>
光村	<p>読書活動の充実を図ることについて、第1学年では『読書コラム』で著名なアニメーション映画監督の文章が紹介され、その監督が紹介する『注文の多い料理店』などの図書が掲載されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第2学年では『読書コラム』で著名な翻訳家・文芸評論家の文章が紹介され、『翻訳作品を読み比べてみよう』では異なる訳者の『星の王子様』の翻訳作品の一部が掲載されている。</p> <p>読書活動の充実を図ることについて、第3学年では『読書コラム』で著名な小説家の文章が紹介され、『本の世界を広げよう』では『旅する絵描き』などの図書が掲載されている。</p>

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	巻頭詩、『目次』『1年で学ぶこと』『学習の進め方・教科書の使い方』『学んだことを次に生かそう』『言葉の学習を始めよう』、本編1章～7章、巻末『基礎編』（『学びを支える言葉の力』『文法解説』）『資料編』（『学習を始める前に』など）で構成されている。
三省堂	『目次』『領域別教材一覧』『この教科書の使い方 確かな言葉の力をつけるために』、本編1章～9章、巻末『文法のまとめ』『読書の広場』（『小さな図書館』など）『資料編』（『情報を活用する』『古典芸能に親しむ』『社会生活に生かす』『参考資料』）で構成されている。
教出	巻頭文、『目次』『言葉の地図』、本編一章～九章（『広がる本の世界』『漢字の練習』『四季のたより』含む）、巻末『学びのチャレンジ』『言葉と文法解説編』『言葉の自習室』『折込』（『理解に役立つ言葉』『表現に役立つ言葉』『漢字』）で構成されている。
光村	巻頭詩、『目次』『学習の見通しをもとう』『思考の地図』『この教科書で学習するみなさんへ』、本編1章～8章（『言葉に出会うために』『情報社会を生きる』『読書生活を豊かに』『読書に親しむ』含む）、巻末『文法・漢字・振り返り』『学習を広げる』（『学習の窓一覧』など）で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はB5判が採用されている。
三省堂	判型はB5判が採用されている。
教出	判型はB5判が採用されている。
光村	判型はB5判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』と表記されている。
三省堂	『この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『画数や筆順が正確に理解できるように配慮した書体を、本文に使用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを、タイトルの一部に使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、手書き文字との差異が少ない明朝体を開発し、本文に使用しています。』『新出漢字の送り仮名や読書案内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	第1学年 172ページ 風を受けて走れ（筆者が本県出身） 220ページ 一房の葡萄（横浜市） 210ページ トロッコ（小田原市、岩村） 280ページ 「常識」は変化する（筆者が本県出身） 第2学年 131ページ 平家物語（鎌倉、石橋山） 210ページ 坊っちゃん（鎌倉市、箱根町） 第3学年 295ページ 「おくのほそ道」の旅（筆者が本県出身）
三省堂	第1学年 96ページ 玄関扉（筆者が本県出身） 168ページ トロッコ（小田原市、岩村） 第2学年 116ページ 平家物語（鎌倉、石橋山、武蔵の国） 290ページ 外郎売（相州小田原） 第3学年 20ページ 握手（横浜市、丹沢、足柄茶） 88ページ フロン規制の物語（筆者が本県出身） 186ページ 坊っちゃん（鎌倉市、箱根町）
教出	第1学年 80ページ 「エシカル」に生きよう（神奈川県、鎌倉市） 第2学年 124ページ 平家物語（鎌倉、武蔵の国、石橋山） 146ページ 坊っちゃん（鎌倉市、箱根町） 第3学年 170ページ 俳句十五句（作者が本県出身） 裏表紙内側 「ふるさと」を巡る～文学にゆかりのある風景（横浜市）
光村	第1学年 278ページ 坊っちゃん（鎌倉市、箱根町） 第2学年 114ページ 表現を工夫して書こう 手紙の例（小田原市） 148ページ 平家物語（鎌倉、石橋山） 292ページ 宮本武蔵（作者が本県出身） 第3学年 14ページ 握手（横浜市、丹沢、足柄茶） 275ページ 真鶴

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	1年	2年	3年			
東書	有	有	有			
三省堂	有	有	有			
教出	有	有	有			
光村	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	1年	2年	3年		
東書	3	584	590	602		
三省堂	3	565	567	541		
教出	3	583	601	581		
光村	3	574	569	549		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-5～書写-12)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい書写 一・二・三年
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、3年間で身につける内容として、単元ごとに何をどのように学ぶかを示した『書写のかぎ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、単元ごとにその途中や終末で学習するポイントを確認する『書写のかぎ』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会生活で活用する学習課題が各学年に配置されており、巻頭の『書写で学ぶこと』にまとめて掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、『本のポップを書こう』などの他者との関わりを表す学習課題が例示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、学校内外の人々との交流が教材として取り上げられており、案内状を書く活動などが例示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、地域行事や職場訪問などについて学習活動や読み物が設定され、『書写活用ブック』には、礼状の書き方などが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『目標』や『見つけよう』など学習の流れが示された『書写の学習の進め方』が巻頭に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、『文字のいずみ』で文字の成り立ちやその歴史が示されるなど、他教科と関連する教材には『教科関連マーク』が付けられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、情報を整理したノートやレポートの書き方、効果的なメモの書き方などの学習活動が、各学年の基本単元や『書写活用ブック』に例示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、多様な文字文化について示されたコラム『文字のいずみ』が掲載されている。『書き初め』の模範例が示されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、保育園への職場訪問や本のポップの制作などが各学年の『生活に広げよう』に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、最初の単元に小学校の書写の復習が設定され、最後の単元に高等学校の芸術としての書道につながる『古典をもとに』が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、職場訪問のレポートの書き方などが『書写活用ブック』に記載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、濃淡の墨で筆の動きが表現され、教材ごとに文字を正しく書くためのポイントが示された『書写のかぎ』が設定されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の見通しについて、左ページに大きな手本、右ページに『目標』『書写のかぎ』『確かめよう』がまとめて示されるなど、単元が見開き2ページで構成されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連について、行書を毛筆と硬筆で書いたときの筆順の変化が同じであることを確かめる学習などが『筆順の変化』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 正しい運筆の能力の育成について、基本点画や行書特有の4つの筆の動き(『二』『口』『十』『人』)が、朱墨やイラストで表され『確かめよう』で例示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活に役立てる観点について、行事の案内など知識・技能を活用する学習活動が、『生活に広げよう』や『書写活用ブック』などで例示されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学年ごとの学習内容が掲載されたページと、手紙や新聞、リーフレットなどの書き方、解説が掲載された『書写活用ブック』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『ゴシック体には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-5～書写-12)を参照。

発行者の略称	三省堂	書名	現代の書写 一・二・三
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文字文化を理解する資料とともに、基礎的・基本的な学習内容を示した『書き方を学ぼう』が教材の冒頭に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、毛筆書写で学習したことを学校生活や日常生活で実際に活用する学習活動として『やってみよう』が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、書写で学習したことを学校生活や日常生活で実際に活用する『書いて身につけよう』や『やってみよう』が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「共生」について、詩人・谷川俊太郎『朝のリレー』や歌手・森山直太朗の『さくら(独唱)』など、他者との関わりを表す言葉が教材として示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、教員や友達とやり取りした言葉などから名言集を作る活動などが『名言集を作ろう』に例示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、文字に関わる仕事を紹介する内容が『達人』に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『学習の流れ』が、巻頭の『この教科書で学ぶ皆さんへ』や『やってみよう』で示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科のノートの書き方、情報誌の作成など、他教科と関連する学習課題が『書いて身につけよう』などに設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、グループ新聞や情報誌、名言集などの制作や記事を互いに推敲したり、作品を読み合ったりする言語活動が『やってみよう』で例示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、現代まで続く文字の歴史や文化を取り上げた『文字の変遷』や、文字に関わる仕事で活躍する人物の紹介が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、書写で学習したことを用いて新聞や情報誌などを書く学習活動が、各学年末の『やってみよう』に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、冒頭に姿勢や筆の持ち方などを示した『基礎編』が設定され、最終単元に高等学校の書道につながる『書の古典』が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、書写で学習したことを用いて情報を整理し、まとめる学習活動が例示された『やってみよう』が各学年に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、筆順に番号をつける、部首を色分けするなどして学習内容が示された『書き方を学ぼう』が各単元に設定されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の見通しについて、見開きで構成された右側のページに、学習のポイントが示された『書き方を学ぼう』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連について、毛筆で書いて確かめた内容を繰り返し活用することによって、日常の硬筆での書字に用いる『書いて身につけよう』が各単元に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 正しい運筆の能力の育成について、毛筆の行書での穂先の動きが濃淡の墨で示され、筆脈はイラストで示されている。文字を正しく整えて速く書く仕事の『達人』が紹介されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活に役立つ観点について、書写で学んだことを日常の多様な「書く」場面で用いる『書いて身につけよう』や『やってみよう』が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学年ごとの学習内容が掲載された『本編』と社会生活で役立つ『日常の書式』、楷書・行書一覧表などが掲載された『書写の広場』などの『資料編』とで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-5～書写-12)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学書写
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材として例示された文字の特徴が、イラストや吹き出し、朱墨、図表などを用いて、『生かそう』に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、レポートを書いたり俳句を書いたりする日常生活や学校生活に用いる『学習を生かして書く』が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、3年間の書写で学習した内容について系統的にまとめた『書写をとおして学んでいくこと』が巻頭に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「共生」について、他者との関わりを表す『感謝』や『友好の精神』などの言葉が教材として示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、地域での学習活動や謝辞の文例が示され、新年の抱負として『友と語る』が書き初めの語句例として示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、講師への礼状や清掃活動を呼び掛けるポスターを書く活動が設定されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各教材には自分で課題を発見・解決する活動や話し合い活動が例示されており、学習の手順が巻頭の『学習の進め方』に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、書写で学んだことを他教科で用いる学習活動について、各学年の『学習を生かして書く』などに例示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、情報を整理してポスターやレポートを書き、相手に応じた内容の伝え方を考える学習活動などが『学校生活に生かして書く』などに示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『文字の変遷』や『日本建築と書』、『芸術としての書道』が『コラム』などに掲載され、『書き初め』の模範例が巻末に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、お薦めの本の帯やポップを、レイアウトや書体を工夫して書く活動などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、最初の単元に小学校の学習内容『基本点画』が設定され、高等学校の書道につながる行書学習の導入として名筆『風信帖』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、分類メモなどから観察・取材レポートや新聞を書く『学習を生かして書く』などが設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、写真やイラスト、番号などを用いて学習の流れが示された『学習の進め方』が巻頭に掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の見通しについて、教材ページは見開きで構成され、写真やイラストでポイントを示した『考えよう』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連について、毛筆学習の成果が硬筆学習につながる構成で、『試し書き』(硬筆)、『考えよう』(硬筆・毛筆)、『生かそう』(硬筆)が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 運筆の能力の育成について、行書の筆づかいや穂先の動き、筆圧などの学習では写真や濃淡の墨、数字、記号などが説明に用いられ、『考えよう』で例示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活に役立てる観点について、書写で学んだことを用いる『学習を生かして書く』などが設定され、日常で使う手紙などの書式が巻末の『書式の教室』に示されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学年ごとの学習内容が掲載されたページと、日常生活で用いる手紙の書き方などが例示された『書式の教室』などの資料ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『画数や筆順が正確に理解できるように配慮した書体を、本文に使用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを、ゴシック体に使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《国語(書写)》

※詳細については、資料Ⅱ(書写-5～書写-12)を参照。

発行者の略称	光村	書名	中学書写 一・二・三年
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材ごとに『目標』と『学習を振り返る』が設定され、学習のポイントが箇条書きでまとめられた『学習の窓』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、毛筆の学習を、硬筆で文字を書く時に活用する『学校生活』というコーナーなどが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、3年間の学習を踏まえた自分の課題について振り返る『確かめよう』などが示されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「共生」について、『年賀状を書こう』などの他者との関わりを表す教材が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、伝えたいことを読み手を意識し、書写で身に付けた力を活用して書く活動が例示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、職場訪問をした際の新聞作りが例示されており、漫画家などの座右の銘が『私の好きな言葉』に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、巻頭で『三年間の目標』と『学習の進め方』が示されており、最終単元に『三年間のまとめ』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、書写で学習したことを、他の教科や学校行事で用いる『季節のしおり』や『学校生活』が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、硬筆で名文を書いて味わう学習活動として、各学年に『季節のしおり』、書写ブックに『名文を書いてみよう』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、書写の道具の製造過程の紹介が裏表紙に掲載され、伝統文化や文字文化については『コラム』や『発展』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、書写で学習したことを学校生活に用いる活動が示された『学校生活』や『国語』、『私の好きな言葉』が各学年に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、巻頭に小学校の学習内容が示された『学習の始めに』が設定され、高等学校の書道につながる文字の歴史を探る『コラム』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、書写で学んだことを用いて、伝えたいことを整理して書き表す学習活動が『学校生活』などで示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、半紙大の手本が示されるとともに、毛筆の筆の動きや筆圧が写真やイラストなどを用いて『確かめよう』のコーナーで示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の内容を焦点化して示した『学習の窓』が設定され、毛筆での学習を硬筆での学習に用いる『書写ブック』が付されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 毛筆と硬筆との関連について、毛筆の学習を用いて、硬筆で繰り返し書く学習活動が、『書写ブック』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 運筆の能力の育成について、毛筆の行書特有の穂先の動きや穂先の向きなどが、筆の写真や記号、数字などを用いて『考えよう』や『確かめよう』に示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活に役立つ観点について、手紙や送り状の書き方など、学校での生活や日常生活で用いる例が掲載され、そのポイントが『日常に役立つ書式』に示されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 楷書、行書、日常の活用などの「教科書」本体と、硬筆書写の「書写ブック」の2分冊で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、手書き文字との差異が少ない書体を開発し、使用しています。』『目次や小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《国語(書写)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く『知識・技能』を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、3年間で身につける内容として、単元ごとに何をどのように学ぶかを示した『書写のかぎ』のコーナーが掲載されている。第1学年『点画の連続』、第2学年『点画の省略』で行書の特徴や運筆について示され、左ページのインデックスに確認用のなぞり書きが設定されている。また、第3学年『効果的に文字を書こう』では目的に応じた工夫について示されている。
三省堂	「知識・技能」の習得について、文字文化を理解する資料とともに、基礎的・基本的な学習内容を示した『書き方を学ぼう』が教材の冒頭に掲載されている。第1学年『点画の丸み』では『書き方のポイント』が青字で示されている。第2学年『筆順の変化』では筆順に青字で番号をふり、楷書と行書の違いが示されている。第3学年『身のまわりの文字』では文字文化の変遷を確かめる学習活動が設定されている。
教出	「知識・技能」の習得について、教材として例示された文字の特徴が、イラストや吹き出し、朱墨、図表などを用いて、『生かそう』に掲載されている。第1学年では同様の点画等をもつ文字を示し特徴の確認ができるよう構成されている。第2学年では写真やキャラクターの吹き出しを使ってポイントの補足・説明がされている。第3学年の行書学習では濃淡の墨による手本で行書特有の穂先の動きが示されている。
光村	「知識・技能」の習得について、教材ごとに『目標』と『学習を振り返る』が設定されている。第1学年『行書の特徴』では、行書の5つの特徴など学習のポイントが、第2学年『筆順の変化』では模範と同じ漢字が『学習の窓』で示され、変化した筆順が赤字で示されている。第3学年『文字の使い分け』では活字などの使い分けについてまとめられている。
② 未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、単元ごとにその途中や終末で学習するポイントを確認する『書写のかぎ』が掲載されている。第1学年では学習の振り返りで『書写のかぎ』を確認する『かぎマーク』が示されている。第2学年『楷書と行書の使い分け』、第3学年『書き手の意図と表現』では文字の効果的な活用を考える場面で『書写のかぎ』が示されている。
三省堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年はグループ新聞、第2学年は情報誌、第3学年は名言集を制作する活動など、毛筆書写で学習したことを学校生活や日常生活で実際に活用する学習活動として『やってみよう』が設定されている。教科書の巻末には、はがきの宛名や時候の挨拶、送り状の書き方などが『資料編』に収録されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、レポートを書いたり俳句を書いたりする日常生活や学校生活に用いる『学習を生かして書く』が設定されている。第1学年では校庭の植物観察レポートを書く活動、第2学年では枕草子を硬筆で書く活動、第3学年では小筆で短冊に俳句を書く活動など、課題について考え、解決する『課題解決型』の学習の流れが設定されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、毛筆の学習を、硬筆で文字を書く時に活用する『学校生活』というコーナーなどが掲載されている。書写学習で学んだことを他教科の学習で活用することとして、第1学年では目標やスローガン、第2学年では本の帯や看板、第3学年では冊子づくり等の学習課題が設定されている。巻末『日常に役立つ書式』では、社会生活での活用場面が示されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会生活で活用する学習課題が各学年に配置されており、巻頭の『書写で学ぶこと』にまとめて掲載されている。第1学年で楷書と行書の基礎の学習から職場訪問の手紙、第2学年で行書と仮名の学習から場面や目的に応じた文字の書き方、第3学年で多様な文字文化の学習から手書き文字の効果学ぶなどの学習場面が設定されている。
三省堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、書写で学習したことを学校生活や日常生活で実際に活用する『書いて身につけよう』や『やってみよう』が設定されている。第1学年、第2学年『書いて身につけよう』では文字の配列を意識してはがきを書く活動や47都道府県を硬筆行書で書く活動が設定されている。第3学年『やってみよう』では前単元『文字文化の豊かさ』を踏まえ『名言集』を作る活動が設定されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、3年間の書写で学習した内容について系統的にまとめた『書写をとおして学んでいくこと』が巻頭に掲載されている。第1学年では楷書と仮名の調和や文字を正しく整えて速く書く力、第2学年では場面や相手を意識して書く力や行書と仮名を調和させて書く力、第3学年では文字文化の豊かさに触れ、効果的に書く力についての学習活動が設定されている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、3年間の学習を踏まえた自分の課題について振り返る『確かめよう』などが示されている。第1学年『文字の大きさと配列』では読みやすい文字の大きさや配列について、第2学年『筆順の変化』では行書の筆順について、第3学年『三年間のまとめ』ではこれまでの自分の課題について示されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「共生」について、『本のポップを書こう』などの他者との関わりを表す学習課題が例示されている。第1学年では礼状作成、第2学年では書き初めの教材としての『感謝する心』、第3学年では『書き手の意図と表現』の教材としての『和 思いを一つに』が例示されている。
三省堂	[思いやる力]の「共生」について、詩人・谷川俊太郎『朝のリレー』や歌手・森山直太朗の『さくら(独唱)』など、他者との関わりを表す言葉が教材として例示されている。第1学年では『きずな新聞』、第2学年では教材文字として『親和』、第3学年では友に関する名言が掲載されている。
教出	[思いやる力]の「共生」について、他者との関わりを表す『感謝』や『生命の尊重』などの言葉が教材として示されている。教材の説明をするイラストや写真の人物、作品例の名前は性別に偏りなく配置されている。第1学年では防災訓練のお礼状、第2学年では書き初めの教材例として『友好の精神』、第3学年では友人や先生に感謝や友好のメッセージカードを書くなどの活動が例示されている。
光村	[思いやる力]の「共生」について、『年賀状を書こう』などの他者との関わりを表す教材が掲載されている。第1学年『目標を書こう』では『みんなで成長する みんなで感動する』が学級スローガンとして示され、第2学年『壁新聞を作ろう』では地域の保育園への職場訪問をとおして他者との関わりについて例示されている。第3学年ではコラム『UD書体って何だろう』が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、学校内外の人々との交流が教材として取り上げられており、第1学年『案内の手紙を書こう』では文化祭への案内状の書き方が、第2学年『防災訓練に参加しよう』では、地域の防災訓練の運営や準備に携わる例が、第3学年『手書き文字の特徴』では、旅行先からの絵はがきなどが例示されている。
三省堂	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、教員や友達とやり取りした言葉などから名言集を作る活動などが『名言集を作ろう』に例示されている。第1学年『書いて身につけよう』では、季節の便りを書く活動が、第2学年『楷書と行書の使い分け』では、贈り物への礼状を書体を使い分けて書く活動が、第3学年『名言集を作ろう』では先生や友達とやりとりした言葉などから名言集を作る活動が示されている。
教出	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、地域での学習活動や謝辞の文例が示され、新年の抱負として『友と語る』が書き初めの語句例として示されている。第1学年では『書き初めを書く』で新たな一年の抱負として、毛筆の語句例『友と語る』などが、第2学年の『掲示物(ポスター)に案内を書く』では、地域清掃のポスターが、第3学年では恩師や友だちにメッセージカードを書く活動が例示されている。
光村	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、伝えたいことを読み手を意識し、書写で身に付けた力を活用して書く活動が例示されている。第1学年『文字の大きさと配列』では読み手を意識した活動が、第2学年『壁新聞を作ろう』では職場訪問の依頼状や礼状という具体的場面が、第3学年『冊子にまとめよう』では学校や部活動の魅力を多くの人に伝える冊子づくりが例示されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、地域行事や職場訪問などについて学習活動や読み物が設定され、『書写活用ブック』には、礼状の書き方などが掲載されている。第1学年と第2学年の『生活に広げよう』では『職場訪問』と『防災訓練』が教材として配置され、依頼状やポスターの制作など、書写で学んだことを生かす活動が設定されている。第3学年の『文字のいずみ』には文字を仕事にしている人物の読み物が配置されている。
三省堂	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、文字に関わる仕事を紹介する内容が『達人』に掲載されている。第1学年では季節の挨拶を含むはがきの書き方についての学習が設定されており、第2学年では楷書と行書を効果的に使い分けて地域の情報誌を作成する活動が設定されている。また、第3学年では看板職人やタイプライターについての読み物が掲載されている。
教出	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、講師への礼状や清掃活動を呼び掛けるポスターを書く活動が設定されている。第1学年『手紙を書く』では防災訓練のお礼の手紙文が、第2学年『掲示物(ポスター)に案内を書く』では地域の清掃活動『クリーン大作戦』を呼びかけるポスター制作が、第3学年では自己の成長への思いを込めた書き初め教材『空駆ける夢』が例示されている。
光村	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、職場訪問をした際の新開作りが例示されているとともに、漫画家などの座右の銘が『私の好きな言葉』に掲載されている。第1学年の書き初めでは『将来の夢』が教材文字として示されている。第2学年では職場訪問先の『保育士』の仕事内容などについて壁新聞を書く活動が例示されている。第3学年『私の好きな言葉』ではプロの卓球選手や漫画家の言葉が掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、『目標』や『見つけよう』など学習の流れが示された『書写の学習の進め方』が巻頭に掲載されている。第1学年『行書を書く時の動き』や第2学年『楷書と行書の使い分け』では目標を踏まえ、『見つけよう』で試行錯誤したり友だちと話し合ったりする活動が示されている。第3学年では自分の思いを表す卒業制作について友だちと意見交換をする活動例が示されている。
三省堂	主体的・対話的で深い学びについて、『学習の流れ』が、巻頭の『この教科書で学ぶ皆さんへ』や『やってみよう』で示されている。第1学年『行書の特徴』では、『学習の流れ』に沿って、見開きで行書の特徴が示され、第2学年『行書と楷書の使い分け』では書体について話し合い、書いてみる活動が設定されている。第3学年『名言集を作ろう』では、学んだことを生かし、好きな言葉を書く活動が例示されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、各教材には自分で課題を発見・解決する活動や話し合い活動が例示されており、学習の手順が巻頭の『学習の進め方』に掲載されている。第1学年『学習を生かして書く』では『考えよう』でどう書くとよいか考え、話し合う活動が設定され、第2学年『点画の省略』では『衣偏』がどう省略されるか書いてみる活動が設定されている。第3学年では筆ペンで俳句を書く活動が設定されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、巻頭で『三年間の目標』と『学習の進め方』が示されており、最終単元に『三年間のまとめ』が掲載されている。第1学年『行書の特徴』では『①考えよう』で行書の筆使いが楷書との比較で示され、第2学年『楷書と行書の使い分け』では『②確かめよう』で他者と考えを交流する活動が示されている。第3学年では『三年間の目標』に対応した課題が設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、『文字のいずみ』で文字の成り立ちやその歴史が示されるなど、他教科と関連する教材には『教科関連マーク』が付けられている。第1学年『文字のいずみ』では社会科に関連して文字の成り立ちやその歴史について示され、第2学年『防災訓練に参加しよう』では防災学習に関連して防災マップが例示されている。第3学年『仕事の手書き文字』では文字を仕事にしている人が提示されている。
三省堂	カリキュラム・マネジメントについて、理科のノートの書き方、情報誌の作成など、他教科と関連する学習課題が『書いて身につけよう』などに設定されている。第1学年で文字の大きさや配列に関して古典や数字、理科の課題文などが例示されている。第2学年『やってみよう』では地域の魅力を伝える情報誌の作成が例示され、第3学年では文字に関わる仕事の『達人』について読み物が設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、書写で学んだことを他教科で用いる学習活動について、各学年の『学習を生かして書く』などに例示されている。第1学年では、漢字と仮名の配列について学習したことを活用した、植物観察レポートが例示されている。第2学年では目的に応じて効果的に書くことの活用例として地域の新聞づくりが示され、第3学年では三年間のまとめとしてメッセージカードの作成例が示されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、書写で学習したことを、他の教科や学校行事で用いる『季節のしおり』や『学校生活』が掲載されている。全学年の『季節のしおり』で国語科と関連した名文、短歌、俳句が例示されている。第1学年では『目標を書こう』、第2学年では『壁新聞を作ろう』で職場訪問についてまとめた壁新聞が例示され、第3学年では学校の魅力を冊子にまとめる学習活動が例示されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、情報を整理したノートやレポートの書き方、効果的なメモの書き方などの学習活動が、各学年の基本単元や『書写活用ブック』に例示されている。第1学年『情報を整理した書き方』では理科の実験ノート、『書写活用ブック』では保育園の訪問レポートが例示されている。第2学年では地域の防災訓練の話し合いメモの例などが示され、第3学年では手書き文字の効果などの特徴をまとめる活動が示されている。
三省堂	言語能力の育成について、グループ新聞や情報誌、名言集などの制作や記事を互いに推敲したり、作品を読み合ったりする言語活動が『やってみよう』で例示されている。第1学年『グループ新聞を作ろう』で記事の執筆などの学習活動が例示され、第2学年『情報誌を作ろう』では『わかば探訪』と題し、ふるさとの味を情報誌にまとめる例が示されている。第3学年『名言集を作ろう』では作品を互いに読みあう活動が示されている。
教出	言語能力の育成について、情報を整理してポスターやレポートを書き、相手に応じた内容の伝え方を考える学習活動などが『学校生活に生かして書く』などに示されている。第1学年『ポスターを書く』では作成したポスターでポスターセッションを行う例を示している。第2学年『新聞を書く』では相手に応じた書き方について考える学習が例示され、第3学年『多様な表現による文字』では取材レポートについて例示されている。
光村	言語能力の育成について、硬筆で名文を書いて味わう学習活動として、各学年に『季節のしおり』、書写ブックに『名文を書いてみよう』が掲載されている。第1学年、第2学年の『季節のしおり』では、季節の言葉を硬筆の行書と楷書で書く活動や清少納言『枕草子』の一部を硬筆行書で書いて味わう活動が例示されている。第3学年『名文を書いてみよう』では、松尾芭蕉『奥の細道』を硬筆行書で書く例が示されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、多様な文字文化について示されたコラム『文字のいずみ』が掲載されている。『書き初め』の模範例が示されている。第1学年では『文字の成り立ちと移り変わり』、第2学年では『文字と絵』『書いて味わおう「平家物語」』、第3学年は『仕事中的手書き文字』などが示されている。
三省堂	伝統や文化に関する教育の充実について、現代まで続く文字の歴史や文化を取り上げた『文字の変遷』や、文字に関わる仕事で活躍する人物の紹介が掲載されている。第1学年では文字の歴史を取り上げ、『仮名の字形と筆使い』では平仮名の歴史と『いろは歌』が楷書で示されている。第2学年では『いろは歌』が行書で示され、第3学年『身のまわりの文字』では手書き文字を仕事としている人物が紹介されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、『文字の変遷』や『日本建築と書』、『芸術としての書道』が掲載され、『書き初め』の模範例が巻末に掲載されている。第1学年では『文字の変遷』、第2学年では『日本建築と書』について『コラム』に掲載されている。第3学年では『芸術としての書道』が巻末に掲載されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、書写の道具の製造過程の紹介が裏表紙に掲載され、伝統文化や文字文化については『コラム』や『発展』に掲載されている。巻頭で筆や紙、硯、墨、鉛筆など道具の製造過程が示されている。第1学年の『文字の歴史を探る』や第2学年の『物語を千年書き継ぐ』、第3学年では発展として『なりきり、書聖・王羲之』が設定され、伝統文化・文字文化の豊かさについて示されている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、保育園への職場訪問や本のポップの制作などが各学年の『生活に広げよう』に設定されている。第1学年『職場訪問をしよう』では依頼状の書き方などが示されている。第2学年『本のポップを書こう』では話し合い活動、ポップの制作・展示を経て感想を伝え合う活動が設定され、第3学年では身の回りにある案内標識などの文字の目的や工夫を考える活動が設定されている。
三省堂	体験活動の充実について、書写で学習したことを用いて新聞や情報誌などを書く学習活動が、各学年末の『やってみよう』に設定されている。第1学年と第2学年では書体や文字の大きさを考えて、新聞を作る活動や、楷書と行書を使い分けて地域の魅力が伝わる情報誌を作る活動が例示されている。第3学年では、文字の大きさや書体、筆記具を選んで名言集を作る活動が例示されている。
教出	体験活動の充実について、お薦めの本の帯やポップを、レイアウトや書体を工夫して書く活動などが掲載されている。第1学年では、お薦めの本の帯やポップのレイアウトや書体を工夫して書く活動が示され、第2学年では、文字の大きさや割り付けを工夫して新聞を書く活動が示されている。第3学年では、メッセージカードか未来の自分への手紙を選んで取り組む活動が設定されている。
光村	体験活動の充実について、書写で学習したことを学校生活に用いる活動が示された『学校生活』や『国語』、『私の好きな言葉』が各学年に設定されている。第1学年『学校生活』では、文字の大きさや配列を考えて学級スローガンや個人目標を書く活動が設定され、第2学年『国語』では職場体験の依頼状などや新聞の作成例が示されている。第3学年『私の好きな言葉』では書体や筆記具、用紙を選び、好きな言葉を書く活動が示されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、最初の単元に小学校の書写の復習が設定され、最後の単元に高等学校の芸術としての書道につながる『古典をもとに』が設定されている。第1学年では、冒頭に『小学校の学習を振り返ろう』が設けられている。第3学年『古典をもとに』では、中国や日本の古典作品を掲載し、高等学校での書道の学習内容や高校生の活動が例示されている。
三省堂	学校段階間の円滑な接続について、冒頭に姿勢や筆の持ち方などを示した『基礎編』が設定され、最終単元に高等学校の書道につながる『書の古典』が設定されている。第1学年では、書写学習時の基本的姿勢、筆記具の持ち方、楷書の文字の書き方などが示されている。第1学年で『文字の変遷』、第3学年では学年末に『書の古典』が設定され『楽毅論』が掲載されている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、最初の単元に小学校の学習内容『基本点画』が設定され、高等学校の書道につながる行書学習の導入として名筆『風信帖』が掲載されている。第1学年の最初の単元に『楷書で書こう』が設定され『基本点画』などについて示され、『行書学習のはじめに』では空海の『風信帖』が紹介されている。第2学年ではコラム『短冊と色紙』が掲載され、第3学年では最終ページに『芸術としての書道』が掲載されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、巻頭に小学校の学習内容が示された『学習の始めに』が設定され、高等学校の書道につながる文字の歴史を探る『コラム』などが掲載されている。第1学年では『学習の始めに（姿勢・筆記具のもちかた/字形の整え方）』が設定され小学校の学習を振り返り、『コラム 文字の歴史を探る』では漢字の歴史が示されている。第3学年では高等学校書道につながる『発展 なりきり、書聖・王羲之』が掲載されている。

⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、職場訪問のレポートの書き方などが『書写活用ブック』に記載されている。第2学年では防災訓練のポスターに活用できる情報のまとめ方が例示され、第3学年『現代につながる文字の役割』では年表から文字の役割を読み取る活動が示されている。
三省堂	情報活用能力の育成について、書写で学習したことを用いて情報を整理し、まとめる学習活動が例示された『やってみよう』が各学年に設定されている。第1学年では、一年間の出来事を文章や写真でまとめたグループ新聞を書く学習活動、第2学年では地域の魅力を伝える情報誌づくり、第3学年では、お気に入りの言葉をテーマにそって集め、名言集にまとめる活動が例示されている。
教出	情報活用能力の育成について、分類メモなどから観察・取材レポートや新聞を書く『学習を生かして書く』などが設定されている。第1学年では、植物の観察結果を分類メモなどを基にレポートにまとめる活動、第2学年では『新聞を書く』で記事を書く時の留意点や筆記具の使い分けなどについて、第3学年では、集めた資料から取材レポートをまとめる活動が例示されている。
光村	情報活用能力の育成について、書写で学んだことを用いて、伝えたいことを整理して書き表す学習活動が『学校生活』などで示されている。第1学年では、情報をひとつにまとめて見やすく書く『目標を書こう』、第2学年では、読みやすさを意識し、文字の大きさなどを工夫する『壁新聞を作ろう』、第3学年では、目的に応じて書体などを使い分けことが示された『文字の使い分け』が設けられている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さへの対応について、濃淡の墨で筆の動きが表現され、教材ごとに文字を正しく書くためのポイントが示された『書写のかぎ』が設定されている。第1学年の『基本の点画の書き方』では、運筆の様子が筆の絵と擬態語で示され、第2学年の行書学習では2色の薄墨を使って筆の動きとして筆脈が点線化して示され、第3学年では手書き文字の特徴を書く欄の隣に『書写のかぎ』が示されている。
三省堂	生徒の学習上の困難さへの対応について、筆順に番号をつける、部首を色分けするなどして学習内容が示された『書き方を学ぼう』が各単元に設定されている。第1学年『筆順の変化』では気を付けたい筆順について、筆順を表す番号が青字で示されている。第2学年『楷書と行書の使い分け』では設定場面が絵と文で示されている。第3学年『身のまわりの文字』では文章と写真が資料として示されている。
教出	生徒の学習上の困難さへの対応について、写真やイラスト、番号などを用いて学習の流れが示された『学習の進め方』が巻頭に掲載されている。教材ごとの授業の流れが、全学年同一のマークと言葉で示されている。第1学年では筆圧を3段階の数字とイラストで示されているほか、筆を止める箇所を記号で表している。第2学年、第3学年では行書の省略部分は拡大して示され、イラストと写真で説明されている。
光村	生徒の学習上の困難さへの対応について、半紙大の手本が示されるとともに、毛筆の筆の動きや筆圧が写真やイラストなどを用いて『確かめよう』のコーナーで示されている。第1学年では筆圧と線の太さが3段階の数字で示され、始筆・送筆・終筆が『トン』・『スー』・『トン』という言葉で説明されている。第1学年、第2学年では半紙と同じ縮尺の手本が掲載され、第3学年では、見開き2ページで『三年間のまとめ』全体が掲載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	学習の見通しについて、左ページに大きな手本、右ページに『目標』『書写のかぎ』『確かめよう』がまとめて示されるなど、単元が見開き2ページで構成されている。第1学年『点画の変化』では半紙と同じ大きさの手本が左ページに示され、右ページに学習事項が示されている。第2学年『行書に調和する仮名』では『いろは歌』が見開き2ページで示されている。第3学年では手書き文字の特徴の記入欄の隣に『書写のかぎ』が配置されている。
三省堂	学習の見通しについて、見開きで構成された右側のページに、学習のポイントが示された『書き方を学ぼう』が設定されている。第1学年『文字の大きさと配列』や第2学年『筆順の変化』では、右ページに『書き方を学ぼう』が文章や図などを用いて示され、左ページに手本が示されている。第3学年『身のまわりの文字』では文字や活字による伝え方の変遷が見開きで示されている。
教出	学習の見通しについて、教材ページは見開きで構成され、写真やイラストでポイントを示した『考えよう』が設定されている。第1学年『いろは歌』、第2学年『深緑』第3学年『創造』では、右ページに『目標』と毛筆の手本が大きく例示され、『学習の進め方』で示された流れに沿って、『試し書き』『考えよう』『生かそう』『振り返ろう』の項目が左ページに配置されている。
光村	学習の内容を焦点化して示した『学習の窓』が設定され、毛筆での学習を硬筆での学習に用いる『書写ブック』が付されている。第1学年『点画の変化』の『学習の窓』ではポイントが朱書き文字と文章で説明されている。第2学年『点画の省略』では『書写ブック』を活用し硬筆で書く活動が例示されている。第3学年では三年間のまとめとして、これまでの『学習の窓』が見開きにまとめられている。

⑩ 毛筆と硬筆との関連をもたせるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	毛筆と硬筆との関連について、行書を毛筆と硬筆で書いたときの筆順の変化が同じであることを確かめる学習などが『筆順の変化』に設定されている。第1学年『点画の連続』では硬筆の学習をもとに毛筆の学習を進め、終末に再び硬筆での活用課題が設定されている。第2学年『筆順の変化』では、行書を毛筆と硬筆で書いた時の筆順の変化について示されており、第3学年では毛筆と硬筆の目的に合わせた活用について例示されている。
三省堂	毛筆と硬筆との関連について、毛筆で書いて確かめた内容を繰り返し活用することによって、日常の硬筆での書字に用いる『書いて身につけよう』が各単元に設定されている。第1学年では毛筆学習後に硬筆学習に取り組むよう『書いて身につけよう』に示されている。第2学年『点画の省略』では身近な47都道府県名を硬筆で書く活動が示されている。第3学年では毛筆と硬筆の良さを生かした名言集の作成が例示されている。
教出	毛筆と硬筆との関連について、毛筆学習の成果が硬筆学習につながる構成で、『試し書き』（硬筆）、『考えよう』（硬筆・毛筆）、『生かそう』（硬筆）が示されている。第1学年の毛筆学習の成果をほかの文字にもあてはめた例が『生かそう』に示されている。第2学年では毛筆の運筆が、硬筆にも生かせることが示されている。第3学年では、毛筆の点画の連続が、硬筆にも生かせることが示されている。
光村	毛筆と硬筆との関連について、毛筆の学習を用いて、硬筆で繰り返し書く学習活動が、『書写ブック』に設定されている。第1学年『漢字の筆使い』では、教科書教材と同じ学習要素をもつ硬筆課題が『書写ブック』に示され、第2学年『点画の省略』では部首ごとに漢字の省略の特徴を確認できる例が示されている。第3学年では三年間のまとめの『書写テスト』が収録されている。
⑪ 文字を正しく整えて速く書く能力を育成するための工夫や配慮がなされているか。	
東書	正しい運筆の能力の育成について、基本点画や行書特有の4つの筆の動き（『二』『口』『十』『人』）が、朱墨やイラストで表され『確かめよう』で例示されている。第1学年では、穂先の通り道を朱墨で示すとともに、キャラクターによって穂先の向きが示されている。第2学年では濃淡の墨で筆圧が表され、行書特有の筆の動きはパターン化したマークで示されている。第3学年では手書き文字を仕事にする人々が示されている。
三省堂	正しい運筆の能力の育成について、毛筆の行書での穂先の動きが濃淡の墨で示され、筆脈はイラストで示されている。文字を正しく整えて速く書く仕事の『達人』が紹介されている。第1学年『字形の整え方と筆使い』では穂先の通り道や動きが朱墨や矢印で示され、第2学年『行書に調和する仮名』では仮名の『筆脈』がイラストで示されている。第3学年では文字を正しく整えて速く書く手書き文字や印字に関わる『達人』が示されている。
教出	運筆の能力の育成について、行書の筆づかいや穂先の動き、筆圧などの学習では写真や濃淡の墨、数字、記号などが説明に用いられ、『考えよう』で例示されている。第1学年では、穂先の通るところが濃淡の墨で示され、筆圧は3段階の数字で、筆を止める箇所は黒い丸で示されている。第2学年『初志』では、行書の筆使いのポイントについて、第3学年では点画を変化させて連続して書く様子が絵と写真で示されている。
光村	運筆の能力の育成について、毛筆の行書特有の穂先の動きや穂先の向きなどが、筆の写真や記号、数字などを用いて『考えよう』や『確かめよう』に示されている。第1学年では、穂先の動きが『確かめよう』で朱墨と記号で示され、筆圧は数字で示されている。第2学年『行書に調和する仮名』では行書の『筆脈』が赤い点線で示されている。第3学年では三年間のまとめとして『探究』と『輝ける未来』の二つの課題が例示される。
⑫ 日常の学習や生活に役立てる態度を育てるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	生活に役立てる観点について、行事の案内など知識・技能を活用する学習活動が、『生活に広げよう』や『書写活用ブック』などで例示されている。第1、第2学年『生活に広げよう』では学校行事の案内に必要な情報を縦書きの手紙に書いた例や、地域の防災訓練に関する会議録や防災パンフレットなどが例示されている。第3学年『思いを文字で表そう』では効果的な表現について作品例が示されている。
三省堂	生活に役立てる観点について、書写で学んだことを日常の多様な「書く」場面で用いる『書いて身につけよう』『やってみよう』が設定されている。第1学年『書いて身につけよう』では、縦書きのはがきなどを書く活動が例示されている。第2学年『書いて身につけよう』では、47都道府県名や名文を硬筆で書く活動が設定されている。第3学年『名言集を作ろう』では好きな言葉を選び名言集を作る活動が例示されている。
教出	生活に役立てる観点について、書写で学んだことを用いる『学習を生かして書く』などが設定され、日常で使う手紙などの書式が巻末の『書式の教室』に示されている。第1学年ではノートの書き方のポイントが示され、手紙の書き方は巻末の『書式の教室』で示されている。第2学年『学習を生かして書く』では掲示物など日常で活用できる例が示され、第3学年『三年間の学習の成果を生かそう』では文字の表現効果が示されている。
光村	生活に役立てる観点について、手紙や送り状の書き方など、学校での生活や日常生活で用いる例が掲載され、そのポイントが『日常に役立つ書式』に示されている。第1学年では一年間の学級スローガンや個人の目標を書く活動が設定され、第2学年では行書を活用した立て看板や応援旗などが例示されている。第3学年では、好きな言葉を書体や筆記具、用紙を選んで作品にする活動が示されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学年ごとの学習内容が掲載されたページと、常用漢字表や行書の部分の形などや、日常生活で役立つ手紙や新聞、リーフレットなどの書き方を例示した『書写活用ブック』で構成されている。また、『書写力アップ』には実際に書く場面が示されている。
三省堂	学年ごとの学習内容が掲載された『本編』と社会生活で役立つ『日常の書式』、楷書・行書一覧表などが掲載された『書写の広場』などの『資料編』とで構成されている。『日常の書式』では学習場面や社会生活で役立つ手紙の書き方や時候の挨拶などが例示されている。
教出	学年ごとの学習内容が掲載されたページと、日常生活で用いる手紙の書き方などが例示された『書式の教室』などの資料ページで構成されている。『書式の教室』では、都道府県名一覧表や時候の挨拶、基本的な手紙や年賀状、往復はがき、エアメール、願書、小包伝票の書き方などが掲載されている。
光村	楷書、行書、文字の使い分け、日常の活用、漢字字典などの「教科書」本体と、硬筆書写の「書写ブック」の2分冊で構成されている。学年で段階的に学習する配列となっている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
三省堂	判型はB 5判が採用されている。
教出	判型はA B判が採用されている。
光村	判型はB 5判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『ゴシック体には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
三省堂	『この教科書は、ユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『画数や筆順が正確に理解できるように配慮した書体を、本文に使用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを、ゴシック体に使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、手書き文字との差異が少ない書体を開発し、使用しています。』『目次や小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	43ページ 『年賀状を書く』の都道府県名に『神奈川県』
三省堂	56ページ 『四十七都道府県名』に『神奈川県』 72ページ 横濱毎日新聞
教出	82ページ 『新聞を書く』に『横浜みなとみらい新聞』 95ページ 美術館展示室(横浜市) 96ページ 小机城(横浜市) 103ページ 『都道府県名一覧表』に『神奈川県』
光村	92ページ 鎌倉大佛(鎌倉市) 110ページ 『手紙の書き方(縦書き)』に『小田原市立北山中学校』 112ページ 『手紙の書き方(横書き)』に『小田原市立北山中学校』 115ページ 『都道府県行書一覧』に『神奈川県』 書写ブック 24ページ 『都道府県名を練習しよう』に『神奈川県』

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名						
東書	有					
三省堂	有					
教出	有					
光村	有					

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	重量(g)				
東書	1	324				
三省堂	1	254				
教出	1	304				
光村	1	290				

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 <<社会(地理的分野)>>

※詳細については、資料Ⅱ(地理的分野-5～地理的分野-11)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい社会 地理
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① □ 「知識・技能」の習得について、『地図帳を使って次の都道府県を探しましょう』など、『チェック』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『スキル・アップ』で取り上げられている。</p> <p>② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『学習課題』が設定されている。また、単元の最初と最後に『探究課題』が掲載されている。</p> <p>③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容と関連のある現代社会の事例について『地理にアクセス』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ □ [思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害と防災・減災への取り組み』に示されている。</p> <p>⑤ □ [たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した医療の可能性が『ICTで変わる離島の医療』などで取り上げられている。</p> <p>⑥ □ [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、青年海外協力隊としてアフリカで食事の改善に取り組む活動の様子が『発展に向けた課題』で取り上げられている。</p>
3 内容と構成			<p><<教科・種目共通の観点>></p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びについて、『地図帳で調べよう』など小集団での参加型学習のテーマを示した『みんなでチャレンジ』が設けられている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、他の分野や他教科の学習との関連箇所には『分野関連マーク』や『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、単元のまとめに『日本はどのような姿をしているのでしょうか』などの『探究課題』が設けられている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、『なまはげ』や『会津塗』など『伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし』というテーマで東北地方が取り上げられている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、『調査の準備』『野外観察・聞き取り調査』などが『地域調査の手法』の単元に示されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、各単元の導入に小学校の学習内容を確認する『小学校の社会で習ったことば』が設けられている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方や調べ学習を行う際の手法などが『スキル・アップ』に掲載されている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ 学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『チェック』と発展的な課題を提示した『トライ』が設定され、学習の流れが示されている。</p> <p><<各教科・種目別の観点>>(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、地理的な見方・考え方を活用して考察する問い『見方・考え方』が設けられている。</p> <p>⑰ □ 多面的、多角的に考察し、表現することについて、『探究課題』『学習課題』『探究のステップ』という問いが設定されている。</p> <p>⑱ □ 課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、単元のはじめに『探究課題』が提示され、終わりには『探究課題を解決しよう』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ □ 『世界と日本の姿』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全3編で構成されている。</p> <p>⑳ □ 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ □ 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 <<社会(地理的分野)>>

※詳細については、資料Ⅱ(地理的分野-5～地理的分野-11)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学社会 地理 地域にまなぶ
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、『日本の白地図に都道府県名、県庁所在地名を記入し、整理しよう』など、『確認』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『地理の技』で取り上げられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『表現』が設定されている。また、単元の最後に『表現しよう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、日本の諸課題を取り上げた『現代日本の課題を考えよう』が設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『災害から身を守るために』に示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した農業の可能性が『地域おこしの知恵』などで取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかわる力]の「地域貢献活動」について、熊本地震の被災地で、日本人とともにカレーをふるまうネパール人の様子が『災害から身を守るために』で取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p><<教科・種目共通の観点>></p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『シンガポールはいま』などを取り上げた『特設ページ』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、地理・歴史・公民的分野と関連する語句が各ページの下部の『関連』のコーナーに掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、単元末に『言葉や習慣が異なる人たちと社会生活を送るために、どのような工夫が必要だろうか』などの『意見を交換しよう』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『京町家の修復』や『西陣織』など『歴史的な視点から、近畿地方と特色を考えていこう』というテーマで近畿地方が取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『調査テーマを決める』『調査活動の進め方』などが『地域調査の方法を学ぼう』の単元に示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、巻頭に小学校の学習内容を確認する『小学校の社会科の学習を振り返ろう』が設けられている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方のヒントが、『読み解こう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認』と学習したことを活用する課題を示した『表現』が設定され、学習の流れが示されている。</p> <p><<各教科・種目別の観点>>(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『位置や広がり』などの『見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 多面的、多角的に考察し、表現することについて、学習内容を確認しながら表現する『読み解こう』が設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『表現』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全3編で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(地理的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(地理的分野-5～地理的分野-11)を参照。

発行者の略称	帝国	書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、『都・道・府がつく都道府県名をそれぞれ挙げよう』など、『確認しよう』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『技能をみがく』で取り上げられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭に『地理的な見方・考え方』を解説している。また、学習ごとに『説明しよう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、地域社会の取組事例を掲載した『地域の在り方を考える』が設けられている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害に対する備え』に示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した地域おこしが『通信網を生かした地域おこしの取り組み』などで取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかがわる力]の「地域貢献活動」について、自然の保全活動について『熊野古道の保全に取り組む人の話』で取り上げられている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『ブラジルの熱帯雨林は、どのようにして開発されているのかな』などの問いがキャラクターの吹き出しで掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、小学校や歴史・公民的分野と関連する語句が各ページの下部の『小学校・歴史・公民との関連』に掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、単元末に、学習内容に関連した言語活動のテーマを掲載した『特設ページ』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『町家を改装したコンビニエンスストア』や『西陣織』など『環境の保全に注目して』というテーマで近畿地方が取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『調査テーマを決めよう』『調査方法を考えよう』などが『身近な地域の調査』の単元で示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各ページの下端に学習内容に関連する小学校の既習事項が示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『ハザードマップの読み方』や『防災情報の入手のしかた』などが、『技能を磨く』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認しよう』と学習したことを活用する『説明しよう』が設定され、学習の流れが提示されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 多面的、多角的に考察し、表現することについて、見方・考え方をもとに考える問いが掲載された『章(節)の学習を振り返ろう』が設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認しよう』『説明しよう』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』『地域の在り方』の全4部で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『特別支援教育やユニバーサルデザイン(UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるように工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(地理的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(地理的分野-5～地理的分野-11)を参照。

発行者の略称	日文	書名	中学社会 地理的分野
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、『47都道府県の県名と県庁所在地名を書きましょう』など、『確認』が設けられている。また、基礎的・基本的な技能について『スキルUP』で取り上げられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、表見返して『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、『チャレンジ地理』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習課題を示した『アクティビティ』が設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 『思いやる力』の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災・減災への取り組みについて考え、実践できることが『災害にそなえるために』に示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 『たくましく生きる力』の「情報化」について、ICTの発達による生活の変化が『交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分』などで取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 『社会とかかわる力』の「地域貢献活動」について、ボランティアによる雪かきの支援が『寒冷な気候に対応した人々の生活』で取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『なぜ六つの祭りが集まって東北絆まつりが開催されているのでしょうか』など学習内容に関連した『クイズ』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、小学校や歴史・公民的分野と関連が、ページの下部の『連携コーナー』に掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『地域の魅力を広めよう』など言語活動のテーマを掲載した『アクティビティ』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『歴史的都市』や『茶道』など『歴史的背景をテーマに』が設定され、近畿地方が取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『調査テーマを決める』『調査計画を立てる』などが『地域調査の手法』の単元に示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各単元の導入に小学校の学習内容を確認する『小学校で学習した内容』が示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『統計資料を活用する』や『巻末資料の使い方』が『スキルUP』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認』と学習内容を深める『深めよう』が設定され、学習の流れが提示されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 多面的、多角的に考察し、表現することについて、異なる視点から学習する『地理+α』や対話的な活動を行う『アクティビティ』が設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『深めよう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全3編で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《社会(地理的分野)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、『地図帳を使って次の都道府県を探しましょう』など、『チェック』が設けられている。また、『日本略地図の描き方』や『統計資料の使い方』などの基礎的・基本的な技能について『スキル・アップ』で取り上げられている。
教出	「知識・技能」の習得について、『日本の白地図に都道府県名、県庁所在地名を記入し、整理しよう』など、『確認』が設けられている。また、『世界の略地図を描いてみよう』『統計資料を使ってみよう』など基礎的・基本的な技能について『地理の技』で取り上げられている。
帝国	「知識・技能」の習得について、『都・道・府がつく都道府県名をそれぞれ挙げよう』など、『確認しよう』が設けられている。また、『略地図の描き方』『統計資料の使い方』など基礎的・基本的な技能について『技能をみがく』で取り上げられている。
日文	「知識・技能」の習得について、『47都道府県の県名と県庁所在地名を書きましょう』など、『確認』が設けられている。また、『地図の活用』や『統計資料の活用』などの基礎的・基本的な技能について『スキルUP』で取り上げられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」等の育成について、学習内容ごとに『大陸と海洋はどのように分布しているのでしょうか』などの『学習課題』が設定されている。また、単元の最初と最後に『世界や日本はどのような姿をしているのでしょうか』などの『探究課題』が設けられている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『簡単な世界の略地図を描き、六大陸と三海洋の大まかな位置を書き込もう』などの『表現』が設定されている。また、単元の最後には『韓国と中国の工業発展についてそれぞれ特色をまとめよう』などの『表現しよう』が設けられている。
帝国	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭で『人と自然との関係』など『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、学習内容ごとに『地球儀と世界地図の長所と短所を表にまとめ、説明しよう』などの『説明しよう』が設けられている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭で『人と自然のかかわり』など『地理的な見方・考え方』が解説されている。また、章末に『イギリスのEU離脱を考えよう』などの『チャレンジ地理』が設けられている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容と関連のある現代社会の事例について『地理にアクセス』に掲載されている。また、『水没の危機にあるツバル』などを取り上げた『もっと地理』が設けられている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習から興味や関心につながる『地理の窓』が設けられている。また、『公害を乗り越えて』など日本の諸課題を取り上げた『現代日本の課題を考えよう』が設けられている。
帝国	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、地域社会の取組事例を掲載した『地域の在り方を考える』が設けられている。また、『地球温暖化による影響と危機』など持続可能な社会に関連した取組を紹介した『未来に向けて』が設けられている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習課題を示した『アクティビティ』が設けられている。また、『アフリカの紛争と私たち』など日本や国際社会の諸課題を取り上げた『自由研究』が設けられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害と防災・減災への取り組み』に示されている。また、身近な地域で防災に協力する姿勢と普段の備えの大切さが『もっと地理』に取り上げられている。
教出	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『災害から身を守るために』に示されている。また、『災害図上訓練で地域を知る』など防災・減災への取組について『地理の窓』に取り上げられている。
帝国	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災と減災について考え、実践できることが『自然災害に対する備え』に示されている。また、『防災情報の入手のしかた』など防災・減災への取組について『技能をみがく』に取り上げられている。
日文	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、自然災害の防災・減災への取組について考え、実践できることが『災害にそなえるために』に示されている。また、『せまりくる巨大地震にそなえて』など災害・防災について話し合う大切さが『地理+α』に取り上げられている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した医療の可能性が『ICTで変わる離島の医療』などで取り上げられている。また、『国際化』については、『人々の生活に根付く宗教』などで取り上げられている。
教出	[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した農業の可能性が『地域おこしの知恵』で取り上げられている。また、「国際化」については、『多民族の共存と課題』などで取り上げられている。
帝国	[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTを活用した地域おこしが『通信網を生かした地域おこしの取り組み』などで取り上げられている。また、「国際化」については、『移民の歴史と多様な民族構成』などで取り上げられている。
日文	[たくましく生きる力]の「情報化」について、ICTの発達による生活の変化が『交通・通信からみた日本の地域的特色と地域区分』などで取り上げられている。また、「国際化」については、『移民の増加とゆらぐ統合の動き』などで取り上げられている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、青年海外協力隊としてアフリカで食事の改善に取り組む活動の様子が『発展に向けた課題』で取り上げられている。
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、熊本地震の被災地で、日本人とともにカレーをふるまうネパール人の様子が『災害から身を守るために』で取り上げられている。
帝国	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、自然の保全活動について『熊野古道の保全に取り組む人の話』で取り上げられている。
日文	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、ボランティアによる雪かきの支援が『寒冷な気候に対応した人々の生活』で取り上げられている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、『地図帳で調べよう』など小集団での参加型学習のテーマを示した『みんなでチャレンジ』が設けられている。また、『イタリアの人々の暮らしで、気候の影響を受けている例を一つ挙げ、どのような影響か説明しましょう』などの問いが『見方・考え方』に掲載されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、『シンガポールはいま』などを取り上げた『特設ページ』が設けられている。また、『宗教をめぐる共存と対立』などの学習テーマが『地理の窓』に掲載されている。
帝国	主体的・対話的で深い学びについて、『ブラジルの熱帯雨林は、どのようにして開発されているのかな』などの問いがキャラクターの吹き出しで掲載されている。また、単元の学習内容の確認と対話的な学習テーマが『特設ページ』に掲載されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、『なぜ六つの祭りが集まって東北絆まつりが開催されているのでしょうか』など学習内容に関連した『クイズ』が設けられている。また、『地域の魅力を広めよう』などの学習テーマが『アクティビティ』に掲載されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすい工夫や配慮など)

東書	カリキュラム・マネジメントについて、他の分野や他教科の学習との関連箇所には、『分野関連マーク』や『教科関連マーク』などが、『数学：正負の数の加法、減法』などで記載されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、学習する内容に関する語句が、地理・歴史・公民的分野に分けて記載され、他分野との関連が各ページの下部の『関連』のコーナーで示されている。
帝国	カリキュラム・マネジメントについて、学習する内容と小学校や歴史・公民的分野との関連が、各ページの下部の『小学校・歴史・公民との関連』に示されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、学習する内容と小学校や歴史・公民的分野との関連が、ページの下部の『連携コーナー』に掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、単元のまとめに『日本はどのような姿をしているのでしょうか』などの『探究課題』が設けられている。また、『みんなでチャレンジ』で小集団で学習する問いが記載されている。
教出	言語能力の育成について、単元末に『言葉や習慣が異なる人たちと社会生活を送るために、どのような工夫が必要だろうか』などの『意見を交換しよう』が設けられている。また、『地域に向けて発信する』では発信するための手順が記載されている。
帝国	言語能力の育成について、単元末に、学習内容に関連した言語活動のテーマを掲載した『特設ページ』が設けられている。また、『地域の在り方』では発信の手順が記載されている。
日文	言語能力の育成について、『地域の魅力を広めよう』など言語活動のテーマを掲載した『アクティビティ』が設けられている。また、『チャレンジ地理』で調べたり議論するためのテーマが記載されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実

東書	伝統や文化に関する教育の充実について、『なまはげ』や『会津塗』など『伝統的な生活・文化を受けつぐ人々の暮らし』というテーマで東北地方が取り上げられている。また、京都の『都市の開発と歴史的町並み』についても取り上げられている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、『京町家の修復』や『西陣織』など『歴史的な視点から、近畿地方と特色を考えていこう』というテーマで近畿地方が取り上げられている。また、東北地方の『伝統工芸品』や『伝統行事』についても取り上げられている。
帝国	伝統や文化に関する教育の充実について、『町家を改装したコンビニエンスストア』や『西陣織』など『環境の保全に注目して』というテーマで近畿地方が取り上げられている。また、東北地方の『伝統工芸品』や『伝統行事』についても取り上げられている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、『歴史的都市』や『茶道』など『歴史的背景をテーマに』が設定され、近畿地方が取り上げられている。また、東北地方の『伝統工芸品』や『伝統行事』についても取り上げられている。

⑪ 体験活動の充実

東書	体験活動の充実について、『調査の準備』『野外観察・聞き取り調査』などが『地域調査の手法』の単元で示されている。また、『テレビ局のディレクターになって近畿地方を発信しよう』などの学習テーマを掲載した『まとめの活動』が設けられている。
教出	体験活動の充実について、『調査テーマを決める』『調査活動の進め方』などが『地域調査の方法を学ぼう』の単元で示されている。また、『地理の技』で『地形図から断面図をつくろう』などが『地域調査の方法を学ぼう』の単元に設けられている。
帝国	体験活動の充実について、『調査テーマを決めよう』『調査方法を考えよう』などが『身近な地域の調査』の単元で示されている。また、『技能をみがく』で『地形図の使い方』などが設けられている。
日文	体験活動の充実について、『調査テーマを決める』『調査計画を立てる』などが『地域調査の手法』の単元に示されている。また、『チャレンジ地理』で『工場建設シミュレーション』が掲載されている。

⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、各単元の導入に小学校の学習内容を確認する『小学校の社会で習ったことば』が設けられている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、巻頭に小学校の学習内容を確認する『小学校の社会科の学習を振り返ろう』が設けられている。
帝国	学校段階間の円滑な接続について、各ページの下端に学習内容に関連する小学校の既習事項が示されている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、各単元の導入に小学校の学習内容を確認する『小学校で学習した内容』が示されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方や調べ学習を行う際の手法などが『スキル・アップ』に掲載されている。また、『資料から発見』で資料活用について取り上げられている。
教出	情報活用能力の育成について、写真やグラフ・地図などの資料の読み取り方のヒントが、『読み解こう』に掲載されている。また、『地理の技』で地図やグラフの扱い方などについて取り上げられている。
帝国	情報活用能力の育成について、『ハザードマップの読み方』や『防災情報の入手のしかた』などが、『技能を磨く』に掲載されている。また、『資料活用』のマークを示し、資料を活用する際の視点について示されている。
日文	情報活用能力の育成について、『統計資料を活用する』や『巻末資料の使い方』が『スキルUP』に掲載されている。また、『資料活用』のマークを示し、資料を活用する際の視点について示されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。また、本文中の語句について、欄外にその語句についての解説が掲載されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。また、本文中の語句について、欄外にその語句についての解説が掲載されている。
帝国	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。また、本文中の語句について、欄外にその語句についての解説が掲載されている。
日文	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料に見開きで通し番号が付けられている。また、本文中の語句について、欄外にその語句についての解説が掲載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『チェック』と発展的な課題を提示した『トライ』が設定され、学習の流れが示されている。また、巻末には『解説』が設けられ、重要語句の解説が掲載されている。
教出	学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認』と学習したことを活用する課題を示した『表現』が設定され、学習の流れが示されている。また、巻末には『用語解説』が設けられ、重要語句の解説が掲載されている。
帝国	学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認しよう』と学習したことを活用する『説明しよう』が設定され、学習の流れが提示されている。また、本文欄外に『解説』が設けられ、重要語句の解説が掲載されている。
日文	学習内容のはじめには『学習課題』、終末には学習内容を確認する『確認』と学習内容を深める『深めよう』が設定され、学習の流れが提示されている。また、巻末には『用語解説』が設けられ、重要語句の解説が掲載されている。
⑯ 生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方(地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方)」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『写真から、人々の生活と、熱帯の気候との関連が読み取れる部分を探しましょう』などの地理的な見方・考え方を活用して考察する問い『見方・考え方』が設けられている。
教出	生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や広がり』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。また、キャラクターの吹き出しに『人口が多い国はどこかな』などの『見方・考え方』が示されている。
帝国	生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。また、単元の最後にはその単元の問いに関連した『見方・考え方』が示されている。
日文	生徒の社会的な見方・考え方を働かせる学習について、巻頭に『位置や分布』などの『地理的な見方・考え方』のポイントが提示されている。また、学習のまとめりごとの課題に関連した『見方・考え方』が示されている。
⑰ 社会的な事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	
東書	多面的、多角的に考察し、表現することについて、『探究課題』『学習課題』『探究のステップ』などの問いで構成されている。また、表現方法や調べ方が提示された『スキル・アップ』が設けられている。
教出	多面的、多角的に考察し、表現することについて、学習内容を確認しながら表現する『読み解こう』が設けられている。また、表現方法や調べ方が提示された『地理の技』が設けられている。
帝国	多面的、多角的に考察し、表現することについて、見方・考え方をもとに考える問いが掲載された『章(節)の学習を振り返ろう』が設けられている。また、表現方法や調べ方が提示された『技能をみがく』が設けられている。
日文	多面的、多角的に考察し、表現することについて、異なる視点から学習する『地理+α』や対話的な活動『アクティビティ』が設けられている。また、表現方法や調べ方が提示された『スキルUP』が設けられている。

⑱ 課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、単元のはじめに『探究課題』が提示され、終わりには『探究課題を解決しよう』が掲載されている。また、学習内容を発展させた『もっと地理』が設けられている。
教出	課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『表現』が掲載されている。また、発展的な学習課題として『特設ページ』が設けられている。
帝国	課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認しよう』『説明しよう』が掲載されている。また、章(節)の最後には学習内容を確認、活用する『特設ページ』が設けられている。
日文	課題を追究・解決する活動の充実を図ることについて、学習内容のはじめに『学習課題』が提示されている。さらに終わりには『確認』『深めよう』が掲載されている。また、学習に関連した内容が『地理+α』が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑲ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き 2 ページでまとめられている。『世界と日本の姿』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全 3 編で構成されている。
教出	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き 2 ページでまとめられている。『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全 3 編で構成されている。
帝国	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き 2 ページでまとめられている。『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』『地域の在り方』の全 4 部で構成されている。
日文	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き 2 ページでまとめられている。『世界と日本の地域構成』『世界のさまざまな地域』『日本のさまざまな地域』の全 3 編で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型は A B 判が採用されている。
教出	判型は A B 判が採用されている。
帝国	判型は A B 判が採用されている。
日文	判型は A B 判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差に問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
帝国	『特別支援教育やユニバーサルデザイン (UD) の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるように工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
日文	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	<p>28ページ 都道府県名と県庁所在地名を答える問題が掲載 168ページ 人口密度の高い地域として神奈川県が掲載 169ページ 人口の移動先の東京圏として神奈川県が掲載 171ページ 県内の火力発電所とガスタンカーの写真が掲載 173ページ 第三次産業就業者数の県別割合に神奈川県が掲載 234ページ 地図上に神奈川県の地図に県内の地名が掲載 235ページ 関東地方の人口について地図上に神奈川県が掲載 237ページ 在留外国人数の割合のグラフに神奈川県が掲載 237ページ 世界への玄関口に県内の港が掲載 238ページ 県内の鉄道の写真が掲載 239ページ 地図上で「横浜みなとみらい21」が掲載 239ページ 充実した観光産業に横浜中華街が掲載 240～241ページ 「関東地方の多様な産業」に県内の工業や農業に関する記述や資料が掲載 242ページ 基礎・基本のまとめに掲載 286ページ～ 日本の都道府県のあらましに掲載</p>
教出	<p>26ページ 地図上に神奈川県が掲載 27ページ 地図上に神奈川県と県庁所在地が掲載 160ページ 横須賀市で作成した津波ハザードマップが掲載 164ページ 「日本の人口密度の分布」に県内の地名が掲載 164ページ 「三大都市圏への人口集中」に神奈川県が掲載 227ページ 「日本の主な地場産業の分布」に県内の地名が掲載 230ページ 県内の港と再開発地区の写真が掲載 233ページ 関東地方の地勢と各都県の地図が掲載 236～237ページ 「郊外に広がる市街地」に都内に通勤する事例に県内の地名、地図に神奈川県が掲載 238ページ 県内の工業地帯の写真が掲載 239ページ 「大都市に結び付いた県内の農業」に県内の地名が掲載 239ページ 「関東地方における工業都市の分布」に神奈川県が掲載 240ページ 「国際的な交通の拠点」に県内の地名が掲載 240ページ 「日本の主な港の貿易額」に県内の地名が掲載 241ページ 関東地方の主な港の貿易品目のグラフや、都道府県別の外国人数のグラフに神奈川県や県内の地名が掲載 243ページ 「学習のまとめと表現」に神奈川県の名前を答える問題が掲載 251ページ 「ユネスコに登録された日本の無形文化遺産の分布」に県内の行事が掲載 273ページ 「日本の諸地域」に県内の地名が掲載 290ページ～ 日本の都道府県のあらましに掲載</p>
帝国	<p>22ページ 都道府県名と県庁所在地名を答える問題や昔の国名と国境が掲載 146ページ 県内の梅雨の風景の写真が掲載 150ページ 南海トラフの巨大地震が起きた際に予想されている津波の高さに県内の地名が掲載 152ページ 県内の市のハザードマップの例と市街地の写真が掲載 154ページ 「日本の人口分布」に県内の地名が掲載 160ページ 「日本の主な工業地域」に掲載 161ページ 県内の工場群の写真が掲載 163ページ 「インターネットを使って商品を販売する会社の発送センター」に県内の地名が掲載 169ページ 「日本の『主な港』に注目した日本地図」に県内の地名が掲載 235ページ 関東地方の地図に県内の地名やイラストが掲載 236～237ページ 「写真で眺める関東地方」に神奈川県名と横浜中華街の写真が掲載 238ページ 「関東地方の自然」に県内の地名が掲載 239ページ 観光農園の花摘みで県内の地名が掲載 242ページ 「東京大都市圏内の地価の比較」「東京大都市圏の拡大と東京23区への通勤・通学者数」に県内の地名が掲載 243ページ 「全国第2位の大都市横浜」に記述と写真が掲載 244～245ページ 「人口の集中と第3次産業の発達」に記述と資料が掲載 246ページ 臨海部から発達した京浜工業地帯の項目に県内の地名が掲載 247ページ 「関東地方の主な工業と出荷額」に県内の地名が掲載 248～249ページ 「食料の大消費地を支える農業」の記述と資料に県内の地名が掲載 250ページ 「節の学習を振り返ろう」に県内の地名が掲載 290ページ 振り返り学習として「鎌倉市のオーバーツーリズムへの取り組み」が掲載</p>
日文	<p>VIIIページ 県内の街並みの写真が掲載 20ページ 都道府県名と県庁所在地名を答える問題が掲載 153ページ 「日本の人口密度と主な都市の分布」に県内の地名が掲載 158ページ 「日本の主な工業地域」に神奈川県が掲載 160ページ 県内の港の写真が掲載 221ページ 県内の住宅地の写真が掲載 222ページ 「関東地方の地形」「関東地方の人口密度」に神奈川県が掲載 223ページ 「低地と大地からなる関東平野」に県内の政令指定都市が掲載 224ページ 「東京の地位」に神奈川県が掲載 225ページ 「世界に向けて発信される日本のファッションショー」「情報通信業の従業者数の多い県」に神奈川県が掲載 226ページ 「東京23区への通勤・通学者数」「主な都市の昼間の人口と夜間の人口のちがい」に神奈川県が掲載 227ページ 県内の街並みの写真が掲載 227ページ 「過密化を解消するための取り組み」に県内の地名が掲載 228ページ 県内の工業地帯の写真が掲載 233ページ 「学習のまとめ」に神奈川県名を答える問題が掲載 278ページ～ 日本の県別資料に神奈川県が掲載</p>

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名						
東書	有					
教出	有					
帝国	有					
日文	有					

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	重量 (g)				
東書	1	576				
教出	1	584				
帝国	1	591				
日文	1	567				

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(歴史的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい社会 歴史
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、『集める』『読み取る』『まとめる』という3つの視点から技能を身に付ける『スキル・アップ』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、章、節、学習内容ごとで区切られ、『探究活動』『探究のステップ』『学習課題』というそれぞれの問いが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題をテーマにした内容が『もっと歴史』に掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、子ども・女性・民族の人権や平和に関する内容が、『歴史にアクセス』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、対話的な活動が『みんなでチャレンジ』や『まとめの活動』に設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、地域の人や学芸員に話を聞き調査し、調査内容をまとめる活動が『身近な地域の歴史』で紹介されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容で課題をつかむ『学習課題』が提示され、『チェック』『トライ』で課題解決へ向けた問いが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他分野・他教科との関連を示す、『分野関連(地歴・歴史・3分野)マーク』『他教科関連マーク』が表記されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合いなどの対話的な活動の学習課題が『みんなでチャレンジ』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、屏風絵や浮世絵などの絵画資料が『資料から発見!』に取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、調べ学習の準備や進め方が『地域の歴史を調べよう』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各章の導入部分で、小学校で学習した人物・文化財・出来事が太字で掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、書籍やインターネットでの調べ方や集めた情報のまとめ方、発表の方法が『身近な地域の歴史』に示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各章の冒頭に、小学校での学習を振り返る資料や年表が掲載され、各学習内容には『導入資料』『学習課題』や振り返りの問い『チェック』と『トライ』が設定されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期や年代』『推移』『比較』『相互の関連』『現在とのつながり』をポイントとして示した『見方・考え方』が記載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『Xチャート』などの考えるための技法が、各章の『まとめの活動』に設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、地域、日本の震災の歴史を取り上げた現代的な課題について考える、『地域の歴史を調べよう』や『歴史に学び、未来へと生かそう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全7章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(歴史的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学社会 歴史 未来をひらく
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、学習内容ごとに、『学習課題』とその課題に即した『確認』『表現』が設けられ、学習内容を振り返る問いが設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各章のまとめには『学習のまとめと表現』が設けられ、年表や地図などの資料を用いて表現する活動が設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、災害・地震、人口・移民など、現代社会の諸課題について取り扱う『歴史を探ろう』のページが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『働く女性や子どもたち』『改革や平等を求めて』が、『歴史を探ろう』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末で、資料や学習した内容をまとめ、説明する内容が『学習のまとめと表現』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]に「自然や人とのふれあい体験」について、時代ごとに地域の遺跡や古墳を訪ねる『身近な地域を調べよう』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、本時の『学習課題』が示され、その学習課題を深める問いが『確認』『表現』に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、特設ページの脚注部に、地理・公民的分野との関連を示す『関連マーク』が表記されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、地図や年表を用いながら、各時代の特色を表現する活動が『学習のまとめと表現』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各時代に関連する国宝・重要文化財・世界遺産の資料には、『国宝』『世界遺産』マークが表記されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、学び方の手がかりとして『地域調査の手引き』が『身近な地域の歴史を調べよう』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した歴史上の人物に、『小学校』のマークが表記されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、書籍やインターネットでの調べ方や、集めた情報のまとめ方、発表方法などが『身近な地域の歴史を調べよう』に示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各章で導入の問いや学習のまとめとして『学習のまとめと表現』が掲載されている。また、各学習内容で『学習課題』が示され、振り返りの問いが『確認』『表現』に掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、歴史の見方・考え方に関連する内容が『歴史にアプローチ』『歴史の技』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容について視点を変えて捉える『歴史を探ろう』『歴史の窓』が設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、現代的な課題について考える『身近な地域の歴史を調べよう』や『歴史を探ろう』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全7章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(歴史的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	帝国	書名	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各学習内容において、『確認しよう』では知識の確認、『技能をみがく』『やってみよう』では技能を身に付ける課題が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、『学習課題』や『説明しよう』で表現活動を行う問いが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、SDGsに関連する内容など、現代の諸課題について考える『未来に向けて』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、人権・平和の尊重や自然環境の保全に関する『未来に向けて』が設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末に、自分の考えを整理する問いやグループで話し合う活動が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、身近な地域を調べたり身近な人から話や言い伝えを聞いたりする内容が『歴史のとらえ方と調べ方』に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各章の問い、節の問い、各学習内容と区別され、学習課題に対応したまとめや振り返りが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、学習内容と関連する人物や出来事について、ページの下部に『小学校・地理・公民との関連』のマークが表記されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、各章の終わりに、見方・考え方を働かせながら各時代の特色をまとめる活動が『章の学習を振り返ろう』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各時代に関連する文化史が取り上げられている。また、巻頭で『日本各地の伝統行事と祭り』に関連する資料が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、調べ学習や発表に関する学習の手順が、『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各学習内容において、ページ下部に、小学校との関連が他分野との関連とともに掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、図書館やインターネットを使った情報の集め方や、野外調査の方法、地図の作成方法が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 章や節、各学習内容、それぞれで問いや学習課題が提示されている。各学習内容では『導入資料』『学習課題』の設定、振り返りの問い『確認しよう』『説明しよう』が掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、推移、相互の関連、時期や年代、比較という4つの見方・考え方の解説が『歴史的な見方・考え方を働かせよう』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、関連する資料から、問題の解決を図る活動が『多面的・多角的に考えてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、SDGsに関連する内容など、現代社会の諸課題を対象とした内容の『未来に向けて』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。2部6章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『特別支援教育やユニバーサルデザイン(UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(歴史的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	山川	書名	中学歴史 日本と世界
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各学習内容において、導入の発問、本文、ステップアップによる振り返りという学習の流れが設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、学習内容に関する発問の設定、各章の最後に『まとめ』で表現に関する問いが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習する各時代に関連する現代の地域の課題が『地域からのアプローチ』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、人権に関連した題材と現代とのつながりや問いが『歴史へのアプローチ』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末のまとめとして、時代全体を俯瞰して考える問いや、課題について話し合い、発表し合う活動が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、司書や学芸員に相談する方法や、地域の方に聞き取り調査する方法が『身近な地域を調べよう』に掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容の冒頭に、テーマに関連する発問が記載され、『ステップアップ』では振り返りの問いが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、地域についての学習で、地理的分野の視点から事象を捉える『歴史を考えよう』が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、各章の最後に、時代全体を俯瞰して考えをまとめる活動を通して復習する『まとめ』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、絵巻物や屏風などの美術作品が『歴史を考えよう』に掲載され、巻頭に『日本の世界遺産』に関連する資料が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、地域の博物館や郷土資料館への見学・調査の学習例が、『身近な地域を調べよう』や『地域からのアプローチ』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した人物を扱い、時代の区分を振り返る内容が、『歴史との対話』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『図書館を利用しよう』『インターネットで昔の地図を見てみた』『発表しよう』などの調査、発表の方法が『身近な地域を調べよう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 単元を見通せるように、各章の冒頭に、帯年表と写真が掲載され、各学習内容で導入の発問や『学習課題』が示され、振り返りが『ステップアップ』に掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期』『推移』『因果関係』『差異』の見方・考え方から、学習内容を考える問いが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、さまざまな立場や時代の特色を捉え、自分の言葉で表現する問いが、各章末の『まとめ』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、現代の諸課題について考察する内容、『地域からのアプローチ』『今日の世界』『現代の日本と世界』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全7章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、色覚の個人差を問わず、多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインを取り入れています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪社会(歴史的分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	日文	書名	中学社会 歴史的分野
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各学習内容で『学習課題』と『確認』が示され、振り返りや技能の習得を図る問い『深めよう』『スキルUP』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『学習課題』を提示するとともに、『見方・考え方』『深めよう』で表現活動を行う問いが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、現代社会の諸課題を考える例を掲示する『「歴史との対話」を未来に活かす』のページが設けられている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、古代から現代までの各時代の女性の姿が、『女性史コラム』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、対話的な学びを促す活動が、特設ページ『チャレンジ歴史』に取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、各時代と地域に関連する内容を紹介した『地域に学ぶ』や、身近な地域を調べる『でかけよう！地域調べ』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、『学習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、道徳科や美術科の鑑賞と関連する内容、『先人に学ぶ』や『絵画資料の見方』が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、各編のまとめに、各時代の特色や出来事について表現する活動が『学習の整理と活用』や『アクティビティ』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各文化のページで関連する美術作品や、地域に伝わる行事や歴史的な町並みについて、巻頭『私たちと歴史のつながり』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、取り扱う学習テーマと関連させ、博物館や遺跡の見学や調べ学習の方法について、『でかけよう！地域調べ』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各学習内容において、ページ下部にある小学校の学習内容が、他分野の関連とともに『連携コーナー』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報を読み取る技能、収集する技能、まとめる技能に関する内容が『スキルアップ』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各学習内容において、『学習課題』と学習課題の解決にむけ、手がかりとなる『見方・考え方』が掲載され、まとめの問いが『確認』に設定されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、学習課題とともに、『時系列』『推移』『比較』『つながり』の4つをキーワードとして示した『見方・考え方』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、災害の歴史や政治参加の歴史など、未来へ向けての課題が『「歴史との対話」を未来に活かす』に掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全6編で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(歴史的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	育鵬社	書名	[最新]新しい日本の歴史
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各学習内容において、『課題』とまとめの問いが示され、歴史の流れをつかむ資料として『鳥の目で見ると』『虫の目で見ると』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容にまとめの問いが、また、各章末に『学習のまとめ』が設けられ、資料を説明する問いが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、人口や震災の歴史を取り上げ、現代につながる課題について示した『歴史ズームイン』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、古代から現代までの各時代に活躍した女性が『なでしこ日本史』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、資料を通じて分かったことを話し合う活動が『各章のまとめ』に取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、身近な地域の歴史に関する調べ学習や地域の文化財の資料が、『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、学習の『課題』が提示され、『学習のまとめ』に各章の内容に沿った課題が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、道徳科の内容項目「我が国の伝統文化の尊重」と関連する『日本人の誕生物語』『歴史の旅を始めよう』などの内容が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、歴史学習のまとめとして、日本の歴史における事件や人物についてまとめる活動が巻末『日本の歴史を大観する』に掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、各時代の美術作品や世界遺産が、巻頭『日本の美の形』、巻末『世界と日本の世界文化遺産』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、身近な地域の歴史を調査、発表する学習内容、手順が、『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、『歴史探検！』で『小学校で学んだ人物と似顔絵』が紹介され、歴史年表と一致させる活動が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報活用の説明として『調査のしかた』や『調査のまとめ方(調査レポートの書き方)』が『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各学習内容に『課題』が記載されている。歴史の流れをつかむ学習として、2つの視点から見る資料『鳥の目で見ると』『虫の目で見ると』が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、年表、地図、写真、グラフなど歴史に関わる資料を見る『歴史にズームイン』や『地域の歴史を調べてみよう』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容に関連する資料や解説が『このころ世界は』『歴史ズームイン』『歴史ビュー』『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、対立する意見を掲載し、課題を解決する活動が『歴史のターニングポイント』に掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。2部6章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 編修趣意書には、『図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫を行い、生徒が見やすいように配慮しました。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮しました。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(歴史的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(歴史的分野-8～歴史的分野-17)を参照。

発行者の略称	学び舎	書名	ともに学ぶ人間の歴史
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各学習内容において、学習課題が設定され、部ごとに学習のまとめが設けられている。また、各部のはじめに、部の学習課題が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、第1セクションに表現活動に関連する資料が掲載され、各部の最後『学習のまとめ』で表現する課題が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、年表に書き入れる活動を通して、家庭と社会のつながりを想起させる学習課題が、『歴史を体験する』に掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、女性や子ども、青年の生き方や労働、教育について取り上げた内容が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、部の『学習のまとめ』で、時代の特色と時代の転換を振り返りながら、各時代の特色を考察し説明する学習が取り入れられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、地域の博物館での学習や地域調査などを通して郷土の歴史や文化を尊重・継承する内容が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、学習課題が掲載されている。また、各章では、学習内容をまとめる『章をふりかえる』が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、道徳科の価値項目と関連する、平和や戦争についての記述が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、各章の振り返りの活動で、クイズやインタビュー、グループ活動が取り入れられた『学習のまとめ』が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、文化を生み出した人々の願いと社会の状況、文化を継承した人々の営みなどが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験学習の充実について、火おこしや綿から糸を紡ぐなどの体験の様子が、『歴史を体験する』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した人物をカードにまとめる活動が、『歴史への案内 歴史を楽しく学ぼう』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、学芸員や説明員にインタビューをしながら、調べ学習に取り組む内容が、『地域の博物館で調べる』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各学習内容において、第1セクションに表現活動に関連した資料を掲載するとともに、学習課題が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、部や章を振り返る『各章のふりかえり』や『学習のまとめ』では、違いや関係性を考える課題が設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的事象を比較・関連させ、意見を交換して考える課題が『学習のまとめ』に設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、歴史的な出来事と関連した現代の諸課題を解決するために何をすべきかを考える内容が『学習のまとめ』に掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。6部10章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『より多くの人が見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《社会(歴史的分野)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、『集める』『読み取る』『まとめる』という3つの視点から技能を身に付ける『スキル・アップ』が設けられている。また、各章末での学習のまとめ活動が『基礎・基本のまとめ』『まとめの活動』で設定されている。
教出	「知識・技能」の習得について、学習内容ごとに、『学習課題』とその課題に即した『確認』『表現』が設けられ、学習内容を振り返る問いが設定されている。資料の読み取り方について『歴史の技』『読み解こう』が設けられている。
帝国	「知識・技能」の習得について、各学習内容において、『確認しよう』では知識の確認、『技能をみがく』『やってみよう』では技能を身に付ける課題が設定されている。また、時代を概観させる『タイムトラベル』のページが掲載されている。
山川	「知識・技能」の習得について、各学習内容において、導入の発問、本文、ステップアップによる振り返りという流れが設定されている。また、用語解説を設けたり、資料を読み取る技能の習得に関連した発問が掲載されたりしている。
日文	「知識・技能」の習得について、各学習内容で『学習課題』と『確認』が示され、振り返りや技能の習得を図る問い『深めよう』『スキルUP』が設けられている。また、歴史学習に関連する用語説明が『基本用語』で掲載されている。
育鵬社	「知識・技能」の習得について、各学習内容において、『課題』とまとめの問いが示され、歴史の流れをつかむ資料として『鳥の目で見ると』『虫の目で見ると』が掲載されている。また、歴史上の人物を紹介する『人物クローズアップ』が設けられている。
学び舎	「知識・技能」の習得について、各学習内容において、学習課題が設定され、部ごとに「学習のまとめ」が設けられている。各部のはじめに、部の学習課題が掲載されている。各章末に振り返りの活動、各部末に学習のまとめの活動が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、章、節、学習内容ごとで区切られ、『探究活動』『探究のステップ』『学習課題』というそれぞれの問いが設定されている。また、思考を整理し、表現する『まとめ活動』が設けられている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各章のまとめには『学習のまとめと表現』が設けられ、年表や地図などの資料を用いて表現する活動が設けられている。また、見開き2ページごとに、『表現』で問いが設定されている。
帝国	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、『学習課題』や『説明しよう』で表現活動を行う問いが設定されている。各章の最後に、時代の特色を表現する活動が『章の学習を振り返ろう』で掲載されている。
山川	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、学習内容に関する発問の設定、各章の最後に『まとめ』が設けられている。また、資料を読み取り説明させるために、掲載されている資料に発問が提示されている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『学習課題』を提示するとともに、『見方・考え方』『深めよう』で表現活動を行う問いが掲載されている。年表や地図から各時代の特色を表現する活動が『学習の整理と活用』で設けられている。
育鵬社	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容にまとめの問いが、また、各章末に『学習のまとめ』が設けられ、資料を説明する問いが掲載されている。時代の特色を記載する活動が『「私の歴史博物館」をデザインしてみよう』で掲載されている。
学び舎	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各学習内容において、第1セクションに表現活動に関連する資料が掲載されている。各部末の『学習のまとめ』では、自分の言葉で表現する活動や意見交換などのグループ活動が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、持続可能な社会の実現のために解決すべき課題をテーマにした内容が『もっと歴史』に掲載されている。また、章の『導入の活動』で、小学校の学習を振り返りながら考える『探究課題』が示されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、災害・地震、人口・移民など、現代社会の諸課題について取り扱う『歴史を探ろう』のページが掲載され、『歴史学習の終わりに』で自分たちには何ができるのかを考察・構想する内容が掲載されている。
帝国	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、SDGsに関連する内容など、現代の諸課題について考える『未来に向けて』が掲載されている。文化財を取り上げた各時代の文化史のページや、各時代の地域の様子を描いた『地域史』が掲載されている。
山川	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習する各時代に関連する現代の地域の課題が『地域からのアプローチ』に掲載されている。学習する各時代の社会的事象と現代社会に関連する資料や問いが『歴史へのアプローチ』などに掲載されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、現代社会の諸課題を考えるための例を提示する『「歴史との対話」を未来に活かす』のページが設けられ、また現代とつながる内容が『先人に学ぶ』『歴史を掘り下げる』『地域に学ぶ』などで掲載されている。
育鵬社	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、人口や震災の歴史を取り上げ、現代につながる課題について示した『歴史ズームイン』が掲載され、現代の地域のよさや課題を考えさせる資料が『地域の歴史を調べてみよう』で掲載されている。
学び舎	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、年表に書き入れる活動を通して、家庭と社会のつながりを想起させる学習課題が、『歴史を体験する』に掲載されている。各章の扉のページでは、世界地図とともに世界史の内容が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「人権教育」について、子ども・女性・民族の人権や平和に関連して、人権尊重・多文化共生の内容が、『歴史にアクセス』に掲載されている。また、『「解放令」から水平社へ』が特設ページ『もっと歴史』に掲載されている。
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、『働く女性や子どもたち』『改革や平等を求めて』が、『歴史を探ろう』に掲載されている。また、人権や平和に関連する内容が『歴史の窓』に掲載されている。
帝国	[思いやる力]の「人権教育」について、人権・平和の尊重や自然環境の保全に関する『未来に向けて』が設けられている。また、人々の多様性を考える『はじめに～さまざまな立場や多様性を踏まえた未来のために～』が掲載されている。
山川	[思いやる力]の「人権教育」について、人権に関連した題材と現代とのつながりや問いが『歴史へのアプローチ』に掲載されている。また、『人口の推移から札幌の未来と多文化共生社会を考えよう』で現代の地域の課題が掲載されている。
日文	[思いやる力]の「人権教育」について、古代から現代までの各時代の女性の姿が、『女性史コラム』に掲載されている。また、人権に関連した内容が『歴史+α』に掲載されている。
育鵬社	[思いやる力]の「人権教育」について、古代から現代までの各時代に活躍した女性が『なでしこ日本史』に掲載されている。また、人権に関連する内容が『人物クローズアップ』や『歴史ビュー』に掲載されている。
学び舎	[思いやる力]の「人権教育」について、女性や子ども、青年の生き方や労働、教育について取り上げた内容が掲載されている。また「いのちの大切さ」について、伝染病や自然災害などの歴史に目を向け、生命の尊重や環境保全に関する内容が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、対話的な活動が『みんなでチャレンジ』や『まとめの活動』に設定されている。持続可能な社会に関わるテーマを考える活動が『歴史に学び、未来へと生かそう』に取り上げられている。
教出	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末で、資料や学習した内容をまとめ、説明する内容が『学習のまとめと表現』に掲載され、現代社会の課題からテーマを選択し考察する問いが『歴史学習の終わりに』に掲載されている。
帝国	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末に、自分の考えを整理する問いやグループで話し合う活動が掲載されている。また、情報通信技術の発展や人工知能(AI)の発達が社会に与える影響、防災などの今後の課題が記述されている。
山川	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、各章末のまとめとして、時代全体を俯瞰して考える問いや、課題について話し合い、発表し合う活動が掲載されている。また、女性の社会進出について『歴史へのアプローチ』で掲載されている。
日文	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、対話的な学びを促す活動が、特設ページ『チャレンジ歴史』に取り上げられている。また、コラム『先人に学ぶ』では、生活の向上や、文化の発展、平和などに取り組んだ先人が紹介されている。
育鵬社	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、資料を通じて分かったことを話し合う活動が『各章のまとめ』に取り上げられている。また、歴史上の人物の功績が、『人物クローズアップ』に取り上げられている。
学び舎	[たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、部の『学習のまとめ』で、時代の特色と時代の転換を振り返りながら各時代の特色を考察し説明する学習が掲載されている。また、子どもや町人など、時代ごとの庶民の生活が掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、地域の人や学芸員に話を聞き調査し、まとめる活動が『身近な地域の歴史』に紹介され、『もっと歴史』では歴史上の震災とその教訓の継承や安全なまちづくりに参画する内容が掲載されている。
教出	[社会とかかわる力]に「自然や人とのふれあい体験」について、地域の遺跡や古墳を訪ねる『身近な地域を調べよう』で『地域の遺産や古墳を訪ねて』『地域の寺社を訪ねて』など、時代ごとのテーマが掲載されている。
帝国	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、身近な地域を調べたり身近な人から話や言い伝えを聞いたりする内容が『歴史のとらえ方と調べ方』に掲載されている。また、環境・交流・人権・平和のテーマとした『未来に向けて』が掲載されている。
山川	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、司書や学芸員に相談する方法や、地域の方に聞き取り調査する方法が『身近な地域を調べよう』に掲載され、また、『地域からのアプローチ』で『博物館に行ってみよう』が掲載されている。
日文	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、各時代と地域に関連する内容を紹介した『地域に学ぶ』、身近な地域を調べる『でかけよう!地域調べ』、これからを考える『「歴史との対話」を未来に活かす』が掲載されている。
育鵬社	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、身近な地域の歴史に関する調べ学習や地域の文化財の資料が、『地域の歴史を調べてみよう』に掲載され、農村の復興を指導した二宮尊徳が『人物クローズアップ』で掲載されている。
学び舎	[社会とかかわる力]の「自然や人とのふれあい体験」について、地域の博物館での学習や地域調査などを通して郷土の歴史や文化を尊重・継承する内容や、震災復興のまちづくりに小・中学生が参加したことが『未来は私たちの手の中に』で掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容で課題をつかむ『学習課題』が提示され、『チェック』『トライ』で課題解決へむけた問いが掲載されている。また、考え、表現する活動『みんなでチャレンジ』が掲載されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、本時の『学習課題』が示され、その学習課題を深める問いが『確認』『表現』に掲載されている。各章の導入では比較する資料を掲載し、各章の終わりには『学習のまとめと表現』が掲載されている。
帝国	主体的・対話的で深い学びについて、各章の問い、節の問い、各学習内容と区別され、学習課題に対応したまとめや振り返りが掲載されている。また、各章のはじめに『タイムトラベル』、各章の終わりに『章の学習を振り返ろう』が掲載されている。
山川	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容の冒頭に、テーマに関連する発問が記載され、『ステップアップ』では振り返りの問いが掲載されている。また、自分自身で考え、判断・表現する発問が各学習内容で掲載されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、『学習課題』を提示し、『見方・考え方』『深めよう』では、学習課題への理解を深める問いが掲載されている。また、各編は、導入のページと振り返るまとめのページが掲載されている。
育鵬社	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、学習の『課題』が提示され、『学習のまとめ』に各章の内容に沿った課題が掲載され、また、各時代の学習に関連する内容が『歴史ズームイン』や『歴史のターニングポイント』に掲載されている。
学び舎	主体的・対話的で深い学びについて、各学習内容において、学習課題が掲載されている。また、各章では、学習内容をまとめる『章をふりかえる』が設定されている。また、『歴史を体験する』では、調べ学習や討論の方法について掲載されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、他分野・他教科との関連を示す、『分野関連(地歴・歴公・3分野)マーク』『他教科関連マーク』、エネルギーや環境を取り上げた『もっと歴史』では、他教科(理科・保健体育科・道徳科)との関連が示されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、特設ページの脚注部に、地理・公民的分野との関連を示す『関連マーク』が表記されている。『人口の変化や海外への移民』では、脚注部に地理・公民の『関連マーク』が掲載されている。
帝国	カリキュラム・マネジメントについて、学習内容と関連する人物や出来事について、ページの下部に『小学校・地理・公民との関連』のマークが表記されている。また、歴史学習と各分野の学習目標との関連を説明する内容が掲載されている。
山川	カリキュラム・マネジメントについて、地域についての学習で、地理的分野の視点から事象を捉える『歴史を考えよう』が掲載されている。『平安京と京都の町を考える』では、地図や寺院、関連する文学が掲載されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、道徳科や美術科の鑑賞と関連する内容『先人に学ぶ』や、歴史と関連する美術品の絵巻物や屏風絵が掲載され、鑑賞する際のポイントが『絵画資料の見方』で設定されている。
育鵬社	カリキュラム・マネジメントについて、道徳科の内容項目「我が国の伝統文化の尊重」と関連する『日本人の誕生物語』『歴史の旅を始めよう』などの内容が掲載されている。『日本の美の形』では、日本史と関連する美術作品が掲載されている。
学び舎	カリキュラム・マネジメントについて、『歴史と出会う 6月23日、沖縄で』や『盲目の戦争孤児』など、道徳科の価値項目と関連する内容が掲載されている。また、生命の尊重に関連する内容が『歴史を体験する』で掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた掲載や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、話し合いなどの対話的な活動の学習課題が『みんなでチャレンジ』に掲載されている。また、各章の終わりに、時代の特色をまとめる活動『まとめの活動』が設けられている。
教出	言語能力の育成について、地図や年表を用いながら、各時代の特色を表現する活動が『学習のまとめと表現』に掲載されている。『近世の日本と世界』のまとめでは、江戸時代の様子を描いた資料や絵が掲載されている。
帝国	言語能力の育成について、各章の終わりに、見方・考え方を働かせながら各時代の特色をまとめる活動が『章の学習を振り返ろう』に掲載されている。また、各学習内容で、社会的事象を表現する問いが『確認しよう』『説明しよう』で掲載されている。
山川	言語能力の育成について、各章の最後に、時代全体を俯瞰して考えをまとめる活動を通して復習する『まとめ』が掲載されている。また、各学習内容において、自分自身で考え、判断・表現する発問が掲載されている。
日文	言語能力の育成について、各編のまとめに、各時代の特色や出来事について表現する活動が『学習の整理と活用』や『アクティビティ』に掲載されている。また、対話し表現する内容が『チャレンジ歴史』に掲載されている。
育鵬社	言語能力の育成について、歴史学習のまとめとして、日本の歴史における事件や人物についてまとめる活動が巻末『日本の歴史を大観する』に掲載されている。また、各章末に学習内容をまとめる活動が『学習のまとめ』に掲載されている。
学び舎	言語能力の育成について、各章の振り返りの活動で、クイズやインタビュー、グループ活動が取り入れられた『学習のまとめ』が設定されている。また、話し合い、説明をさせる『章のふりかえり』が掲載されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、屏風絵や浮世絵などの絵画資料が『資料から発見!』に取り上げられている。また、巻頭・巻末には『日本の国宝・重要文化財』や『各地の主な史跡』が紹介されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、各時代に関連する国宝・重要文化財・世界遺産の資料には、『国宝』『世界遺産』マークが表記されている。また、身近な地域の歴史と、郷土の伝統・文化に着目する『身近な地域の歴史を調べよう』が設けられている。
帝国	伝統や文化に関する教育の充実について、各時代に関連する文化史が取り上げられている。また、巻頭で『日本各地の伝統行事と祭り』に関連する資料が掲載されている。また、琉球やアイヌの人々の歴史や文化について取り上げている文化史が掲載されている。
山川	伝統や文化に関する教育の充実について、絵巻物や屏風などの美術作品が『歴史を考えよう』に掲載され、巻頭に『日本の世界遺産』に関連する資料が掲載されている。また、当時の生活の様子を記した資料が『歴史へのアプローチ』に掲載されている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、各文化のページで関連する美術作品や、地域に伝わる行事や歴史的な町並みについて、巻頭『私たちと歴史のつながり』に掲載されている。また、琉球やアイヌなど、我が国の伝統文化に関する内容が掲載されている。
育鵬社	伝統や文化に関する教育の充実について、各時代の美術作品や世界遺産が、巻頭『日本の美の形』、巻末『世界と日本の世界文化遺産』に掲載されている。また、シャボニズムをテーマとした内容が『歴史ズームイン』に掲載されている。
学び舎	伝統や文化に関する教育の充実について、文化を生み出した人々の願いと社会の状況、文化を継承した人々の営みなどが掲載されている。また、『盆踊りの誕生』や『銀閣をつくった人びと』を紹介し、社会に与えた影響について掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験学習の充実について、調べ学習の準備や進め方が『地域の歴史を調べよう』に掲載されている。また、インターネットや博物館、美術館での聞き取り調査の方法が、『身近な地域の歴史』に掲載されている。
教出	体験学習の充実について、学び方の手がかりとして『地域調査の手引き』が『身近な地域の歴史を調べよう』に掲載されている。また、地域の遺跡や古墳、地域の寺社、地域の街道や港を訪ねるなど、地域社会と関わりながら学ぶ例が掲載されている。
帝国	体験学習の充実について、調べ学習や発表に関する学習の手順や、図書館や博物館、資料館、インターネットでの調査や、野外・聞き取り調査方法やレポートによる発表に関する内容が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。
山川	体験学習の充実について、地域の博物館や郷土資料館への見学・調査の学習例が、『身近な地域を調べよう』や『地域からのアプローチ』に掲載されている。また『地域からのアプローチ』では、地域の博物館や郷土資料館への見学・調査が示されている。
日文	体験学習の充実について、取り扱う学習テーマと関連させ、博物館や遺跡の見学や調べ学習の方法について、『でかけよう!地域調べ』に掲載され、また、資料から課題について考える活動や体験について記述された『チャレンジ歴史』が設定されている。
育鵬社	体験学習の充実について、身近な地域の歴史を調査、発表する学習内容、手順が、『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。また、地域に残る文化財や資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を考察する内容が掲載されている。
学び舎	体験学習の充実について、火おこしや綿から糸を紡ぐなどの体験の様子が、『歴史を体験する』に掲載されている。また、『歴史への案内』で博物館での調査に関する内容を記載した『歴史を体験する』が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、各章の導入部分で、小学校で学習した人物・文化財・出来事が太字で掲載されている。また、学習の振り返りとして、第1章で歴史の流れを示したイラスト、各章の導入に小学校で学習した資料が掲載されている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した歴史上の人物に、『小学校』のマークが表記されている。また、第1章で『歴史すごろくにチャレンジしよう』や『歴史にアプローチ』で人物や文化財を取り上げ、小・中学校の歴史をつなげる活動が設定されている。
帝国	学校段階間の円滑な接続について、各学習内容において、ページ下部に、小学校との関連が他分野との関連とともに掲載されている。また、各時代の様子を描いた『タイムトラベル』の右上に、『小学校で学んだ主な出来事』が年表の中で記されている。
山川	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した人物から、時代の区分を振り返る内容が、『歴史との対話』に掲載されている。また、『歴史を大きく変えた人物』について紹介し、人物カードを作成する活動が掲載されている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、各学習内容において、ページ下部に小学校の学習内容が、他分野の関連とともに『連携コーナー』に掲載されている。また、『私たちと歴史』や各時代の導入の年表で、小学校での学習内容が記されている。
育鵬社	学校段階間の円滑な接続について、『歴史探検!』で『小学校で学んだ人物と似顔絵』が紹介され、歴史年表と一致させる活動が掲載されている。また、年代や時代区分の表し方を説明する内容が掲載されている。
学び舎	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した人物をカードにまとめる活動が、『歴史への案内 歴史を楽しく学ぼう』に掲載されている。『章の扉』では世界地図を中心に掲載し、世界史と関連する内容が掲載されている。

⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、書籍やインターネットでの調べ方や集めた情報のまとめ方、発表の方法が『身近な地域の歴史』に示されている。また、インターネットを活用した学習が効果的な部分には『Dマーク』が掲載されている。
教出	情報活用能力の育成について、書籍やインターネットでの調べ方や、集めた情報のまとめ方、発表方法などが『身近な地域の歴史を調べよう』に示されている。資料や新聞から情報を集めるポイントや図や年表で表す方法が『歴史の技』に掲載されている。
帝国	情報活用能力の育成について、図書館やインターネットを使った情報の集め方や、野外調査の方法、地図の作成方法が『歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた』に掲載されている。また、『資料活用』のマークとともに、発問が掲載されている。
山川	情報活用能力の育成について、『図書館を利用しよう』『インターネットで昔の地図を見てみた』『発表しよう』などの調査、発表の方法が『身近な地域を調べよう』に掲載されている。また、写真やグラフなどの資料に、発問が掲載されている。
日文	情報活用能力の育成について、情報を読み取る技能、収集する技能、まとめる技能に関する内容が『スキルアップ』に掲載されている。文化財やグラフに『資料活用』のマークを添え、資料を読み取る視点が記載されている。
育鵬社	情報活用能力の育成について、情報活用の説明として『調査のしかた』や『調査のまとめ方（調査レポートの書き方）』が『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。また、学習に関連した情報を紹介する内容にマークが記載されている。
学び舎	情報活用能力の育成について、学芸員や説明員にインタビューをしながら、調べ学習に取り組む内容が、『地域の博物館で調べる』に掲載されている。また、図書館やインターネットで調べる課題が、『章のふりかえり』に掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が左下に設けられている。
教出	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、各学習内容のテーマ表記の上に、学習している時代が掲載されている。
帝国	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に掲載されている。
山川	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、歴史上の人物について詳しく説明する『人物』が掲載されている。
日文	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに学習内容の時期を着色した年表が右端に設けられている。
育鵬社	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、社会的事象について詳しく説明する内容が『歴史ビュー』に記述されている。
学び舎	生徒の学習上の困難さへの対応について、挿絵や写真などの資料には番号が付けられ、側注には、歴史的建造物や社会的事象などについて、用語の解説が記載されている。また、見開きごとに社会的事象について関連する内容や人物の紹介が掲載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	各章の冒頭に、小学校での学習を振り返る資料や年表が掲載され、各学習内容には『導入資料』『学習課題』や振り返りの問い『チェック』と『トライ』が設定されている。また、各章の終わりに『基礎・基本のまとめ』と『まとめの活動』が掲載されている。
教出	各章で導入の問いや学習のまとめとして『学習のまとめと表現』が、各学習内容で『学習課題』が示され、振り返りの問いが『確認』『表現』に掲載されている。『学習のまとめと表現』では年表や地図が設けられた課題や歴史新聞でまとめる活動が掲載されている。
帝国	章や節、各学習内容、それぞれで問いや学習課題が提示されている。各学習内容では『導入資料』『学習課題』の設定、振り返りの問い『確認しよう』『説明しよう』が掲載されている。また、各章の学習のまとめが『章の学習を振り返ろう』に設定されている。
山川	単元を見通せるように、各章の冒頭に、帯年表と写真が掲載され、各学習内容で導入の発問や『学習課題』が示され、振り返りが『ステップアップ』に掲載されている。また、各章の終わりに、学習のまとめの活動が設定されている。
日文	各学習内容において、『学習課題』と学習課題の解決にむけ、手がかりとなる『見方・考え方』が掲載され、まとめの問いが『確認』に設定されている。また、各編のまとめとして、時代の特色を捉える活動が『学習の整理と活用』に掲載されている。
育鵬社	各学習内容に『課題』が記載されている。歴史の流れをつかむ学習として、2つの視点から見る資料『鳥の目で見ると』『虫の目で見ると』が掲載されている。また、各章末で、年表や資料から学習内容を振り返る活動が、『学習のまとめ』で設定されている。
学び舎	各学習内容において、第1セクションに表現活動に関連した資料、学習課題が掲載されている。また、各時代に関連した地図や資料とともに学習を振り返る活動が、『各章をふりかえり』や『学習のまとめ』に設定されている。

⑩ 生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方(地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方)」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期や年代』『推移』『比較』『相互の関連』『現在とのつながり』をポイントとして示した『見方・考え方』が記載されている。資料の特徴や各時代の人物の立場から考える問いが『みんなでチャレンジ』に掲載されている。
教出	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期や推移』『比較』『関連』を例として見方・考え方を説明する内容が『歴史にアプローチ』に掲載されている。また、資料を『比較』『関連』させ、考えさせる問いが『歴史の技』に掲載されている。
帝国	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、推移、相互の関連、時期や年代、比較の4つの見方・考え方の解説が『歴史的な見方・考え方を働かせよう』に、『歴史的な見方・考え方を働かせて時代の特色を説明しよう』が章の振り返りに掲載されている。
山川	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『時期』『推移』『因果関係』『差異』の見方・考え方から、学習内容を考える問いが掲載されている。また、各章の導入の発問、ステップアップの課題、図版に関連した発問が掲載されている。
日文	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、学習課題とともに、『時系列』『推移』『比較』『つながり』の4つをキーワードとして示した『見方・考え方』が掲載されている。また、『「歴史的な見方・考え方」とは?』に詳しい説明が掲載されている。
育鵬社	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、年表、地図、写真、グラフなど歴史に関わる資料を見る『歴史にズームイン』や『地域の歴史を調べてみよう』が掲載されている。また、文化財や人物などを解説する『歴史ビュー』が掲載されている。
学び舎	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、部や章を振り返る『各章のふりかえり』や『学習のまとめ』では、違いや関係性を考える課題が設けられている。また、資料の比較やつながりについて考える活動が掲載されている。
⑪ 社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	
東書	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『Xチャート』や『くらげチャート』など、考えるための技法が、各章の『まとめの活動』に設けられている。また、『探究課題』『探究のステップ』『学習課題』『チェック』『トライ』が設けられている。
教出	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容について視点を変えて捉える『歴史を探ろう』『歴史の窓』が設定されている。歴史的な事象を多面的・多角的に考察し、自分の言葉でまとめる活動が、『学習のまとめと表現』に掲載されている。
帝国	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、関連する資料から、問題の解決を図るための活動が、『多面的・多角的に考えてみよう』に掲載されている。また、各章末に、学習した内容を自分の言葉でまとめる活動が、『章の学習を振り返ろう』に設定されている。
山川	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、さまざまな立場や時代の特色を捉え、自分の言葉で表現する問いが、各章末の『まとめ』に掲載されている。また、多面的・多角的に考察する内容や資料が『歴史を考えよう』に掲載されている。
日文	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的な事象を時期や内容、立場を変えて表にまとめる作業が、編のまとめの『アクティビティ』に設定され、資料をもとに対話したり、体験したりする資料が、『チャレンジ歴史』に掲載されている。
育鵬社	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、学習内容に関連する資料や解説が『このころ世界は』『歴史ズームイン』『歴史ビュー』『地域の歴史を調べてみよう』に掲載されている。各時代を自分の言葉でまとめる活動が『学習のまとめ』に設定されている。
学び舎	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、社会的な事象を比較・関連させ、意見を交換して考える課題が『学習のまとめ』に設けられている。また、各章の初めに、北極を中心とした地図で、世界とのつながりを示した内容や資料が掲載されている。
⑫ 課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	課題を追究・解決する活動について、地域、日本の震災の歴史を取り上げた現代的な課題について考える、『地域の歴史を調べよう』や『歴史に学び、未来へと生かそう』が掲載されている。また、各節の冒頭と各章末に『探究課題』が設けられている。
教出	課題を追究・解決する活動について、現代的な課題について考える『身近な地域の歴史を調べよう』や『歴史を探ろう』が掲載されている。また、歴史学習の終わりに、『現代の課題について、歴史の流れをふまえて考えてみよう』が設けられている。
帝国	課題を追究・解決する活動について、SDGsに関連する内容など、現代社会の諸課題について課題を追究・解決する内容の『未来に向けて』が掲載されている。また、章・節・学習内容で、『章の問い』『節の問い』『学習課題』が設定されている。
山川	課題を追究・解決する活動について、現代の諸課題について考察する内容、『地域からのアプローチ』『今日の世界』『現代の日本と世界』が掲載されている。また、課題について話し合い、考察する活動が『歴史を考えよう』に設定されている。
日文	課題を追究・解決する活動について、災害の歴史や政治参加の歴史など、未来へ向けての課題が『「歴史との対話」を未来に活かす』に掲載されている。また、考えたり対話したりする課題が『チャレンジ歴史』に設定されている。
育鵬社	課題を追究・解決する活動について、対立する意見を掲載し、課題を解決する活動が『歴史のターニングポイント』に掲載されている。また、歴史での学習を将来にどう生かしていくのかを文書にまとめる活動が『歴史学習のまとめ』で掲載されている。
学び舎	課題を追究・解決する活動について、歴史的な出来事と関連した現代の諸課題を解決するために何をすべきかを考える『歴史を現代とつなげて、考えを深めましょう。』という内容が『学習のまとめ』に掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『歴史へのとびら』『古代までの日本』『中世の日本』『近世の日本』『開国と近代日本の歩み』『二度の世界大戦と日本』『現代の日本と私たち』の全7章で構成されている。
教出	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『歴史のとらえ方・調べ方』『原始・古代の日本と世界』『中世の日本と世界』『近世の日本と世界』『日本の近代化と国際社会』『二度の世界大戦と日本』『現代の日本と世界』の全7章で構成されている。
帝国	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『歴史のとらえ方と調べ方』『歴史の大きな流れと時代の移り変わり』の全2部6章で構成されている。
山川	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『歴史との対話』『古代までの日本』『中世の日本』『近世の日本』『近代の日本と国際関係』『二つの世界大戦と日本』『現代の日本と世界』の全7章で構成されている。
日文	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『私たちと歴史』『古代までの日本と世界』『中世の日本と世界』『近世の日本と世界』『近代の日本と世界』『現代の日本と世界』の全6編で構成されている。
育鵬社	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。1部『原始と古代の日本』『中世の日本』『近世の日本』2部『近代の日本と世界』『二度の世界大戦と日本』『現代の日本と世界』の全2部6章で構成されている。
学び舎	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『原始・古代』『中世』『近世』『近代』『二つの世界大戦』『現代』の全6部10章で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はA B判が採用されている。
帝国	判型はA B判が採用されている。
山川	判型はA B判が採用されている。
日文	判型はA B判が採用されている。
育鵬社	判型はA B判が採用されている。
学び舎	判型はA 4判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
帝国	『特別支援教育やユニバーサルデザイン (UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
山川	『この教科書は、色覚の個人差を問わず、多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインを取り入れています。』と表記されている。
日文	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。
育鵬社	編修趣意書には、『図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫を行い、生徒が見やすいように配慮しました。ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮しました。』と表記されている。
学び舎	『より多くの人が見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

<p>東書</p>	<p>1ページ 鉄道の開通(三代目歌川広重筆 横浜海岸鉄道蒸気車図 神奈川県 横浜開港資料館蔵)の写真と記事 63～73ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 75ページ モンゴル帝国の拡大 76ページ 北条時宗(神奈川県 円覚寺蔵)の写真 78ページ 後醍醐天皇(神奈川県 清浄光寺[遊行寺]蔵)の写真 79ページ 主な守護大名 127ページ 近世の交通 135ページ 葛飾北斎の風景画(富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 東京国立博物館蔵)。 136ページ ペリー来航(浦賀) 162～163ページ 『ペリー来航』に関する記述や資料 166～167ページ 『倒幕の動き』に関する記述と資料 172ページ 新橋・横浜間を走った1号機関車 175ページ 玉すし(二代目歌川国輝筆 東京銀座要路煉瓦石造真図 神奈川県立歴史博物館蔵) 177ページ 岩倉使節団の航路 194ページ 交通と産業の発達 198ページ 急ごしらえされた電信柱(三代目歌川広重筆 東海名所改正道中記 程ヶ谷 神奈川県 横浜市立図書館蔵) 221ページ 関東大震災 251ページ 日本に到着したマッカーサー(神奈川県厚木市) 263ページ 全国の公害(公害健康被害補償法の指定地域) 巻末ページ 各地の主な史跡 旧国名地図</p>
<p>教出</p>	<p>66～76ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 85ページ 北条氏の小田原(神奈川県) 90ページ 円覚寺(神奈川県鎌倉市)の写真と記事 128ページ 箱根関所(神奈川県)の写真と記事 145ページ 江戸湾に現れた軍艦(神奈川県立歴史博物館蔵)の写真 160～161ページ 『ペリー来航と開国』に関する記述や資料 162～163ページ 『倒幕の動き』に関する記述と資料 169ページ 廃藩置県 172ページ 殖産興業 175ページ 岩倉使節団のコース 197ページ 明治時代の主な工場や鉱山と鉄道の広がり 225ページ 関東大震災 238ページ 関東大震災 274～275ページ 『身近な地域の歴史を調べよう』(川崎市に関する記述や資料) 290ページ 記憶に残る主な震災 巻末ページ 各地の主な遺跡・史跡・できごと</p>
<p>帝国</p>	<p>巻頭1ページ 鶴岡八幡宮流鏝馬神事(神奈川県鎌倉市)の写真と記事 64～75ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 87ページ 北条早雲(神奈川県 早雲寺蔵)の写真 140ページ 伊勢参り(歌川(安藤)広重作「伊勢神宮 宮川の渡し」神奈川県立歴史博物館蔵)の写真と記事 140ページ 葛飾北斎が描いた風景画(「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」静岡県MOA美術館蔵)の写真 164ページ 『ペリー来航』に関する記述と資料 166～167ページ 『倒幕の動き』に関する記述や資料 172ページ 殖産興業 176～177ページ 「世界に開かれた港 横浜」(神奈川県横浜市)の写真と記事 178ページ 岩倉使節団のルート 198ページ 明治時代の産業と鉄道 227ページ 関東大震災 258ページ 終戦後の横浜市街の様子(神奈川県横浜市)の写真と記事 巻末ページ 歴史の舞台を訪ねよう①</p>

山川	<p>巻頭ページ 「日本の世界遺産」で昔の国名と都道府県名 69ページ 陶磁器の主要産地 70～75ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 82ページ モンゴル帝国とモンゴル襲来関係図 84ページ 後醍醐天皇（神奈川県藤沢市清浄光寺〔遊行寺〕蔵） 85ページ 守護大名の分布 96ページ 北条氏康（神奈川県 早雲寺蔵）の写真 115ページ 信長・秀吉の統一事業 131ページ 江戸時代の交通 145ページ 富嶽三十六景（葛飾北斎画「神奈川沖浪裏」アメリカ合衆国 メトロポリタン美術館蔵）の写真 146ページ 列強の接近 166～167ページ 『ペリー来航』に関する記述 168～169ページ 『貿易開始とその影響』に関する記述や資料 170ページ 『倒幕への動き』に関する記述 176～177ページ 『富国強兵と殖産興業』に関連する記述や資料 178ページ 富岡製糸場の位置 181ページ 横浜毎日新聞（神奈川県 日本新聞博物館蔵） 182ページ 岩倉使節団の行路 195ページ 山縣有朋 203～204ページ 『鉄道網と産業の発達』に関する記述や資料 207ページ 社会・労働問題の発生 209ページ 黒田清輝「湖畔」 225ページ 1920年代の日本経済 227ページ 関東大震災</p>
日文	<p>64ページ 現在も行われる流鏝馬（神奈川県鎌倉市 鶴岡八幡宮）の写真と記事 65ページ 鎌倉時代の武士の館（一遍上人絵伝 神奈川県清浄光寺〈遊行寺〉蔵）の写真と記事 72～84ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 88ページ 鎌倉幕府の滅亡と後醍醐天皇の動き 152ページ 葛飾北斎の風景画（富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」東京富士美術館蔵）の写真 152ページ おかげ参り（伊勢神宮宮川の渡し 神奈川県立歴史博物館蔵）の写真と記事 152ページ 今も残る道標（神奈川県伊勢原市）の写真と記事 159ページ 解体された小田原城天守閣の写真 174～176ページ 『ペリー来航』『倒幕の動き』に関する記述や資料 182～183ページ 『殖産興業と富国強兵—欧米諸国に対抗するために—』に関する記述や資料 188ページ 1874年ごろの東京銀座のれんが街（東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉瓦石商家盛栄之図 神奈川県立歴史博物館蔵）の写真 191ページ 岩倉使節団の行路 226ページ 船の進水式（1917年 神奈川県横浜市）の写真と記事 235ページ 関東大震災 308ページ 一遍上人絵伝（神奈川県清浄光寺〈遊行寺〉蔵）の写真と記事 巻末ページ 主なできごと・史跡・関係地</p>
育鵬社	<p>巻頭ページ 旧石器時代の人々（旧石器ハテナ館・神奈川県相模原市） 6ページ 「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」（葛飾北斎作 江戸東京博物館蔵）の写真 72～83ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料 95ページ 室町時代の主な交通路と各地の特産物 121ページ 江戸初期の主な大名の配置 131ページ 江戸時代の交通と都市と産物 132ページ 東海道五十三次 戸塚 141ページ 主な外国船の接近 145ページ 伊勢参りのようす 155ページ 近代の日本と世界 咸臨丸（横浜開港資料館蔵） 156～159ページ 横浜の歴史として写真と記事 170～173ページ 『ペリー来航』『倒幕の動き』に関する記述や資料 179ページ 廃藩置県による新しい都道府県 185ページ 岩倉使節団632日間の行程「横浜港を出発した」 187ページ 新橋・横浜間の鉄道開通（横浜市中央図書館蔵）の写真と記事 215ページ 氷川丸（横浜市 山下公園） 229ページ 関東大震災 260ページ 虫の目で見る現代 「新幹線の歴史を見てみよう」 巻末ページ 日本列島・歴史の宝庫 「各地の主な遺跡・史跡」</p>

学び舎	26ページ 縄文土器 (約9200年前) /神奈川県夏島貝塚から出土・約6000年前の日本列島
	62～71ページ 『鎌倉幕府』に関する記述や資料
	75ページ 座と各地の特産物
	83ページ 北条氏康(小田原城天守閣所蔵模本)の写真
	100ページ 石切り場 (『石切図屏風』小田原市郷土文化館蔵)
	119ページ 田沼意次の政治
	127ページ 葛飾北斎(「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」東京国立博物館蔵)の写真
	150～151ページ 『ペリーの来航』に関する記述と資料
	152～153ページ 『横浜港の貿易』『倒幕の動き』に関する記述と資料
	160～161ページ 岩倉使節団が見た世界
	168ページ のびる鉄道と電信
	171ページ 横浜港から九州に向かう政府軍の兵士
	172ページ 学芸講談界での議論 五日市と東京・横浜
	204～205ページ 米屋に向かう民衆－米騒動－
	207ページ 関東大震災
257ページ 日本にあった主なアメリカ軍基地 (『朝日年間』1953年版より)	
275ページ 福島第一原子力発電所からもれた放射能の広がり (2011年12月9日) (早川由紀夫による)	
巻末ページ 歴史地図	

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名						
東書	有					
教出	有					
帝国	有					
山川	有					
日文	有					
育鵬社	有					
学び舎	無					

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	重量(g)				
東書	1	602				
教出	1	629				
帝国	1	619				
山川	1	599				
日文	1	656				
育鵬社	1	632				
学び舎	1	703				

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7～公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい社会 公民
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、公民の学習を進めるうえで必要な用語について『スキル・アップ』の『法律用語の読み方』に記載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、縦横の二つの軸の座標軸上に一つ一つの事項を位置付け、情報を評価する『座標軸』など、思考を整理する方法が『まとめの活動』に示されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容が社会の中でどのように生かされているのかを取り上げ、読み取る活動が『もっと公民』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、障がいのある人も高齢者も安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、身近な事例から考える課題が『インクルージョンについて考えよう』に設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報化の課題の解決のために自分たちにできることは何かを考える活動が『現代社会の特色と私たち』の『情報化』に設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の課題について解決策を提案する、または直接まちづくりへ参加をする活動が『政治参加をしてみよう』に設定されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、事例で示された多数決が正しい決め方なのか考え、グループで話し合う活動が『みんなでチャレンジ』の『多数決について考えよう』に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科の『地震に備えるために』と関連した『東日本大震災からの復興と防災』という題材が『もっと公民』に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、小集団での参加型学習による対話的な活動として、『みんなでチャレンジ』が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統や文化の継承・保存に取り組む中学生の写真が『伝統文化と新たな文化の創造』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、市の課題や市民の声をもとに、ステップチャートを活用して条例案を作る活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習した内容を用語や写真で振り返るページが設けられている。また、小学校で扱っている資料についてはマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、掲載されている資料から情報を収集し、分析し、まとめる活動が設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料には見開きで通し番号がつけられ、本文と資料掲載部分が色分けされている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『導入の活動』において、『章の学習を貫く探究課題』、探究課題の解決に向けた『探究のステップ』が示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『見方・考え方』が枠囲みで示されている。また、章末に見方・考え方を活用する課題が設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、経営者・客・店員の視点で、出店先を考え、意見の交流をする活動が『コンビニエンスストアの経営者になってみよう』に設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、『探究課題』『学習課題』『探究のステップ』『まとめの活動』と4段階で構成されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全6章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7~公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学社会 公民 ともに生きる
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、毎時間の課題が提示され、学習内容が本文見開きのページで示されるとともに、学習内容を振り返る課題が『確認』に設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、時事問題や判例も踏まえて社会問題を考える『公民の窓』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『企業の役割』や『株式会社のしくみ』などの学習内容を生かして起業体験する活動が設定されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、『識字学級』や『ハンセン病』『LGBT』などの人権課題に対して行われている事業について調べる活動が設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報を入手し、活用する際の留意点や課題について読み取る資料が『メディアリテラシーを学ぼう』に掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会にかかわる力]の「地域貢献活動」について、『表現!』において、地域社会のために、自分には何ができるかを考え、意見交換する活動が設けられている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう』の作成の際の参考として『持続可能性を妨げる主な課題』が例示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(家庭分野)の『住生活と自立』や理科の『情報化社会』と関連した『急速に進展する情報社会』という題材が設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、ディベートを用いた言語活動によるテーマ学習が特設ページ『言葉で伝え合おう』に設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、有形・無形の伝統文化に関連する写真が『伝統文化の継承と文化の創造』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、裁判員に選ばれたときにどのような動きや判断をするのかについてのシミュレーションが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各見開きページの左下脚注部に『小学校世界の中の日本(6年)』など、関連した学習内容が表記されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報を入手し、活用する際の留意点や課題について読み取る資料が『メディアリテラシーを学ぼう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各章の冒頭に『学習のはじめに』を設け、章の学習内容と『学習の見通し』が示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 章末の『学習のまとめと表現』では、章の学習内容について考えたことを意見交流する活動が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2~5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、章の冒頭で示された『見方・考え方』を活用して取り組む課題にマークが付けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、住民のそれぞれの立場に立った意見を出し合い提案書を作成する活動が『私たちがつくるこれからの社会』で設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、章全体をとおしての『問い』が各章の冒頭で提示され、冒頭で提示された『問い』に対して答える活動が章の最後に設定されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全7章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7~公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	帝国	書名	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎・基本的な技能や学習内容に関連する実社会の動きを紹介する特設ページとして『技能をみがく』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、事例をもとにディスカッションという話し合いの技法を用いて取り組む活動が『アクティブ公民』に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容を生かしたり関連した取組を行ったりしている人へのインタビュー記事が『先輩たちの選択』に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、差別のない社会の実現に向けた法制化の動きについて、『日本社会の差別の現実』に記載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、他のメディアにはない新聞の特徴が掲載されており、新聞記事から事実と意見を区別する活動が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、民主主義における決定について事例をもとにグループで対話しながら取り組む活動が設定されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、身近なテーマである自分のまちについて、どのようによりよくしていくのかを考える活動が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、小学校の理科や、地理的分野の学習と関連した『地球規模で広がる環境問題』という題材が設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、論理的な説明と合意形成を目指す議論を中心としたテーマ学習が特設ページ『アクティブ公民』に設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、これまで受け継がれてきた地域の伝統芸能を演じている中学生の写真が『日本の伝統と文化』に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、これまでの学習内容を盛り込むかたちで自分が起こしたい企業の企画書について作成する活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、部や章の冒頭にある『学習の前に』の見開き右上に『小学校との関連』が記載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、新聞の特徴が示され、実際の新聞記事から事実と意見を区別する活動が『新聞について知ろう』に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各章の冒頭に社会の様子のイラストが示され、本文に関連する資料番号や関連する事項を扱うページ番号が表記されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各章の冒頭に『章の問い』、節ごとに『節の問い』、各見開きページに『学習の課題』が示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2~5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『やってみよう』で問いを示し、考える活動が『アクティブ公民』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、意見交換を行う中で、他者の見方・考え方を取り入れる活動が各章の最後の『章の学習を振り返ろう』に設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、レポート作成の課題が『課題の探究』として設定されている。作成段階ごとの手順が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『特別支援教育やユニバーサルデザイン(UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7~公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	日文	書名	中学社会 公民的分野
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、見開きページの冒頭に、毎時間提示する学習課題とともに、『見方・考え方』が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、国会の意義について『見方・考え方』を働かせて取り組む活動が『国会と地位のしくみ』の『深めよう』に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会参画を促す特設ページとして『明日に向かって 年金のしくみについて知ろう』で年金や街づくりなどのテーマが提示されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、障がいのある人も高齢者も誰もが安心して暮らすためのまちのバリアフリー化について、資料を読み取る活動が設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『情報化で変わる社会と私たち』において、『人工知能(AI)』や『ICTの社会への活用』などについて記載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『地方自治と私たち』において、地方自治を実現させるための住民参加の仕方について考える活動が設定されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、様々な立場の意見をふまえて、話し合う活動が『チャレンジ公民』に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、地理・歴史的分野と関連して『グローバル化による社会の変化』について考える題材が設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、社会の課題について考えるテーマ学習が、特設ページ『チャレンジ公民』に設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統的な年中行事や、地域文化の多様性、伝統文化を現代の社会に生かす様子などの写真が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、裁判員裁判の手順が示され、記載された証言例をもとに判決する活動が『明日に向かって』の『裁判員裁判シミュレーション』に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各編の冒頭において、左下脚注部に小学校との関連内容を振り返るように記載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要な知識・技能、留意点などが『統計とグラフを使いこなそう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習内容が見開きで構成され、挿絵や写真などの資料に通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各編において、冒頭に『学習の初めに』が、2~4編(章)末に『チャレンジ公民』がそれぞれ設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2~5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『見方・考え方』が学習課題とともに示され、考える活動が『アクティビティ』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『日本の議院内閣制とアメリカの大統領制』について比較する活動が『内閣のしくみと議院内閣制』の『アクティビティ』に設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、レポート作成から発表までの手順が『私たちの課題』に掲載されている。また、『もしも行き詰ってしまったら』が示されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全5編で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7～公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	自由社	書名	新しい公民教科書
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、毎時間の学習内容を振り返りとして、本時の学習内容をまとめた『ここがポイント』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各新聞社の社説がどのように論じているかを読み取り、その報じ方の違いを話し合う活動が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、行ってみたい外国を調べることを通して、現代の社会で起きている問題を考える課題が『課題の探究』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、国民の権利の平等を保障するうえでの課題として、部落差別問題や外国人参政権について『もっと知りたい』に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、災害や医療の分野で活用されている『AI』や『情報セキュリティ』、『情報リテラシー』などが『情報社会』に記載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会にかかわる力]の「地域貢献活動」について、住んでいるまちのボランティア活動やサークル活動について調べる課題が設定されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習内容を活用して、『企画書』を作成する活動が『アクティブに深めよう』に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連した地球環境問題の解決のために国際社会が取り組んでいることについて考える活動が『地球環境問題と国際協力』に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、小集団で話し合う言語活動が、特設ページ『アクティブに深めよう』に設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、世界で一番古い企業が掲載されている。また、巻末に、日本各地の伝統工芸品が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、班のメンバーと対話的な学習を通して、出店するお店の事業内容を決める体験的な活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で関わっていた地域ボランティアの方を想起させる写真が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各新聞社の記事を読み比べて、まとめる活動が『新聞を読み比べよう』に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各単元の重要語句はゴシック体(太字)で表記されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各章の扉ページに章を通して考える活動が示され、毎時間の学習内容を確認する『ここがポイント!』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、資料から課題を読み取り、課題解決のために話し合う活動が『やってみよう』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、グローバル化による生活の変化を様々な視点から考察し、意見交換をしてまとめる活動が『アクティブに深めよう』などに設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、『持続可能な日本社会を作るために私たちは何ができるか』というテーマで卒業論文を作成する活動が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全7章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『各単元の重要語句はゴシック(太字)になっています。』『ゴシックにした重要語句は、すべてこの教科書の最後にあるさくいに登録されています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(公民的分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(公民的分野-7~公民的分野-13)を参照。

発行者の略称	育鵬社	書名	[最新]新しいみんなの公民
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、学習内容を振り返る『学習のまとめ』や本時の学習に関連した『学習を深めよう』が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、これまでの学習内容を活用して解決を図る活動が『政治のこれから』に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、課題を探究し、レポートを作成する活動が『よりよい社会をめざして』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、障がい者や外国人、部落、病気に関する差別について、自分たちにできることや考えたことを交流する活動が『TRY!』として設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『学習を深めよう』では経済発展と超高齢化社会へ解決策となりうる例として『Society5.0』について記載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地球温暖化を防止するために家庭の暮らしの中でできることを考える活動が設定されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習内容を生かしながら、ライフプランを立て自分の未来について考える活動が『人生をデザインしよう』に設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連した地球温暖化を防止するために、家庭でできることを考える課題が『家庭でできるCO₂排出量削減の取り組み』に設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、ディベートを通して、発表や議論のしかたについて学ぶ言語活動が、特設ページ『やってみよう』に設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、年中行事を紹介する写真が掲載されている。また、日本人の自然観について考える活動が設定されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、被告人が有罪か無罪かを、検察官と弁護人の主張をもとに、グループで評議する体験的活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各章の扉ページにおいて、小学校で学習した関連内容が紹介されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、写真や地図などの資料を読み取り、話し合う活動が『身近な祭りを調べてみよう』に設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、見開きで挿絵や写真などの資料に通し番号が付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各章の導入に『入り口』が、章末には学習した見方・考え方を生かして取り組む『これから』と『学習のまとめ』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2~5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 社会的な見方・考え方を働かせる学習について、合意を得るための話し合いの進め方を事例をもとに考える課題が『昼休みのグラウンド使用について考えよう』に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、キャッシュレス化による消費者や事業者、公共的観点からのメリット、デメリットが『キャッシュレス社会の到来』に示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を追究・解決する活動について、課題探究が示された『調査の手順と方法』と『整理とまとめの方法』が『社会科のまとめ』に掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。全5章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 編修趣意書には『図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫により、生徒が見やすいように配慮しました。』『ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮しました。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《社会(公民的分野)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、公民の学習を進めるうえで必要な用語や資料の読み取り方について『スキル・アップ』の『法律用語の読み方』や『新聞でメディアリテラシーを身に付けよう』などに記載されている。
教出	「知識・技能」の習得について、毎時間の課題が提示され、学習内容が本文見開きのページで示されるとともに、学習内容を振り返る課題が『確認』に設定されている。また、記述内容を補足する資料として写真やグラフなどが掲載されている。
帝国	「知識・技能」の習得について、『KJ法』や『ディスカッション』など、学習するうえで必要な基礎的な技能を体験しながら学び、学習内容に関連する実社会の動きを紹介する特設ページとして『技能をみがく』が設けられている。
日文	「知識・技能」の習得について、見開きページの冒頭に、毎時間提示する学習課題とともに、『見方・考え方』が示されている。また、統計データやグラフの読み取る際のポイントについて『情報スキルアップ』で示されている。
自由社	「知識・技能」の習得について、毎時間の学習内容をまとめた『ここがポイント』が掲載されている。また、グループでアイデアを出し合い、意見交換をしながら進めるグループ学習が『アクティブに深めよう』に設けられている。
育鵬社	「知識・技能」の習得について、各章の最後にその章で学習した語句の確認や、自己の考えを自分の言葉で説明する表現活動などで構成された『学習のまとめ』や本時の学習に関連した『学習を深めよう』が設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、縦横の二つの軸の座標軸上に一つ一つの事項を位置付け、情報を評価する『座標軸』など、思考を整理の方法が『まとめの活動』に示されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、時事問題や判例も踏まえて社会問題を考える『公民の窓』が掲載されている。また、資料に関して、問いかけたり、活動を促す『Q』が設定されている。
帝国	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『赤字バス路線に税金を使うべきか?』という事例で効率と公正について、ディスカッションという話し合いの技法を用いて取り組む活動が『アクティブ公民』に設定されている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、なぜ、日本の国会が二院制を採用し、衆議院の優越があるのか、『効率』と『公正』の観点から考え、国会の意義について『見方・考え方』を働かせて取り組む活動が『国会と地位のしくみ』の『深めよう』に設定されている。
自由社	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、同じ内容の社説を各新聞社でどのように論じているかを読み取り、その報じ方の違いを話し合う活動が『アクティブに深めよう』に設定されている。
育鵬社	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、これまでの学習内容と『KJ法』や『ランキングシート』などの考えるための技法を活用して解決を図る活動が『政治のこれから』に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容が社会の中でどのように生かされているのかを取り上げ、読み取る活動が『もっと公民』の『新しい情報技術で社会が変わる』に設定されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『企業の役割』や『株式会社のしくみ』などの学習内容を生かして起業体験する活動が、『言葉で伝え合おう』の『起業にチャレンジ』に設定されている。
帝国	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容を実社会で生かしたり関連した取組を行ったりしているジャーナリストや牧場経営者などへのインタビュー記事が『先輩たちの選択』に掲載されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、図や写真、イラストを活用して、社会保障制度のしくみを説明する『明日に向かって 年金のしくみについて知ろう』やまちづくりに参加している中学生の活動の様子を紹介する『まちづくりに参加しよう』などが掲載されている。
自由社	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、行ってみたい外国を調べることを通して、現代の社会で起きている問題について考え、まとめる『レポートと卒業論文をつくろう』という課題が『課題の探究』に設定されている。
育鵬社	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、これまでに学習したことを活用し、現代社会の課題についての自分の思いやできることを探究し、レポートを作成する活動が『よりよい社会をめざして』に設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「共生」について、障がいのある人も高齢者も安心して暮らせる共生社会の実現に向けて身近な事例から考える課題が『みんなでチャレンジ』の『インクルージョンについて考えよう』に設けられている。
教出	[思いやる力]の「共生」について、『識字学級』や『ハンセン病』『LGBT』などを取り上げ、それぞれの人権課題に対して行われている事業について新聞やインターネットで調べる活動が『読んで深く考えよう』に設定されている。
帝国	[思いやる力]の「共生」について、写真や枠囲みの記事と併せて『アイヌ施策推進法』や『障害者差別解消法』などについて差別のない社会の実現に向けた法制化の動きについて、『日本社会の差別の現実』に記載されている。
日文	[思いやる力]の「共生」について、障がいのある人も高齢者も誰もが安心して暮らすためのまちのバリアフリー化について、資料を読み取る活動が『明日に向かって』の『まちのバリアフリーを探そう』に設けられている。
自由社	[思いやる力]の「共生」について、国民の権利の平等を保障するうえでの課題として部落差別問題や外国人参政権について『もっと知りたい』の『権利の平等に関する問題』に掲載されている。
育鵬社	[思いやる力]の「共生」について、『在日外国人』や『部落』、『アイヌ』『ハンセン病』などに関する差別について、自分たちにできることや考えたことを交流する活動が『学習を深めよう』の『ともに生きるためにできること』において『TRY!』として設定されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『人工知能』や『情報化による社会の変化』とともに、『情報化の課題』についての記載があり、解決のためにできることを考える活動が『現代社会の特色と私たち』の『情報化』に設定されている。
教出	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『メディアが報じる「事実」は「真実」か』や『ソーシャルメディアの影響力』など、情報を入手し、活用する際の留意点や課題について読み取る資料が、『メディアリテラシーを学ぼう』に掲載されている。
帝国	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『技術のみがく』の『新聞について知ろう』において、他のメディアにはない新聞の特徴が掲載されており、新聞記事から事実と意見を区別する活動が設定されている。
日文	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『情報化で変わる社会と私たち』において、『人工知能(AI)』や『情報リテラシー』、『情報モラル』、『ICTの社会への活用』などについて記載されている。
自由社	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『情報社会』において、災害や医療、コミュニケーションの分野で活用される『AI』や『情報セキュリティ』、『情報リテラシー』などについて記載されている。また、『クラウドの仕組み』についての図が示されている。
育鵬社	[たくましく生きる力]の「情報化」について、『学習を深めよう』に『日本が直面する社会課題』として超高齢化社会について記載されている。また、その対応として『Society5.0』による社会課題の解決について記載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、身近な地域の課題について解決を図り、意思決定した解決策を提案する、または直接まちづくりへ参加する活動が『みんなでチャレンジ』の『政治参加をしてみよう』に設定されている。
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『誰もが暮らしやすい社会をつくるために、どうしたらよいか』という問いが設定され、『表現!』で、地域社会のために、自分にできることを考え、意見交換する活動が『暮らしやすいまちづくりへ』に設けられている。
帝国	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、民主主義における決定について事例をもとにグループで対話しながら取り組む活動が、『アクティブ公民』の『みんなが決めるとはどういうこと?』に設定されている。
日文	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『地方自治と私たち』において、『地域づくりにおける住民の役割』と『NPOやボランティアとの協働』について記載され、地方自治を実現させるための住民参加の仕方について考える活動が『確認』に設定されている。
自由社	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『私たちと地域社会』において、地域社会とかかわり方について問いが設定され、住んでいるまちのボランティア活動やサークル活動について調べ、自分が取り組みたい活動を考える内容が『やってみよう』に設定されている。
育鵬社	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、環境問題の原因や取組を考える活動が設定され、地球温暖化を防止するために家庭の暮らしの中でできることを考える活動が『やってみよう』の『家庭でできるCO ₂ 排出量削減の取り組み』に設定されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、事例に示された多数決という決め方について、正しい決め方かどうかを『効率』と『公正』の観点から理由も考え、グループで話し合う活動が『みんなでチャレンジ』の『多数決について考えよう』に設定されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、『私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう』の作成の際の参考として『持続可能性を妨げる主な課題』が例示されている。また、『私の提案』を活用し対話交流をする活動が設けられている。
帝国	主体的・対話的で深い学びについて、『アクティブ公民』の『自分が住むまちのまちづくりを考えよう』において、身近なテーマである自分のまちについて、どのようによりよくしていくのかを考える活動が設定されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、様々な立場の意見をふまえて、話し合う活動が『チャレンジ公民』の『地球温暖化に対する政策について考えよう』に設定されている。
自由社	主体的・対話的で深い学びについて、学習内容を活用して、自分たちのお店を作るための『企画書』を作成する活動が『アクティブに深めよう』の『お店を出店しよう』に設定されている。
育鵬社	主体的・対話的で深い学びについて、これまでの学習内容を生かしながら、ライフプランを立て自分の未来について考える活動が『やってみよう』の『人生をデザインしよう』に設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、理科の『地震に備えるために』や保健体育科の『自然災害による傷害の防止』、道徳科の『安全で健康な生活』と関連した『東日本大震災からの復興と防災』という題材が『もっと公民』に設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(家庭分野)の『住生活と自立』や理科の『情報化社会』、小学校の社会『未来とつながる情報』と関連した『急速に進展する情報社会』という題材が設定されている。
帝国	カリキュラム・マネジメントについて、小学校の理科や、地理的分野の学習と関連した『地球規模で広がる環境問題』という題材が設定されている。また、『裁判の判決を考えよう』において『裁判を傍聴してみよう』で裁判所の活用について示されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、地理・歴史的分野と関連して『グローバル化による社会の変化』について考える題材が設定されている。また、技術・家庭科(家庭分野)と関連させた『消費を通じた社会への意思表示』が掲載されている。
自由社	カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連した地球環境問題の解決のために国際社会が取り組んでいることについて考える活動が『地球環境問題と国際協力』に設定されている。
育鵬社	カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連した地球温暖化を防止するために、家庭でできることを考える課題が『やってみよう』の『家庭でできるCO ₂ 排出量削減の取り組み』に設定されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、小集団での参加型学習による対話的な活動として、『みんなでチャレンジ』で『模擬裁判をやってみよう』や『決まりについて考えよう』などの題材が設定されている。
教出	言語能力の育成について、ディベートを用いた言語活動による『「新しい人権」を考える』という題材で、テーマ学習が、特設ページ『言葉で伝え合おう』に設けられている。
帝国	言語能力の育成について、『裁判の判決を考えよう』という題材で、論理的な説明と合意形成を目指す議論を中心としたテーマ学習が、特設ページ『アクティブ公民』に設けられている。
日文	言語能力の育成について、『道路の拡張計画について考えよう』という題材で、社会の課題について考えるテーマ学習が、特設ページ『チャレンジ公民』に、設けられている。
自由社	言語能力の育成について、『グローバル化によって私たちの生活はどう変わったか、考えてみよう』という題材で小集団で話し合う言語活動が、特設ページ『アクティブに深めよう』に設けられている。
育鵬社	言語能力の育成について、『新聞の社説を比べてみよう』という題材で、ディベートを行う言語活動が、特設ページ『やってみよう』に設けられている。また、毎時間、学習のまとめに話し合う活動が設定されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実

東書	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統や文化の継承・保存に取り組む中学生の写真が『伝統文化と新たな文化の創造』に掲載されている。また、継承・保存するためにできることについて考える活動が設定されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、有形・無形の伝統文化に関連する写真が『伝統文化の継承と文化の創造』に掲載されている。また、世界に発信したい日本の文化について考え意見を交流する活動が設定されている。
帝国	伝統や文化に関する教育の充実について、これまで受け継がれてきた地域の伝統芸能である『大鹿歌舞伎』を演じている中学生の写真が『日本の伝統と文化』に掲載されている。また、外国における日本文化の博覧会の写真も掲載されている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統的な年中行事や、料理を代表とした地域文化の多様性、音楽に見られる伝統文化を現代の社会に生かす様子などの写真が『日本の伝統文化の特徴と多様性』に掲載されている。
自由社	伝統や文化に関する教育の充実について、世界で一番古い企業を紹介する写真が『文化の継承と創造』に掲載されている。また、巻末に、日本各地の伝統工芸品の写真が掲載されている。
育鵬社	伝統や文化に関する教育の充実について、年中行事を紹介する写真が『日本の伝統文化』に掲載されている。また、フランスと日本の庭園の写真を比較して、日本人の自然観について考える活動が設定されている。

⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、市の課題や市民の声をもとに、ステップチャートを活用して条例案を作る活動が『まとめの活動』の『S市の市長になって条例を作ろう』に設定されている。
教出	体験活動の充実について、裁判員に選ばれたときにどのような動きや判断をするのかについてのシミュレーションが『言葉で伝え合おう』の『もしも裁判員裁判に参加したら』に掲載されている。
帝国	体験活動の充実について、これまでの学習内容を盛り込むかたちで自分が起こしたい企業の企画書について作成する活動が『アクティブ公民』の『企業の企画書を完成させよう』に設定されている。
日文	体験活動の充実について、裁判員裁判の手順を把握するとともに、記載された証言例をもとに判決する活動が『明日に向かって』の『裁判員裁判シミュレーション』に設定されている。
自由社	体験活動の充実について、班のメンバーと対話的な学習を通して、出店するお店の事業内容を決める体験的な活動が『アクティブに深めよう』の『お店を出店しよう』で設定されている。
育鵬社	体験活動の充実について、被告人が有罪か無罪かを、検察官と弁護人の主張をもとに、グループで評議する体験的な活動が『やってみよう』の『裁判員になって判決を考えよう』に設定されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、各単元（章）の扉に、小学校で学習した内容を用語や写真で振り返るページが設けられている。また、小学校で扱っている資料についてはマークで示されている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、各見開きページの左下脚注部に『小学校世界の中の日本（6年）』などに関連した学習内容が表記されている。また、巻頭の『公民で学ぶ主な内容と学習の見通し』で小学校社会科との関連が示されている。
帝国	学校段階間の円滑な接続について、部や章の冒頭にある『学習の前に』の見開き右上に『小学校との関連』が記載されている。また、巻頭の『公民的分野の学習の全体像を見通そう』で小学校社会科が位置付けられている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、各編の冒頭にある『学習の始めに』において、左下脚注部に『小学校6年日本国憲法の基本的な考え方や日本政府のはたらきを振り返りましょう』などと記載されている。
自由社	学校段階間の円滑な接続について、『私たちと地域社会』において、『公共の精神』について考える際に、小学校で関わっていた地域ボランティアの方を想起させる写真が掲載されている。
育鵬社	学校段階間の円滑な接続について、『教科書の基本構成』において小学校社会科で学んだことが現代社会の学習につながるということが記載されている。また、各章の扉ページにおいて、小学校で学習した関連内容が紹介されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、掲載されている資料に、『集める』『読み取る』『まとめる』マークが示されており、情報を収集し、分析し、まとめる活動が設定されている。
教出	情報活用能力の育成について、『メディアが報じる「事実」は「真実」か』や『ソーシャルメディアの影響力』など、情報を入手し、活用する際の留意点や課題について読み取る資料が、『メディアリテラシーを学ぼう』に掲載されている。
帝国	情報活用能力の育成について、テレビやインターネットにない新聞の特徴が示されており、実際の新聞記事から事実と意見を区別する活動が『新聞について知ろう』に設定されている。
日文	情報活用能力の育成について、情報を収集し、読み取り、まとめる際に必要な知識・技能、留意点などについて『情報スキルアップ』の『統計とグラフを使いこなそう』に掲載されている。
自由社	情報活用能力の育成について、同じ日付の各新聞社の記事を読み比べ、各新聞社がどのように報じているかを話し合い、比較し、まとめる活動が『新聞を読み比べてみよう』に設定されている。
育鵬社	情報活用能力の育成について、写真や地図などの資料を読み取り、話し合う活動が『身近な祭りを調べてみよう』に設定されている。また、冒頭のページに主なマスメディアの特徴について掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、資料には見開きで通し番号が付けられ、本文には、対応する資料番号が表記されている。また、本文と資料掲載部分が色分けされている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各章の冒頭に『学習のはじめに』を設け、章の学習内容と『学習の見通し』が示されている。また、キャラクターの吹き出しが文節で改行されている。
帝国	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各章の冒頭に社会の様子イラストが示されている。また、本文に関連する資料番号や関連する事項を扱うページ番号が表記されている。
日文	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習内容が見開きで構成され、挿絵や写真などの資料に通し番号が付けられている。資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページが挿入されている。
自由社	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各単元の重要語句はゴシック体（太字）で表記されている。また、補足説明の必要な箇所には番号が振られ、欄外に用語解説が設けられている。
育鵬社	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、見開きで挿絵や写真などの資料に番号が付けられている。資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページ（赤）が挿入されている。

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	『導入の活動』において、『章の学習を貫く探究課題』、探究課題を解決する方法が取り上げられた『探究のステップ』が掲載されている。
教出	章末の『学習のまとめと表現』では、章の学習内容を確認する問いが設定されているとともに、考えたことについて意見を交流する活動が設定されている。
帝国	各章の冒頭に『章の問い』、節ごとに『節の問い』、各見開きページに『学習の課題』が示されている。また、毎時間の終わりに『確認しよう』『説明しよう』という構成がすべての章において統一されている。
日文	各編において、冒頭に『学習の初めに』が、2～4編（章）末に学習内容や『見方・考え方』を活用して課題解決を図る『チャレンジ公民』がそれぞれ設定されている。
自由社	各章の扉ページに『どのような道りを経て立憲民主国家になったのであろうか』のように章を通して考える活動が示されている。また、毎時間の学習内容を確認する『ここがポイント！』が設定されている。
育鵬社	各章の導入に学習内容が示された『入り口』が、章末には『入り口』で示された課題を受けて、その章で学んできた見方・考え方を生かして取り組む『これから』と『学習のまとめ』が設定されている。
⑯ 生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方(地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方)」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『見方・考え方』というイラストを目印に枠囲みで示されている。また、見方・考え方を活用する課題が、章末の『まとめの活動』に設定されている。
教出	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、各章の『学習のはじめに』において、その章で活用する『見方・考え方』が示され、各見開きページでは、その『見方・考え方』を活用して取り組む課題に見方・考え方を表すマークが付けられている。
帝国	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『やってみよう』で問いを示し、考える活動が『アクティブ公民』に設定されている。また、その課題を解決するのに必要な見方・考え方が『関連ページ』として枠で囲まれ記載されている。
日文	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、本文ページに、『見方・考え方』が学習課題とともに示されている。また、『見方・考え方』を用いる『アクティビティ』や『深めよう』が設定されている。
自由社	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、『「世界の核兵器の現状」の資料を見て、この現状に日本はどのように向き合っていくべきか』というテーマで話し合う活動が『やってみよう』に設定されている。
育鵬社	社会的な見方・考え方を働かせる学習について、意見が対立した場合に、合意を得るための話し合いの進め方を事例をもとに考える課題が、『やってみよう』の『昼休みのグラウンド使用について考えよう』に設定されている。
⑰ 社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	
東書	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、経営者・客・店員のそれぞれの視点で、出店先を考え、意見の交流をする活動が『私たちの暮らしと経済』の『コンビニエンスストアの経営者になってみよう』に設定されている。
教出	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、ごみ収集所を設置するにあたって、住民のそれぞれの立場に立った意見を出し合い提案書を作成する活動が『私たちがつくるこれからの社会』で設定されている。
帝国	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、自分の考えを整理して書き出すとともに、意見交換を行う中で、他者の見方・考え方を取り入れる活動が各章の最後の『章の学習を振り返ろう』に設定されている。
日文	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、『日本の議院内閣制とアメリカの大統領制』の仕組みの違いや二つの制度を民主主義の観点から良い点と悪い点をまとめる活動が『内閣のしくみと議院内閣制』の『アクティビティ』で設定されている。
自由社	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、グローバル化による生活の変化を様々な視点から考察し、意見交換をしながらまとめていく活動が『アクティブに深めよう』や『もっと知りたい』『宗教とは何だろう』などに設定されている。
育鵬社	社会的事象を多面的・多角的に考察することについて、キャッシュレス化による消費者や事業者、公共的観点からなど、それぞれの立場でのメリット、デメリットが『家計と経済』の『キャッシュレス社会の到来』に示されている。
⑱ 課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	課題を追究・解決する活動について、章を通して考える『探究課題』、毎時間の『学習課題』、節ごとの『探究のステップ』、単元の最後の『まとめの活動』と4段階で構成されている。
教出	課題を追究・解決する活動について、学習の見通しを記載し、章全体をとおしての『問い』が各章の『学習のはじめに』に提示されている。また、冒頭で提示された『問い』に対して答える活動が章の最後に設定されている。
帝国	課題を追究・解決する活動について、レポート作成の課題が『課題の探究』として設定されている。レポートの作成にあたって、『ウェビングマップ』での課題の決定方法や資料収集の仕方、まとめ方など、作成段階ごとの説明が掲載されている。
日文	課題を追究・解決する活動について、レポート作成の『ヒント』や『参考資料の書き方』、『発表のポイント』などが『私たちの課題』に掲載されている。また、『もしも行き詰ってしまったら』が示されている。
自由社	課題を追究・解決する活動について、『持続可能な日本社会を作るために私たちは何ができるか』というテーマで、卒業論文を作成する活動が設定されており、作成のための手順が『課題の探究』に示されている。
育鵬社	課題を追究・解決する活動について、『社会科のまとめ』において、ウェビングマップを活用してテーマを決める手法が掲載されており、課題探究が示された『調査の手順と方法』と『整理とまとめの方法』が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『現代社会と私たち』『個人の尊重と日本国憲法』『現代の民主政治と社会』『私たちの暮らしと経済』『地域社会と私たち』『より良い社会を目指して』の全6章で構成されている。
教出	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『私たちの暮らしと現代社会』『個人を尊重する日本国憲法』『私たちの暮らしと民主政治』『私たちの暮らしと経済』『安心して豊かに暮らせる社会』『国際社会に生きる私たち』『私たちが未来の社会を築く』の全7章で構成されている。
帝国	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『現代社会と文化』『現代社会をとらえる枠組み』『日本国憲法』『民主政治』『市場経済』『財政』『国際社会』『課題の探究』の全8章で構成されている。
日文	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『私たちと現代社会』『私たちの生活と政治』『私たちの生活と経済』『私たちと国際社会』『私たちの課題』の全5編で構成されている。
自由社	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『現代日本の自画像』『個人と社会生活』『立憲国家と国民』『日本国憲法と立憲的民主政治』『国民生活と経済』『国際社会に生きる日本』『持続可能な社会を目指して』の全7章で構成されている。
育鵬社	学習内容ごとに本文、資料などが、見開き2ページでまとめられている。『私たちの生活と現代社会』『私たちの生活と政治—日本国憲法の基本原則—』『私たちの生活と政治—民主政治と政治参加—』『私たちの生活と経済』『私たちと国際社会の課題』の全5章で構成されている。
㉑ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はA B判が採用されている。
帝国	判型はA B判が採用されている。
日文	判型はA B判が採用されている。
自由社	判型はA B判が採用されている。
育鵬社	判型はA B判が採用されている。
㉒ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
帝国	『特別支援教育やユニバーサルデザイン(UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルフォントを採用しています。』と表記されている。
日文	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。
自由社	『各単元の重要語句はゴシック(太字)になっています。』『ゴシックにした重要語句は、すべてこの教科書の最後にあるさくいんに登録されています。』と表記されている。
育鵬社	編修趣意書には『図版は色覚特性を踏まえて、判別しやすい色の使用や表示の工夫により、生徒が見やすいように配慮しました。』『ふりがなにはゴシック体を用い、小さな文字が読み取りにくい生徒も読みやすいように配慮しました。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	11ページ 工場長を務める日系ブラジル人（神奈川県座間市 2017年）の写真 111ページ かわさき市民アンケート報告書（神奈川県川崎市 平成29年度）のグラフ 149ページ 工場で働く障がいのある人たち（神奈川県川崎市）の写真と記事 巻末ページ 世界最高齢のアプリケーションの開発者（神奈川県藤沢市 2017年）の写真
教出	23ページ ハロウィンのパレード(2018年 神奈川県川崎市)の写真 47ページ 全国で初めて、公務員試験から国籍条項をはずした自治体（神奈川県川崎市）の記事 49ページ 韓国・朝鮮の伝統芸能を披露する人々（神奈川県川崎市）の写真と記事 74ページ 日本にある主な米軍基地（神奈川県厚木市・横須賀市・座間市）の地図 119ページ 歳入に占める地方税の割合と地方交付税の割合の比較（神奈川県）のグラフ 121ページ 神奈川県川崎市の「外国人市民代表者会議」のしくみ 121ページ 外国人市民代表者会議による会見（2011年 神奈川県川崎市）の写真 122ページ 市民の苦情を調査する市民オンブズマン（神奈川県川崎市）の写真と記事 127ページ フリーマーケットで消費税について学ぶ子どもたち(2015年 神奈川県横浜市)の写真 136ページ 神奈川県横須賀市の自動車工場の写真 141ページ 「ランドセルは海を越えて」キャンペーン(2018年 神奈川県横浜市)の写真と記事
帝国	巻頭1ページ 小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星への着地に成功したことの記者会見(神奈川県相模原市 2019年)の写真と記事 98ページ 解説オンブズマン（神奈川県川崎市）の記事 120ページ 移動販売を利用する高齢者(神奈川県)の写真と記事 127ページ 普及が進む電気自動車(神奈川県横浜市)の写真と記事 138ページ 障がいがあっても働ける場を(神奈川県川崎市)の写真と記事 154ページ 「先輩たちの選択」酪農家(神奈川県伊勢原市)の写真と記事 197ページ 多摩川流域での環境への取組（神奈川県川崎市）の記事 198ページ 「SDGs未来都市」を目指して(神奈川県横浜市)の写真と記事
日文	15ページ エネルギーの地産地消（神奈川県小田原市）の写真と記事 18ページ 小惑星探査機「はやぶさ2」の小惑星リュウグウへの着陸が成功したことの発表(2019年 神奈川県相模原市)の写真 23ページ 春節(神奈川県横浜市)の写真と記事 24ページ 学校(神奈川県横浜市)の写真 112ページ 人工知能（AI）の活用（神奈川県横浜市）の写真と記事 115ページ 体育巡業授業(2018年 神奈川県寒川町)の写真と記事 207ページ プラスチックによる海洋汚染に立ち向かう(神奈川県)の写真と記事 214ページ 視覚に障がいがある人のための防災マップ（2018年 神奈川県横浜市）の写真と記事
自由社	40・41ページ 魅力あるまちづくりについて考えようでの相模たこ揚げ大会（神奈川県相模原市）の記事 56・57ページ 鎌倉幕府（神奈川県鎌倉市）に関する資料と記事 159ページ 「ヨコハマ3R夢（スリム）プラン」の記事 193ページ 在日アメリカ軍の配置図（神奈川県座間市・厚木市・横須賀市）の地図
育鵬社	20ページ 7月七夕 湘南ひらつか七夕まつり(神奈川県平塚市)の写真 22ページ 東日本大震災の義援金を募る横浜中華街の人々(神奈川県横浜市)の写真と記事 50ページ キャンプ座間の一部返還の跡地に開設した座間総合病院(神奈川県座間市)の写真と記事、 50ページ 日本各地に駐留する在日米軍と日本のミサイル防衛（神奈川県 横須賀 武山 厚木） 60ページ ある中学校でのトイレの案内板（神奈川県横浜市）の写真 87ページ 子どもの権利に関する条例（神奈川県川崎市）の記事 107ページ 日本初の近代水道（神奈川県横浜市）の写真と記事 131ページ 障がい者雇用を長年続けている日本理科学工業（神奈川県川崎市）の写真と記事 164・171ページ 食品リサイクル会社に持ち込まれた食品(2016年 2019年 神奈川県相模原市)の写真と記事 200ページ 水素エネルギー活用による「水素社会」の実現(神奈川県横浜市)の写真と記事 201ページ SDGs未来都市のモデル事業の（神奈川県横浜市・鎌倉市）地図

② URL、二次元コード等の掲載の有無	
発行者名	
東書	有
教出	有
帝国	有
日文	有
自由社	無
育鵬社	有

③ 一冊ごとの重量(g)						
発行者名	冊数	重量(g)				
東書	1	514				
教出	1	529				
帝国	1	489				
日文	1	519				
自由社	1	554				
育鵬社	1	505				

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(地図)》

※詳細については、資料Ⅱ(地図-3～地図-6)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい社会 地図
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『一般図を見てみよう』などで取り上げられた『この地図帳の活用方法』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『ヨーロッパの言語分布』や『北海道の土壌』など、資料をもとに考えるテーマが『テーマ資料』で取り上げられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『環境』『エネルギー』などの社会問題が取り上げられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「いのちの大切さ」について、『世界の5歳未満死亡率』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「食育」について、『世界の食文化』と『日本各地の郷土料理』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、『日本の自然環境』で災害とその対策について取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『世界の気候・海流』と『世界各地の平均気温・降水量』など、学習内容と関連する資料が『ジャンプ』で示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、歴史的な分野や公民的分野の学習と関連したページや資料に『歴史・公民マーク』が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、言語活動のテーマとなる資料に関する問いや疑問などが、キャラクターの吹き出しに掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『東北地方の食文化』や『南部鉄器』など日本の伝統や文化について取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、アメリカの人口ピラミッドを完成させる活動が『みんなでチャレンジ』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、地図帳の使い方が巻頭の『この地図帳の地図記号・活用方法』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『さくいん』では、『世界の地名』と『日本の地名』及び『資料さくいん』に分かれてそれぞれ示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『地図帳の活用方法』『統計』『さくいん』など、色分けされたインデックスが付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『この地図帳の活用方法』のページが設けられている。使用する目的に応じて、縮尺の異なる地図が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 地域ごとに一般図、主題図、拡大図、資料図が掲載されている。また、巻末には『さくいん』が設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 巻末の統計資料が2016～2017年のものをもとに作成されている。また、世界と日本の統計資料には『理科年表』2019年のデータが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、教科書で学習する世界や日本に関連した資料が掲載された『テーマ資料』が設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が掲載されている。また、日本や世界の自然や自然災害、産業、貿易、歴史などに関する資料・統計が取り上げられている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《社会(地図)》

※詳細については、資料Ⅱ(地図-3～地図-6)を参照。

発行者の略称	帝国	書名	中学校社会科地図
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『いろいろな地図を使いこなそう』などで取り上げられた『地図帳の使い方』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『五大湖周辺とサンベルト地域ではどのような違いがあるか答えよう』など、資料をもとに考えるテーマが『地図活用』で取り上げられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『世界の環境問題』について取り上げられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「いのちの大切さ」について、アフリカ諸国の『貧困率と栄養不足の人口』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「食育」について、世界の『特色ある料理と食事』と『日本の伝統的な料理』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、『日本の自然災害・防災』で災害とその対策について取り上げられている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『伝統工芸品を一つ選び、その特徴やよさについて調べ、クラスで発表しよう』などの学習課題を示した『地図活用』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、歴史的分野や公民的分野の学習と関連した『江戸時代の大阪』や『霞が関』などの地図や資料が設けられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『世界の言語と宗教の分布にはどのような特徴があるだろうか』など、言語活動のテーマが示された『学習課題』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『東北地方の伝統・文化』や『アイヌ語地名』など日本の伝統や文化について取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『トレーシングペーパーに写し取り、石狩平野や十勝平野の広さを比べよう』など、地図を使った調査方法を体験する活動が『地図活用』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、地図帳の使い方が巻頭の『地図帳の使い方』に掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『さくいん』では、『世界の部』と『日本の部』に分けてそれぞれ示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『地図帳の使い方』『統計』『さくいん』など、色分けされたインデックスが付けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『地図帳の使い方』のページが設けられている。使用する目的に応じて、縮尺の異なる地図が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 地域ごとに一般図、主題図、拡大図、資料図が掲載されている。また、巻末には『さくいん』が設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 巻末の統計資料が2016～2017年のものをもとに作成されている。また、世界と日本の統計資料には『理科年表』2019年のデータが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、『函館山の山頂からゴールまでの直線距離を縮尺からも求めよう』などの問いが『地図活用』の中に掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が掲載されている。また、日本や世界の自然や自然災害、産業、貿易、歴史などに関する資料・統計が取り上げられている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『特別支援教育やユニバーサルデザイン(UD)の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《社会(地図)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『一般図を見よう』などで取り上げられた『この地図帳の活用方法』が掲載されている。また、地図活用を促すために『歴史・公民マーク』が示されている。
帝国	「知識・技能」の習得について、地図の使い方のポイントが『いろいろな地図を使いこなそう』などで取り上げられた『地図帳の使い方』が掲載されている。また、地図活用の課題として『地図活用』が設けられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『ヨーロッパの言語分布』や『北海道の土壌』など、資料をもとに考えるテーマが『テーマ資料』で取り上げられている。
帝国	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『五大湖周辺とサンベルト地域ではどのような違いがあるか答えよう』など、資料をもとに考えるテーマが『地図活用』で取り上げられている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『環境』『エネルギー』などの社会問題が取り上げられている。また、日本地図では、日本の災害やその対策についても取り上げられている。
帝国	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で『世界の環境問題』について取り上げられている。また、日本の各地方の資料図において、『防災』をテーマとする資料が取り上げられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、『世界の5歳未満死亡率』などが掲載されている。また、世界の『人口・貧困問題』なども取り上げられている。
帝国	[思いやる力]の「いのちの大切さ」について、アフリカ諸国の『貧困率と栄養不足の人口』などが掲載されている。また、世界の『老年人口の割合』なども取り上げられている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「食育」について、『世界の食文化』と『日本各地の郷土料理』などが掲載されている。また、『イスラム教徒の生活』など、多様な文化を取り上げた資料が掲載されている。
帝国	[たくましく生きる力]の「食育」について、世界の『特色ある料理と食事』と『日本の伝統的な料理』などが掲載されている。また、宗教や言語など、多様な文化を取り上げた資料が掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「生きること」について、『日本の自然環境』で災害とその対策について取り上げられている。また、『貧困』など現代的な諸課題について掲載されている。
帝国	[社会とかかわる力]の「生きること」について、『日本の自然災害・防災』で災害とその対策について取り上げられている。また、『環境問題』など現代的な諸課題について掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、『世界の気候・海流』と『世界各地の平均気温・降水量』など、学習内容と関連する資料が『ジャンプ』で示されている。また、資料の読み取りのポイントなどがキャラクターの吹き出しに示されている。
帝国	主体的・対話的で深い学びについて、『伝統工芸品を一つ選び、その特徴やよさについて調べ、クラスで発表しよう』などの学習課題を示した『地図活用』が設けられている。また、その中に、地図の見方や活用の仕方などについても示されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、歴史的分野や公民的分野の学習と関連したページや資料を設けて、『歴史・公民マーク』が示されている。また、歴史的分野と連携した『日本と世界との関係(古代～近世)』が掲載されている。
帝国	カリキュラム・マネジメントについて、歴史的分野や公民的分野の学習と関連した『江戸時代の大阪』や『霞が関』などの地図や資料が設けられている。また、『桶狭間の戦い』などが地図中に示され、歴史的分野との関連が示されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、『ヨーロッパの自動車工場の分布』の資料について『1980年と現在とで、分布にどんなちがいがあるだろう』とキャラクターの吹き出しに掲載されている。また、『環境問題』や『自然災害』など、言語活動のテーマになるページが設けられている。
帝国	言語能力の育成について、『世界の言語と宗教の分布にはどのような特徴があるだろうか』など、言語活動のテーマが示された『学習課題』が設けられている。また、『環境問題』や『自然災害』など、言語活動のテーマになるページが設けられている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、『東北地方の食文化』や『南部鉄器』など日本の伝統や文化について取り上げられている。また、世界文化遺産や伝統工芸品などが絵記号で地図中に示されている。
帝国	伝統や文化に関する教育の充実について、『東北地方の伝統・文化』や『アイヌ語地名』など日本の伝統や文化について取り上げられている。また、世界文化遺産や伝統工芸品などが絵記号で地図中に示されている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、アメリカの人口ピラミッドを完成させる活動が『みんなでチャレンジ』に掲載されている。
帝国	体験活動の充実について、『トレーシングペーパーに写し取り、石狩平野や十勝平野の広さを比べよう』など、地図を使った調査方法を体験する活動が『地図活用』に掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、地図帳の使い方が巻頭の『この地図帳の地図記号・活用方法』に掲載されている。
帝国	学校段階間の円滑な接続について、地図帳の使い方が巻頭の『地図帳の使い方』に掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、『さくいん』では、『世界の地名』と『日本の地名』及び『資料さくいん』に分けてそれぞれ示されている。また、巻末に『統計資料』が掲載されている。
帝国	情報活用能力の育成について、『さくいん』では、『世界の部』と『日本の部』に分けてそれぞれ示されている。また、巻末に『統計資料』が掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『地図帳の活用方法』『統計』『さくいん』『世界全体』『日本全体』など、色分けされたインデックスが付けられている。
帝国	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『地図帳の使い方』『統計』『さくいん』『世界の生活・文化』『日本の生活・文化』など、色分けされたインデックスが付けられている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	『この地図帳の活用方法』のページが設けられている。使用する目的に応じて、縮尺の異なる地図が掲載されている。また、地図ごとに『注目したい記号』が示されている。
帝国	『地図帳の使い方』のページが設けられている。使用する目的に応じて、縮尺の異なる地図が掲載されている。また、資料図に『防災』『環境』『日本との結びつき』を示すマークが付されている。

⑩ 一般図・拡大図・主題図・索引などは適切に配列されているか。	
東書	地域ごとに一般図、主題図、拡大図、資料図が掲載されている。また、巻末には『さくいん』が設けられている。
帝国	地域ごとに一般図、主題図、拡大図、資料図が掲載されている。また、巻末には『さくいん』が設けられている。
⑪ 統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、生徒の発達の段階に即したものが適切に取り上げられているか。	
東書	巻末の統計資料が2016～2017年のものをもとに作成されている。また、世界と日本の統計資料には『理科年表』2019年のデータが掲載されている。
帝国	巻末の統計資料が2016～2017年のものをもとに作成されている。また、世界と日本の統計資料には『理科年表』2019年のデータが掲載されている。
⑫ 生徒が自主的に学習に取り組み、情報を読み取る技能及びまとめる技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、教科書で学習する世界や日本に関連した資料が掲載された『テーマ資料』が設けられている。
帝国	地図帳の巻頭部分に地図帳の活用方法が示されている。また、『函館山の山頂からゴールまでの直線距離を縮尺からも求めよう』などの問いが『地図活用』の中に掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑬ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が掲載されている。また、日本や世界の自然や自然災害、産業、貿易、歴史などに関する資料・統計が取り上げられている。
帝国	日本の各地方の地図や世界の州を示す地図が掲載されている。また、日本や世界の自然や自然災害、産業、貿易、歴史などに関する資料・統計が取り上げられている。
⑭ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
帝国	判型はA 4判が採用されている。
⑮ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
帝国	『特別支援教育やユニバーサルデザイン（UD）の観点から、色覚特性に配慮した色づかいとなるよう工夫しています。また、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	2、34、42、60ページ 地図上に神奈川県内の地名 85、114ページ 地図上に神奈川県 122、123、125、127、128、129、130ページ 関東地方の地図上に神奈川県 132ページ 東京オリンピック・パラリンピックの会場 (横浜スタジアム・江の島ヨットハーバー・横浜国際総合競技場) 148ページ 日本地図上に神奈川県内の地名 152ページ 日本の主な公害地図上に神奈川県内の地名 153ページ 日本の人口分布地図上に神奈川県内の地名 159ページ 日本の工業地域地図上に神奈川県 160ページ 工業生産額とその内訳に神奈川県、関東地方の工業地域地図上に神奈川県内の地名 161ページ 世界と日本の交通・通信網(パリ・横浜間を飛行したプロペラ機の写真) 163ページ 都道府県別の在留外国人数の図やグラフに神奈川県 173ページ 日本の都道府県の統計表に神奈川県 174ページ 日本の農林水産業の生産(キャベツ) 日本の工業製品の生産(印刷・電子部品・衣料品・輸送用機器)に神奈川県 175ページ 日本の都市の人口に神奈川県内の地名 188ページ 都道府県の産品と名所・お国自慢などに神奈川県 191ページ 地図上に神奈川県内の地名 192ページ 地図上に神奈川県
帝国	2、20、24、34、56、71、81ページ 地図上に神奈川県内の地名 120ページ 関東地方の地図上に神奈川県 121ページ 関東地方南部の地図上に神奈川県 123、124ページ 関東地方の地図上に神奈川県 127ページ 関東地方の資料(1)に神奈川県 128ページ 横浜中心部の地図、東京周辺の地図上に神奈川県 129、130ページ 関東地方の資料(2)に神奈川県 146ページ 日本の地形に神奈川県内の地名 150ページ 日本地図上に神奈川県内の地名 156ページ 日本の工業地域の分布地図上に神奈川県内の地名、自動車工業の地図上に神奈川県 157ページ 日本の水産業の地図上に神奈川県内の地名 158ページ 各地の農業生産地図上に神奈川県内の地名 161ページ 外国人旅行者の訪問地の地図上に神奈川県内の地名 162ページ 日本の歴史遺産の地図上に鎌倉幕府・ペリー上陸地 171～173ページ 日本の統計に神奈川県と神奈川県内の地名 186ページ 都道府県と昔の国名の地図上に神奈川県 188ページ 地図上に神奈川県内の地名

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名						
東書	有					
帝国	有					

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	重量(g)				
東書	1	569				
帝国	1	503				

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい数学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題A』『章の問題B』、巻末には『補充の問題』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『九九表のきまりを見つけよう』など、『数学マイノート』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『デザインにひそむ数学』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『大切にしたい数学の学び方』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として、理科と関連した『球が斜面を転がる場面』などが掲載され、『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『身長をくふうして求めてみよう』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統模様の『青海波』などを例示した、『数学のまど』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『くじを先にひく?あとにひく?』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容を課題とした『算数から数学へ』、『ちょっと確認』や、高校の学習内容を課題とした『数学のまど』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、標本を無作為に抽出する方法として、コンピューターの表計算ソフトの操作手順が『母集団から標本を取り出す方法について考えてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、学習のまつまりごとに学習のめあてが示され、『問』には『例』と似た型の問題に『◆』が示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 問題解決の順序を例示した『身長をくふうして求めてみよう』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、既習内容を用いた取組を課題とした『比例と反比例の利用』など、『Q考えてみよう』や『Q調べてみよう』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、グラフや表を用いて説明し、解決を図る一連の流れを例示した『身長をくふうして求めてみよう』など『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題としたスケート場の貸出用の靴の問題など『章の問題』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題A・B』が掲載され、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく、読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	大日本	書名	数学の世界3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『たしかめよう』、章の最後に『○章を振り返ろう』、巻末に各章に対応した問題『補充問題』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『みんなの記録と自分の記録を比べよう』など、『ノートの作り方』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身の回りのマイナス』など、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『数学の世界へようこそ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『富士山が見える範囲を調べよう』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた『社会にリンク』のコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『みんなの記録と自分の記録を比べよう』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『震源から何km離れているかな』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『みんなの記録と自分の記録を比べよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統工芸品の『手まりの模様の秘密』などを例示した、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『アーガイルチェックの模様』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容を課題とした『思い出そう』などや、高校の学習内容を課題とした『高校ではどんな数学を学ぶのかな?』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、実生活につながるデータを処理するICT活用を例示した『どうやって認識しているの?』などが、『MATHFUL』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、その問題を学習したページが記載された『たしかめよう』や、補填的な問題を取り上げた『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭で学習時の問題発見、問題解決の流れが例示され、実践する課題として『75°の角度をつくらう』などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、話し合いや説明する活動を課題とした『学びにプラス』や、類題を課題とした『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、日常生活の生徒の疑問から問題発見を行い、図や表を用いるなどの問題解決の一連の流れを例示した『進行のようすを調べよう』などが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『データの分析』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後には『たしかめよう』、章の最後に『○章を振り返ろう』が設けられ、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	学図	書名	中学校数学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『確かめよう』、章の最後に『○章のまとめの問題』、『○年の復習』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『正の数・負の数』の温度の問題など、『ノートの使い方』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『米は何粒?』など、『疑問を考えよう』のコーナーが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『さらなる数学へ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『表現する力を身につけよう』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた巻頭の『数学の力』のコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q』で『数学的活動』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として社会科と関連した『時刻がもどる?』など、『深めよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の利用』などの『Q』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本独自の数学である『和算』などを例示した、『数学の歴史の話』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正の数・負の数のたし算の問題などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容を課題とした『ふりかえり～算数から数学へ～』や、高校の学習内容を紹介した『高校へのかけ橋』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、論理的な思考の大切さを伝える課題として『基石を並べるサンプルプログラム』などを例示した、『プログラミングを体験してみよう』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、既習事項などを示した『ふりかえり』や、間違いやすい例を取り上げた『正しいかな?』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の流れを何段階かにわたって示した、『文字式の利用』などの『数学的活動』のコーナーが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、日常の生活や実社会でのことがらを課題とした『正の数・負の数の利用』の『Q』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、図から数式を求めたり、表から数式を求めたりする『震源までの距離は?』など、『深めよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『反応の速度はどのくらいかな?』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後に『確かめよう』、章の最後に『○章のまとめの問題』が掲載され、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学数学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題』、『学習のまとめ』、巻末に各章に対応した問題『補充の問題』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『目標は達成できる?』など、『工夫してノートを書こう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『ランドルト環』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『学習するにあたって』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた巻頭の『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『素数ゼミ』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の活用』などの『Q』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本独自の数学である『薬師算』などを例示した、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容を課題とした『学びのマップ』や、高校の学習内容を紹介した『ひろがる数学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が、『標本調査とデータ活用』に掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、つまづきを防ぐ目的で取り上げた『○○を学習する前に』や、用語などを確認する『もどって確認』、『補充問題』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭で学習時に必要な『学習のプロセス』が示され、実践する問題として『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、学習のプロセスを意識して取り組む題材を取り上げた『Q 目標を達成することはできるのかな?』などが記載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、言葉や数・式・図・表・グラフなどを用いて問題解決の流れを例示した『板は何枚必要かな?』などが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『Let's Try』のコーナーが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題』、『学習のまとめ』が掲載され、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	啓林館	書名	未来へひろがる数学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の中に『練習問題』、章の最後に『章末問題』、巻末に『もっと練習しよう』が設けられている。『自分から学ぼう編』に『力をつけよう』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『どちらが反比例の関係?』など、『ノートをくふうして、学習に役立てよう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『緊急地震速報』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『表現する力を身につけよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『説明しよう』や『話しあおう』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学について取り上げた『学びをいかそう』のコーナーに『社会見学に行こう』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として社会科と関連した『何時に電話しようかな?』など、『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『説明しよう』や『話しあおう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統模様の『市松模様』などを例示した、『数学ライブラリー』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは?』の問題などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、新しい学習に関連する既習内容を示した『ふりかえり』や、高校の学習内容を紹介した『学びをいかそう』の『発展』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、プログラミングの段階的な学習を課題とした『プログラミングで模様をつくろう』や『表計算ソフトを使って』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、まとめや重要な視点が書かれているメモが示されている。振り返り学習を課題とした『章末問題学びをたしかめよう』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭で学習時に必要な3ステップが示され、『身のまわりの問題を、数学を活用して解決するときの考え方』として『方程式』の利用場面などが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、学習課題に取り組む流れが示され、既習の知識を活用した課題解決を取り上げた問などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、データを数式や表、グラフで表すことで論理的に考察することを課題とした『リサイクルすると?』などが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『ヒストグラムを観察しよう』などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の中に『練習問題』、章の最後に『章末問題』が掲載され、7～8章で構成されている。『みんなで学ぼう』編と、『自分から学ぼう』編の2部構成となっている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> メディアユニバーサルデザイン製品に認定された『MUDマーク』、ユニバーサルデザインフォントを使用している製品として『UDFONTマーク』が表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《数学》

※詳細については、資料Ⅱ（数学-8～数学-27）を参照。

発行者の略称	数研	書名	日々の学びに数学的な見方・考え方をはたらかせる これからの 数学3 見方・考え方がはたらき、問題解決のチカラが高まる これからの 数学3 探究ノート
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『確認問題』、章の最後に『問題A・B』、巻末の『チャレンジ編』に『力をつけよう！』『力をのばそう！』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『いろいろな文字式で表そう』など、『ノートのつくり方』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『降水確率』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標（めざすべき人間力像）に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『学習の進め方』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『レポートを書こう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学について取り上げた『数学旅行』のコーナーに『暗号と素数』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『Q』や『TRY』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『深海の水圧』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『Q』や『TRY』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本独自の数学である『塵劫記』などを例示した、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした『立体の体積と表面積』の問題などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の内容に対応させて示した『中学1年のまとめ』や、高校の学習内容を紹介した『$\sqrt{2}$が無理数であることの証明』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、実生活で使われている情報について紹介した『暗号と素数』や、ICT活用を例示した『ビッグデータ』などが、『数学旅行』のコーナーに掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、考えるヒントになる意見を例示した生徒たちの会話文や、つまづく点などを取り上げた『ふりかえり』が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習時に必要な手順が『探究ノート』の書き込み式のワークシートで示され、『比例と反比例』などで実践する課題が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》（それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照）</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、日常生活のことがらを題材とした『ごみの減量作戦』などを取り上げた、『TRY』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、式と表とグラフを結びつけて、論理的に考察する活動を課題とした『見つけよう』や『調べよう』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『きれいなおうぎ形』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後に『確認問題』、章の最後に『問題A・B』が掲載され、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型は本冊、別冊ともにB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、ユニバーサルデザインの視点に基づき、より多くの人が利用しやすいように配慮しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪数学≫

※詳細については、資料Ⅱ(数学-8～数学-27)を参照。

発行者の略称	日文	書名	中学数学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『○章の問題』、『とりくんでみよう』、巻末に『補充問題』、『活用の問題』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『文字と式』の問題など、『ノートのくふう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会で数学が活用されている事例を取り上げた『身のまわりの正の数と負の数』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」について、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『数学の学習を始めよう!』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「コミュニケーション能力」について、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、社会で活用されている数学についてのインタビューを取り上げた『数学マイトライ』のコーナーに『数学を仕事に生かす』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う中で課題解決をする活動『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、教科横断的な学習の課題として技術科と関連した『暗号と素因数分解』など、『暮らしと数学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『平均値の求め方をくふうしよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本独自の数学である『小町算』などを例示した、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実際に調べたり、実験を行ったりする活動を課題とした正多面体の特徴を調べる問題などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容を確認する題材とした『次の章を学ぶ前に』や、高校の学習内容を課題とした『数学のたんけん』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、プログラミングの学習を課題とした『素数を求めるプログラムを考えよう』など、『プログラムと数学』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さへの対応について、新しい問題の解き方を、既習事項と関連づけて例示した『次の章を学ぶ前に』と『確かめ』が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 問題解決の順序を例示した『スタート位置を決めよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、問題解決の手順が図や言葉で示された『基石の総数を表す式を求め説明しよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 考えを表現して深めることについて、説明したり話し合いしたりする『ポスターの文字の大きさを決めよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> データ処理して問題解決に取り組む工夫について、身近な場面のデータを数理的に処理する活動を課題とした『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 節の最後に『基本の問題』、章の最後に『○章の問題』、『とりくんでみよう』が掲載され、7～8章で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《数学》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題A』『章の問題B』、巻末に各章に対応した問題『補充の問題』が掲載されている。
大日本	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『たしかめよう』、章の最後に『○章を振り返ろう』、巻末に各章に対応した問題『補充問題』が掲載されている。
学図	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『確かめよう』、章の最後に『○章のまとめの問題』、『○年の復習』が掲載されている。
教出	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題』、『学習のまとめ』、巻末に各章に対応した問題『補充の問題』が掲載されている。
啓林館	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の中に『練習問題』、章の最後に『章末問題』、巻末に『もっと練習しよう』が掲載されている。『自分から学ぼう編』に『力をつけよう』が掲載されている。
数研	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『確認問題』、章の最後に『問題A・B』、巻末の『チャレンジ編』に『力をつけよう！』『力をのばそう！』が掲載されている。
日文	「知識・技能」の習得について、全学年とも学習内容の定着を課題とした、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『○章の問題』、『とりくんでみよう』、巻末に『算数の確かめ』、『補充問題』、『活用の問題』が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『九九表のきまりを見つけよう』など、『数学マイノート』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『数の並びから性質を見つけよう』など、『数学マイノート』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『速算の仕組みを探ろう』など、『数学マイノート』が掲載されている。
大日本	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『みんなの記録と自分の記録を比べよう』など、『ノートの作り方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『数の性質を調べよう』など、『ノートの作り方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『根号をふくむ数の近似値を求める工夫』など、『ノートの作り方』が掲載されている。
学図	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『正の数・負の数』の温度の問題など、『ノートの使い方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『式の計算』の代金の合計の問題など、『ノートの使い方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『式の計算』の面積の問題など、『ノートの使い方』が掲載されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『目標は達成できる？』など、『工夫してノートを書こう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『どんな性質がある？』など、『工夫してノートを書こう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『どんなきまりがある？』など、『工夫してノートを書こう』が掲載されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『説明しよう』の『どちらが反比例の関係？』など、『ノートをくふうして、学習に役立てよう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『話し合おう』の連立方程式の問題など、『ノートをくふうして、学習に役立てよう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『まとめよう』の二次方程式の問題など、『ノートをくふうして、学習に役立てよう』が掲載されている。
数研	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『いろいろな文字式で表そう』など、『ノートのつくり方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『角の大きさを求めよう。』など、『ノートのつくり方』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『1.5秒後のボールの位置を考えよう』など、『ノートのつくり方』が掲載されている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第1学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『文字と式』や『正の数と負の数』の問題など、『ノートのくふう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第2学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『式の計算』や『比例』の問題など、『ノートのくふう』が掲載されている。 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、第3学年では、課題解決の過程を振り返るノートの作り方を例示した『式の展開と因数分解』や『相似な図形』の問題など、『ノートのくふう』が掲載されている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

東書	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『デザインにひそむ数学』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『桜の開花日を予想しよう』や『コンビニのデータ活用』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『渋滞学を学んでみよう』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p>
大日本	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『身の回りのマイナス』や『船が安全に進むための工夫』など、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『暮らしに役立つ関数』や『シャッフル再生の不思議』など、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『リレーのバトンパス』や『どうやって認識しているの?』など、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p>
学図	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『米は何粒?』や『当選するには最低何票?』など、『疑問を考えよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『時計の針が重なるのは何時?』や『気温は上がっている?』など、『疑問を考えよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『黄金比って何?』や『放物線はみな相似?』など、『疑問を考えよう』のコーナーが掲載されている。</p>
教出	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『素数ゼミ』や『ランドルト環』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『期待値』や『陸上トラック』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『タイルの枚数』や『大気中の二酸化炭素の濃度』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p>
啓林館	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『おにぎりを売ろう』や『緊急地震速報』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『スタートの位置はどこ?』や『料金が安いのは?』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『容器をつくろう』や『全身がうつる鏡』など、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p>
数研	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『深海の水圧』や『降水確率』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『温度の単位』や『LED電球はお得?』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『ミクロの世界』や『リレーのバトンパス』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p>
日文	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『身のまわりの正の数と負の数』や『湖面の高さと湖の深さ』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『雷に気をつけよう』や『勾配』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、社会で活用されている数学の課題を取り上げた『過去の標本調査での失敗』や『コンピュータの活用』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。</p>

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。

(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)

東書	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『大切にしたい数学の学び方』のコーナーが掲載されている。
大日本	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『解決しよう』の『考えを伝え合おう』や『わかりやすく説明しよう』など、『数学の世界へようこそ』のコーナーが掲載されている。
学図	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『表現する力を身につけよう発表のしかた』など、『さらなる数学へ』のコーナーが掲載されている。
教出	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『話し合うときは…』など、『学習するにあたって』のコーナーが掲載されている。
啓林館	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『話すとき』や『聞くとき』など、『表現する力を身につけよう』のコーナーが掲載されている。
数研	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『説明を聞くときは』や『発表するときは』、『グループで話し合うときは』など、『学習の進め方』のコーナーが掲載されている。
日文	[思いやる力] について、全学年とも、問題解決の過程における他者との話し合い活動での、話し方や聞き方を例示した『話し合うときのポイント』など、『数学の学習を始めよう!』のコーナーが掲載されている。

⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。

(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)

東書	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『いろいろな角を作図してみよう』などで『問題をつかむ』、『見通しをたてる』、『問題を解決する』、『ふり返る』、『深める』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『角の大きさを求める方法を考えてみよう』などで『問題をつかむ』、『見通しをたてる』、『問題を解決する』、『ふり返る』、『深める』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『畑に通路をつくろう』などで『問題をつかむ』、『見通しをたてる』、『問題を解決する』、『ふり返る』、『深める』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。</p>
大日本	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした節の導入部『みんなの記録と自分の記録を比べよう』などで『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした節の導入部『富士山八合目の気温を予想してみよう』などで『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした節の導入部『富士山が見える範囲を調べよう』などで『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』などが掲載されている。</p>
学図	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『表現する力を身につけよう』の『ほかの形に挑戦』のレポートを例に『レポートの作成』、『発表のしかた』、『レポート例』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『表現する力を身につけよう』の『2数の差は?』のレポートを例に『レポートの作成』、『発表のしかた』、『レポート例』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『表現する力を身につけよう』の『条件を変えてみると…』のレポートを例に『レポートの作成』、『発表のしかた』、『レポート例』などが掲載されている。</p>
教出	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『Q 目標を達成することはできるのかな?』などで『問題を見いだそう』、『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『友達のことを知ろう』、『みんなで話し合おう』、『深めよう』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『Q どちらの会社に依頼すれば得になるかな?』などで『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『みんなで話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』などが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『Q 自動車を安全に停車させるには?』などで、『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『みんなで話し合おう』、『ふり返ろう』などが掲載されている。</p>
啓林館	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『文字の式』など、『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『図形の調べ方』など、『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を課題とした『図形と相似』など、『説明しよう』や『話しあおう』が掲載されている。</p>
数研	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『正四角錐の展開図』のレポートを例に、『テーマを選ぶ』、『アイデアを出す』、『考えを整理する』、『レポートを書く』など、『レポートを書こう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『倍数の見分け方』のレポートを例に、『テーマをさがす』、『資料を集める』、『アイデアを出す』、『考えを整理する』、『レポートを書く』など、『レポートを書こう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『方程式の形と解の個数』のレポートを例に、『テーマをさがす』、『資料を集める』、『アイデアを出す』、『考えを整理する』、『レポートを書く』など、『レポートを書こう』のコーナーが掲載されている。</p>
日文	<p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『平均値の求め方をくふうしよう』などで、『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『多角形の内角の和を求めよう』などで、『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力] の「コミュニケーション能力」について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者と伝え合ったりする活動を例示した『どこまで見えるか調べよう』などで、『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p>

⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。

(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)

東書	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学についてのインタビューを取り上げた『デザインにひそむ数学』や『スポーツでもデータ活用』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学についてのインタビューを取り上げた『桜の開花日を予想しよう』や『コンビニのデータ活用』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学についてのインタビューを取り上げた『渋滞学を学んでみよう』など、『学びをひろげよう』のコーナーが掲載されている。</p>
大日本	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学について飛行機のパイロットや防災研究者などのインタビューを取り上げた『社会にリンク 発見!仕事のなかの数学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学について栄養士や鉄道運行管理者などのインタビューを取り上げた『社会にリンク 発見!仕事のなかの数学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学について宇宙物理学研究者や製薬会社研究員などのインタビューを取り上げた『社会にリンク 発見!仕事のなかの数学』のコーナーが掲載されている。</p>
学図	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学についてコンピュータサイエンティストのインタビューを取り上げた『数学の力』のコーナーの『～RSA暗号～』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学についてコピーライターのインタビューを取り上げた『数学の力』のコーナーの『数学の発想で見つけた伝え方の法則』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学について独立時計師のインタビューを取り上げた『数学の力』のコーナーの『～ものづくりの哲学～』が掲載されている。</p>
教出	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学について気象予報士やデータアナリストのインタビューを取り上げた『数学の広場』のコーナーの『数学は社会に生きています!』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学について輸送計画担当者のインタビューを取り上げた『数学の広場』のコーナーの『数学は社会に生きています!』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学について都市模型製作者のインタビューを取り上げた『数学の広場』のコーナーの『数学は社会に生きています!』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学について『一回転焼きができるまで』を取り上げた『学びをいかそう』のコーナーの『社会見学に行こう』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学について『一明太子ができるまで』を取り上げた『学びをいかそう』のコーナーの『社会見学に行こう』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学について『一教科書ができるまで』を取り上げた『学びをいかそう』のコーナーの『社会見学に行こう』が掲載されている。</p>
数研	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学について『暗号と素数』や『深海の水圧』、『地球温暖化問題』などを取り上げた『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学について『温度の単位』や『LED電球はお得?』、『ビッグデータ』などを取り上げた『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学について『ミクロの世界』や『選挙速報』、『曲尺と数学』などを取り上げた『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p>
日文	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、社会で活用される数学についてデータアナリストのインタビューを取り上げた巻末の『数学マイトライ』のコーナーの『数学を仕事に生かす データから導き出す問題解決の糸口』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、社会で活用される数学についてエンジニアのインタビューを取り上げた巻末の『数学マイトライ』のコーナーの『数学を仕事に生かす 数学で身につける予測する力』が掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、社会で活用される数学についてアーティストのインタビューを取り上げた巻末の『数学マイトライ』のコーナーの『数学を仕事に生かす 数学から見えるデザインの可能性』が掲載されている。</p>

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーで『棒の本数を求めてみよう』や『交代の時間は何分?』などが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーで『数の並びから性質を見つけよう』や『飲み物はいつまで冷たく保てる?』などが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動『深い学び』のコーナーで『速算のしくみを探ろう』や『四角形の各辺の中点を結んだ図形は?』などが掲載されている。</p>
大日本	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動『みんなの記録と自分の記録を比べよう』や『ドッジボール大会の休憩時間は?』などの『解決しよう』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動『スタートラインを決めよう』や『筑波山で歩いた道のりを求めよう』などの『解決しよう』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動『式を利用して数の性質を調べよう』や『コピーで拡大するときの倍率を調べよう』などの『解決しよう』が掲載されている。</p>
学図	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動『正の数・負の数の利用』や『文字式の利用』などの『Q』で『数学的活動』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動『式の利用』や『連立方程式の解き方』などの『Q』で『数学的活動』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動『式の利用』や『平方根の利用』などの『Q』で『数学的活動』が掲載されている。</p>
教出	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動『Q 目標を達成することはできるのかな?』や『Q 板は何枚必要かな?』などが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動『Q どちらの会社に依頼すれば得になるかな?』や『Q どの出方が起こりやすいか調べてみよう』などが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動『Q 整数の性質を調べてみよう』や『Q 自動車を安全に停車させるには?』などが掲載されている。</p>
啓林館	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、既習内容から考えて数直線を使って数を表す説明をさせる『説明しよう』や節の導入部に『どんな数を求める計算かな?』などで『話しあおう』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、既習内容から考えて誤答例について説明をさせる『説明しよう』や節の導入部に『どんな数になるかな?』などで『話しあおう』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、既習内容から考えて数直線をグラフの特徴の説明をさせる『説明しよう』や節の導入部に『変化の様子は?』などで『話しあおう』が掲載されている。</p>
数研	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、『平均値と負の数』や『1次式のまとめ方』などで、『Q』や『TRY』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、『数に関するいろいろな性質』や『多角形の外角の和』などで、『Q』や『TRY』が掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動として、『直角三角形の辺に関する性質を見つけよう』の『Q』や『関数$y=ax^2$のグラフ』の『TRY』などが掲載されている。</p>
日文	<p>主体的・対話的で深い学びについて、第1学年では、話し合う中で課題解決をする活動『平均値の求め方をくふうしよう』や『基石の総数を表す式を求め説明しよう』などの『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第2学年では、話し合う中で課題解決をする活動『スタート位置を決めよう』や『総費用で比べよう』などの『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>主体的・対話的で深い学びについて、第3学年では、話し合う中で課題解決をする活動『数の性質を見だし証明しよう』や『自動車が止まるまでの距離を考えよう』などの『学び合おう』のコーナーが掲載されている。</p>

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として技術・家庭科と関連した『日本の伝統模様』や、理科・保健体育科と関連した『自動車の死角を考えよう』などが掲載され、『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として技術・家庭科と関連した『特別な平行四辺形の利用』や、英語科と関連した『日本と海外の単位の違い』などが掲載され、『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『球が斜面を転がる場面』や、美術科と関連した『黄金比』などが掲載され、『教科関連マーク』が示されている。</p>
大日本	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として美術科と関連した『ヒンメリを作ろう』や、理科と関連した『震源から何km離れているかな』などが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として保健体育科と関連した『どんな運動をどれくらい行えばいい?』や、社会科と関連した『友好都市の気温を比べると…』などが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として技術・家庭科(家庭分野)と関連した『パスタメジャーを作ろう』や、理科と関連した『マグニチュードと地震のエネルギー』などが掲載されている。</p>
学図	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として社会科と関連した『時刻がもどる?』や『人口ピラミッド』など、『深めよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として保健体育科と関連した『陸上競技のトラック』や、社会科と関連した『雨が多いのは?少ないのは?』など、『深めよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として美術科と関連した『デッサンと相似』や、理科と関連した『スピードと停止距離の関係は?』など、『深めよう』のコーナーが掲載されている。</p>
教出	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『素数ゼミ』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。社会科に関連した『時差は何時間かな?』など、『学んだことを活用しよう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として社会科、技術・家庭科(家庭分野)と関連した『スロープの勾配』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。保健体育科に関連した『目標を達成するための走り方を考えよう』などが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として理科に関連した『自動車を安全に停車させるには?』や、『ガリレオ・ガリレイの実験』など、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p>
啓林館	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として社会科と関連した『何時に電話しようかな?』など、『自分から学ぼう編』に『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として保健体育科に関連した『スタートの位置はどこ?』など、『自分から学ぼう編』に『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『全身がうつる鏡』など、『自分から学ぼう編』に『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p>
数研	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として技術・家庭科(技術分野)と関連した『暗号と素数』や、理科と関連した『深海の水圧』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『温度の単位』や、社会科と関連した『ビッグデータ』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『皆既日食と金環日食』など、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p>
日文	<p>カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、教科横断的な学習の課題として技術・家庭科(技術分野)と関連した『暗号と素因数分解』など、『暮らしと数学』のコーナーが掲載されている。理科と関連した『地震のP波とS波』など、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、教科横断的な学習の課題として社会科、技術・家庭科(家庭分野)と関連した『勾配』など、『数学のたんけん』のコーナーが掲載されている。理科と関連した『食塩水の濃度』など、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p> <p>カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、教科横断的な学習の課題として理科と関連した『風の力』など、『暮らしと数学』のコーナーが掲載されている。社会科に関連した『縮図の活用』の『Q』などが掲載されている。</p>

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『身長を平均をくふうして求めてみよう』や『棒の本数を求めてみよう』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『数の並びから性質を見つけよう』や『ケーキとプリンを何個買う?』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『速算のしくみを探ろう』や『コピー用紙はどんな長方形?』など、『深い学び』のコーナーが掲載されている。
大日本	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『みんなの記録と自分の記録を比べよう』や『ドッジボール大会の休憩時間は?』などが掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『スタートラインを決めよう』や『筑波山で歩いた道のりを求めよう』などが掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『式を利用して数の性質を調べよう』や『コピーで拡大するときの倍率を調べよう』などが掲載されている。
学図	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の利用』や『文字式の利用』などの『Q』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『式の利用』や『連立方程式の解き方』などの『Q』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『式の利用』や『平方根の利用』などの『Q』が掲載されている。
教出	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『正の数・負の数の活用』や『文字を使った式の活用』などの『Q』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『1次関数の活用』や『いろいろな確率』などの『Q』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『式の活用』や『関数 $y=ax^2$ の活用』などの『Q』が掲載されている。
啓林館	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『絶対値と数の大小』の『説明しよう』や『どんな数を求める計算かな?』の『話しあおう』などが掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『式の加法、減法』の『説明しよう』や『どんな数になるかな?』の『話しあおう』などが掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『関数 $y=ax^2$ のグラフ』の『説明しよう』や『変化の様子は?』の『話しあおう』などが掲載されている。
数研	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題として、『平均値と負の数』や『1次式のまとめ方』などで、『Q』や『TRY』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題として、『数に関するいろいろな性質』や『多角形の外角の和』などで、『Q』や『TRY』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題として、『直角三角形の辺に関する性質を見つけよう』の『Q』や『関数 $y=ax^2$ のグラフ』の『TRY』などが掲載されている。
日文	言語能力の育成について、第1学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『平均値の求め方をくふうしよう』や『基石の総数を表す式を求め説明しよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『スタート位置を決めよう』や『総費用で比べよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、自分の考えを説明したり、他者の考えを聞いたりする活動を課題とした『数の性質を見だし証明しよう』や『自動車が止まるまでの距離を考えよう』など、『学び合おう』のコーナーが掲載されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実

東書	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本の伝統模様の『青海波』や日本独自の数学である『小町算』などを例示した、『数学のまど』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、古くから将棋の先手を決める方法の『振り駒』を例示した、『数学のまど』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、日本の伝統的な楽器の鼓をイメージして作られた『金沢駅の鼓門』を例示した、『平方根の活用』の問題や、江戸時代の数学書『塵劫記』の問題を例示した、『三平方の問題』が掲載されている。</p>
大日本	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本の伝統工芸品の『万華鏡の模様見え方を考えよう』や、『手まりの模様の秘密』などを例示した、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、室町時代の遊びである『さっさ立てに挑戦しよう』や、鶴亀算の起源とされる『雉兎同籠』などを例示した、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、日本独自の数学である『和算』を取り上げた『江戸時代に数学が流行！？』や、万葉集などで使われる言葉遊びを取り上げた『日本の言葉と数』などを例示した、『MATHFUL』のコーナーが掲載されている。</p>
学図	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本独自の数学である『和算』などを例示した、『数学の歴史の話』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、日本独自の数学である『鶴亀算』を例示した『数学の歴史の話』のコーナーが掲載されている。日本の伝統模様の『青海波文様』や『業平格子文様』、日本の伝統工芸品の『箱根寄木細工』などを例示した、『数学見つけた！！』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、伊能忠敬の測量法を題材にした『日本地図を最初につくった人物』などを例示した、『数学の歴史の話』のコーナーが掲載されている。</p>
教出	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本独自の数学である『薬師算』や『算法新書』などを例示した、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、三浦公亮博士が考案した『ミウラ折り』を例示した、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、大工道具の1つの『さしがね』を例示した、『数学の広場』のコーナーが掲載されている。また、日本独自の数学である『和算』や自作の問題を絵馬に書いて奉納する『算額』を例示した、『和算と算額』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本古来の数学に影響を残した中国の数学書『九章算術』や日本の伝統模様の『市松模様』などを例示した、『数学ライブラリー』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、三浦公亮博士が考案した『ミウラ折り』や室町時代の遊びである『さっさ立て』などを例示した、『数学ライブラリー』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、大工道具の1つの『大矩』などを例示した、『数学ライブラリー』のコーナーが掲載されている。大工道具の1つの『曲尺』などを例示した、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』のコーナーが掲載されている。</p>
数研	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本独自の数学である『塵劫記』などを例示した、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。世界遺産である『平等院鳳凰堂』が、『平面図形の対称な図形』の導入に掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、日本に古来からある『ししおどしの竹筒の傾き』が、『1次関数』の導入に掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、日本独自の数学である『和算』などを例示した、『数学旅行』のコーナーが掲載されている。</p>
日文	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本独自の数学である『小町算』などを例示した、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、室町時代の遊びである『さっさ立て』などを例示した、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、日本独自の数学である『和算』などを例示した、『数学研究室』のコーナーが掲載されている。</p>

⑪ 体験活動の充実

東書	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『空間図形』の『いろいろな立体』では、具体物を使って、正多面体の立体模型を作ることで、面の数や辺の数などの正多面体の特徴を実際に確かめることについて掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『確率』の『くじを先にひく？あとにひく？』では、具体物を使って、3枚のうち1枚のあたりを3人が順番にひき、順番でくじのあたりやすさが関係ないことを体験的に学習することについて掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『三平方の定理を活用しよう』では、具体物を使って、2つの正方形の面積が1つの正方形の面積にぴったり並べることができ、三平方の定理が視覚的に掲載されている。</p>
大日本	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『データの分析』では、付録に掲載されている具体物を使って、一人ひとりの10mの長さの感覚について実験的に学ぶとともに、学級でのデータという生のデータを収集しヒストグラムを学ぶことについて掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『平行と合同』では、アーガイルチェックの模様を観察したり、実際にかいて作ったり特徴を見つめたりすることで、模様には隠れている図形と角について、気づいたことを話し合う活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『多項式』の『因数分解』では、付録に掲載されている具体物である四角形を、隙間なく並べてできる長方形で表すことにより、因数分解を図式化できる活動が掲載されている。</p>
学図	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『加法・減法』の学習の導入で、巻末の付録のカードゲームを行い、正の数、負の数のたし算を考えていくことが取り上げられている。『図形の計量』で角錐の体積において、立方体を切断した模型を組み立てる体験活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『確率』の学習の導入で、巻末の付録を用いて、サイコロを作り、実験できる活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『相似な図形』の導入では、大きさを変えても形が変わらないことを、輪ゴムを使って絵を描く作業を通して確認できる体験活動が掲載されている。『三平方の定理』の導入で、巻末の付録を使いどんなことがわかるか調べることが取り上げられている。</p>
教出	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『基本の作図』の導入で、巻末の付録を利用して、宝が隠された場所をさがすことが取り上げられている。『空間図形』の『立体の体積と表面積』では、巻末の付録を使うことで視覚的に学習することができる活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『確率』の導入ではサイコロを実際に投げて、出た回数を調べることができる活動が掲載されている。また、付録のカードを用いてどの出方が起こりやすいかを調べる体験活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『円』の『数学の広場』では、大工道具のさしがねを用いて円の中心を求める方法を、三角定規を用いて取り組むことで円の中心を求めることができる活動が掲載されている。『三平方の定理』の学習の導入で、巻末の付録を使って、実際に確認する題材が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『ゆっくり落ちる紙の形や大きさは？』において、どのようにすれば紙ふぶきの滞空時間が長くなるのかを調べる体験活動が掲載されている。『データを活用して、問題を解決しよう』において、大きさの違う正方形の紙の特徴や傾向を調べていくことが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『折り紙で正三角形をつくろう』において、正三角形になることを確かめることが取り上げられている。『証明といえるかな？』では、コンパスを用いて、証明を考える体験活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『平方根』の学習の導入で、教科書の方眼を使って、いろいろな大きさの正方形を描き、面積を求めていくことが取り上げられている。『ストリングアートの中にきまりをさがしてみよう』では、円周角の定理を発見する体験活動が掲載されている。</p>
数研	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『作図の基本』では、作図の要領で宝が隠された場所をさがす体験活動が掲載されている。『立体の体積と表面積』において、巻末の付録を使って立体の模型をつくって角錐と角柱の体積の関係を調べられることが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『紙テープを折ってできる三角形』では、紙テープを1回折り返し、重なった部分に二等辺三角形ができる理由を考える体験活動が掲載されている。『確率』において、巻末の付録を使い、スクラッチくじの出方についての起こりやすさを調べる問が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、三平方の定理において、定理が成り立つ理由を視覚的に判断する材料として体験活動が掲載されている。また、巻末の付録を使って、三平方の定理の証明パズルをどのように並べかえたか証明してみることが取り上げられている。</p>
日文	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『平面図形』の導入において、『麻の葉模様』がどんな図形で敷き詰められているのかを考える内容が掲載されている。巻末付録を用いて、正多面体の特徴を調べる体験活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『三角形と四角形』の導入において、二等辺三角形の作図を紹介しており、実際に取り組むことで作図が正しいことを知る内容が掲載されている。『猛暑日が多いのはどこ？』で、データを整理して特徴を考える体験活動が掲載されている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、巻末付録を用いて組み合わせてできた1つの長方形から因数分解のしくみを学ぶ体験活動が掲載されている。『相似な図形』の『縮図の活用』において、東京の地図を用いて、縮図を活用し、直接測ることができない距離や高さを求めることができる体験活動が掲載されている。</p>

⑫ 学校段階間の円滑な接続

東書	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『算数から数学へ』では、導入で九九表を扱い、小学校の既習内容を振り返ることが掲載されている。また、素数の学習とつなげ、九九表から規則性を考察する展開が掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『平行線と角』では、三角形の内角の和が180度であることを小学校の実験や実測により調べる方法が掲載されている。『ちょっと確認算数』が設けられ、内容に係る算数の既習事項が記載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『根号をふくむ式のいろいろな計算』の『いろいろな数の分母の有理化』では、多項式の分母の有理化を発展的な学習として高校の内容を取り上げられている。</p>
大日本	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『小学校算数のふり返し』において、1年次の学習に関連する小学校で学習した内容が記載されていて、学習内容にも関連して『思い出そう』というマークで小学校で学んだことが記載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、学習内容に関連して『思い出そう』というマークで前の学年までに学んだことが記載されている。『学びにプラス』では、3つの文字をふくむ連立方程式が掲載しており、高校で学ぶ数学の内容を段階的に学習ができる問題が掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『高校ではどんな数学を学ぶのかな?』では、一次不等式、2次関数、三角比、相関関係の高校で学ぶ数学の内容が、中学校での学習と関連させて紹介されている。</p>
学図	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『ふりかえり』で、小学校で学んだ『整数』や『等号』などの学校で学習した用語や性質をふり返ることができる『文字と式』『文字に当てはまる数』などが掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『ふりかえり』で、小学校で学んだ図形の性質をふり返ることができる『二等辺三角形』『正三角形』『平行四辺形』などが掲載されている。『TeaBreak平均値と外れ値』が設けられ、中学校の内容と関連した高校の内容が取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『高校へのかけ橋』では、たすき掛けによる因数分解や頂点の位置が原点ではない二次関数について掲載されており、中学校の学習と関連させて高校数学への見通しが持てる表記がされている。</p>
教出	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『整数の性質を学習する前に』が設けられ、小学校で学習した約数と倍数を復習する問題が取り上げられている。『学びのマップ』では、小学校算数の学習がどのように関連しているのか、領域ごとに分けて一覧で掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『三角形と四角形』の前に小学校第3学年・第4学年で学んだ二等辺三角形と平行四辺形の性質が掲載されている。小学校の確認『確率を学習する前に』が掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『ひろがる数学』では、因数分解の公式を発展させて新しい因数分解の公式を求めたり、平均の速さを発展させて瞬間の速さについて学んだりする学習を掲載しており、中学校3年間で学んだ数学の内容を発展させた高校数学が紹介されている。</p>
啓林館	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『正の数・負の数の利用』において小学校で学習した平均の求め方を復習することができる『ふりかえり算数』が掲載されている。『自分から学ぼう編』の『算数をふりかえろう』において、小学校で学んだ内容を確認できる掲載がされている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『同位角・錯角と平行線』では、小学校で学習した内容を三角定規の作図手順とともに掲載されている。『自分から学ぼう編』で『学びをいかそう』が設けられ、高校で学習する図形と確率の発展的な内容が掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『自分から学ぼう編』の『学びをいかそう』では、二乗に比例する関数を活用して、変化の割合の求め方を公式化する内容や放物線と直線の交点の座標を求める内容などの数学Ⅱで扱う内容が発展問題として扱われている。</p>
数研	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、各章に入る前に、小学校に学んだ内容のうち、中学校1年に関連する『△△の学習の前に』が記載されている。『中学1年のまとめ』が設けられ、中学1年の内容を小学校の内容に対応させて掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『図形の性質と合同』では小学校で学習した三角形の3つの角の和を復習する図が掲載されている。『三角形の合同条件』では、導入として小学校で学習した、三角形をコンパス・分度器を用いて作図する3つの方法が掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『平方根』の『$\sqrt{2}$が無理数であることの証明』では、$\sqrt{2}$が無理数であることを背理法を用いて証明する方法が掲載されており、高校の数学Ⅰの内容が発展的な学習として説明されている。</p>
日文	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、『次の章を学ぶ前に』で各章に入る前に、その章と関連した算数で学習した内容が記載されている。『算数の確かめ』では、小学校で学んだことを確認する内容が中学校での学習順に掲載されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、『データの分布の比較』で、四分位数の説明の際に、新学習指導要領から加わった内容で、小学校で学んだドットプロットや中央値を学び直すことについて表記されている。『数学のたんけん期待値』が設けられ、高校で学習する確率の発展的な内容が取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、『関数のグラフの活用』の『やってみよう』では、放物線と直線の交点の座標について取り上げられており、高校の内容には、『発展/高校数学』と表記してあり、発展的な学習として扱われている。</p>

⑬ 情報活用能力の育成

東書	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『暗号の仕組み』では、大きい数の素因数分解が難しいことを利用した『RSA暗号』と呼ばれる技術が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、コンビニエンスストアの販売数のデータをもとに、ヒストグラムや箱ひげ図を作成する題材が『学びをひろげよう』で掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、標本を無作為に抽出する方法として、コンピューターの表計算ソフトの操作手順が『母集団から標本を取り出す方法について考えてみよう』で紹介されている。</p>
大日本	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『データを正しく活用するには』において、折れ線グラフやヒストグラムを利用した内容は『生活の中にあふれるグラフを読むときには注意が必要だ』と記載され、正しく活用する方法が示されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『MATHFUL』の『関数を使って予想しよう』では、過去の平均気温と桜の開花日の関係から桜の開花予想日を割り出す活動が示されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『どうやって認識しているの?』ではICT活用の例として、最近のカメラでの顔認証がどのような構造で行われているかが掲載されている。</p>
学図	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、基石を並べるプログラミングを例に、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性を伝える『プログラミングを体験してみよう』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、星形正五角形をかくプログラミングを例に、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性を伝える『プログラミングを体験してみよう』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、や三平方の定理を用いて斜辺の値を求めるプログラミングを例に、論理的な思考の大切さやICT活用の重要性を伝える『プログラミングを体験してみよう』が掲載されている。</p>
教出	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『数学の広場』では、サッカーの分析をしている話を取り上げられており、情報を集め分析し、戦略を立てる際の考え方が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『数学の広場』では、列車の輸送計画に携わっている話を取り上げられており、情報を集め分析し、運行計画を立てる際の考え方が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『標本調査とデータ活用』では、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『自分から学ぼう編』の『学びを生かそう』、『プログラミングで模様をつくろう』では、プログラミングを段階的に学習する問題が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『自分から学ぼう編』の『学びを生かそう』、『プログラミングで数を並べかえよう』では、プログラミングを段階的に学習する問題が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『標本調査とデータ活用』では、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が取り上げられている。</p>
数研	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『数学旅行』の『暗号と素数』では、インターネットにおける個人情報やカード情報などのデータのやり取りで使われている暗号が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『数学旅行』の『ビッグデータ』では、ICT活用の例としてビッグデータがどのような場面で利用されているか調べる問題が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『母集団と標本』の『やってみよう』では、標本と無作為抽出する方法の一つとして、コンピューターの表計算ソフトを利用する方法が取り上げられている。</p>
日文	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、『プログラミングと数学』の『素数を求めるプログラムを考えよう』では、『Scratch』を用いたプログラミング活動が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、『プログラミングと数学』の『星形正多角形のプログラムを考えよう』では、『Scratch』を用いたプログラミング活動が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『プログラミングと数学』の『フラクタル図形のプログラムを考えよう』では、『Scratch』を用いたプログラミング活動が掲載されている。</p>

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫

東書	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、『負の数をふくめた数直線をつくってみよう』などで、学習のめあてが示されている。例と似た型の問題に『◆』がついており、例を理解してから、他の問題に取り組む設定がされている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、『単項式の乗法や除法について考えてみよう』などで、学習のめあてが示されている。例と似た型の問題に『◆』がついており、例を理解してから、他の問題に取り組む設定がされている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、『いろいろな式の展開を考えてみよう』などで、学習のめあてが示されている。例と似た型の問題に『◆』がついており、例を理解してから、他の問題に取り組む設定がされている。</p>
大日本	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、『たしかめよう』では、その問題を学習したページが記載され、できなかったときに振り返って学習する構成にされている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、『たしかめよう』では、その問題を学習したページが記載され、できなかったときに振り返って学習する構成にされている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、『たしかめよう』では、その問題を学習したページが記載され、できなかったときに振り返って学習する構成にされている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p>
学図	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、巻頭の『ノートの使い方』では、ノートの例が提示されている。既習事項などを示した『ふりかえり～算数から数学へ～』が掲載されている。『問』において『正しいかな?』と示し、間違えやすい例が提示されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、既習事項などを示した『ふりかえり』が掲載されている。『問』において『正しいかな?』と示し、間違えやすい例が提示されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、既習事項などを示した『ふりかえり』が掲載されている。『2次方程式』の『因数分解を使った解き方』では、解答の例を掲載しており、ノートを書く際に気をつける点について示されている。</p>
教出	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、つまづきを防ぐ目的で取り上げた『整数の性質を学習する前に』が掲載されている。『たしかめ』において、出題される用語などを確認できる『もどって確認』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、つまづきを防ぐ目的で取り上げた『式の計算を学習する前に』が掲載されている。問において、出題される用語などを確認できる『もどって確認』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、つまづきを防ぐ目的で取り上げた『相似な図形を学習する前に』が掲載されている。例において、出題される用語などを確認できる『もどって確認』や『補充問題』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、『正の数・負の数』で、数値が1ごと変化しているメモが掲載されている。振り返り学習を課題とした『学びをたしかめよう』が掲載されている。また、それまでの学習内容を確認する質問が設けられている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、『連立方程式』で、小学校での既習内容(時間を求める式)のメモが掲載されている。振り返り学習を課題とした『学びをたしかめよう』が掲載されている。また、それまでの学習内容を確認する質問が設けられている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、『図形と相似』では、線分の比の約分法のメモが掲載されている。振り返り学習を課題とした『学びをたしかめよう』が掲載されている。また、それまでの学習内容を確認する質問が設けられている。</p>
数研	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、『比例と反比例』の比例式の求め方では、生徒と先生の会話で自分の考えを整理することができる『例題』が掲載されている。章の学習前や用語の振り返りとして『ふりかえり』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、『1次関数』の『1次関数の式の求め方』では、生徒と先生の会話で自分の考えを整理することができる『例題』が掲載されている。章の学習前や用語の振り返りとして『ふりかえり』が掲載されている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、『平方根』の平方根の近似値では、自主学習の例が掲載されている。また、側注には、違う考え方も掲載されている。章の学習前や用語の振り返りとして『ふりかえり』が掲載されている。</p>
日文	<p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第1学年では、『データの活用』の章に入る前に、小学校で学習した関連する学習のまとめが掲載されており、既習内容を確認してから学習に進む構成にされている。『次の章を学ぶ前に』でこれから学ぶ内容と関連した問題が設けられている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第2学年では、『連立方程式』の速さの問題では、導入に掲載されている『確かめよう』で、既習事項の確認をして、これからの学習について掲載がされている。『次の章を学ぶ前に』でこれから学ぶ内容と関連した問題が設けられている。</p> <p>生徒の学習上の困難さへの対応について、第3学年では、『関数$y=ax^2$』の『関数のグラフの活用』では、生徒の吹き出しの中で第2学年で学習した内容がグラフとともに掲載されている。『次の章を学ぶ前に』でこれから学ぶ内容と関連した問題が設けられている。</p>

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

東書	<p>第1学年では、『深い学び』のコーナーの『身長平均をくふうして求めてみよう』などで『問題をつかむ』、『見通しを立てる』、『解決する』、『ふり返る』、『深める』の流れが示されている。</p> <p>第2学年では、『深い学び』のコーナーの『数の並びから性質を見つけよう』などで『問題をつかむ』、『見通しを立てる』、『解決する』、『ふり返る』、『深める』の流れが示されている。</p> <p>第3学年では、『深い学び』のコーナーの『速算のしくみを探ろう』などで『問題をつかむ』、『見通しを立てる』、『解決する』、『ふり返る』、『深める』の流れが示されている。</p>
大日本	<p>第1学年では、巻頭で学習時の問題発見、問題解決の流れを示され『75°の角度をつくろう』の題材で実際に、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の流れで取り組むことについて掲載されている。</p> <p>第2学年では、巻頭で学習時の問題発見、問題解決の流れを示され『スタートラインを決めよう』の題材で実際に、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の流れで取り組むことについて掲載されている。</p> <p>第3学年では、巻頭で学習時の問題発見、問題解決の流れを示され『校舎の高さを調べる方法を考えよう』の題材で実際に、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の流れで取り組むことについて掲載されている。</p>
学図	<p>第1学年では、『文字式の利用』において、『問題を見つけよう』、『文字式で表そう』、『いくつかの式をまとめて考えよう』、『新たな問題を見つけよう』、『文字式で表そう』、『まとめよう』と学習の流れが記載されている。</p> <p>第2学年では、『くじ引き』において、『問題を見つけよう』、『予想しよう』、『いろいろな方法で考えよう』、『まとめよう』、『条件を変えて考えよう』、『話し合おう』、『条件を変えて考えよう』と学習の流れが記載されている。</p> <p>第3学年では、『短距離走の問題』において、『問題を見つけよう』、『表を使って考えよう』、『グラフを使って考えよう』、『新たな問題を見つけよう』と学習の流れが記載されている。</p>
教出	<p>第1学年では、『文字を使った式の活用』で、『問題を見いだそう』、『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『友だちの考えを知ろう』、『みんなで話し合おう』、『学習をふり返ろう』、『深めよう』や学習のプロセスが示されている。</p> <p>第2学年では、『平行と合同』の題材『Q 角の大きさの求め方を考えよう』で、『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『友だちの考えを知ろう』、『学習をふり返ろう』、『深めよう』や学習のプロセスが示されている。</p> <p>第3学年では、『式の活用』の題材『Q 整数の性質を調べてみよう』で、『問題をつかもう』、『自分の考えをもとう』、『友だちの考えを知ろう』、『みんなで話し合おう』、『深めよう』や学習のプロセスが示されている。</p>
啓林館	<p>第1学年では、『方程式の利用』で『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』の3ステップの考え方で取り組むことについて掲載されている。</p> <p>第2学年では、『一次関数の利用』で『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』の3ステップの考え方で取り組むことについて掲載されている。</p> <p>第3学年では、『いろいろな事象と関数』で『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』の3ステップの考え方で取り組むことについて掲載されている。</p>
数研	<p>第1学年では、『比例と反比例』の章とびらでは、京都のバスの移動方法についてどのような変化をしたのか考えさせ、比例と反比例の考え方について掲載されている。『探究ノート』で書き込み式のワークシートが付されている。</p> <p>第2学年では、『三角形と四角形』の章とびらでは、どんな共通点があるか考えさせ、二等辺三角形の性質について掲載されている。『探究ノート』で書き込み式のワークシートが付されている。</p> <p>第3学年では、『相似』の章とびらでは、『拡大・縮小されたもの』というテーマで画像が掲載されている。『探究ノート』で書き込み式のワークシートが付されている。</p>
日文	<p>第1学年では、『学び合おう』のコーナーの『平均値の求め方をくふうしよう』などで『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』の流れが示されている。</p> <p>第2学年では、『学び合おう』のコーナーの『スタート位置を決めよう』などで『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』の流れが示されている。</p> <p>第3学年では、『学び合おう』のコーナーの『数の性質を見いだし証明しよう』などで『見通しをもとう』、『考えよう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』の流れが示されている。</p>

⑩ 数学的活動を通して、基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。

東書	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『比例と反比例の利用』の『Q考えてみよう』では、学校行事を題材とし、課題解決の中で必要となる知識及び技能を身に付ける活動が掲載されている。例題の類題には◆のマークがあり、問題の類題ページも記載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『文字式の利用』の『Q調べてみよう』では、『数の性質を説明するには?』を題材にして課題解決の過程で、知識及び技能を図る活動が掲載されている。例題の類題には◆のマークがあり、問題の類題ページも記載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『相似な図形』の『Q調べてみよう』では、日常生活にある経験『どのように拡大されているかな?』を題材にして、課題解決の中で必要となる知識及び技能を身に付ける活動が掲載されている。例題の類題には◆のマークがあり、問題の類題ページも記載されている。</p>
大日本	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『文字と式』の『学びにプラス』で問題に対する間違えた解答例が取り上げられ、説明する課題が設けられてる。間違いを正すことでより知識及び技能が身に付く学習が掲載されている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『平行と合同』の『学びにプラス』でくさび形の図形の角度を求める課題を考える学習が設けられており、話し合い活動をする掲載がされている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『相似と比』の『学びにプラス』でノートの罫線を使い、線分を三等分する方法について考える課題において、基礎的な知識及び技能の定着を図る活動が掲載されている。解答付きの類題として『プラス・ワン』や『補充問題』が掲載されている。</p>
学図	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『正の数・負の数の利用』で学校でのことがらを題材とし、生徒同士の会話から自分の考えを整理し、生徒の例をもとに課題解決の活動が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『連立方程式の利用』では、日常生活で活用できることがらを題材とし、生徒同士の会話から自分の考えを整理し、生徒の例をもとに課題解決の活動が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『三平方の定理の利用』で実社会でのことがらを題材にし、生徒同士の会話から自分の考えを整理し、生徒の例をもとに課題解決の活動が掲載されている。</p>
教出	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『Q 目標を達成することはできるのかな?』などで『問題を見出そう』や『問題をつかもう』などの学習のプロセスを意識した学習展開が掲載されている。『たしかめ』や『もどって確認』、『補充問題』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『Q 目標を達成するための走り方を考えよう』などで『自分の考えをもとう』や『友だちの考えを知ろう』などの学習のプロセスを意識した学習展開が掲載されている。『たしかめ』や『もどって確認』、『補充問題』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『Q どのくらい遠くまで見渡すことができるのかな?』などで『問題をつかもう』や『自分の考えをもとう』などの学習のプロセスを意識した学習展開が掲載されている。『たしかめ』や『もどって確認』、『補充問題』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『正の数・負の数の利用』において大縄跳びの記録の考察を題材に、既習の知識を活用して、『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』と学習の流れが示されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『式の計算』においてカレンダーの特性を題材に、既習の知識を活用して、『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』と学習の流れが示されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『二次方程式』において畑と道の面積を題材に、既習の知識を活用して、『場面の状況を整理し、問題を掲載しよう』、『見通しを立てて、問題を解決しよう』、『問題をひろげたり、深めたりしてみよう』と学習の流れが示されている。</p>
数研	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『文字と式』の文字式の利用法を理解することにおいて日常生活のことがらが題材とされ、ごみの減少量について考える中で生徒同士の会話文をヒントに理解を深められる『TRY』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『平行線と角』の多角形の外角の性質を理解することにおいて三角形、五角形、十角形から規則性を見つける活動が設けられ、生徒同士の会話文をヒントに理解を深められる『TRY』が掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『関数$y=ax^2$』の関数$y=ax^2$の特徴を理解することにおいて、ボールを転がした時の様子について生徒の考えが掲載されており、生徒同士の会話文をヒントに理解を深められる『TRY』が掲載されている。</p>
日文	<p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第1学年では、『基石の総数を表す式を求め説明しよう』において、既習の知識を活用して、『数学の問題にする』、『見通しをもつ』、『自分で考える』、『ふりかえる』、『深める』、『もっと深める』の流れが掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第2学年では、『くじのあたりやすさを調べて説明しよう』において、既習の知識を活用して、『数学の問題にする』、『見通しをもつ』、『自分で考える』、『ふりかえる』、『深める』の流れが掲載されている。</p> <p>基礎的な知識及び技能を身に付けるための工夫について、第3学年では、『どこまで見えるか調べよう』において、既習の知識を活用して、『数学の問題にする』、『見通しをもつ』、『自分で考える』、『ふりかえる』、『深める』、『もっと深める』の流れが掲載されている。</p>

⑪	言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、論理的に考察し、さらにその過程を振り返り、その考えを表現して深めるための工夫や配慮がなされているか。
東書	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『深い学び』のコーナーの『身長の平均をくふうして求めてみよう』などでグラフや表を用いて説明し、解決を図る一連の学習活動の流れが示されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『深い学び』のコーナーの『数の並びから性質を見つけよう』などでグラフや表を用いて説明し、解決を図る一連の学習活動の流れが示されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『深い学び』のコーナーの『走行時の速さを推測しよう』などでグラフや表を用いて説明し、解決を図る一連の学習活動の流れが示されている。</p>
大日本	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『進行のようすを調べよう』において、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の一連の流れが設けられている。表・グラフ・式を用いて、論理的に考察し、深めていく活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『富士山八合目の気温を予想してみよう』において、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の一連の流れが設けられている。既習事項を基礎知識とし、言葉・図・表を用いて、論理的に考察し、多様な考え方で式化していく活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『停止距離は何mになるだろうか?』において、『問題を見いだそう』、『解決のしかたを探ろう』、『解決しよう』、『深めよう』の一連の流れが設けられている。言葉・表・グラフ・式を用いて、論理的に考察し、深めていく活動が掲載されている。</p>
学図	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『比例と反比例』の章末にある『深めよう』では、震源までの距離と初期微動継続時間の関係を比例を用いて学ぶ課題で、表から数式を求めることにより論理的に考察する学習が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『1次方程式』の章末にある『深めよう』では、ガソリン車とハイブリット車の費用の比較を表とグラフを用いて説明し、どちらの方がお得か、自分の考えを説明する問題が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『三平方の定理』の章末にある『深めよう』では、調べた富士山が見える範囲よりも外に位置してるところから富士山を撮影することができるか考える問題で、図を活用することで、なぜ撮影することができるのか、論理的に考察する学習が掲載されている。</p>
教出	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『板は何枚必要かな?』において、『問題を見いだそう』、『つかもう』、『考えをもとう』、『友だちの考えを知ろう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』の一連の流れが設けられている。論理的に考察し、他者の考え方と比較し深めていく活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『どちらの会社に依頼すれば得になるかな?』において、『問題をつかもう』、『考えをもとう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』、『深めよう』の一連の流れが設けられている。論理的に考察し、表・式・グラフを利用することのよさについて振り返る活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『自動車を安全に停車させるには?』において、『問題をつかもう』、『考えをもとう』、『話し合おう』、『ふり返ろう』の一連の流れが設けられている。論理的に考察し、適切に解決する活動が掲載されている。</p>
啓林館	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『リサイクルすると?』において、問題掲載、見通しを持ち、解決、深める(話し合う)一連の流れが設けられている。言葉・表から論理的に考察し、見通しを立てて問題を解決する活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『ダム貯水量は?』において、問題掲載、見通しを持ち、解決、深める(話し合う)一連の流れが設けられている。言葉・表から論理的に考察し、見通しを立てて問題を解決する活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『自動車の制動距離』において、問題掲載、見通しを持ち、解決、深める(話し合う)一連の流れが設けられている。図・グラフ・表から論理的に考察し、見通しを立てて問題を解決する活動が掲載されている。</p>
数研	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『調べよう』のコーナーの『式と表とグラフ』では、実際にノート作りされている写真が掲載されており、反比例の式と表とグラフが互いにどのような関係になっているか調べる学習が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『見つけよう』のコーナーの『ダイヤグラム』では、ダイヤグラムを活用してグラフから式を求めたり、言葉で説明する課題が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『調べよう』のコーナーの『山の頂上から見渡せる距離』では、富士山の頂上から見渡せる最も遠い位置を求めることについて、事象を図で表し数式を求めることで論理的に考察する問題が掲載されている。</p>
日文	<p>考えを表現して深めることについて、第1学年では、『学び合おう』のコーナーの『ポスターの文字の大きさを決めよう』において、数学的な問題として捉え、見通しを持ち、表やグラフを活用し、話し合い、振り返り、深める一連の流れが示され、論理的に考察し、課題を解決する活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第2学年では、『学び合おう』のコーナーの『総費用で比べよう』において、数学的な問題として捉え、見通しを持ち、表やグラフを活用し、話し合い、振り返り、深める一連の流れが示され、論理的に考察し、課題を解決する活動が掲載されている。</p> <p>考えを表現して深めることについて、第3学年では、『学び合おう』のコーナーの『自動車が止まるまでの距離を考えよう』において、数学的な問題として捉え、見通しを持ち、表やグラフを活用し、話し合い、振り返り、深める一連の流れが示され、論理的に考察し、課題を解決する活動が掲載されている。</p>

⑱ 不確定な事象を取り扱うなかで、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断するような題材の工夫、批判的に考察し、問題解決に取り組めるような題材の工夫や配慮がなされているか。	
東書	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『データの分析と活用』の『章の問題B』では、スケート場の貸出用の靴のサイズについての課題で、『平均値である24.5cmの靴を最も多く買うのは適切ではありません。その理由を下の図をもとに説明しなさい。』という問題が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『データの比較』の箱ひげ図を用いて各商品の販売数の傾向を調べる問題では、自分が調べる内容によって、異なる箱ひげ図が掲載されている。また、『これまで調べたことから』と表記されており、箱ひげ図だけでなく、ヒストグラムや表を用いた学習に取り組む活動が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『標本調査の利用』において、街頭アンケートやインターネット広告の調査方法について適切か判断し、アンケート調査の方法を考え実際に標本調査を行う活動が掲載されている。</p>
大日本	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『データの分析』の都道府県別の学校数についての課題では、自分で都道府県の一つを選び、その都道府県の学校数の傾向を読み取り、代表値を用いて判断する活動が設けられている。また、統計を活用した仕事が紹介されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『データの比較と箱ひげ図』の章とびらでは、同じ月の同じ場所での写真を比べ、今まで学習した平均値と中央値では結果がわからないことをきっかけに、批判的に考察する活動が設けられている。また、統計を活用した仕事が紹介されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『標本調査』の『調査方法や結果の解釈は適正か判断しよう』では、アンケート調査の方法と結果が適正であるかどうかを批判的に考察し、気づいたことを説明する問題が掲載されている。また、統計を活用した仕事が紹介されている。</p>
学図	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『データの活用』の章とびらの『反応の速度はどのくらいかな?』で実験をして、データを収集し、全体のデータから自ら資料の傾向を読み取って判断し、他者と話し合い考えをまとめ、2クラスのどちらが記録が良いか調べる学習が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『データの分析』の章とびらの『雨が多いのは?少ないのは?』で表・グラフ・箱ひげ図を活用して、自分で目的に応じてデータを処理し考察する学習が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『標本調査』の章とびらの『どうやって調べているの?』で視聴率や世論調査、手荷物検査などの調査はどのように行なっているのか、話し合い活動を通して、その傾向を読み取って判断する学習が掲載されている。</p>
教出	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『データの分析』の導入の『Let's Try』のコーナーの『どちらのルートを利用すればよいか?』では、表や棒グラフを用いて、傾向を読み取り、問題解決を図る学習が設けられている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『学んだことを活用しよう』のコーナーの『どの順番で勉強したのかな?』では与えられた条件を根拠に答えを推察する課題が掲載され、表から結果をまとめ、判断する学習が示されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『標本調査』の『章の問題』のコーナーでは、調査の結果を批判的に判断した生徒の理由を説明し、問題解決を図る問題が掲載されている。</p>
啓林館	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『学びをいかそう』の『ヒストグラムを観察しよう』では、データから平均値、中央値、最頻値を求める問題が掲載されており、データを読み取ったり判断したりする際に、どの代表値を使えば良いのか考える活動が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『学びをいかそう』の『代表を決めよう』では、クラスの代表を決める際にデータから代表値を求めて、その傾向を読み取る流れが掲載されている。そして、一度求めた考察を批判的に考察し、さらに学習を深める問題が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『学びをいかそう』の『データを整理するときには?』では、データが提示され、自分が調べたいことに応じて必要な情報を抜き出し、代表値などからその傾向を読み取って、整理する方法を考える問題が掲載されている。</p>
数研	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、別冊『探究ノート』の『きれいなおうぎ形』ではワークシートを使い、きれいと感じるおうぎ形の中心角のデータを集め、処理方法によって分析して傾向を読み取り、批判的に考察ができる掲載がされている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、別冊『探究ノート』の『長さの感覚を調べよう』ではワークシートを使い、長さが10cmだと思ふ線分をひき、その実際の長さのデータを集め、分析して傾向を読み取る活動が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、別冊『探究ノート』の『教科書中の文章の数』では、ワークシートを使い、教科書のページを無作為に抽出し句点の数のデータを集め、文章の総数を推定する活動が掲載されている。</p>
日文	<p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第1学年では、『数学のたんけん』のコーナーの『データを分けて調べてみると』では、与えられたデータを違う見方で分析することで、与えられた結果を批判的に考察し、判断することができる問題が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第2学年では、『深めよう』が示された問で、『例2で求めた確率と同じで5分の2になりますか。ならない場合はその確率を求めましょう。』と記載されており、批判的に考察し判断する問題が掲載されている。</p> <p>データ処理して問題解決に取り組む工夫について、第3学年では、『深めよう』が示された問で、それぞれの説明文は適切であるかどうか考えさせる問題が設けられ、批判的に考察し、問題解決に取り組める掲載がされている。</p>

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	全学年とも項ごとに『めあて』、『考えてみよう』や『調べてみよう』、『例』、『問』、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題A・B』が掲載されている。第1、2学年は7章、第3学年は8章で構成されている。また、巻末に『大切にしたい見方・考え方』、『数学の自由研究』、『補充の問題』、第1学年に『算数の確認』、『1年の確認』、第2学年に『1年の確認』、『2年の確認』、第3学年に『学びのつながり』が掲載されている。
大日本	全学年とも項ごとに『考えよう』、『めあて』、『活動』、『例』や『たしかめ』、『Q』、節の最後に『たしかめよう』、章の最後に『○章を振り返ろう』、『力をのばそう』、『活用・探究』が設けられ、第1、第2学年は7章、第3学年は8章で構成されている。また、巻末に『もっと数学の世界へ』のコーナーとして『課題学習』、『MATHFUL』、『補充問題』、『総合問題』、第1学年に『小学校算数のふり返り』、第2学年に『1年の復習』、第3学年に『1・2年の復習』が掲載されている。
学図	全学年とも項ごとに『Q』、『目標』、『例』、『問』、『どんなことがわかったかな』、『次の課題へ』、節の最後に『確かめよう』、章の最後に『○章のまとめの問題』が掲載されている。第1、第2学年は7章、第3学年は8章で構成されている。また、巻末に『さらなる数学へ』のコーナーとして『見方・考え方』をまとめよう』、『今の自分を知ろう』、『表現する力を身につけよう』、『疑問を考えよう』、『数学の歴史の話』、第3学年に『高校へのかけ橋』が掲載されている。
教出	全学年とも項ごとに『Q』、『たしかめ』、『例』、『問』、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『章の問題』が掲載されている。第1、第3学年は8章、第2学年は7章で構成されている。また、巻末に『学びのマップ』、『数学の広場』、『学んだことを活用しよう』、『補充問題』、第3学年に『ひろがる数学』、『総合問題』が掲載されている。
啓林館	全学年とも『みんなで学ぼう編』と『自分から学ぼう編』の2部構成で、『みんなで学ぼう編』では、項ごとに『例』、『問』、節の最後に『基本の問題』、章の最後に章末問題『学びをたしかめよう』、『学びを身につけよう』が掲載されている。第1、第2学年は7章、第2学年は8章で構成されている。また、巻末に『もっと練習しよう』、『数学ライブラリー』が掲載されている。『自分から学ぼう編』では、『力をつけよう』、『学びをいかそう』、第1学年に『算数をふりかえろう』が掲載されている。
数研	全学年とも項ごとに『目標』、『Q』、『例』、『問』、『TRY』、『まとめ』、節の最後に『確認問題』、章の最後に『問題A・B』が掲載されている。第1、第2学年は7章、第2学年は8章で構成されている。また、巻末に『数学旅行』、『ぐんぐんのぼそう チャレンジ編』、第1学年に『中学1年のまとめ』、第2学年に『中学2年までのまとめ』、第3学年に『1年・2年の復習』、『中学3年間のまとめ』が掲載されている。別冊に『探究ノート』が付され、本冊の内容から『探究』、『課題学習』が掲載されている。
日文	全学年とも項ごとに『Q』、『めあて』、『例』、『問』、節の最後に『基本の問題』、章の最後に『○章の問題』、『とりくんでみよう』が掲載されている。第1学年は7章、第2学年は6章、第3学年は8章で構成されている。また、巻末に『数学 マイ トライ』のコーナーとして『数学を仕事に生かす』、『暮らしと数学』、『数学研究室』、『プログラムと数学』、『数学レポートを書こう』、『補充問題』、『活用の問題』、第1学年に『算数の確かめ(問題編)』、第2学年に『1年の復習』、第3学年に『総合問題』、『ステップアップ』が掲載されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	全学年とも判型はB5判が採用されている。
大日本	全学年とも判型はB5判が採用されている。
学図	全学年とも判型はB5判が採用されている。
教出	全学年とも判型はB5判が採用されている。
啓林館	全学年とも判型はB5判が採用されている。
数研	全学年とも判型は本冊、別冊ともにB5判が採用されている。
日文	全学年とも判型はB5判が採用されている。

⑳ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。

東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく、読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
大日本	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
学図	『誰にでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
啓林館	メディアユニバーサルデザイン製品に認定された『MUDマーク』、ユニバーサルデザインフォントを使用している製品として『UDFONTマーク』が表記されている。
数研	『この教科書は、ユニバーサルデザインの視点に基づき、より多くの人利用しやすいように配慮しています。』と表記されている。
日文	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第1学年 21ページ 東京湾アクアライン 風の塔（川崎人工島）、22ページ 三溪園の写真（横浜市）、109ページ 地図（橋本駅）、149ページ 車いすマラソンの写真（横須賀市）、188ページ みなとみらい21の写真（横浜市）、244ページ スケート場の写真（横浜市） 第2学年 11ページ 等々力陸上競技場の写真（川崎市）、94ページ 横浜ランドマークタワーの写真（横浜市）
大日本	第2学年 209ページ 平均気温（横浜） 第3学年 38ページ 横浜マリンタワーの写真（横浜市）
学図	第1学年 76ページ よこはま動物園ズーラシアの写真（横浜市） 第2学年 裏表紙 箱根寄木細工の写真（足柄下郡） 第3学年 256ページ 『富嶽三十六景』神奈川冲浪裏
教出	第1学年 193ページ 根岸森林公園の写真（横浜市）、206ページ 湘南台文化センターの写真（横浜市） 第2学年 60ページ デュアスロン大会の写真（横浜市）、200ページ 都道府県の面積（神奈川県） 第3学年 177ページ 明月院の写真（鎌倉市）、257ページ 『富嶽三十六景』神奈川冲浪裏
啓林館	第1学年 170ページ 東京湾アクアライン「風の塔」の写真（川崎市） 第3学年 190ページ 横浜ランドマークタワーの写真（横浜市）、202ページ 睡眠時間ランキング（神奈川県）
数研	第3学年 表紙裏 よこはまみなとみらい21の写真（横浜市）
日文	第3学年 表紙裏 『富嶽三十六景』神奈川冲浪裏

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名	1年	1年 別冊	2年	2年 別冊	3年	3年 別冊
東書	有		有		有	
大日本	有		有		有	
学図	有		有		有	
教出	有		有		有	
啓林館	有		有		有	
数研	有	無	有	無	有	無
日文	有		有		有	

③ 一冊ごとの重量(g)							
発行者名	冊数	1年	1年 別冊	2年	2年 別冊	3年	3年 別冊
東書	3	535		424		471	
大日本	3	548		422		510	
学図	3	552		475		540	
教出	3	570		475		515	
啓林館	3	541		433		515	
数研	6	518	97	425	96	519	108
日文	3	548		420		490	

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい科学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、章末に重要語句の確認としての『学んだことをチェックしよう』や、単元末に基本事項の確認として『確かめと応用』が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、探究の過程に関する言語活動として『課題に対する自分の考えは?』や『考察しよう』などが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、環境の保全に関する『温暖化予測で世界に貢献』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な課題としてのSDGsに関連する『温暖化』などを取り上げた『世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『楽器づくり』などの職業が取り上げられた『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や章末の『学んだことをつなげよう』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(技術分野)の学習内容と関連した『物質の性質』などに『教科関連マーク』が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭では話し合いと発表の仕方がキャラクターの活動で例示された『伝わる言葉にしよう。発表のしかた』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、食品に利用される菌類や細菌類としてみそや納豆が『自然のなかの生物』で取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ルーペの使い方やスケッチのしかたを例示した『身近な生物の観察』や、花を分解する『花のつくりの観察』などが設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『P波とS波のちがいが』『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『科学技術の発展』では、インターネットで情報収集する際の注意について取り上げた『つながる科学』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の流れを示すと共に、学習活動を示す『?課題』や『!結論』などのマークが示された『科学で調べていこう』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> これから学ぶ内容の導入として『レッツスタート!』が各節冒頭に設けられている。また、ページ下端に探究の流れが色分けして示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2~5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、探究の流れが問題発見から活用へと続く形式で設定され、章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、微生物のはたらきを取り上げた『生活排水はどこへ行く?』などが『つながる科学』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、校内の気象要素の継続観測が取り上げられた『天気の変化』が掲載されている。観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 章末に『各節の課題に対する結論の例』などが、単元末には『学習内容の整理』や『確かめと応用』などが掲載され、4~5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	大日本	書名	理科の世界 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基本的な知識の定着として『章末問題』が設けられている。また、単元末の振り返りとして、『まとめ』や『単元末問題』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、巻頭に探究のプロセスを示す『理科の学習の進め方』が掲載されている。また、単元末には『読解力問題』が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容とつながりのある『津波警報』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、自然環境の保全に関する『プラスチックのリサイクル』などが取り上げられた『くらしの中の理科』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、SDGsに関連する国際的な取組として『ラムサール条約』などが取り上げられた『SciencePress』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『水族館』や『水処理センター』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、探究活動の過程が『結果から考えよう』などのマークにより示されている。また、対話的な活動が『話し合おう』のマークにより設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、保健体育科の学習内容と関連した『一酸化炭素』などに『つながる』のマークが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合い活動に『話し合おう』などのマークが付され、キャラクターによる話し合いの例が示されている。章末に『読解力問題』が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、植物と万葉集の関連が『万葉集から見る植物』で示され、伝統や文化が関連する事柄として『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、発泡ポリスチレンを用いたものづくりとして『原子や分子の模型をつくってみよう』を取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『粒子の運動と熱の関係』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、ICT機器を用いた情報収集の方法と注意を取り上げた巻末資料『探究の進め方』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の流れを示すと共に、『問題を見つけよう』など学習活動を示すマークが取り上げられた『理科の学習の進め方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭に『①問題の発見』から『⑦解説など』までの問題解決のプロセスと教科書との関連が示された『理科の学習の進め方』が設けられている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、学年ごとに考えを深める重点が色分けしたマークで示されている。実験では、探究の過程で『着目点』などの項目が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容と関連して『気象と農業の関係』や『霧を防ぐ工夫』などが取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『身近な物理現象』では、透明半球と凸レンズを使い目の模型を作る活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 章末に『章末問題』、単元末に『探究活動』や『単元末問題』が掲載され、4～6単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	学図	書名	中学校科学3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、どのような知識を身に付けるかが『Can-Do List』で示され、章末には『何ができるようになったか』で内容を振り返る活動が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『気づき』から『考察』まで、探究の過程の例が吹き出しで示された『探究のページ』が設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『なぜ理科を学ぶの?』では、スポーツ分野での理科の活用例が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、『自然・科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する取り組み例として『弘前だんぶり池』などが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な取組であるSDGsが『理科のトリセツ』や『持続可能な開発目標』で取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、海底地震計などの科学技術やパイロットなどの職業について取り上げた『ミッションX』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、参照ページとともに『どうやったら対話的になるの?』などの解説が、巻頭の『理科のトリセツ』で示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、実験に用いる「結果」、「考察」などの語句の説明が『つながり・国語』として『つながる』マークで示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭にはレポートの書き方や発表の仕方などが示された『理科のトリセツ』や『授業を受けるコツ』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『酸とアルカリ』では、ぬかみその漬物や肉をやわらかくするなどの『酸やアルカリの利用』を取り上げた『資料』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、身の回りのものを用いた工作として、『牛乳パックでできる望遠鏡の製作』を取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校での学習内容の『電気分解での塩素の発生』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットでの情報収集の注意点を上げた『学び続ける理科マスター!』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、巻頭に『考察』や『ふり返り』などの学習活動を示すマークを示した『教科書の使い方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『どのように学びに向かうか』などの章の目標が、各章冒頭の『Can-Do List』で示され、『この時間の課題』として理科の見方、考え方がページ右上に設けられている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、探究の進め方で気をつけることが、『探究の進め方』で示されている。観察、実験では、重視するポイントが色分けしたマークで示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容に関連した『運動エネルギーの大きさの例』として、スポーツの運動エネルギー換算値が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『電流とそのはたらき』では、身近な材料で制作するクリップモーター作りが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『学び続ける理科マスター』や『学びを日常にいかしたら』が掲載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『だれにでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	教出	書名	自然の探究 中学理科 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、学習内容の定着として、章末には『要点をチェック』や『学習後の私』が設定され、単元末には『要点と重要用語の整理』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各単元にまとめの例として、考察を通して論理的な表現をする『私のレポート』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習内容と日常生活の関連として『コピー機の仕組み』などを取り上げた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、生命尊重や環境保全の観点から、生物等の採集や観察、実験では、『注意マーク』で環境に影響を与えないことについて説明が記載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、SDGsに関連する国際的な取組である『海洋ごみ』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、白川英樹氏などノーベル賞を受賞した科学者とその功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、探究活動において話し合いを取り入れる活動にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』などのマークが示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、数学科の学習内容と関連した「比例」などに『ブリッジ数学』のマークが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合い活動や考えを表現する活動には『話し合おう』などのマークが示されている。巻頭には、レポート作成の例がまとめ方とともに示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、酸化・還元の例として『たたら製鉄と現代の製鉄』が取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、学校や自宅で飼育する動物の生活環境などを調べる『身近な脊椎動物の特徴を調べよう』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『運動の法則』が『発展 高校』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットの活用を通じた情報収集の利点や危険性について取り上げられた『ハローサイエンス』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、巻頭に学習の流れが示され、『課題』や『仮説』などの学習活動を示すマークを示した『探究の進め方』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 探究活動の流れを確認する『探究の進め方』が巻頭に設けられ、観察や実験では、目的から考察までの流れが矢印で示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、ページの端に色がついたバーで示された『疑問から探究してみよう』が設定されている。また、計画の立て方や発表などの例が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、学習内容と関連がある『積乱雲の発達』や『さびたネジ』などの身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『大地の躍動と恵み』では、火山の噴火装置を制作するものづくり活動を取り上げた『チャレンジ』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『要点と重要用語の整理』や『基本問題』、巻末に『学年末総合問題』が掲載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《理科》

※詳細については、資料Ⅱ(理科-6～理科-17)を参照。

発行者の略称	啓林館	書名	未来へひろがるサイエンス3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○『教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された『資質・能力』の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、重要語句の確認として章末に『基本のチェック』が、学習内容のふり返りとして単元末に『力だめし』が設けられている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、科学的な表現活動の例として、レポートにまとめる際のポイントが示された『わたしのレポート』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、日常生活と学習内容の関連として『イオン飲料で水分とイオン補給』などが取り上げられた『科学コラム』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、環境保全に関する内容に『環境マーク』が示されている。また、動物の扱いに対する注意が『ポイント』として記載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際的な取組としてSDGsをテーマにした2025年大阪・関西万博を取り上げた『ひろがる世界』のコーナーが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『学芸員』や『動物園デザイナー』などの職業を取り上げた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合いと発表の要点が『サイエンス資料』で示されている。また、話し合いの活動が『話し合ってみよう』などのマークで示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科の学習内容に関連して、『社会科と関連』の教科関連マークとともに『石基ばかりの火山岩でつくられた石器』が取り上げられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、仮説や計画を言葉で表現する活動が『探Q実験』で設定されている。また、話し合い活動として『表現してみよう』などのマークが示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、微生物のはたらきと関連させて『麹菌と日本特有の発酵食品』を取り上げた『お料理ラボ』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、身近な題材として園芸用の鹿沼土を用いて火山灰の成分を観察する実験などが『ためしてみよう』に掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、高校の学習内容の『同素体』が『発展』として取り上げられ、『高校化学へ』のマークで示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報の入手や共有方法や、情報収集する際の注意について取り上げた『ICTの活用』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、単元の始めに『学びの見通し』と学習内容に関連した課題として『学ぶ前にトライ!』が設定されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻頭に『課題の把握』→『課題の追究』→『課題の解決』のサイクルが示された『探究の過程』や、課題解決のプロセスと教科書本文の関連が示された『教科書の使い方』が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 科学的に探究する力の育成について、単元ごとに、観察・実験を計画し、結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する項目に『ここをしっかりと!』と付されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、身近な事柄と学習内容の関連が示された『体の中にも塩酸があるの?』などが『深めるラボ』で掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 体験的な学習活動について、『光・音・力による現象』では、『タブレット顕微鏡づくり』などのものづくりの活動が取り上げられた『深めるラボ』などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 単元末に『学習のまとめ』や『力だめし』、『みんなで探Qクラブ』、巻末に『学年末総合問題』が記載され、4～5単元で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅱ】

教科種目名《理科》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、全学年とも、各章末に『学んだことをチェックしよう』、単元末に『学習内容の整理』『確かめと応用』が設定されている。また、『巻末資料』には基本操作などが掲載されている。既習内容をふまえて『例題』『練習』『確認』や具体的な解説の場面『考え方』が設けられている。
大日本	「知識・技能」の習得について、全学年とも、基本的な知識の定着として、各章ごとに『章末問題』が設けられ、問題に対応した参照箇所が記載されている。単元末の振り返りとして、単元末には『まとめ』や『単元末問題』が設けられている。『基本操作』では、実験器具の基本的な操作が図や写真を用いて示されている。
学図	「知識・技能」の習得について、全学年とも、どのような知識を身に付けるかが各章はじめの『Can-Do List』で示され、章末の『何ができるようになったか』では『Can-Do List』の内容を振り返る活動が設定されている。また、基本操作・基本技能については、『基本操作』と表示された囲みの中で、手順や注意書きが記載されている。
教出	「知識・技能」の習得について、全学年とも、学習内容の定着として、章末には『要点をチェック』や『学習後の私』が設定され、要点に対応した参照箇所が示されている。単元末には『要点と重要用語の整理』が掲載されている。器具の使い方などを示した『基礎技能』や『レポートの書き方』が掲載されている。
啓林館	「知識・技能」の習得について、全学年とも、重要語句の確認として章末に『基本のチェック』が、単元末に『力だめし』が設けられている。実験の基本的な技能が『実験のスキル』や『サイエンス資料』で示されている。計算の活動などは『例題』が設定され、同じ考えで取り組む『練習』が設けられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、『課題に対する自分の考えは?』『調べ方を考えよう』『考察しよう』など探究の過程に関する言語活動が設けられている。また、理科の見方・考え方が『科学のミカタ』で示されている。
大日本	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、巻頭に探究のプロセスを示す『理科の学習の進め方』が掲載されている。観察・実験では考察するポイントとして『結果から考えよう』や、結果の例が示されている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や、単元末には『読解力問題』が設定されている。
学図	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、『気づき』から『考察』まで、探究の過程の例が吹き出しで示された『探究のページ』が設けられている。各学年での探究の過程の重点が色分けされて示されている。ふり返りとして、章末の『何ができるようになったか』が設けられている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、巻頭にレポートの書き方と、各単元にまとめの例として、考察を通して論理的な表現をする『私のレポート』が掲載されている。また、『話し合おう』『やってみよう』『考えよう』などで思考や表現の活動が設定されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年とも、科学的な表現活動の例として観察・実験の後に『わたしのレポート』が掲載され、レポートにまとめる際のポイントが示されている。また、グラフの作成や作図、モデル図の描画など、表現の場面として『かきこみ』が設けられている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮

東書	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、冬の川霧など身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、水を入れたコップなど身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、ボーリングなど身の回りの事象を用いた導入が設定されている。巻頭にはキャラクターに吹き出しをつけた話し合い活動が例示された『探究の流れと教科書の使い方』が設けられている。学習内容と社会や生活とのつながりが『私たちとつながる科学』などで取り上げられている。</p>
大日本	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、学習内容とつながりのある『津波警報』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『音響設計士』や『水族館で働く人』など、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、学習内容とつながりのある『果物や野菜の維管束』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『船長』が、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、学習内容とつながりのある『力の分解の活用例』など身の回りの内容が取り上げられた『くらしの中の理科』が掲載されている。また、『professional』に『博物館学芸員』や『中性子の研究者』など、学習内容と関連した仕事に掲載されている。</p>
学図	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、スポーツ分野での理科の活用例が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、『飛行機を安全に運ばせよ!』で空港ではたらく人が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年の巻頭『なぜ理科を学ぶの?』では、『自然災害から身を守れ!』で防災・減災に取り組む人が取り上げられた『ミッションX』が掲載されている。『理科のトリセツ』では、理科を学ぶ意義や探究の方法が示されている。</p>
教出	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、単元の導入や各章の導入に『さまざまな材料でできたコップ』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『まぜるな危険』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、単元の導入や各章の導入に『雷(いなずま)』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『コピー機の仕組み』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、単元の導入や各章の導入に『草津温泉』などの身近な事物や現象が掲載されている。また、『中和の利用～酸性河川の中和事業～』など学習内容と日常生活との関連が取り上げられた『ハローサイエンス』や『発展』が掲載されている。</p>
啓林館	<p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第1学年では、『塩分のとりすぎにご注意を』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第2学年では、『ケーキ屋さんやパン屋さんは化学の達人!』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、第3学年では、『イオン飲料で水分とイオン補給』など日常生活と学習内容の関連が取り上げられた『活用してみよう』や『科学コラム』が掲載されている。また、単元末には『ひろがる世界』として掲載されている。科学的に探究する態度の育成について『探究ガイダンス』が設けられている。</p>

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。

(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)

東書	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、自然環境の保全に関する『動物園から世界が見えてくる』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、自然環境の保全に関する『温暖化予測で世界に貢献』などが取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、生命の尊重に関連した新技術に関する『再生医学への挑戦』が取り上げられた『from Japan 世界につながる科学』のコーナーが掲載されている。男女のキャラクターが登場し、イラストには外国にルーツを持つ生徒が活動する様子も掲載されている。</p>
大日本	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。巻頭では、生命の尊重に関連した『動物の命を守る』という内容で『獣医』のコメントが掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。『生物の体のつくりとはたらき』では、生命の尊重に関連し、メダカを素早く水槽に戻すこと、直接接触しないことなどが『注意』として示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、環境や資源に関わる物事に『環境マーク』が表示されている。『科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する『プラスチックのリサイクル』などが取り上げられた『くらしの中の理科』のコーナーが掲載されている。</p>
学図	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年の『身近な生物の観察』では、『Can-Do List』の『どのように学びに向かうか』で生命を大切に、むやみに傷つけないという目標が示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年の『生物のからだと細胞』では、『Can-Do List』の『どのように学びに向かうか』で生命を大切に、むやみに傷つけないという目標が示されている。『メダカの尾びれの観察』など、生物を扱う観察、実験では、生物の負担にならない方法が示されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年の『自然・科学技術と人間』では、自然環境の保全に関する取組例として『弘前だんぶり池』などが取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>
教出	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、生命尊重や環境保全の観点から、『身近な生物の観察』では、生物等の採集や観察では環境に影響を与えないことについて説明が記載されているとともに、『注意マーク』が付されている。また、学習活動で生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、学習活動で男女の生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、生命尊重や環境保全の観点から、『土壌中の微生物のはたらきを調べる』では、生物等の採集や観察では環境に影響を与えないことについて説明が記載されているとともに、『注意マーク』が付されている。また、学習活動で生徒同士が考えを伝え合う姿や、観察や実験を協力して行う姿が掲載されている。</p>
啓林館	<p>[思いやる力]の「共生」について、第1学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第2学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、『動物の体のつくりとはたらき』では動物に負担をかけないことについての注意が『ポイント』として記載されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p> <p>[思いやる力]の「共生」について、第3学年では、環境保全に関する場面では、『環境マーク』が示されている。また、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら活動している生徒の活動が掲載されている。</p>

⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。

(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)

東書	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『世界につながる科学』のコーナーでは、国際的な希少動物の保全に関する事柄が、『動物園から世界が見えてくる』で取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、SDGsに関連する『温暖化』などの国際的な課題が『世界につながる科学』のコーナーなどで取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、持続可能な社会をつくることについての話し合い活動『30年後の社会のために現在の社会とどうかかわるか』が設けられている。</p>
大日本	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、『チリ地震と津波』などが取り上げられた『SciencePress』のコーナーが掲載されている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、『よりよい生活を目指して-SDGs-』で学習内容に関連した気候変動への対策などが取り上げられている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、SDGsに関連して、『ラムサール条約』などが国際的な取組として『SciencePress』のコーナーなどで取り上げられている。また、環境や資源に関わる話題に『環境』マークが示されている。</p>
学図	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『理科のトリセツ』では、『世界的な課題を解決する』でSDGsが取り上げられている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『理科のトリセツ』では、『なぜ理科を学ぶの?』でSDGsについて『理科でできるようになること』が示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、『持続可能な開発目標』でSDGsについて取り上げられている。また、『気候変動』や『大気汚染など』の国際的な課題が取り上げられている。</p>
教出	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『大地の躍動と恵み』では、国際的な環境保全の取組として、『世界自然遺産』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『大気の躍動と恵み』では、SDGsに関連する国際的な取組である『大切な水、今世界では』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年の『科学技術の発展と私たち』では、SDGsに関連する国際的な取組である『海洋ごみ』などが取り上げられた『ハローサイエンス』のコーナーが掲載されている。また、SDGsを課題として話し合う活動が設定されている。</p>
啓林館	<p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年の『お料理ラボ』では、国際宇宙ステーションでの調理の様子が掲載されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年の『ひろがる世界』のコーナーでは、持続可能な開発目標に関連する『海洋と日本の天気の関係』の内容に『海の豊かさを守ろう』の『SDGsマーク』が示されている。</p> <p>[たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年の『ひろがる世界』のコーナーでは、国際的な取組としてSDGsをテーマにした2025年大阪・関西万博が取り上げられ、『エネルギーをみんなにそしてクリーンに』の『SDGsマーク』が示されている。</p>

⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『薬は結晶化が命!』や『石油の分留』などの科学技術や、『地層の研究』や『楽器づくり』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『スポーツの世界での電子機器の活用』や『陰極線の研究から見つかったX線』などの科学技術や、『スポーツ用品メーカー』や『床発電システムの開発』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、『世界につながる科学』や『つながる科学』などのコーナーで、『世界一高い自立式電波塔』や『エネルギー変換効率の向上を目指して』などの科学技術や、『構造設計』や『防災担当』についている人が学習内容と関連付けて取り上げられている。</p>
大日本	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、『水族館』や『水処理センター』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』では牧野富太郎などの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『気象と船の運航』や『還元の利用』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』ではボルタなどの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、『物質の詳しい構造を知るために』や『競技用車いすの開発』で働く人が取り上げられた『Professional』のコーナーが掲載されている。『科学のあしあと』では屋井先蔵などの科学者や、技術者の功績が取り上げられている。</p>
学図	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、学習内容と関わりがあるトレーニングや映像技術などの科学技術や義肢の開発や設計士などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、『天気とその変化』の学習内容と関わりがある空港が取り上げられ、パイロットや整備士などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、学習内容と関わりがある海底地震計や地震のシミュレーションなどの科学技術や地震観測やライフライン整備などの職業について取り上げられた『ミッションX』のコーナーが巻頭に掲載されている。</p>
教出	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として白川英樹氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『打ち水』や『反射板の仕組み』など、学習内容と日常生活との関連が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として天野浩氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『さまざまな電池とその電圧』や『熱中症にご注意を』など、学習内容と日常生活との関連が取り上げられている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年の巻頭では、ノーベル賞を受賞した科学者として山中伸弥氏の功績が取り上げられた『科学者列伝』が掲載されている。また、『ハローサイエンス』では『里山の環境』や『水辺の環境の復元』など、自然と日常生活との関連が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第1学年では、学習内容と関連して『石灰岩はとても有効』や『動物園デザイナー』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第2学年では、学習内容と関連して『気象予報士』や『夜空を彩る一瞬の芸術』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。</p> <p>[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、第3学年では、学習内容と関連して『恐竜博物館の学芸員さんに聞きました』や『これからの太陽系探査』で、働く人が取り上げられた『お仕事ラボ』のコーナーが掲載されている。また、『防災減災ラボ』では、中学校の防災部が『自助・共助・公助』で取り上げられている。</p>

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に探究の流れや発表の仕方などをイメージするマンガの解説が掲載されている。自分と他者との考えを交流させる活動として『課題に対する結論を表現しよう』や、章の最後の『学んだことをつなげよう』が設けられている。
大日本	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、『問題を見つけよう』や『結果から考えよう』など、探究活動の過程がマークにより示されている。また、『話し合おう』のマークとともに対話的な学びの活動を取り入れる場面に、例としてキャラクターの会話が掲載されている。
学図	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭の『理科のトリセツ』で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた『どうやったら対話的になるの??』などの解説が参照ページとともに示されている。単元末に、『ふり返って深める』や『発信して深める』などをまとめた『学び続ける理科マイスター』が設けられている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が設けられ、探究活動が過程を追って示されている。探究活動において話し合いを取り入れる場面にキャラクターの対話モデルが示されている。また、『話し合おう』や『活用しよう』マークが示され、話し合いや考えを表現する活動が設けられている。
啓林館	主体的・対話的で深い学びについて、第1・2学年の巻末『サイエンス資料』に理科における話し合いと発表の要点が示されている。また、各学年において『話し合ってみよう』、『考えてみよう』、『表現してみよう』や『みんなで解決』のマークとともに話し合いの活動が示されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『物の調べ方』では、技術・家庭科（技術分野）の学習内容と関連した『物質の性質』が『技術・家庭で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『大気の動きと天気の変化』では、社会科の学習内容と関連した『偏西風』が『社会科（地理）で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『さまざまな物質とその利用』では、技術・家庭科（技術分野）の学習内容と関連した『プラスチック』が『技術・家庭で学ぶこと』として『教科関連マーク』で示されている。
大日本	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『光の性質』では、中学校美術科の学習内容と関連した『RGB（光の3原色）』が『つながる』のマークで示されている。科学的な話題と日本での出来事が同時に掲載され、社会科と関連付ける『そのころの日本』が設けられている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『いろいろな化学変化』では保健体育科の学習内容と関連した『一酸化炭素』が『つながる』のマークで示され、『くらしの中の理科』で取り上げられている。科学的な話題と日本での出来事が同時に掲載され、社会科と関連付ける『そのころの日本』が設けられている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『物体の運動』では、『科学のあしあと』にニュートンが取り上げられ、社会科と関連付けて日本での出来事が同時に掲載された『そのころの日本』が設けられている。
学図	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『身近な生物の観察』では、実験に用いる「結果」、「考察」などの語句の説明が『つながり・国語』として『つながる』マークで示された『基本操作』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『電流と電圧』では、数学科と関連した「比例」がこれまでに学んだ「 $y=ax$ 」の式とともに『つながり・数学』として『つながる』マークで示されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『太陽系と宇宙の広がり』では、『つながり・社会』として古代エジプトやイギリスのストーンヘンジなどの天体観測に関わる事柄が『つながる』マークで示されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『水溶液の性質』では、これまでに学んだ「線分図」が、算数科での学習内容として『ブリッジ算数』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『電流と電圧の関係』では、これまでに学んだ「比例」が、数学科での学習内容として『ブリッジ数学』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『力と運動』では、これまでに学んだ「速さ」が、算数科での学習内容として『ブリッジ算数』のマークで示されている。巻末資料に『理科で使う算数・数学』『単位について』が掲載されている。
啓林館	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年の『火をふく大地』では、『石基ばかりの火山岩でつくられた石器』が『社会科と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年の『動物の体のつくりとはたらき』では、『五大栄養素』が『家庭科と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年の『地球から宇宙へ』では、『星はすばる』が『国語と関連』の教科関連マークとともに取り上げられている。また、巻末に『理科でよく使う算数・数学』が掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、全学年とも、巻頭では話し合いと発表の仕方がキャラクターの活動で例示された『伝わる言葉にしよう。発表のしかた』が掲載されている。単元において、考えを文章化する活動の『課題に対する結論を表現しよう』や『学びをいかして考えよう』が設けられている。
大日本	言語能力の育成について、全学年とも、対話的な学びの活動では、『話し合おう』などのマークとともに、キャラクターの会話の場面が掲載されている。また、巻末に『読解力問題』が設定されている。第1学年の巻末資料では、実験ノートやレポート作成の使い方やまとめ方が例とともに示されている。
学図	言語能力の育成について、全学年とも、巻頭にはレポートの書き方や発表の仕方などが示された『理科のトリセツ』や『授業を受けるコツ』が掲載されている。また、観察、実験後にはレポート作成の参考例が掲載されている。単元末に『学びを日常に生かしたら』として記述問題が設けられている。
教出	言語能力の育成について、全学年とも、話し合い活動や考えを表現する活動には『話し合おう』や『活用しよう』のマークが示されている。また、巻頭の『基礎技能』では、レポート作成の例が項目ごとのまとめ方とともに示されている。また、『私のレポート』としてレポートの作成例が記載されている。
啓林館	言語能力の育成について、全学年とも、『探Q実験』では、仮説や計画を言葉で表現する活動が設定されている。また、本文中に『話し合ってみよう』『表現してみよう』のマークが示されている。第1・2学年の巻末『サイエンス資料』において、理科における話し合いと発表の要点が示されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『世界につながる科学』では、『ギター』や『和太鼓』の技術者が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『つながる科学』では、日本で古来より行われている『たたら製鉄』や乾電池を発明した屋井先蔵が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『自然のなかの生物』では、食品に利用される菌類や細菌類としてみそや納豆が取り上げられている。</p>
大日本	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、『万葉集から見る植物』で植物と万葉集の和歌の関連が示されている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、『気象に関する身近なことば』が『くらしの中の理科』で取り上げられている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『天体観測の歴史』が『宇宙の中の地球』で取り上げられている。科学と日本の伝統や文化が関連する事柄には『日本を知る』マークが付されている。</p>
学図	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『物質の分類』では、金属がもつ展性の性質の利用として鍛冶が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『化学変化の利用』では、酸化と還元の利用例として花火やたたら製鉄が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『酸とアルカリ』では、学習内容に関連した酸の利用としてぬかみその漬物が、アルカリの利用として肉をやわらかくするなどの『酸やアルカリの利用』が取り上げられた『資料』が掲載されている。</p>
教出	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『水溶液の性質』では、再結晶の例として『揚げ浜式製塩法』などが取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『いろいろな化学変化』では、酸化・還元の利用例として『たたら製鉄と現代の製鉄』が取り上げられた『ハローサイエンス』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『みんなの力を合わせると』では、力の合成の例として祭りの山車が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年の『物質のすがたとその変化』では、『鋳物づくり』が取り上げられている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年の『さまざまな化学変化』では、『たたら製鉄』や『江戸時代の静電気の実験』が取り上げられた『深めるラボ』が掲載されている。</p> <p>伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年の『自然界のつり合い』では、微生物のはたらきと関連させて、『麹菌と日本特有の発酵食品』が取り上げられた『お料理ラボ』が掲載されている。</p>
⑪ 体験活動の充実	
東書	<p>体験活動の充実について、第1学年では、ルーペの使い方やスケッチのしかたを例示した『身近な生物の観察』や花を分解する『花のつくりの観察』などが設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設やジオパークなどが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『気象の観測』では、校内での気象要素の観測が設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『自然環境の調査と保全』では、『身近な自然環境の調査』が設定されている。また、巻末資料の『理科の学習を深めよう』では校外施設が取り上げられている。</p>
大日本	<p>体験活動の充実について、第1学年の『気体の発生と性質』では、ジャガイモや酢など、身の回りのものを用いて酸素や二酸化炭素を発生させる実験が『やってみよう』で取り上げられている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設、ジオパークなどが巻末で取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『物質の成り立ち』では、発泡ポリスチレンを用いたものづくりとして『原子や分子の模型をつくってみよう』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設が巻末で取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『自然環境と人間』では、『川の水を調べよう』や『松の葉の気孔のようすを調べよう』など、身の回りの自然環境の調査が設けられている。『自由研究にチャレンジしよう』や校外施設が巻末で取り上げられている。</p>
学図	<p>体験活動の充実について、第1学年では、身の回りのものを用いた工作として、『牛乳パックでできる望遠鏡の製作』が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。『地層』では露頭の野外調査やジオパークが取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『天気とその変化』では、気象要素の継続観測が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『地球と宇宙』では、太陽表面の継続観測が取り上げられている。また、巻末の『学校外で調べよう』では校外施設が取り上げられている。</p>
教出	<p>体験活動の充実について、第1学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で学校や自宅で飼育する動物の生活環境や体の動かし方などを調べる『身近な脊椎動物の特徴を調べよう』などの身近なものの観察、観測が設定されている。また、『ハローサイエンス』でジオパークが、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で『校内での気象観測』『天気の予測』などの身近なものの観察、観測が設定されている。また、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年では、『やってみよう』や『チャレンジ』で、プロジェクターを使用した月の満ち欠けの再現が取り上げられている。また、『巻末資料』では、身近なものでできる自由研究や校外施設が取り上げられている。</p>
啓林館	<p>体験活動の充実について、第1学年の『火山灰の観察』では、身近な題材として園芸用の鹿沼土を用いて火山灰の成分を観察する実験などが『ためしてみよう』に掲載されている。巻末の『サイエンス資料』では、『寒天を使ってボーリング調査をしよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第2学年の『地球をとり巻く大気のようす』では、気象要素の変化を記録する観測が取り上げられている。巻末の『サイエンス資料』では、『体温で上昇気流をつくってみよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p> <p>体験活動の充実について、第3学年の『月と金星の動きと見え方』では、金星の観測が取り上げられている。巻末の『サイエンス資料』では、『電気ペンをつくってみよう』など身近なものでできる自由研究のテーマ例が取り上げられている。</p>

⑫ 学校段階間の円滑な接続

東書	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『動き続ける大地』では高校の学習内容の『P波とS波のちがい』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『発電機のしくみ』では高校の学習内容の『コイルに流れる誘導電流の向き』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭や本文中で、既習内容が『これまでに学んだこと』で示されている。また、『化学変化と電池』では高校の学習内容の『イオン化傾向』が『発展』として取り上げられ、『高校』のマークで示されている。</p>
大日本	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物質の状態変化』では、高校の学習内容の『粒子の運動と熱の関係』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『化学』の分野で示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物質の成り立ち』では、高校の学習内容の『炎色反応』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『化学基礎』の分野で示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでに学んだこと』で、本文中では『思い出そう』で示されている。『物体の運動』では、高校の学習内容の『加速度』が『発展』として取り上げられ、『高』のマークと『物理基礎』の分野で示されている。</p>
学図	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。高校の学習内容は『発展』として取り上げられている。『植物の分類』では、植物のからだのつくりが『ふりかえり』の囲みで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。『生物のからだと細胞』では、高校での学習内容の『細胞のくわしいつくりとはたらき』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭で既習内容が『ふり返ろう・つなげよう』で示されている。『イオンの化学式』では、高校での学習内容の『電気分解での塩素の発生』が『発展』として取り上げられ、『つながり高校』のマークで示されている。</p>
教出	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『植物の体の共通点と相違点』では、高校の学習内容の『藻類』が『発展 高校』のマークとともに『生物基礎』の分野として取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『電流と磁界』では、高校の学習内容の『変圧器』が『発展 高校』のマークとともに『物理』の分野として取り上げられている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、単元冒頭で既習内容が『これまでの学習』で、本文中では『思いだそう』で示されている。『力と運動』では、高校の学習内容の『運動の法則』が『発展 高校』のマークとともに『物理基礎』の分野として取り上げられている。</p>
啓林館	<p>学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『語る大地』では、高校の学習内容の『変成岩』が『発展』として取り上げられ、『高校地学へ』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第2学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『物質の表し方』では、高校の学習内容の『同素体』が『発展』として取り上げられ、『高校化学へ』のマークで示されている。</p> <p>学校段階間の円滑な接続について、第3学年では、章の導入で既習内容が『つながる学び』で、本文中では『思いだしてみよう』で示されている。『遺伝の規則性と遺伝子』では、高校の学習内容の『DNA』が『発展』として取り上げられ、『高校生物へ』のマークで示されている。</p>

⑬ 情報活用能力の育成

東書	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットの利用により情報収集する際の方法や注意について取り上げられている。『音の性質』では、ビデオカメラを用いた音の速さを調べる方法が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、インターネットの利用により情報収集する際の方法や注意について取り上げられている。『気象の観測』では、コンピューターを使った自動計測装置が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年では、『科学技術の発展』では、インターネットでの情報収集する際の注意について取り上げた『つながる科学』が掲載されている。『科学技術と人間』では、タブレット端末を用いて調べ学習をする様子が示されている。</p>
大日本	<p>情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットを利用しての情報検索の方法と注意が巻末資料『探究の進め方』で示されている。また、機器の活用を通しての情報収集や発表の仕方が取り上げられている。ICT機器の活用場面がマークで示されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『気象観測』では、ICT機器の活用場面のマークとともに『データロガー』が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年『科学技術と人間』では、コンピューターを用いる際の注意が記載されている。『物体の運動』では、カメラを使って運動を記録する方法が『Science Press』で示されている。</p>
学図	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『音の性質』では、オシロスコープなどのデジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。また、インターネットでの情報収集の注意点が『学び続ける理科マスター！』が掲載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『日本の天気』では、『自分で天気予報を出そう』で天気図に関してインターネットの利用、活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『太陽や星の見かけの動き』では、『天体の動きの観察』について、インターネットの利用や、デジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が、『サイエンスカフェ』で取り上げられている。</p>
教出	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『音の性質』では、オシロスコープなどのデジタル機器の活用を通しての情報収集の仕方が取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年では、プレゼンテーションソフトを用いての発表の活動が示されている。『天気の変化』では、インターネットを利用しての情報収集の方法が記載されている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『科学技術の発展と私たち』では、インターネットの活用を通じた情報収集の利点や危険性について取り上げられている。また、『ハローサイエンス』で情報モラルが取り上げられている。</p>
啓林館	<p>情報活用能力の育成について、第1学年の『物質とすがたとその変化』では、温度センサーを用いた温度変化の自動計測に、ICT機器の活用場面を示す『ICTマーク』が付されている。『ICTの活用』では、情報の入手や、情報収集する際の注意について取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第2学年の『地球をとり巻く大気のような』では、気象情報の収集に関して、ICT機器の活用場面を示す『ICTマーク』が付されている。『ICTの活用』では、情報共有方法が示され、情報収集する際の注意について取り上げられている。</p> <p>情報活用能力の育成について、第3学年の『生物の種類の多様性と進化』では、『進化について調べよう』で進化についての調査に『ICTマーク』が付されている。『科学技術の発展』では、インターネットの普及による情報入手方法の多様化について取り上げられている。</p>

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、学習の流れを示すと共に、学習活動を示す『?課題』や『!結論』などのマークが示された『科学で調べていこう』が掲載されている。各章の始めと終わりに、章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設定されている。
大日本	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、学習の流れを示すと共に、『問題を見つけよう』など学習活動を示すマークが取り上げられた『理科の学習の進め方』が掲載されている。『話し合おう』のマークでは、疑問に対する考え方がキャラクターの吹き出しによって例示されている。
学図	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、巻頭に『考察』や『ふり返り』などの学習活動を示すマークが示された『教科書の使い方』が掲載され、探究の流れに沿って矢印で結ばれている。本文中や観察、実験ではキャラクターの吹き出しによって課題への取り組み方が例示されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、巻頭に『探究の進め方』が掲載され、学習の流れが示されている。『課題』や『仮説』などの学習活動を示すマークが示され、探究の進め方の例が、キャラクターの吹き出しにより示されている。
啓林館	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、全学年とも、単元の始めに『学びの見通し』と学習内容に関連した課題として『学ぶ前にトライ!』が、単元の終わりに『学んだあとにリトライ!』が設定されている。課題を示す『?』や、『表現してみよう』など学習活動を示すマークが用いられている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	全学年とも、これから学ぶ内容の導入として『レッツスタート!』が各節冒頭に設けられ、『これまで学んだこと』では既習内容が示されている。また、ページ下端に問題発見から活用まで探究の流れが色分けして示されている。
大日本	全学年とも、巻頭の『理科の学習の進め方』では、『①問題の発見』から『⑦解説など』までの問題解決のプロセスと教科書との関連が示されている。各単元はじめに『これまで学習したこと』と『これから学習すること』が設けられ、既習事項を振り返り次へつなげる設定がされている。
学図	全学年とも、『どのように学びに向かうか』などの章の目標が、各章冒頭の『Can-Do List』で示されている。また、『この時間の課題』として理科の見方、考え方がページ右上に設けられている。各単元の最初の『ふり返ろう・つなげよう』で、既習内容との関連が示されている。
教出	全学年とも、探究活動の流れを確認する『探究の進め方』が巻頭に設けられている。観察や実験では、目的から考察までの流れが矢印で示されている。本文中では探究の進め方が生徒のキャラクターの対話を通して例示され、既習内容を確認する『思いだそう』が設けられている。
啓林館	全学年とも、『探究の過程』において『課題の把握』→『課題の追究』→『課題の解決』のサイクルが示されている。また、『教科書の使い方』では課題解決のプロセスと教科書本文の関連が示されている。実験では、手順が『ステップ1』や『ステップ2』などと示されている。
⑯ 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、探究の流れが問題発見『レッツスタート!』で考えたり調べたりして、活用『学びを生かして考えよう』へと続く形式で設定されている。章全体の見通しと振り返りの『Before&After』が設けられている。
大日本	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、『問題を見つけよう』『計画を立てよう』『結果から考えよう』『振り返ろう』に重点が置かれ、本文中では色分けしたマークによって強調されている。実験では、科学的な探究の過程が明確になるように『着目点』などの項目が示されている。
学図	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、学年ごとに探究の進め方で気をつけることが、巻頭の『探究の進め方』で示されている。観察、実験では、重視するポイントが色分けしたマークで示されている。
教出	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、各単元に『疑問から探究してみよう』が設定され、ページの端に色がついたバーで示されている。探究の過程が『疑問を見つける』から『結論を示す』まで示されている。観察、実験では、計画の立て方や結果のまとめ方などの例が、キャラクターや黒板のイラストで示されている。
啓林館	科学的に探究する力の育成について、全学年とも、各単元に、観察・実験を計画して結果を分析・振り返りをする『探Q実験』が設けられ、重視する『探究のふり返り』の項目に『ここをしっかりと!』と付されている。

①⑦ 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	
東書	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『いろいろな生物とその共通点』では、煮干しとシバエビの体のつくりを観察する実験が扱われている。また、『つながる科学』で『石油の分留』が例示されている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『天気の変化』では、様々な雲の写真を例にして天気を考える題材が設定されている。また、『つながる科学』で『急な天気の変化から身を守る』などが掲載されている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『化学変化とイオン』では、身の回りの物質のpHを図る実験が扱われている。また、『つながる科学』で微生物のはたらきを取り上げた『生活排水はどこへ行く?』などが掲載されている。
大日本	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『物質の姿』では、ジャガイモや酢など身の回りのいろいろな物質から気体を発生させる実験が扱われている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『気象の仕組みや天気の変化』では、学習内容に関連して『気象と農業の関係』『霧を防ぐ工夫』『乾湿計の仕組み』などが『くらしの中の理科』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『化学変化とイオン』では、牛乳や石鹼など身の回りの物質のpHを図る実験が扱われている。
学図	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『身の回りの物質』では、生活で用いる身の回りの物体を分類する活動が『やってみよう』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『化学変化と原子分子』では、温泉に金属をつけて入ってはいけぬ理由を探る実験が取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『仕事とエネルギー』では、学習内容に関連した『運動エネルギーの大きさの例』として、スポーツの運動エネルギー換算値が掲載されている。また、『水溶液とイオン』では、『銅の精錬』が『資料』で掲載され、日常で使う金属と学習内容の関連性が示されている。
教出	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年では、『鋳造所』や『ウユニ塩湖』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『積乱雲の発達』や『リニア新幹線』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『スキージャンプ』や『さびたネジ』など、学習内容と関連がある身近な事柄が、巻頭の『自然の探究』で取り上げられている。
啓林館	科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第1学年の『動物の特徴と分類』では、身近な事柄と学習内容の関連が示された『グラウンドの白線』が科学コラムの『部活ラボ』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第2学年の『生命』では、部活に関連して身近な事柄と学習内容の関連が示された『運動神経は鍛えられるか?』が科学コラムの『部活ラボ』で取り上げられている。 科学と日常生活や社会とのかかわりについて、第3学年の『酸・アルカリと塩』では、身近な事柄と学習内容の関連が示された『体の中にも塩酸があるの?』が科学コラムの『深めるラボ』で取り上げられている。
①⑧ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
東書	体験的な学習活動について、第1学年では、『こんにやくで地震を感じよう』など身近な材料でできる実験の題材が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『天気の変化』では、校内の気象要素の継続観測が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『水中ではたらく力』では、『浮沈子』をつくる体験的な学習活動が取り上げられている。巻末には、観察などに用いるペーパークラフトが資料として掲載されている。
大日本	体験的な学習活動について、第1学年の『身近な物理現象』では、透明半球と凸レンズを使い目の模型を作る活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『身近な生物の観察』の中で動植物の継続観察が掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『電流とその利用』では、スピーカー作りが取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。また、『気象観測』の中で1日のうちの気象要素の変化の継続観測が掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、透明半球を使った太陽の一日の動きの観察が取り上げられている。
学図	体験的な学習活動について、第1学年では、『身近な生物の観察』の中で野外調査について掲載がされている。また、『屈折の利用』では、牛乳パックで望遠鏡を製作するものづくりの活動が取り上げられた『やってみよう』が掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『電流とそのはたらき』では、クリップモーター作りが取り上げられた『資料』が掲載されている。また、『天気の変化』では、気象観測を行う体験的な学習活動を取り入れている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、三日月の日から2週間程度の同時刻での月の位置と形の観察が取り入れられている。
教出	体験的な学習活動について、第1学年の『大地の躍動と恵み』では、火山の噴火装置を制作するものづくり活動が取り上げられた『チャレンジ』が掲載されている。巻末には生物カードが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第2学年の『天気の変化』では、校内での気象要素の日をまたいだ継続観測が取り上げられている。巻末には原子カードが資料として掲載されている。 体験的な学習活動について、第3学年の『地球と宇宙』では、透明半球を使った太陽の一日の動きの観察が取り上げられている。巻末には星座早見が資料として掲載されている。
啓林館	体験的な学習活動について、第1学年の『光・音・力による現象』では、『タブレット顕微鏡づくり』などのものづくりの活動が『深めるラボ』などで取り上げられている。 体験的な学習活動について、第2学年の『地球をとり巻く大気のようにす』では、『雨量計・風向計をつくってみよう』などのものづくりの活動が『深めるラボ』で設けられている。 体験的な学習活動について、第3学年の『宇宙を観る』では透明半球を使った太陽の一日の動きの継続観察が取り上げられている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	全学年とも、節ごとに『問題発見』や『課題』、『課題に対する結論を表現しよう』、章末に『各節の課題に対する結論の例』や『学んだことをチェックしよう』が掲載されている。単元末には『学習内容の整理』や『確かめと応用』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
大日本	学習内容ごとの課題に対して、学習課題を提示してから観察や実験を行う設定がされている。観察や実験の結果の例は、次ページに掲載されている。章末に『章末問題』、単元末に『探究活動』や『まとめ』、『単元末問題』、『読解力問題』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は6単元で構成されている。
学図	各章ごとに『Can-Do List』、単元末に『学び続ける理科マスター』や『学びを日常にいかしたら』が掲載されている。学習内容ごとの課題に対して、見方、考え方の例として『この時間の課題』がページ右上部に設けられ、『この時間のまとめ』がページ右下に設けられている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
教出	章末に『要点をチェック』や『学習後の私』、単元末に『要点と重要用語の整理』や『基本問題』、巻末に『学年末総合問題』が掲載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
啓林館	章末に『基本のチェック』、単元末に『学習のまとめ』や『力だめし』、『みんなで探Qクラブ』、巻末に『学年末総合問題』が記載されている。第1・2学年は4単元、第3学年は5単元で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA4変型判が採用されている。
大日本	判型はB5判が採用されている。
学図	判型はAB判が採用されている。
教出	判型はAB変型判が採用されている。
啓林館	判型はAB判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
大日本	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
学図	『だれにでも見やすくわかりやすい教科書になるように、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、色使いやレイアウトなどに配慮して編集しました。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
啓林館	『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	第1学年 228ページ 泥岩の写真(横須賀市)、237ページ 断層の写真(三浦市)、238ページ 地層の写真(小田原市)、 256ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の写真(小田原市) 第3学年 163ページ 工業地帯のクレーンの写真(横浜市)、181ページ 火力発電所のタービン軸の写真(川崎市)、 288ページ 火力発電所の写真(横浜市)、297ページ ハザードマップの例(三浦市)、 321ページ みなとみらい技術館の写真(横浜市)
大日本	第1学年 38ページ 庭園の写真(箱根町)、199ページ 海辺の地形の写真(藤沢市)、201ページ 火山の写真(箱根町)、 214ページ 小田原城の写真(小田原市)、217ページ 火山ガスへの注意の看板の写真(箱根町)、 224・241ページ 地層の写真(三浦市)、242ページ 地層の写真(相模原市)、244ページ 地層の写真(横須賀市)、 259ページ ジオパークの写真(南足柄市)、279ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の写真(小田原市)、 292ページ 新江ノ島水族館の写真(藤沢市) 第2学年 237ページ 警告看板の写真(相模原市)、274ページ 江の島の写真(藤沢市)、276ページ 横浜の写真(横浜市)、 300ページ よこはま動物園ズーラシア(横浜市)、京急油壺マリンパーク(三浦市)の写真 第3学年 72ページ 遊園地の写真(横浜市)、122ページ 神奈川県立生命の星・地球博物館の博物館学芸員の写真(小田原市)、 209ページ 畑でpHの調整をする人の写真(相模原市)、282ページ 横浜山下公園の日時計の写真(横浜市)、 295ページ 魚道の写真(寒川町)、304ページ 火力発電所の写真(横浜市)
学図	第1学年 212ページ 泥岩の写真(葉山町)、225ページ 地層の写真(茅ヶ崎市、横須賀市)、江の島のボーリング試料(藤沢市) 244ページ 隆起してできた地形の写真(藤沢市) 第2学年 60ページ 製鉄所の高炉の写真(川崎市)、146ページ 夜景の写真(横浜市)、261ページ 寺の風景の写真(鎌倉市) 第3学年 259ページ 津波の避難マークの写真(藤沢市)、 269ページ 丹沢山地(相模原市)、学校外施設等の紹介(よこはま動物園ズーラシア、藤沢市長久保公園都市緑化植物園、相模原ふれあい科学館、アクアリウムさがみはら、神奈川県立生命の星・地球博物館、新江ノ島水族館)
教出	第1学年 46ページ 博物館の写真(相模原市)、194ページ 海岸段丘の写真(三浦市)、 224～225ページ 鉄道の踏切と警報器の写真(鎌倉市) 第3学年 112ページ 県内原産の柿の写真(川崎市)、245ページ 遊園地の写真(横浜市)、 289ページ 河川改修が行われた川の写真(横浜市)、325ページ 工業団地の写真(川崎市)
啓林館	第1学年 4ページ 夜景の写真(横浜市)、35・63ページ よこはま動物園ズーラシアの写真(横浜市)、 69・70ページ 地層の写真(三浦市、小田原市)、72ページ 石垣の写真(小田原市)、 193ページ 石油の蒸留塔の写真(横浜市)、273ページ 芦ノ湖の切手の写真(箱根町) 第2学年 124ページ 遊水地の写真(横浜市)、174ページ 花火大会の写真(横浜市)、 276ページ 発電用ガスタービンの写真(川崎市) 第3学年 140ページ 水素ステーションの写真(横浜市)、187ページ 斜張橋の写真(横浜市)、219ページ 遊園地の写真(横浜市)、238ページ 太陽光発電がある住宅街の写真(藤沢市)、263ページ 下水処理場の反応タンクの写真(横浜市)、 321ページ 日時計の写真(横浜市)

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名	1年	2年	3年			
東書	有	有	有			
大日本	有	有	有			
学図	有	有	有			
教出	有	有	有			
啓林館	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量(g)					
発行者名	冊数	1年	2年	3年	
東書	3	533	625	660	
大日本	3	526	563	660	
学図	3	527	554	543	
教出	3	687	706	788	
啓林館	3	618	646	707	

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(一般)》

※詳細については、資料Ⅱ(一般-3～一般-6)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学音楽 2・3下 音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① □ 「知識・技能」の習得について、第1学年『Let's Sing!』では、変声期や発音に関して、2・3上下では旋律や形式に関して掲載されている。また、新出用語がページ右下に掲載されている。</p> <p>② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、音楽を形づくっている要素が『学びのユニット』に示されている。また、他の教材と比較する学習が『深めてみよう』に設定されている。</p> <p>③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、全学年の巻頭で、作曲者の話や直筆楽譜が掲載されている。また、歌曲教材には、歌詞と関連のある風景の写真が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ □ [思いやる力]の「人権教育」について、合唱曲では、命の大切さに関する歌詞が掲載されている。また、文化の多様性や特徴を考える学習が『何が同じで何が違う?』に設定されている。</p> <p>⑤ □ [たくましく生きる力]について、『作曲者の思いにふれる』では、強い意志で生涯に渡り音楽に携わった作曲家の話が掲載されている。</p> <p>⑥ □ [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、2・3下の学習資料には、地域に音楽活動が果たす役割などの事例が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びについて、構成を比較したり、表現を工夫したりすることについて、各単元の『ACTIVE! すすんで学び合おう』では、話し合い活動が設定されている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、理科との関連として、音の速さなどが『音ってなあに?』に掲載されている。また、世界の音楽について歴史的背景が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、鑑賞教材に、感想や批評を伝え合う活動『話し合おう』が設定されている。また、意見交換をする活動『Let's Sing!』が掲載されている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では和楽器や日本とアジアの声による表現、2・3上下では歌舞伎や文楽、能、郷土の芸能などが取り上げられている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、『指揮をしてみよう』では、拍子の振り方からテンポの変化、終わり方の解説が掲載されている。また、鑑賞と関連付けて、口三味線を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、ソプラノリコーダーの二重奏用の楽譜が『アニーローリー』に掲載されている。また、変声期に関する解説が『Let's Sing!』に掲載されている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、2・3下では、インターネット配信による鑑賞や楽譜制作ソフトによる創作などの活用事例が掲載されている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習目標は白抜き文字で縦に記載されており、作曲者名、楽器名などにはルビが振られている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ 各題材には、音楽を形づくっている要素が示されている『学びのユニット』がある。また、感想の記述や話し合い活動の学習が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 主体的・協働的な学習について、音楽を形づくっている要素を手掛かりに、曲想の変化について考えたり、話し合い活動をしたりする学習が『どんな特徴があるかな』に設定されている。</p> <p>⑰ □ 系統的・発展的な配列について、『故郷』は、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、知識・技能を活用する学習が『深めてみよう』に設定されている。</p> <p>⑱ □ 音楽文化の理解について、諸民族の音楽の固有性や多様性について比較するなどの学習が『何が同じで何が違う?』に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ □ 本編は表現(歌唱、創作)、鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。</p> <p>⑳ □ 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ □ 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(一般)》

※詳細については、資料Ⅱ(一般-3～一般-6)を参照。

発行者の略称	教芸	書名	中学生の音楽 2・3下
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、第1学年『My Voice!』では変声期に関して、2・3上下では息の流れに関して解説が掲載されている。また、新出の用語がページ右上に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、表現の工夫に関して仲間と意見交換する学習が『深めよう! 音楽』に設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、著名人からのメッセージが掲載されている。また、『曲の良さをプレゼンしよう』では、話し合い活動が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、合唱曲では、仲間との絆を讃える歌詞が掲載されている。また、2・3下では、外国での音楽教育による支援活動に関する内容が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、巻頭に、著名人から中学生に贈ったメッセージが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、『生活や社会の中の音楽』では、第1学年において地域の伝統文化や企業の活動と、音楽の関わりが紹介されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、キャラクターの吹き出しを参考にして、表現の工夫などを考える『深めよう! 音楽』が設定されており、話し合い活動が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、2・3上では舞台芸術との関わりが示されている。また、2・3下では、国語科や社会科と関連して「平家物語」について掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、批評した内容を、発表する学習が設定されている。また、表現方法について意見交換をするためのワークシートが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では箏曲や日本の民謡など、2・3上では長唄や義太夫節など、2・3下では尺八音楽や能などが取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『指揮をしてみよう』では、拍子の取り方から表現方法までの学習が掲載されている。また、鑑賞と関連付けて「能」の謡や舞を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年で冒頭の歌唱教材において、作曲家から新入学生へのメッセージが掲載されている。また、変声期に関する解説が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、2・3上で、郷土芸能や祭りについての学習として、インターネットなどを活用して調べる、情報活用の事例が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習の困難さに応じた工夫について、学習目標は黒文字で縦に記載されている。また、作曲家、楽器名などにはルビが振られている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 目次に、各題材に関する学習指導要領の内容が線で結ばれて掲載されている。また、各題材の学習目標の下には、音楽を形づくっている要素が記載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、聴取したことと感じたこととの関連を記述するワークシートが『深めよう音楽』に掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な配列について、『ふるさと』では、混声二部合唱から混声三部、四部へと発展している。また、豊かな発声や響きについての学習が『My Voice!』に掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、2・3下では、社会と音楽との関わりについて『社会を映し出す音楽』が掲載されている。また、地域の伝統について考える学習が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は表現(歌唱、創作)鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《音楽(一般)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得について、第1学年『Let's Sing!』では、変声期についての説明や発音に関して、2・3上下には旋律のまとまりや形式に関して解説されている。また、表現に必要な知識として、音楽用語や記号などがページ右下及び巻末の『楽典』のページにも掲載されている。
教芸	「知識・技能」の習得について、第1学年『My Voice!』では変声期や発声、呼吸について、2・3上下では息の流れや響きに関して、それぞれ解説が掲載されている。また、表現に必要な知識として、新出の音楽用語や記号などがページ右上及び巻末の『音楽の約束』にも掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、全学年の教材に『学びのユニット』として、学びの手掛かりとなる、音楽を形づくっている要素が示されている。教材のページ左下に『比べてみよう』『深めてみよう』がマークで示され、他の教材と比較することで特徴やよさを考える機会が設定されている。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『My Melody』でキャラクターの吹き出しにより、表現の工夫や曲の特徴を捉える際の着眼点が示されている。また、『深めよう!音楽』では、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭に『作者の思いにふれる』として第1学年ではシューベルト、2・3上ではベートーヴェン、2・3下では滝廉太郎が、音楽と関わってきた話が掲載されている。また、全学年の『日本の歌、みんなの歌』では歌詞と関連のある風景の写真が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭では、第1学年では野村萬斎、2・3上では松任谷由実、2・3下では谷川俊太郎、木下牧子の音楽への思いや、人生観が掲載されている。また、巻末の『曲の良さをプレゼンしよう』では、話し合い活動の学習が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年の合唱曲『明日を信じて』の歌詞には、命の大切さに関する内容が掲載されている。また、『何が同じで何が違う?』において世界の舞台芸術や楽器の特徴の違いなどから、それぞれの文化の多様性について考える学習が設定されている。
教芸	[思いやる力]の「人権教育」について、全学年において仲間との絆を讃える歌詞や、2・3上下では震災からの復興に関する合唱曲が掲載されている。2・3下での『生活や社会の中の音楽』では、SDGsに関連した外国での音楽教育による支援活動が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
教出	[たくましく生きる力]について、『作曲者の思いにふれる』で、全学年において、シューベルト、ベートーヴェン、滝廉太郎の言葉が紹介され、それぞれが強い意志をもって、生涯にわたり音楽に向かった話が掲載されている。また、2・3上では、『私たちのくらしと音楽』において著作権について考え、意見交換する学習が設定されている。
教芸	[たくましく生きる力]について、全学年の巻頭において、野村萬斎、松任谷由実らから、中学生に贈ったメッセージが掲載されている。また、『ルールを守って音楽を楽しもう』では、著作権について正しい知識をもったうえで、音楽の楽しみ方について話し合う学習が掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、2・3下の学習資料として『私たちの暮らしと音楽～アウトリーチ・教育活動・音楽療法』では、音楽活動が、地域貢献活動としての役割も果たしている事例が掲載されている。また、合唱曲『ほらね』では、周りの人々と支え合って生きていく、といった内容の歌詞が掲載されている。
教芸	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年の『生活や社会の中の音楽』では、地域の伝統文化や企業の活動において、音楽との関わりが紹介されている。また、2・3下の『歌い継ごう日本の歌』では、震災復興支援の一環で作られた合唱曲『花は咲く』が掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において、歌唱、創作、鑑賞に『ACTIVE! すすんで学び合おう』が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較したり、表現を工夫したりすることを学ぶ、話し合い活動による学習が設定されている。
教芸	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において、表現・鑑賞で『深めよう! 音楽』が設定されている。キャラクターの吹き出しを参考にしながら、音楽の構成を比較したり、表現の工夫、曲想の理解について考える、話し合い活動による学習が設定されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、『音ってなあに?』で理科と関連した音の出る仕組みや、音が伝わる速さについての解説が掲載されている。また、2・3下では「日本と西洋の音楽の歩み」で、日本と西洋の音楽の発展の歴史について対比させながら掲載されている。
教芸	カリキュラム・マネジメントについて、2・3上では舞台芸術との関わりが示されている。また、2・3下では、国語科や社会科と関連して、平家物語が琵琶法師により語られ、後世の芸能に影響を与えた内容について掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
教出	言語能力の育成について、全学年において、鑑賞教材に『話し合おう』の記入欄が設けられており、感想や批評を話し合う活動が設定されている。また、2・3上の『Let's Sing!』では、意見交換を通して、表現方法を考える学習活動が設定されている。
教芸	言語能力の育成について、第1学年と2・3下の『曲のよさをプレゼンしよう』では、音楽について批評した内容を、プレゼンする学習活動が設定されている。また、全学年において『深めよう! 音楽』では、自分がどのように表現したいかについて、意見交換をするためのワークシートが掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では箏曲、尺八音楽、日本とアジアの声による表現、2・3上では雅楽、舞楽、郷土の音楽や芸能、能、2・3下では歌舞伎、長唄、文楽などが取り上げられている。
教芸	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では雅楽、箏曲、日本の民謡、2・3上では長唄、義太夫節、郷土の芸能、2・3下では尺八音楽、能、沖縄民謡などが取り上げられている。
⑪ 体験活動の充実	
教出	体験活動の充実について、『Let's Try!』での『指揮をしてみよう』では、第1学年では4拍子の振り方と、強弱の付け方について、2・3上ではテンポの変化や、終わり方についての解説が掲載されている。また、2・3下の『長唄 勸進帳をうたおう』では、口三味線を体験する学習が設定されている。
教芸	体験活動の充実について、全学年の『指揮をしてみよう』では、指揮者の山田和樹の話とあわせて、第1学年では、速度、強弱、旋律、構成をポイントに設定しており、2・3上では、音色、旋律、テクスチュア、強弱について振り方を考える学習が設定されている。また、鑑賞と関連付けて能『教盛』の話や舞を体験する学習が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
教出	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、冒頭の教材『アニーローリー』において、ソプラノリコーダーの二重奏用の楽譜が掲載されている。また、『Let's Sing!』では、変声期に起きる音域の変化や無理のない発声に関する解説が掲載されている。
教芸	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、冒頭の2曲の歌唱教材において、作曲者から新入学生へのメッセージが掲載されている。また、『My Voice!』では変声期について、そのしくみと音域の変化、心がけることについて学ぶ内容が掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
教出	情報活用能力の育成について、2・3下では、学習資料『コンピュータと音楽』が掲載されている。インターネット配信を利用した鑑賞に加え、楽譜制作ソフトによる創作や作曲、シーケンス・ソフトによる伴奏やパート練習への活用など、コンピュータを使用した学習例が掲載されている。
教芸	情報活用能力の育成について、2・3上では、『受け継ごう! 郷土の祭りや芸能』において、日本各地の郷土芸能や祭りを調べて、他の地域の人に紹介する学習例として、インターネットなどを活用して調べる情報活用例が掲載されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
教出	学習上の困難さに応じた工夫について、全学年において、歌唱教材では、新出の音符や記号などある場合、右下に○囲みで記載されている。学習目標は白抜き文字で縦に記載されており、作曲者名や日本音楽の楽器名や用語などには、ルビが振られている。
教芸	学習上の困難さに応じた工夫について、各学年において、歌唱教材では、新出の音符や記号などある場合、誌面右上に記載されている。また、学習目標はゴシック体の黒文字で縦に記載されており、下には手掛かりとする音楽の要素が表示されている。作曲者名や日本音楽の用語などにはルビが振っており、西洋の作曲者名はカタカナ表記されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
教出	全学年において三つの領域にそれぞれ主要教材が指定されており『ACTIVE!』が設定されている。また『学びのユニット』には、各教材の、音楽を形づくっている要素が表示されている。『ACTIVE!』では教材に対する具体的な学習例が示されており、感想の記述や、話し合い活動の学習が設定されている。
教芸	全学年において目次の次のページに、1年間の学習内容が見開きでまとめられている。各教材に関連する学習指導要領の内容が線で結ばれている。また、各教材の学習目標の下には、音楽を形づくっている要素のうち、該当するものが記載されている。
⑯ 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、[共通事項]をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
教出	主体的・協働的な学習について、全学年において音楽を形づくっている要素が『学びのユニット』にまとめて示されている。1年、2・3上では、『どんな特徴があるかな』の中で、要素の変化と、曲想の変化との関連について考え、話し合う学習が設定されている。
教芸	主体的・協働的な学習について、全学年において、全教材名の真下には、音楽を形づくっている要素を明示した学習目標が記載されている。また、『深めよう音楽』では、音楽の要素を手掛かりとして、聴き取ったことと感じ取ったことの関連について記述するワークシートが掲載されている。
⑰ 「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	
教出	系統的・発展的な配列について、『故郷』の歌唱では、学年が上がるに従って、同声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展されている。また『深めてみよう』により、新たに得た知識・技能が別の教材でも関連付けられるよう、教材配列がされている。
教芸	系統的・発展的な配列について、『ふるさと』の歌唱では、学年が上がるに従って、混声二部合唱から混声三部、混声四部へと発展している。また、『My Voice!』では、豊かな発声について、学年が上がるごとに姿勢や呼吸、息の流れのイメージ、豊かな響きへと、配列されている。
⑱ 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	
教出	音楽文化の理解について、『何が同じで何が違う?』では、世界の諸民族の音楽の固有性や多様性について比較し、仲間と対話を通して考えを交流させる学習が設定されている。また、『ポピュラー音楽図鑑』では、19世紀から現代までの新しい音楽文化について掲載されている。
教芸	音楽文化の理解について、2・3下では、特集『社会を映し出す音楽』において、社会と音楽との関わりについて掲載されている。2・3上では『受け継ごう、郷土の祭りや芸能』では、地域の祭りや芸能について調べることで、どのように継承していくかといった学習の機会が設定されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	見開き2ページの目次には、歌唱、創作、鑑賞の各分野ごとに『主要教材』が示されており、本編は表現（歌唱、創作）鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。また、後半には合唱曲集が掲載され、巻末には楽器図鑑や楽典のまとめが掲載されている。
教芸	見開き2ページの目次では、資質・能力の三つの柱ごとに各題材が掲載されており、音楽を形づくっている要素も示されている。本編は表現（歌唱、創作）鑑賞の順に、二つの領域が配列されている。また、巻末には楽器図鑑や楽典のまとめが掲載されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	判型はA4変型判が採用されている。
教芸	判型はA4変型判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
教芸	『全ての生徒の色覚特性に適応することを目指してデザインしています。』『特別支援教育の視点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	1 58ページ 「からたちの花の小径」（神奈川県） 2・3上 口絵① 辻堂海岸の写真（神奈川県） 2・3上 14～15ページ「夕暮れの辻堂海岸」 2・3下 18ページ 滝廉太郎（横浜で育つ） 2・3下 59ページ 神奈川フィルハーモニー管弦楽団
教芸	1 24～27ページ 辻堂海岸の写真（藤沢市） 1 62ページ 箱根馬子唄 2・3上 48～49ページ 横浜シンフォニエッタ、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の皆さん 2・3上 69ページ チャッキラコ

② URL、二次元コード等の掲載の有無					
発行者名	1年	2・3 年上	2・3 年下		
教出	有	有	有		
教芸	有	有	有		

③ 一冊ごとの重量(g)					
発行者名	冊数	1年	2・3 年上	2・3 年下	
教出	3	199	199	200	
教芸	3	207	208	206	

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-5)を参照。

発行者の略称	教出	書名	中学器楽 音楽のおくりもの
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① □ 「知識・技能」の習得について、楽器の構え方や演奏姿勢について、手元の拡大写真や息の流れの図示を用いて、奏法に関する解説が掲載されている。</p> <p>② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、曲名の下段に学習目標が示されている。また、題材ごとに、キャラクターの吹き出しに演奏方法のアドバイスが掲載されている。</p> <p>③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、邦楽演奏家による、音楽と向き合う上で大切にしていることについての話が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ □ [思いやる力]の「人権教育」について、感謝や謙虚な姿勢に関する演奏家の話が掲載されている。また、合奏では仲間と協力し、音を聴き合いながら表現する学習例が掲載されている。</p> <p>⑤ □ [たくましく生きる力]について、各楽器の導入として、楽器の歴史や、演奏家による楽器の音色や魅力についての紹介コメントが掲載されている。</p> <p>⑥ □ [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の伝統芸能と太鼓演奏との関わりが写真と共に紹介されている。また、復興記念事業のために作曲された太鼓合奏曲が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びの実現について、『何が同じで、何が違う?』で楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴などを考える学習が設定されている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、世界の民族楽器の写真と共に、その国の歴史や文化的背景について調べる学習が設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、『発展』では、世界各地の楽器について調べ、まとめを記入する欄が設定されている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、5種類の和楽器が設定されており、歌唱及び鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、『勸進帳』の一部を体験的に演奏してみる活動や、複数のリズムと唱歌を用いて、お囃子を創作、演奏する体験が設定されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーの曲や歌唱曲が、アルトリコーダーやギターによる合奏教材として編曲されて掲載されている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の写真を見たり曲を聴いたりすることで、構造や構え方、特徴などについて、比較する学習が設定されている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーでは、新出の音の運指が図示されている。その他の楽器の姿勢や構え方なども、写真や図と共に解説されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ キャラクターの吹き出しにより、学習の方向性や、演奏方法についてのアドバイスが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 主体的・協働的な学習について、『不思議な旋律PART1、2』で、音楽を形づくっている要素の中から、複数取り上げ、対話しながら合奏を完成させる学習が設定されている。</p> <p>⑰ □ 系統的・発展的な学習について、各楽器では、入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで段階的に配置されている。</p> <p>⑱ □ 音楽文化の理解について、世界の吹奏楽器の写真や解説と共に、歴史について考える学習が設定されている。また、太鼓が昔から行事や祭りで演奏されてきた写真が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ □ 本編は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器が配置されている。</p> <p>⑳ □ 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ □ 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

※詳細については、資料Ⅱ(器楽合奏-3～器楽合奏-5)を参照。

発行者の略称	教芸	書名	中学生の器楽
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得に関して、楽器演奏における『姿勢と構え方』という項目では、複数方向からの写真などを用いて、奏法に関する解説が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習目標が、ページ左端に縦書きで表記されている。また、仲間との対話を通して学習目標に向かう学習事例が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、ピアニストによる、辛いことがあっても音楽を諦めずに続けてきたことについての話が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、和楽器の演奏において、互いの音を聴き合うことに関する中学生の感想や、作法や相手への敬意に関する演奏家の言葉が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、各楽器の導入として、楽器の歴史や、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓や篠笛が地域の祭りなどで演奏されている様子が紹介されている。また、和楽器や地域の伝統芸能に関わる中学生の感想も掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びの実現について、キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫に関する対話が例示されている。また、『<input checked="" type="checkbox"/>』により、演奏時に留意する内容が示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、世界の伝統楽器の写真と共に、その楽器が生まれた歴史的背景について解説されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、アンサンブル表現の工夫について、キャラクターの吹き出しを手掛かりに、意見交換する学習が設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、5種類の和楽器が設定されており、各楽器の導入では、代表的な曲が紹介されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、唱歌と手拍子、膝打ちにより合方のリズムや間を体験する学習が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーによる二重奏曲が掲載されている。また、小学校で学習した歌唱曲も、練習曲として掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、合奏における各パートの役割を手掛かりにして、どの楽器の音がふさわしいかを、複数の楽器を比較して考える学習が設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーでは、新出の音の運指図が掲載され、演奏上の留意点も、Q&A形式で示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> キャラクターの吹き出しにより、学習の要点や、表現の工夫についてのアドバイスが掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 主体的・協働的な学習について、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 系統的・発展的な学習について、前半に合奏が設定されている。各楽器に関連する教材は、一般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 音楽文化の理解について、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。ギターでは、クラシック以外のジャンルについて紹介されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 本編は、アンサンブル、リコーダー、ギター、和楽器、打楽器の順に各楽器が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應することを目指してデザインしています』『特別支援教育の観点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《音楽(器楽合奏)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
教出	「知識・技能」の習得について、リコーダーや和太鼓の演奏における構えや姿勢について、手元を拡大した写真が掲載されたり、息の流れについて図示され、その方向を示されたりするなど、奏法の解説が掲載されている。
教芸	「知識・技能」の習得について、ギターや箏における『姿勢と構え方』という項目では、複数方向から撮影した写真が掲載されており、体の向きや力の加減、手の使い方について解説が掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『Let's Play!』では、曲名の下段に、学習目標が示されている。また、題材ごとに先生役や生徒役のキャラクターの吹き出しに演奏方法のイメージについてアドバイスする内容が掲載されている。
教芸	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書の前半に『アンサンブル・セミナー』が設定され、学習目標が縦書きで表記されている。また、『深めよう！音楽』では、学習目標や表現方法について、仲間との対話を通じた学習事例が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『音楽はメッセージ 心を込めて中学生の皆さんへ』として邦楽演奏家の、音楽と向き合う上で大切にしていることについての話と、演奏時の写真が掲載されている。
教芸	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭にピアニストの辛いことがあっても音楽を諦めずに続けてきたことについての話と、演奏時の写真が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、『心を込めて』に「感謝と謙虚の心をいつまでも忘れないように」という深海さとみの言葉が掲載されている。また、『合わせて合奏しよう』にリコーダー、箏などの合奏の際に、仲間とお互いの響きを聴き合いながら演奏する学習例が掲載されている。
教芸	[思いやる力]の「人権教育」について、巻末資料の『中学生にインタビュー』では、互いの音を聴き合うことの魅力について掲載されている。また、『コラム』では日本の伝統文化における相手への敬意や作法の大切さが記載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
教出	[たくましく生きる力]について、リコーダー、篠笛、ギター、和太鼓など、各楽器の導入では、楽器の歴史について紹介すると共に、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。
教芸	[たくましく生きる力]について、リコーダー、篠笛、ギター、和太鼓など、各楽器の導入として、楽器の歴史について紹介すると共に、演奏家による楽器の音色や魅力についてのコメントが掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓の題材では、地域の伝統芸能との関わりが写真と共に掲載されている。また、復興記念事業『神戸21世紀海響祭』のために作曲された太鼓合奏曲『千の海響 望の章』が掲載されている。
教芸	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、太鼓や篠笛では、地域の祭りや芸能の中で演奏されている様子が紹介されている。また、巻末資料や裏表紙では、和楽器に取り組む中学生の感想や、地域の祭り囃子を伝承している姿も掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
教出	主体的・対話的で深い学びの実現について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の構え方や音の出る仕組み、音色の特徴等について考えるワークシートが掲載されている。また、『発展』では各楽器の成り立ちや伝統などについて仲間と意見交換する場面も設定されている。
教芸	主体的・対話的で深い学びの実現について、『深めよう!音楽』では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、表現の工夫についての対話が例示されている。また、『☑』により、演奏において留意する点が写真などを交えて示されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
教出	カリキュラム・マネジメントについて、『発展』では世界の諸民族の音楽の伝統について掲載されており、それらの歴史や文化について調べる課題が掲載されている。また、口絵②では、和楽器奏者の礼儀に関する考えが記載されている。
教芸	カリキュラム・マネジメントについて、『音楽ってなんだろう?』では、批評家の考えと共に諸外国の伝統楽器の演奏や、日本各地の祭りの写真が掲載されている。『楽器を知ろう』では、各楽器の特徴、生まれた歴史的背景についても解説されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
教出	言語能力の育成について、『発展』では、世界各地の楽器の文化や伝統について、いつ、どこで、何のために演奏されるかについて調べ、まとめる記入欄が設定されている。また、『話し合おう』では、仲間と意見交換する場面も設定されている。
教芸	言語能力の育成について、『アンサンブルセミナー』の『深めよう!音楽』では、アンサンブルの表現を工夫するために、言語活動例が掲載されており、生徒役キャラクターのアドバイスや投げかけの言葉を手掛かりに、仲間と意見交換する学習が設定されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、篠笛、尺八、箏、三味線、和太鼓の5種類の和楽器から選択できるように設定されており、『さくらさくら』や『荒城の月』、『勸進帳』など、歌唱や鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されている。また、楽器本来の楽譜も掲載されている。
教芸	伝統や文化に関する教育の充実について、箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八の5種類の和楽器から選択できるように設定されている。また、導入では、その楽器の伝統的な代表曲が鑑賞教材として紹介されている。唱歌や楽器本来の楽譜も掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
教出	体験活動の充実について、鑑賞教材の『勸進帳』の『寄せの合方』の部分を体験的に演奏する活動が掲載されている。また、『楽器と唱歌によるパッチワーク』では、複数のリズムパターンと、唱歌を組み合わせた創作活動により、お囃子の特徴を体験する学習が設定されている。
教芸	体験活動の充実について、『寄せの合方』によるリズムアンサンブルでは、唱歌と手拍子、膝打ちにより『勸進帳』を演奏体験する学習が設定されている。また、合方の特徴を体験する際に、掛け声を用いる学習も設定されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
教出	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したソプラノリコーダーによる重奏や歌唱曲などが、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーによる重奏や、ギターとリコーダーとの合奏用に編曲されて掲載されている。
教芸	学校段階間の円滑な接続について、『アンサンブルセミナー』には、小学校で学習したソプラノリコーダー二重奏曲が掲載されている。また、ギターや和楽器の練習曲には、小学校で学習した歌唱曲が編曲されて掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
教出	情報活用能力の育成について、『何が同じで、何が違う?』では、楽器の写真を見たり曲を聴いたりすることで、構造や構え方、特徴などについて、その共通点や相違点を比較する学習が設定されている。
教芸	情報活用能力の育成について、『アンサンブルセミナー』での『深めよう!音楽』で、複数の楽器群より、どの楽器を演奏するかについて考える際に、各パートの役割や旋律、リズムなどの特徴を手掛かりに選択する学習が設定されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーの学習では、新出の音の運指が図示されている。和楽器や、ギターなどでは、楽器の置き方、姿勢、構え方の説明が、複数方向からの写真や、指の位置の図などと共に解説されている。
教芸	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、アルトリコーダーの学習では、新出の音の運指が図示されている。また、演奏上の留意点が、Q&A形式で示されている。新しく取り組む楽器について、代表曲を紹介することにより、実際の音色を聴く機会が設定されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
教出	教師役キャラクターによる吹き出しでは、学習の方向性や演奏法のアドバイスが掲載されている。また、教材の構成について、吹く楽器から弾く楽器、打楽器の順番で構成されている。
教芸	『アンサンブルセミナー』では、生徒役キャラクターの吹き出しにより、学習の要点や、表現についてのアドバイスが掲載されている。また、教材の構成について、リコーダーやギターなどの西洋の楽器、和楽器の順番で構成されている。

⑩ 表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、[共通事項]をよりどころとして、主体的・協働的な学習の展開が図られるような工夫や配慮がなされているか。	
教出	主体的・協働的な学習について、合奏教材の『不思議な旋律PART 1、2』には、[共通事項]である音楽を形づくっている要素の中から、旋律、リズム、音色、構成を取り上げ、仲間と意見交換しながら合奏を完成させる学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として、合奏教材が掲載されている。
教芸	主体的・協働的な学習について、「学習内容」一覧に、[共通事項]である音楽を形づくっている要素が示されている。また、『アンサンブル・セミナー』では、示された音楽を形づくっている要素を手掛かりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されている。また、後半には協働的な学習として合奏教材が掲載されている。
⑪ 「A表現」や「B鑑賞」の教材は、学習を積み重ねていくことができるよう、系統的、発展的に配列されているか。	
教出	系統的・発展的な学習について、全体の構成として、前半は管楽器、後半は弦楽器から打楽器へと、配列されている。また、各楽器の教材は入門から技能の習得、表現や音色の工夫まで、段階的に配置されている。
教芸	系統的・発展的な学習について、前半にアンサンブル教材が配置され、『深めよう！音楽』により、対話的な学習が配置されている。各楽器に関連する教材は、全般的な知識、構造、技能が段階的に配置されている。
⑫ 音楽文化の理解について、多様な音楽を、身の回りの生活や社会と関連させながら学習するための工夫や配慮がなされているか。	
教出	音楽文化の理解について、『発展』の『吹く楽器の仲間たち』では、世界の吹奏楽器の写真や、素材が説明されており、文化や伝統について考える学習が設定されている。また、太鼓が、古くから地域の伝統行事や祭りにおいて演奏されてきた写真が掲載されている。
教芸	音楽文化の理解について、巻末に、和楽器に取り組む中学生の様子が掲載されている。また、ギターでは、クラシック以外にフォーク、ロック、ジャズなどのジャンルの違いが紹介されている。『バンドの世界をのぞいてみよう』では、音楽文化の一つとして、ポピュラー音楽が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑬ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
教出	前半は、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓の順に各楽器の基本的奏法が掲載され、後半は、リコーダーの合奏、和楽器の合奏等アンサンブル曲集で構成されている。
教芸	前半にアンサンブルが配置され、技能についての確認がされている。中間部分にリコーダー、ギター、和楽器、打楽器の順に基礎的奏法が配置され、後半は、合奏教材にポピュラー曲の楽譜が掲載されている。
⑭ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	判型はA4変型判が採用されている。
教芸	判型はA4変型判が採用されている。
⑮ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『学習目標には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
教芸	『全ての生徒の色覚特性に適応することを目指してデザインしています』『特別支援教育の観点から、学習上重要な情報を確実に読み取れるようにしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
教出	なし
教芸	なし

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名						
教出	有					
教芸	有					

③ 一冊ごとの重量(g)						
発行者名	冊数	重量(g)				
教出	1	220				
教芸	1	220				

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《美術》

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-10)を参照。

発行者の略称	開隆堂	書名	美術2・3 探求と継承
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能を例示した『学びの資料』が巻末に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『思考力・判断力・表現力に関する目標』が示され、発想や構想の視点として『学習のポイント』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、美術の学習の意味や目的を取り上げた、『絵や彫刻で学ぶこと』『デザインや工芸で学ぶこと』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「豊かな心」について、使う相手や受け取る相手などの目的に応じてつくるデザインの題材や、安心・安全・便利について発想や構想をし、制作する題材が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、東日本大震災に見舞われた東北地方の魅力を世界に発信した『東北スクール in Paris』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、美術で学ぶデザインや工芸が、身近に見られるもので示されている。また、美術以外の仕事にも生かされていることが示されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、問題解決の例や、自分の作品の意図について生徒同士が話し合う活動の様子が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、関連する教科と内容がマークとともに示されている。また、『空間を快適に生き生きと』で、文化祭などの飾り付けが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、言葉を使ってアイデアを構想している写真や、共同してデザインを決定していく学習過程が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、建築や作品などの伝統美術の継承や、文化を残すための事業について掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、公共の施設や学校などの身近な空間や地域にある造形物に目を向け、文化祭で学校を飾り付ける題材が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、巻頭の『図工から美術へ』や『学びの地図』において、中学校美術で学ぶ内容や小学校とのつながりが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、デジタルカメラなどを使用したコマ撮りアニメーションの制作方法や、映像メディアを活用する特設ページが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難に応じた工夫について、中学校以上で習う漢字にルビが記載されている。また、各ページの図版には、番号が示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 生徒作品とともに、その生徒が表している表現の主題が『作者の言葉』として紹介されている。また、実物と同じ大きさに掲載されている図版には『原寸』と示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、身の回りの風景を造形的な視点で捉えることや、既存の建物を再利用したリノベーションが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 生徒が自分らしい思いや考えをもつことについて、生徒作品に表現の主題を示した『作者の言葉』が示されている。また、自分の考えを伝え合っている活動が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 「A表現」と「B鑑賞」の領域を関連させることについて、表現題材には作家の作品と生徒作品の両方が示され、表現と鑑賞に相互に取り組む題材が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 第1学年は17題材、第2・3学年は39題材掲載されている。また、題材は、2～6ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮しています。』『特別支援教育の観点から、書かれている内容が読みやすくなるように配慮しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《美術》

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-10)を参照。

発行者の略称	光村	書名	美術2・3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能を例示した『学習を支える資料』が巻末に掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『発想構想』『みんなの工夫』として、生徒が発想や構想し、表現している過程が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、美術の学習の意味や目的を取り上げた『うつくしい!』と題した文が巻頭に掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「豊かな心」について、使う相手や受け取る相手などの目的に応じて制作するデザインの題材や、LGBTをテーマに描いた生徒作品『二人で生きる』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]について、自然災害の後、復興に向けて地域の人々のためにつくられた建築物『みんなの家』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「生きること」について、美術で学ぶデザインが身の回りにあることについて、中学生の1日の生活を例にしながらから写真とともに示されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、作品をつくったり鑑賞したりするときに発想を広げる『マップング』などの活用方法や、付箋を活用した話し合いの方法などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科とのつながりがある題材には『○○科とのつながり』というコラムが設けられ、道徳科と関連のある題材にはマークと内容項目が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、感じたことや考えたことを言葉で示したアイデアスケッチや、他者と意見交換をしながら制作している様子が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、絵巻物作品『鳥獣人物戯画』と漫画表現との共通点や違いを探る鑑賞題材が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、身近にある日用品や公共の場所の中から、使いやすくデザインされたものを探る題材が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、図画工作科の学習とつながるように、1年の導入に『美術って何だろう?』及び『美術で学ぶこと』が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報機器の使用法やタブレット端末やプロジェクターを使用した活動例が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難に応じた工夫について、2人の生徒の表現の過程を『みんなの工夫』とし、学習活動の写真や文などで示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 表現題材の学習過程が、2人の生徒の写真やアイデアスケッチなどとともに掲載されている。また、実物と同じ大きさで掲載されている図版には『原寸大』と示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、身の回りの物事や漫画を造形的な視点で鑑賞する題材が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 生徒が自分らしい思いや考えをもつことについて、『美術鑑賞を楽しむ手がかり』として、自分が感じたことや考えたことをまとめていく流れが掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 「A表現」と「B鑑賞」の領域を関連させることについて、『表現中心の題材』は、題材に関連した作品鑑賞から導入され、表現と鑑賞に相互に取り組む題材が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 第1学年は17題材、第2・3学年は22題材掲載されている。また、題材は、2～8ページで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『小さく掲載する文字については、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《美術》

※詳細については、資料Ⅱ(美術-4～美術-10)を参照。

発行者の略称	日文	書名	美術2・3下 学びの探求と未来
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。		
	① □ 「知識・技能」の習得について、基礎的な知識や技能を例示した『学びを支える資料』が巻末に掲載されている。		
	② □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『発想や構想、鑑賞に関する目標』が示され、『作者の言葉』として、作者の思いが掲載されている。		
	③ □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、美術の学習の意味や目的を伝える著名人の『学びの言葉』が巻頭に掲載されている。		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。		
	④ □ [思いやる力]の「豊かな心」について、使う相手や受け取る相手などの目的に応じてつくるデザインの題材や、話し合いながら共同制作をする題材が掲載されている。		
	⑤ □ [たくましく生きる力]について、東日本大震災をテーマにした作品に『いつかだれかの力になる』という作者の言葉が掲載されている。		
	⑥ □ [社会とかかわる力]の「生きること」について、美術以外の分野の著名人の言葉を取り上げ、『美術には心を落ち着かせる力や、感動をもたらす力がある』などと示されている。		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ □ 主体的・対話的で深い学びについて、アイデアスケッチをもとに発想や構想をし、共同制作をする題材が掲載されている。</p> <p>⑧ □ カリキュラム・マネジメントについて、道徳科と関連する題材には、マークと内容項目に対応した文が示されている。また、文化祭の看板の作品が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ □ 言語能力の育成について、感じたことや考えたことを言葉で示したアイデアスケッチが示されている。また、他者と対話をしている学習活動が掲載されている。</p> <p>⑩ □ 伝統や文化に関する教育の充実について、日本や外国の伝統や文化を示し、美術文化の継承と創造について記述した鑑賞題材が掲載されている。</p> <p>⑪ □ 体験活動の充実について、地域の自然の材料や工芸技術を取り入れた列車のデザインを鑑賞する題材が掲載されている。</p> <p>⑫ □ 学校段階間の円滑な接続について、1年の巻頭に、幼いころの造形活動や小学校の図画工作科での学習活動を示した文と写真が掲載されている。</p> <p>⑬ □ 情報活用能力の育成について、デジタルカメラやパソコンなど、情報機器を使用した写真表現や動画映像の表現方法が掲載されている。</p> <p>⑭ □ 生徒の学習上の困難に応じた工夫について、生徒の制作途中の様子が、写真や文などで示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ □ 造形的な視点をもって作品や活動を捉える『造形的な視点』が吹き出しで示されている。また、実物と同じ大きさで掲載されている図版には『原寸大』と示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ □ 生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることについて、社会で活躍している人の言葉が『学びの言葉』や『社会に生きる美術の力』に掲載されている。</p> <p>⑰ □ 生徒が自分らしい思いや考えをもつことについて、表現の主題を生み出すまでのアイデアスケッチが示されている。また、『作者の言葉』で表現の主題が掲載されている。</p> <p>⑱ □ 「A表現」と「B鑑賞」の領域を関連させることについて、表現を中心とした題材に、関連した作家の作品が示され、表現と鑑賞に相互に取り組む題材が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	⑲ □ 第1学年は19題材、第2・3学年上は18題材、第2・3学年下は17題材掲載されている。また、題材は、2～6ページで構成されている。		
	⑳ □ 判型はA4変型判が採用されている。		
	㉑ □ 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。		

【資料Ⅱ】

教科種目名≪美術≫

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
開隆堂	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学びの資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、題材ページには、美術に関連する言葉を説明した「美術の用語」が示されている。
光村	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学習を支える資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、『みんなの工夫』には、生徒が技能を働かせている様子が紹介されている。
日文	「知識・技能」の習得について、各学年の巻末に『学習を支える資料』として、基礎的な知識や技能について掲載されている。また、題材ページには、知識に関連する『造形的な視点』が示されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『思考力・判断力・表現力に関する目標』が示されている。また、『学習のポイント』として『視点の位置を工夫して、表したい風景に合った構図を考えよう。』などの発想・構想の方法や学習の進め方が掲載されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『発想構想』『みんなの工夫』として、活動中に生徒が発想し、構想を練る思考の過程が、アイデアスケッチなどとともに示されている。また『作家の発想・構想』が掲載され、美術家や画家の発想や構想について紹介されている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各題材に『発想や構想、鑑賞に関する目標』が示されている。また、『スケッチに描く対象は、感情がワクワクしたものが全て。』などの『作者の言葉』、学習活動の様子が分かる写真、アイデアスケッチが掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、表現や鑑賞の活動を通して学ぶ意義や、生活や社会の中の美術や美術文化とのつながりについて、内容のまとめりごとの初めのページに、『絵や彫刻で学ぶこと』『デザインや工芸で学ぶこと』が掲載されている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、美術を学ぶ意義について、各学年の巻頭の『うつくしい!』と題した文で、美術の学習の意味や目的が示されている。また、一人ひとりの生徒が「美しい」と感じたものの写真が掲載されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各巻の巻頭に、アニメーションの背景画など、日常生活の中にある美術や美術文化が示されている。また、歌手や美術家などの著名人の言葉を使って美術の学習の意味や目的に関わることが掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
開隆堂	[思いやる力]の「豊かな心」について、小さな子どもが触れることを想定して木のおもちゃをつくる題材や、安心・安全・便利などについて発想や構想をして制作する題材では、生徒作品『ドア開閉安全マーク』や『画びょう入れ』が掲載されている。
光村	[思いやる力]の「豊かな心」について、感謝やお祝いの気持ちなどを伝えるために、使う相手や受け取る相手などの目的に応じて制作するデザインの題材や、『LGBTの人たちが生きやすい社会』を表したポスターと、『いじめ防止缶バッジ』と題した生徒作品が掲載されている。
日文	[思いやる力]の「豊かな心」について、使う相手や、受け取る相手などの目的に応じて制作するデザインの題材や、みんなで話し合いながら『学校紹介ムービー』を共同制作する題材、アール・ブリュット作品の写真が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
開隆堂	[たくましく生きる力]について、東日本大震災に見舞われた東北地方の魅力を世界に発信した『東北スクール in Paris』で行われた造形ワークショップの様子や、ロゴのデザインなどを取り上げた『美術の力を生かして社会とかかわる』が掲載されている。
光村	[たくましく生きる力]について、大きな自然災害が起こった後、被災地に漁業と観光の拠点としてつくられた宮城県の『宮戸島月浜のみんなの家』や、住民が立ち寄れる熊本県の『西原村小森第2のみんなの家』などが掲載されている。
日文	[たくましく生きる力]について、東日本大震災をテーマに描かれた美術作品から、自然災害の脅威や、美術にできることや美術がもつ力について示された鑑賞題材では、『いつかだれかの力になる』という作者の言葉とともに、絵画作品『あの日を忘れない』が掲載されている。

⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
開隆堂	[社会とかかわる力]の「生きること」について、美術で学ぶデザインや工芸について、身近で見られるロゴマークやはさみなどで説明されている。また、美術で学んだ力が社会の中で、落語家や保育士などの仕事に生かされていることが示されている。
光村	[社会とかかわる力]の「生きること」について、美術で学ぶデザインが身の回りについて、中学生の1日の生活を例にしながら写真とともに示されている。また、各地で行われている美術に関するイベントやプロジェクトが紹介されている。
日文	[社会とかかわる力]の「生きること」について、美術以外の分野のシンガーソングライターやノーベル賞受賞者などの著名人を取り上げ、『美術には心を落ち着かせる力や、感動をもたらす力がある』などという言葉とともに、美術の学習が社会とつながっていることが示されている。

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、グループで話し合っクラスのシンボルマークのデザインを決め、Tシャツにプリントして問題解決した例や、自分の作品の意図について生徒同士が話し合う活動が掲載されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、作品をつくったり鑑賞したりするときに発想を広げる『マッピング』や『9マスの表』などの活用方法や、付箋を活用した話し合いの方法などが掲載されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、アイデアスケッチをもとに発想や構想をし、共同で地域の広場を囲む壁に絵を描く活動が掲載されている。また、合唱曲のイメージを伝える絵を共同で描く活動が掲載されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、他教科や道徳科と関連する題材には、マークと共にその内容が示されている。また、表現題材『空間を快適に生き生きと』では、校舎内や文化祭での教室などを飾り付けている写真が掲載されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、国語科・数学科・家庭科・理科とのつながりがある題材には『〇〇科とのつながり』というコラムが設けられている。また、道徳科と関連のある題材にはマークとともに内容項目が示されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、道徳科と関連する題材には、マークとその内容項目に対応した文が示されている。また、『紙で美しい装飾をつくる』題材では、文化祭の看板の作品が示されている。

- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
開隆堂	言語能力の育成について、『ポスターの制作』では、『課題を理解し、テーマに関する情報を収集』し、関連する言葉を書き出して『アイデアを構想』している過程が示されている。また、グループで構想している活動が掲載されている。
光村	言語能力の育成について、発想や構想の過程で表したいことについて言葉を書き出したアイデアスケッチが掲載されている。また、他者と意見交換をしながら制作している様子が示されている。
日文	言語能力の育成について、発想や構想の過程で感じたことや考えたことを言葉で示したアイデアスケッチが示されている。また、グループで話し合いながら表現や鑑賞の活動をしている様子が掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、『名古屋城本丸御殿復元プロジェクト』として、伝統技術の未来への継承や、文化を未来に残すための市民の森づくり事業について掲載されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、絵巻物作品『鳥獣人物戯画』や『伴大納言絵巻』などと、『ちびまる子ちゃん』などの漫画表現との共通点や違いを探る鑑賞題材が掲載されている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、日本の国宝に指定されているものについては『国宝』と示されている。また、『どこまで修復すべきか』では、日本や外国の伝統や文化から、美術文化の継承と創造について記述した鑑賞題材が掲載されている。

⑪ 体験活動の充実	
開隆堂	体験活動の充実について、美術館での鑑賞活動だけではなく、絵本や地図など、身近にあるものや地域にある造形物が紹介されている。また、日本各地の『明かりの行事』である『秋田竿灯まつり』などが掲載されている。
光村	体験活動の充実について、美術館での鑑賞活動だけではなく、身の回りにある椅子に実際に座ってみたり、複数の角度から見てみたり、運んでみたりする活動や、公共の場にある椅子の形や色、材料に目を向ける活動が紹介されている。
日文	体験活動の充実について、美術館の作品を鑑賞する活動だけではなく、地域の自然の材料や工芸技術を取り入れた列車のデザインを鑑賞する題材が掲載されている。また、自分たちの地域にあるものや漫画、パブリックアートを鑑賞する題材が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、1年の巻頭の『図工から美術へ』及び『学びの地図』において、中学校美術で学ぶ内容が、小学校とのつながりとして掲載されている。2・3年の巻末には、『未来に向かって』と題し、美術科で培われた力が生活につながっていくことが示されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、図画工作科の学習とつながるように、1年の導入に『美術って何だろう?』及び『美術で学ぶこと』が設定されている。2・3年の巻末には『美術の力』として、美術の学びを振り返り、将来につながることに示されている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、1年の巻頭には、幼いころの造形活動や小学校の図画工作科の学習活動を示した文と写真が掲載されている。また、2・3年下の巻末には、中学校美術の学びが将来につながることを伝える文が掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
開隆堂	情報活用能力の育成について、デジタルカメラなどを使用したコマ撮りアニメーションの制作方法が示されている。また、映像メディアを活用する特設ページが設定され、表現の可能性が広げられる撮影機器と、その扱い方や活用例が掲載されている。
光村	情報活用能力の育成について、情報機器の使用法やタブレット端末やプロジェクターを使用した活動例や、映像制作の流れなどが示されている。また、映像を使って空間の演出をしている事例が掲載されている。
日文	情報活用能力の育成について、デジタルカメラやパソコンなど、情報機器を使用した写真表現や動画映像の表現方法が示されている。また、ヴァーチャル・リアリティの鑑賞事例が掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
開隆堂	生徒の学習上の困難に応じた工夫について、中学校以上で習う漢字にルビが記載されている。また、各ページの図版には、番号が示されている。安全に関する注意点については、注意を促すマークが記載されている。
光村	生徒の学習上の困難に応じた工夫について、『みんなの工夫』では、2人の生徒が表現している過程が、発想や構想の段階から完成作品までの順序が、活動の様子やアイデアスケッチなどの写真や文で示されている。
日文	生徒の学習上の困難に応じた工夫について、題材ページには、完成した作品だけではなく、『試しながら、発想を広げよう』『話して、つなげて、深めよう』などと題し、生徒の制作途中の様子が、写真や文などで示されている。

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	生徒作品とともに、その生徒が表している表現の主題が『作者の言葉』として『家族がくれた大事なポーチです。布の柔らかい感じを表しました。』などと示されている。また、題材に関連する専門的な用語が『美術の用語』として掲載されている。
光村	表現題材の学習過程が、2人の生徒が表現の主題をどのようにもち、それを表すためにどのように試行錯誤したのか、写真やアイデアスケッチ、『水たまりに映った青空が美しく見えたので、明るい色で強調して描く。』などの言葉とともに紹介されている。
日文	造形的な視点で物事を捉えるための『造形的な視点』が、『つやつやした感じやかたさなどは、どこから感じるのだろうか。』『視点を変えることにより、どのように印象が変わるだろうか。』などの吹き出しの言葉で示されている。
⑯ 生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	身の回りの物事を造形的な視点で捉えるよう、同じ場所の季節が異なる風景写真を使って色彩について説明されている。また、既存の建物の特徴を利用して新しく生まれた美術館やカフェなどのリノベーションされた建物が鑑賞題材として設定されている。
光村	案内用記号や四季の和菓子など、身の回りの生活の中にデザインが活用されていることを鑑賞する題材や、絵巻物と漫画を比較し、現代の漫画には絵巻物に共通する表現が使われていることなどを示した題材が設定されている。
日文	美術の学びについて、巻頭に著名人の『学びの言葉』が掲載されている。また、『社会に生きる美術の力』では、『美術には心を落ち着かせる力や、感動をもたらす力があることを。』という、ノーベル生理学・医学賞受賞者の言葉が示されている。
⑰ 生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	作品に表現の主題が『作者の言葉』として示されている。また、表現の主題をグループで話し合いながら決めている過程や、自分で制作した自己紹介カードのデザインの意図について伝え合っている様子の写真が掲載されている。
光村	2人の生徒が発想や構想をし、表現していく過程が、制作途中の写真と言葉と共に紹介されている。また、『美術鑑賞を楽しむ手がかかり』には、美術作品を鑑賞する際、『自分なりに考える』などの流れが、キャラクターの言葉と共に示されている。
日文	作品に表現の主題が『作者の言葉』として示されている。また、巻頭の『この教科書で学ぶみなさんへ』に、『感性や想像力を働かせ自分なりの見方や感じ方をつくり出そう。』『自分が強く表したい主題(テーマ)を生み出そう。』と掲載されている。
⑱ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	身近な風景から感じ取ったよさをもとに表したいことを絵に表す題材『心ひかれる風景』では、生徒作品とともに、日本画家・片岡球子の作品『山 富士山』が紹介され、表現と鑑賞に相互に取り組む題材が掲載されている。
光村	『表現中心の題材』は、題材に関連した作家や生徒の作品を鑑賞する活動が初めに示されている。また、表現した後の生徒作品が『ぼくは旅をすると必ずその土地のY字路を捜す。』などの『作者の言葉』とともに掲載されている。
日文	表現を中心とした題材に、生徒作品だけでなく関連した作家の作品や制作途中の写真が掲載されている。また、『造形的な視点』として、『指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいて欲しいこと』が示されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
開隆堂	第1学年は『表現中心の題材』が12題材、『鑑賞中心の題材』が5題材。第2・3学年は『表現中心の題材』が21題材、『鑑賞中心の題材』が18題材。それぞれの題材は、2～6ページで構成されている。
光村	第1学年は『表現中心の題材』が12題材、『鑑賞中心の題材』が5題材。第2・3学年は『表現中心の題材』が16題材、『鑑賞中心の題材』が6題材。それぞれの題材は、2～8ページで構成されている。
日文	第1学年は『表現や鑑賞する活動の題材』が14題材、『鑑賞する活動を主にした題材』が5題材。第2・3学年上は『表現や鑑賞する活動の題材』が12題材、『鑑賞する活動を主にした題材』が6題材。第2・3学年下は『表現や鑑賞する活動の題材』が12題材、『鑑賞する活動を主にした題材』が5題材。それぞれの題材は、2～6ページで構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	判型はA4変型判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、伊藤若冲などの作品が掲載されている。
光村	判型はA4判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、俵屋宗達などの作品が掲載されている。
日文	判型はA4変型判が採用されている。3ページ扱いの片観音開きや、4ページ扱いの両観音開きになる箇所において、尾形光琳などの作品が掲載されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
開隆堂	『カラーユニバーサルデザインの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮しています。』『特別支援教育の観点から、書かれている内容が読みやすくなるように配慮しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『小さく掲載する文字については、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。
日文	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

開隆堂	<p>1年 61ページ 「造形さがみ風っ子展」(相模原市) 1年 66ページ ジョコ・アヴィアント「善と悪の境界はひどく縮れている」(横浜美術館「ヨコハマトリエンナーレ2017」展示風景) 2・3年 15ページ 松本竣介「立てる像」、「立てる像」下絵(神奈川県立近代美術館蔵) 2・3年 29ページ ジュリアーノ・ヴァンジ「偉大なる物語」(箱根彫刻の森美術館蔵) 2・3年 31ページ 堀内正和「円筒を斜めに通りぬけるもうひとつの円筒」[紙]、「円筒を斜めに通りぬけるもうひとつの円筒A」[紙]、「円筒を斜めに通りぬけるもうひとつの円筒」[御影石、ブロンズ](神奈川県立近代美術館蔵) 2・3年 48ページ 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 2・3年 51ページ クロード・ドビュッシーの交響曲「海」初版表紙(「神奈川沖浪裏」に影響されたことが記載されている) 2・3年 53ページ 岡本太郎「縄文人」(川崎市岡本太郎美術館蔵) 2・3年 61ページ クロード・モネ「ルーアン大聖堂」(ポーラ美術館蔵) 2・3年 71ページ 垣内貞夫「道路景観マップ『町田の景観』」(神奈川県を流れる境川をイラストで示した地図) 2・3年 80ページ 益田大祐「波 akari」(「神奈川沖浪裏」をモチーフにしてつくられたことが記載されている) 2・3年 114ページ 生徒作品「愛川町の四季」</p>
光村	<p>1年 7ページ 奈良美智「春少女」(横浜美術館蔵) 1年 13ページ 山口蓬春「つつじ」(山口蓬春記念館蔵) 1年 43ページ エッシャー「昼と夜」(横浜美術館蔵) 1年 52ページ 濱田庄司(神奈川県出身)「柿柚蠟抜漆文笥」 1年 67ページ 「モネ それからの100年」展 ちらし(横浜美術館) 1年 69ページ 鈴野浩一(神奈川県出身)「空気の器」 1年 72ページ 鎌倉彫の箱 1年 76ページ 藤原大(神奈川県出身)「カラーハンティング」の手法 1年 79ページ 作品鑑賞の様子(横浜美術館) 2・3年 25～26ページ 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 2・3年 33ページ 岡本太郎(神奈川県出身)「哄笑」(川崎市岡本太郎美術館蔵) 2・3年 45ページ 松本竣介「立てる像」(神奈川県立近代美術館蔵) 2・3年 54ページ パブロ・ピカソ「海辺の母子像」(ポーラ美術館蔵) 2・3年 57ページ 高橋重樹(神奈川県出身)・神谷準一・山崎和也(神奈川県出身)「MOTTAINAI傘プロジェクト」 2・3年 65ページ 「流水杜若模様打掛」(女子美術大学美術館蔵) 2・3年 73ページ 生徒作品「茅ヶ崎丸ごとCクラッカー」「ささんぴーち」 2・3年 84ページ こいのぼりなう! 須藤玲子×アドリアン・ガルデル×齋藤精一(神奈川県出身)によるインスタレーション 2・3年 95ページ 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 2・3年 96ページ 奈良美智「春少女」(横浜美術館蔵) 2・3年 97ページ 鎌倉彫 2・3年 102ページ 「横浜トリエンナーレ」の記載、造形「さがみ風っ子展」(相模原市) 2・3年 103ページ エル・アナツイ「大地の皮膚」(2008年 神奈川県立近代美術館での展示)</p>
日文	<p>1年 44ページ 横浜市き章 1年 46ページ 三谷基(神奈川県)「花玉」「折花」 1年 62ページ 東山魁夷(神奈川県)「黄山雨過」(長野県信濃美術館東山魁夷館蔵) 1年 74ページ 「中高生向けのプログラム」(横浜美術館) 2・3年上 表紙 東山魁夷(神奈川県)「緑響く」(長野県信濃美術館東山魁夷館蔵) 2・3年上 5ページ 岡本太郎(神奈川県) 2・3年上 17ページ 岡本太郎(神奈川県)「跳ぶ」(川崎市岡本太郎美術館蔵) 2・3年上 23ページ 蔡國強「壁撞き」(2006年 横浜美術館での展示) 2・3年上 24・29・54ページ 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」 2・3年上 31ページ アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック「ムーラン・ルージュのラ・グーリュ」(川崎市市民ミュージアム蔵) 2・3年上 31ページ クロード・モネ「睡蓮の池」(ポーラ美術館蔵) 2・3年上 50～51ページ 岡本太郎(神奈川県)「生命の樹」「太陽の塔」「明日の神話」「飛行船に絵を描く」「午後の日」「ノン」「歓喜」「こどもの樹」「夢の鳥」 2・3年上 53ページ 奈良美智「ワールド・イズ・ユアーズ(部分)」(ウイング上大岡) 2・3年上 54ページ 葛飾北斎が「神奈川沖浪裏」を完成させるまでに「大波」を描いた3作品「賀奈川沖本壺之図」「おしをくりはとうつうせんのづ」「船頭孫助洋中になゞよひて幽霊船を見る」、「手でみる絵／神奈川沖浪裏」 2・3年下 9ページ 東山魁夷(神奈川県)「自画像」(長野県信濃美術館東山魁夷館蔵) 2・3年下 14～15ページ 「等々力緑地壁画のアイデアスケッチ」と生徒作品「四季の風(黒猫の散歩)」 2・3年下 18ページ ヘンリー・ムーア「横たわる像：アーチ状の足」(彫刻の森美術館蔵) 2・3年下 20ページ 曾屋朝絵(神奈川県)「Bathub」(第一生命ギャラリー蔵) 2・3年下 38ページ 寒河江亘太(神奈川県)「ペットボトルのパッケージ」 2・3年下 39ページ 生徒作品「茅ヶ崎ばーむ」 2・3年下 50～51ページ ジョコ・アヴィアント「善と悪の境界はひどく縮れている」(2017ヨコハマトリエンナーレ) 2・3年下 50ページ 「造形さがみ風っ子展」(相模原市) 2・3年下 53ページ 鎌倉彫</p>

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	1年	2・3年	2・3年上	2・3年下		
開隆堂	有	有				
光村	有	有				
日文	有		有	有		

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	1年	2・3年	2・3年上	2・3年下	
開隆堂	2	271	463			
光村	2	310	388			
日文	3	333		292	271	

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《保健体育》

※詳細については、資料Ⅱ(保健体育-5～保健体育-11)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい保健体育
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、心肺蘇生法の実技のイラストや写真に補助線を用いるなどして、ポイントが示された『応急手当の意義と方法』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、知識・技能の活用方法を取り上げた『活用する』が設定され、『見つける』『課題の解決』『広げる』という項目が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習を生活に生かすために『広げる』のコーナーが設けられている。また、日常生活での活用例が『学習のまとめ』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、障がいの有無や人種などを越えたスポーツの取組例が『人と人をつなぐスポーツ』のコーナーなど見開きページで掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「健康教育」について、大腸がんの腫瘍の様子を写真で取り上げた『がんの発生と経過』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、社会で健康や安全、防災などを支えている人を取り上げた『支え合って生きている』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、学習で得た知識をもとに、自分の行動を改善したり、確かめたりする活動例を取り上げた『広げる』のコーナーが各章各単元に掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科、道徳科)の学習内容について示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自身のことや日常体験、小学校で学習したことを発問の内容として取り上げた『見つける』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本人にとって特別なスポーツ文化を取り上げた『日本人と運動会』が『運動やスポーツの必要性和楽しさ』の中に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、折込で心肺蘇生の方法やAEDの使い方などを、写真を中心に取り上げた『傷害の防止』で掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した、『章の扉』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報モラルに配慮しながら、必要な情報を入手し活用する力の育成を取り上げた『インターネットによるコミュニケーションとトラブル』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、グラフや図を読み取る補助となる文章が『ポイント』で示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の流れを示した『見つける』『学習課題』『課題の解決』『広げる』が4ステップで示されている。また、巻末に『キーワードの解説』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料の発行年や著者などを示した『出典一覧』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の経験などに関連させ発表する活動を取り上げた『活用する』のコーナーが設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、今後の生活に生かしていく課題を取り上げた『広げる』や『日常生活に生かそう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 保健編6章、体育編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツの意義』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《保健体育》

※詳細については、資料Ⅱ(保健体育-5～保健体育-11)を参照。

発行者の略称	大日本	書名	中学校保健体育
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、心肺蘇生法の一連の流れやAEDの使い方を取り上げた『心肺蘇生法の実習』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、章末にその章で学習したことを振り返り記入する『学びを活かそう』の項目が設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自分の身の回りに関する内容を取り上げた『つかもう』が設定され、自分の生活に生かす『活用して深めよう』も設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、年齢や性別の違いを超えて共に運動やスポーツに親しむことを取り上げた『運動やスポーツへの多様な関わり方』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「健康教育」について、がん教育の意識を高め、がん検診の受診を呼びかけたポスターを取り上げた、『がんの早期発見のために』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、自分の生き方や進路選択を取り上げた『世界で活躍する人々を支える健康』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、資料を読み取り、他の生徒と考えたり、話し合ったりする活動が章末の『学びを活かそう』のコーナーで設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科)の学習内容について、色が分けられ示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、具体的なイラストや吹き出しから自分の考えを書き込む欄を設けた『学びを活かそう』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本固有の文化として武道を取り上げた『運動やスポーツの移り変わり』が『運動やスポーツの多様性』の中に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、見開きで心肺蘇生法の手順やAEDなどについて取り上げた『傷害の防止』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章扉』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、口絵に、健康で安全な生活を送るスマートフォンとの付き合い方を取り上げた、『私たちの生活とスマートフォン』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、本文と資料のページが分けられ掲載されている。また、本文と資料の背景の色も変えて区別されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の流れを示した『つかもう』『やってみよう』『活用して深めよう』などの項目があり、『キーワード』は単元末にまとめられ、チェック欄が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料の発行年や著者などが示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の日常生活について考え、話し合う活動を取り上げた、『話し合ってみよう』のコーナーが設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、これからの生活につながる学習活動を取り上げた、『活用して深めよう』や『学びを活かそう』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 保健編6章、体育編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツの意義』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《保健体育》

※詳細については、資料Ⅱ(保健体育-5～保健体育-11)を参照。

発行者の略称	大修館	書名	最新 中学校保健体育
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、見開きのページで、呼吸法や筋肉をリラックスさせる方法を取り上げた『リラクゼーションの方法』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『学習のまとめ』で『話し合おう』『生かそう』が設定されている。章末に学んだことを活用する『思考・判断・表現の問題』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、章末に自分の課題を見つけるために『課題に向かって』が設定されている。また、応用的な課題が『クローズアップ』に設定されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、すべての人が互いに分かり合い、支えあうことが自然にできる社会の実現をめざす『共に生きる』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「健康教育」について、生活習慣や健康診断、がん検診の内容と絡めながら、『がん教育』が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、今の中学生が2030年の社会を支える立場にあることを取り上げた『SDGs』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う場面を取り上げた『学習のまとめ』が掲載されている。また、本文に関連する知識を取り上げた『ほり下げる』コーナーが設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科)の学習内容について示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、話し合いや意見を出し合う活動で、吹き出しや参考資料を取り上げた『課題をつかむ』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、嘉納治五郎の考えを取り上げた『オリンピックの父・クーベルタンと嘉納治五郎』が『文化としてのスポーツ』の中に掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、心肺蘇生法の技能実習やAEDの操作を写真やイラストで取り上げた『傷害の防止』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章とびら』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、身近にある犯罪被害やネットワーク利用犯罪の危険性を取り上げた『犯罪から身を守ろう』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、○×で答える内容やクイズ形式のものを取り上げた、『課題をつかむ』が導入で掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の流れを示した『やってみよう』『意見を出そう』『考えよう』などの項目があり、当てはまるものをチェックする欄を設けた『課題をつかむ』が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されているグラフや図などを示した『資料の出典一覧』が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の考えを書き込み、意見を出し合う活動を取り上げた『話しあおう』『発表しよう』のコーナーが設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、これからの生活につながる自分の課題を取り上げた『課題に向かって』が章末に掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 保健編6章、体育理論編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの効果・学び方・安全』『文化としてのスポーツ』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《保健体育》

※詳細については、資料Ⅱ(保健体育-5～保健体育-11)を参照。

発行者の略称	学研	書名	中学保健体育
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、体の部位別に筋肉を意識する『漸進的筋弛緩法』や呼吸法を取り上げた『リラクセーションの方法』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』などが設定され、その取り組み方も掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、知識を活用して、探究活動を取り上げた『探究しようよ!』が設定されている。『章のまとめ』に、『生活への活用』などが設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、『LGBT』『SOGI』などの性的マイノリティを取り上げた『少数者の声を社会を変える力に』が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「健康教育」について、がんの治療やがんと共に生きることなどを取り上げた『探究しようよ!』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、各単元に関連する職業や資格を取り上げた『JOB』のマークが欄外に掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、知識をもとに、話し合ったり、説明したり、考えたりする活動を取り上げた『まとめる・深める』コーナーが設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科、道徳科)の学習内容が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、論理的な思考力の育成として『言語』マークが掲載されて、話し合いの手立てとして吹き出しなどが示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、口絵に伝統的な踊りである『盛岡さんさ踊り』や『よさこい祭り』の歴史を学ぶ『高知よさこい情報交流館』を取り上げた写真が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、心肺蘇生法の手順やAEDの操作を写真やイラストで取り上げた『傷害の防止』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章の扉』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『傷害の防止』にインターネットを通じた犯罪被害の事例を取り上げた『インターネットを通じた犯罪被害の防止』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、取り組む課題が、『考える』『表現する』など、どのような活動を行うのがかマークで示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の流れを示した『学習の目標』『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』という目標や学習活動が設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料について、その資料内に年、出典が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 他者に表現できるような学習活動について、具体的に意見を出し合う『考える・調べる』コーナーや学習したことを基に、話し合う『まとめる・深める』コーナーが設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、自分自身の生活に生かしていく内容の課題を取り上げた、『生活への活用』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 保健編6章、体育編3章『スポーツの多様性』『スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツ』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《保健体育》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、心肺蘇生法の実技のイラストや写真に補助線を用いるなどして、ポイントが示された『応急手当の意義と方法』が掲載されている。各章末に穴埋め問題、選択肢問題など複数取り上げた問題が『学習のまとめ』として『確認問題』に掲載されている。
大日本	「知識・技能」の習得について、心肺蘇生法の一連の流れやAEDの使い方を取り上げた『心肺蘇生法の実習』が掲載されている。また、1ページ毎に学習内容に関連した内容を取り上げた『ミニ知識』が掲載されている。各章末に『重要な言葉』が掲載されている。
大修館	「知識・技能」の習得について、見開きのページで、呼吸法や筋肉をリラックスさせる方法を取り上げた『リラクゼーションの方法』が掲載されている。また、『ほり下げる』コーナーで知識が補われ、『キーワード』を入れる穴埋め問題が複数設定されている。
学研	「知識・技能」の習得について、体の部位別に筋肉を意識する『漸進的筋弛緩法』や呼吸法を取り上げた『リラクゼーションの方法』が掲載されている。また、知識の確認や振り返り問題を取り上げた『章のまとめ』が設定されている。学習内容に関連した知識が『情報サプリ』に掲載されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、『アドバイスをする』『説明する』『考える』『計画を立てる』などの知識・技能の活用方法を取り上げた『活用する』が設定され、『見つける』『課題の解決』『広げる』という項目が掲載されている。
大日本	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、章末にその章で学習したことを振り返り記入する『学びを活かそう』の項目が設定され、単元ごとに『やってみよう』『話し合ってみよう』が設定されている。また、『活用して深めよう』では自分の生活にどのように生かしていくかの発問が設定されている。
大修館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、自ら考え判断し表現する『学習のまとめ』で『話し合おう』『生かそう』が設定されている。また、章末に『思考・判断・表現の問題』など、学んだことを活用して取り組む記述式の問題が設定されている。
学研	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容ごとに『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』などの項目が設けられている。その取り組み方には、『アドバイスしよう』『話し合ってみよう』など、活用方法が設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習したことを自分の生活に当てはめ、更に調べる『広げる』のコーナーが設けられている。『章末資料』で写真や図などが掲載されている。また、章末の日常生活での活用例が『学習のまとめ』に設定されている。
大日本	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自分の身の回りに関する内容を取り上げた『つかもう』が設定され、自分の生活に生かす『活用して深めよう』も設定されている。また、『学びを活かそう』で知識を広げたり、知識を生かしたりする課題が設定されている。
大修館	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、章末に自分の課題を見つけるために『課題に向かって』が設定されている。また、応用的な課題が『クローズアップ』に設定されている。『章とびら』の欄が写真やイラストとともに見開きページで設定されている。
学研	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学習した知識を活用して、探究活動を取り上げた『探究しようよ!』が設定されている。各章の『もっと広げる・深める』『探究しようよ!』で『章のまとめ』に、今後に生かすために『生活への活用』『生かそう』が設定されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「共生」について、障がいの有無や人種などを越えたスポーツの取組例が『人と人をつなぐスポーツ』『支え合って生きていく』が見開きページに掲載されている。また、章末資料に『性の多様性』や『章扉』に道徳科と関連し、様々な人物を取り上げた『偉人の紹介』が掲載されている。
大日本	[思いやる力]の「共生」について、年齢や性別の違いを超えて共に運動やスポーツに親しむ『運動やスポーツへの多様な関わり方』が取り上げられている。また、『個性や能力を大切にする』トピックスが掲載されている。『文化としてのスポーツの意義』で『アダプテッド・スポーツ』が掲載されている。
大修館	[思いやる力]の「共生」について、『国境や障害の有無を超えて』という項目で、すべての人が互いに分かり合い、支えあうことが自然にできる社会の実現をめざす『共に生きる』が掲載されている。また、『特集資料』に『ゆるスポーツ』『超人スポーツ』が取り上げられている。
学研	[思いやる力]の「共生」について、『LGBT』『SOGI』などの性的マイノリティを取り上げた『少数者の声を社会を変える力に』が掲載されている。また、『スポーツの多様性』に『アダプテッド・スポーツ』や『新しいスポーツを作り出す活動』が取り上げられている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「健康教育」について、大腸がんの腫瘍の様子を写真で取り上げた『がんの発生と経過』が掲載されている。また、『健康な生活と疾病の予防②』で、生活習慣病に食生活が関係していることが示されている。口絵に、『運動やスポーツと食事』が掲載されている。
大日本	[たくましく生きる力]の「健康教育」について、がん教育の意識を高め、がん検診の受診を呼びかけたポスターを取り上げた、『がんの早期発見のために』が掲載されている。また、『がんの治療法の選択』が取り上げられている。さらに、『食生活と健康』で、和食について取り上げられている。
大修館	[たくましく生きる力]の「健康教育」について、生活習慣や健康診断、がん検診の内容と絡めながら、『がん教育』が設定されている。また、『がん体験者のことば』がコラムとして掲載されている。『調和のとれた生活』で自分の生活を振り返るチェックシートが掲載されている。
学研	[たくましく生きる力]の「健康教育」について、がんの治療やがんと共に生きることなどを取り上げた『探究しよう！』が掲載されている。また、『中学校生活と食事』で健康を維持するための食事の献立例が示され、質問形式の項目が複数取り上げられている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、社会で健康や安全、防災などを支えている人を取り上げた『支え合って生きていく』が掲載されている。また、17の目標のイラストを取り上げた、『SDGsから考えよう』が掲載されている。
大日本	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、自分の生き方や進路選択を取り上げた『世界で活躍する人々を支える健康』が掲載されている。また、これからの生活目標が設定された『クオリティ・オブ・ライフ(QOL)』が掲載されている。
大修館	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、今の中学生が2030年の社会を支える立場にあることを取り上げた『SDGs』が掲載されている。また、マラソン大会で応援する人やボランティアなどを取り上げた『運動やスポーツの多様性』が掲載されている。
学研	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、各単元に関連する職業や資格を取り上げた『JOB』のマークが欄外に掲載されている。『文化としてのスポーツ』で『SDGs』の関わりについて取り上げられている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、学習で得た知識をもとに、自分の行動を改善したり、確かめたりする活動例を取り上げた『広げる』のコーナーが各章各単元に掲載されている。また、『活用する』において他者に説明したり、話し合ったりする場面が設定されている。
大日本	主体的・対話的で深い学びについて、資料を読み取り、他の生徒と考えたり、話し合ったりする活動が章末の『学びを活かそう』のコーナーで設定されている。学習内容と、話し合いを深める活動例が、見開きページで本文と資料に分けて掲載されている。
大修館	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う場面や発表する場面を取り上げた『学習のまとめ』が設定されている。また、本文に関連する知識を取り上げた『ほり下げる』『クローズアップ』『特集資料』のコーナーが設定されている。
学研	主体的・対話的で深い学びについて、知識をもとに、話し合ったり、説明したり、考えたりする活動を取り上げた『まとめる・深める』が設定されている。また、教えあいや学びあいを行う課題には『協働マーク』が示されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科、道徳科)の学習内容について示されている。また、地域の人材を活用した取組が取り上げられている。
大日本	カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科)の学習内容について、色が分けられ示されている。『家』『地域』マークで、家庭や地域での健康や安全について考える活動が設定されている。
大修館	カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科)の学習内容について示されている。『関連』マークによって教科内の学習内容の関連が示されている。
学研	カリキュラム・マネジメントについて、全学年でマークを使用して、関連する他教科(理科、技術・家庭科、社会科、道徳科)の学習内容が示されている。また、体育実技や各教科などとの関わりを示した『キーワードで見る保健体育の学習内容』が掲載されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成

東書	言語能力の育成について、自身のことや日常体験、小学校で学習したことを発問の内容として取り上げた『見つける』が掲載されている。また、具体的に自分の伝え方を考え、発表する項目を取り上げた、『運動やスポーツやスポーツの安全な行い方』が掲載されている。
大日本	言語能力の育成について、具体的なイラストや吹き出しから自分の考えを書き込む欄を設けた『学びを活かそう』が掲載されている。また、たばこ、酒、薬物に誘われた時の断り方をロールプレイングで考える『健康な生活と病気の予防』が掲載されている。
大修館	言語能力の育成について、話し合いや意見を出し合う活動で、吹き出しや参考資料を取り上げた『課題をつかむ』が掲載されている。また、ペアで理由を説明する活動を取り上げた『飲酒の誘いの断り方』が掲載されている。
学研	言語能力の育成について、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成や言語活動を含む学習内容を取り上げた『言語』マークが掲載されている。また、話し合いの手立てとして吹き出しなどが示されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、日本人にとって特別なスポーツ文化を取り上げた『日本人と運動会』が『運動やスポーツの必要性和楽しさ』の中に掲載されている。また、昔の雪遊びの楽しさを現代に再現した『スポーツ雪合戦』が掲載されている。『中学生が深めた地域のきずな』で高知県黒潮町の伝統的な生活が掲載されている。
大日本	伝統や文化に関する教育の充実について、日本固有の文化として武道を取り上げた『運動やスポーツの移り変わり』が『運動やスポーツの多様性』の中に掲載されている。また、貝原益軒の健康な生き方が書かれた『養生訓』が掲載されている。『食生活と健康』で和食がトピックとして取り上げられている。
大修館	伝統や文化に関する教育の充実について、嘉納治五郎の考えを取り上げた『オリンピックの父・クーベルタンと嘉納治五郎』が『文化としてのスポーツ』の中に掲載されている。また、『オリンピック・パラリンピックを学ぼう』でオリンピック・パラリンピックの歴史が写真で掲載されている。
学研	伝統や文化に関する教育の充実について、口絵に伝統的な踊りである『盛岡さんさ踊り』や、『よさこい祭り』の歴史を学ぶ『高知よさこい情報交流館』を取り上げた写真が掲載されている。また、嘉納治五郎の考えを取り上げた『精力善用』『自他共栄』が掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、折込で心肺蘇生の方法やAEDの使い方などが、写真を中心に取り上げた『傷害の防止』で掲載されている。『心身の発達と心の健康』において、2種類の『リラクゼーションの方法』が掲載されている。また、地域安全マップを作成する活動が設定されている。
大日本	体験活動の充実について、見開きで心肺蘇生法の手順やAEDなどについて取り上げた、『傷害の防止』が掲載されている。また、『漸進的筋弛緩法』などを取り上げた『リラクゼーションの方法を試してみよう』が掲載されている。自分が住んでいる地域の安全マップをつくる体験活動が設定されている。
大修館	体験活動の充実について、心肺蘇生法の技能実習やAEDの操作を写真やイラストで取り上げた、『傷害の防止』が掲載されている。また、呼吸法など3種類のリラクゼーションの方法を取り上げた『心身の発達と心の健康』が掲載されている。『けがの防止と応急手当』において、グループで救急車を呼ぶ練習をする活動が設定されている。
学研	体験活動の充実について、心肺蘇生法の手順やAEDの操作を写真やイラストで取り上げた『傷害の防止』が掲載されている。『心身の発達と心の健康』で呼吸法などの『リラクゼーションの方法』が掲載されている。また、自分の1週間の生活をチェックする活動を取り上げた『調和のとれた生活』が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、各学年とも、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した、『章の扉』が掲載されている。また、第1学年の内容で、小学校での学習の振り返りを取り上げた『見つける』が掲載されている。
大日本	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章扉』が掲載されている。第3学年の終わりに高校生活に向けて、中学校の保健体育で学んだことをどのように生かすか、目標を記入する欄が設定されている。
大修館	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章とびら』が掲載されている。第1、3学年の内容では、小学校での学習の振り返りを取り上げた『課題をつかむ』の中で『振り返ろう』が掲載されている。
学研	学校段階間の円滑な接続について、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを示した『章の扉』が掲載されている。また、探究の発展として取り上げた内容について、『高校で学習します』というマークを示した、『探究しようよ!』が掲載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、情報モラルに配慮しながら、必要な情報入手し活用する力の育成を取り上げた『インターネットによるコミュニケーションとトラブル』が掲載されている。また、影響として『インターネットと依存症』が掲載されている。
大日本	情報活用能力の育成について、口絵に、健康で安全な生活を送るスマートフォンとの付き合い方を取り上げた、『私たちの生活とスマートフォン』が掲載されている。また、インターネットを利用した犯罪被害の事例を取り上げた『責任ある行動』が掲載されている。
大修館	情報活用能力の育成について、身近にある犯罪被害やネットワーク利用犯罪の危険性を取り上げた『犯罪から身を守ろう』が掲載されている。また、『性への関心と行動』に自撮りの被害にあった子どもの数を取り上げた『自撮り被害』が掲載されている。
学研	情報活用能力の育成について、『傷害の防止』にインターネットを通じた犯罪被害の事例を取り上げた『インターネットを通じた犯罪被害の防止』が掲載されている。また、自撮り被害を防ぐ方法を考える項目を取り上げた『自撮り被害にあった子供の数の推移』がグラフで掲載されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、グラフや図を読み取る補助となる文章が『ポイント』で示されている。見直しをもって学習を進める4つのステップで構成されている。中学校以降で学習する常用漢字には、振り仮名がふられている。
大日本	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、文章に集中しにくい生徒への手立てとして、本文と資料のページが分けられ掲載されている。また、本文と資料の背景の色も変えて区別されている。さらに、全単元において、4つの統一した構成が使用されている。発達段階を考慮して、イラストや写真、発問の設定や文章表記が設定されている。
大修館	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、○×で答える内容やクイズ形式のものを取り上げた、『課題をつかむ』が導入で掲載されている。また、その単元で学習する内容の発問を取り上げた『今日の学習』が掲載されている。グラフなどの資料を読み取る補助となる文章が『よみ取る』で示されている。
学研	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、取り組む課題が『考える』『表現する』など、どのような活動を行うのがマークで示されている。1ページの中で本文と資料の位置関係が示されている。また、『キーワード』においては、確認ができるようにチェック欄が設定されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	学習の流れを示した『見つける』『学習課題』『課題の解決』『広げる』が4ステップで示され、巻末に『キーワードの解説』が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてるように設定されている。
大日本	学習の流れを示した『つかもう』『話し合ってみよう』『やってみよう』『調べてみよう』『活用して深めよう』などの項目があり、『キーワード』は単元末にまとめられ、チェック欄が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてるように設定されている。
大修館	学習の流れを示した『やってみよう』『意見を出そう』『考えよう』などの項目があり、当てはまるものをチェックする欄を設けた『課題をつかむ』が設定されている。また、章の最初に『この章で学習すること』があり、学習の見通しがもてる資料が掲載されている。
学研	学習の流れを示した『学習の目標』『課題をつかむ』『考える・調べる』『まとめる・深める』という目標や学習活動が設定されている。また、章の最初に学習の見通しがもてる資料が掲載されている。
⑯ イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなどの信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。	
東書	最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料の発行年や著者などを示した『出典一覧』が掲載されている。また、資料の同じ項目が色を統一するなどして示されている。（『死亡原因』2017年、など）
大日本	最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料の発行年や著者などが示されている。（『中学生のケガの種類』日本スポーツ振興センター『学校の管理下の災害』2017年、など）
大修館	最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されているグラフや図などを示した『資料の出典一覧』が掲載されている。また、どの単元でもグラフなどの色が統一されている。（『中学校の生活におけるけがの場合』2017年、など）
学研	最新のデータを扱うことについて、各単元の学習内容の中で使用されている資料について、その資料内に年、出典が示されている。（『日本人の死因』2017年、など）
⑰ 生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。	
東書	他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の経験などと関連させ発表する活動を取り上げた『活用する』のコーナーが設定されている。また、課題の解決に向けて見開きページに発問が設定されている。
大日本	他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の日常生活について考え、話し合う活動を取り上げた『話し合ってみよう』のコーナーが設定されている。また、グループでの話し合い活動などを取り上げた『学びを活かそう』が掲載されている。
大修館	他者に表現できるような学習活動について、学習した資料を基に、自分の考えを書き込み、意見を出し合う活動を取り上げた『話しあおう』『発表しよう』『生かそう』のコーナーが『学習のまとめ』で設定されている。また、学んだことを活用する『思考・判断・表現の問題』が掲載されている。
学研	他者に表現できるような学習活動について、具体的に意見を出し合う『考える・調べる』コーナーや学習したことを基に、話し合う『まとめる・深める』コーナーが設定されている。また、グラフを読み取り、意見を出し合う活動を取り上げた『考える・調べる』が設定されている。

⑱ 生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。	
東書	生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、今後の生活に生かしていく課題が『広げる』や『日常生活に生かそう』に掲載されている。また、3年間のまとめとして健康課題について発表する活動が設定されている。
大日本	生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、これからの生活につながる学習活動を取り上げた、『活用して深めよう』や『学びを活かそう』が掲載されている。また、3年間のまとめでこれからの目標を記入する欄が設定されている。
大修館	生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、これからの生活につながる自分の課題を取り上げた『課題に向かって』が章末に掲載されている。また、『クローズアップ』『特集資料』により、学びを広げたり深めたりできるよう設定されている。
学研	生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うことについて、自分自身の生活に生かしていく内容の課題を取り上げた、『生活への活用』が掲載されている。また、3年間のまとめで、『保健体育の学習の終わりに』が設定されている。

4 分量・装丁・表記等

⑲ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	保健編6章『健康な生活と疾病の予防①』『心身の機能の発達と心の健康』『傷害の防止』『健康な生活と疾病の予防②』『健康と環境』『健康な生活と疾病の予防③』、体育編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツの意義』で構成されている。
大日本	保健編6章『健康な生活と病気の予防』『心身の発達と心の健康』『健康な生活と病気の予防』『傷害の防止』『健康な生活と病気の予防』『健康と環境』、体育編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツの意義』で構成されている。
大修館	保健編6章『調和のとれた生活』『心身の発達と心の健康』『生活習慣の健康への影響』『けがの防止と応急手当』『感染症の予防と健康を守る社会の取り組み』『環境の健康への影響』、体育理論編3章『運動やスポーツの多様性』『運動やスポーツの効果・学び方・安全』『文化としてのスポーツ』で構成されている。
学研	保健編6章『健康な生活と病気の予防①』『心身の発達と心の健康』『健康な生活と病気の予防②』『傷害の防止』『健康な生活と病気の予防③』『健康と環境』、体育編3章『スポーツの多様性』『スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方』『文化としてのスポーツ』で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
大日本	判型はB 5変型判が採用されている。
大修館	判型はA B判が採用されている。
学研	判型はA B判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
大日本	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
大修館	『カラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
学研	『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、カラーユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	67ページ 交通環境整備例の写真2枚（川崎市） 101ページ 飲酒開始年齢とアルコール依存症のグラフ（横須賀市久里浜医療センター） 141ページ 災害廃棄物処理計画（横浜市） 166ページ かながわプラゴミゼロ宣言（神奈川県）
大日本	85ページ 受動喫煙防止表示写真1枚（神奈川県） 95ページ コミュニティ道路写真1枚（横須賀市） 97ページ 街頭緊急通報装置写真1枚（藤沢市）
大修館	口絵4 箱根駅伝の写真 口絵5～6 金澤翔子「共に生きる」 口絵8 クリーンなエネルギー写真1枚（藤沢市） 58ページ 体操の白井選手の写真 59ページ 箱根駅伝の写真 71ページ 増水注意の看板写真1枚（秦野市） 75ページ 禁煙表示写真2枚（小田原市） 106ページ 広域避難場所標識写真1枚（藤沢市） 107ページ 津波避難表示写真2枚（小田原市） 123ページ 先進的なスポーツ推進の取組（横浜市） 123ページ スポーツ教室写真1枚（鎌倉市） 129ページ ボッチャの写真1枚（藤沢市） 144ページ 水質検査写真1枚（横浜市） 154ページ 最新浄化装置写真1枚（横浜市） 165ページ 浄水装置・セラミック膜ろ過装置写真（横浜市） 169ページ 防災ラジオ写真1枚（藤沢市）
学研	85ページ 県立歴史博物館写真1枚（横浜市） 85ページ 路上喫煙禁止看板写真1枚（藤沢市） 95ページ 長期間にわたる多量の飲酒の害に関する脳の写真2枚（横須賀市久里浜医療センター） 120ページ 津波避難場所の案内写真1枚（横浜市） 121ページ 防災訓練の様子写真1枚（川崎市） 139ページ スポーツ推進計画写真2枚（横浜市） 151ページ エイズ予防ポスター写真1枚（川崎市） 181ページ 大規模災害時のごみの出し方・し尿処理に関する写真1枚（横須賀市）

② URL、二次元コード等の掲載の有無					
発行者名					
東書	有				
大日本	有				
大修館	有				
学研	有				

③ 一冊ごとの重量(g)					
発行者名	冊数	重量(g)			
東書	1	417			
大日本	1	441			
大修館	1	438			
学研	1	426			

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪技術・家庭(技術分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(技術分野-4～技術分野-10)を参照。

発行者の略称	東書	書名	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、技術の知識や問題解決の技能を取り上げた『技術のとびら』や『TECH Lab』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、着目する視点を例示した『問題解決カード』というワークシートや『チェック 技術の見方・考え方』という項目が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会の中で利用されている技術を取り上げた『技術の匠』や『技術の工夫』が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、福祉に役立つ機構モデルを取り上げた『自動車の乗降装置』の問題解決例が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報モラルの必要性を事例として取り上げた『安全に利用するための情報モラル』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『これからのエネルギー変換の技術について考える』などの技術の未来を取り上げた『未来のTechnology』ワークシートが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『学校の机や椅子などの技術の工夫を見つけよう』において、話し合う学びの例を取り上げた『活動』という項目が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、各編最初のページに『理科3年 力学的エネルギー』など教科名と単元名を示した『他教科とのつながり』や、『他教科』のマークが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『まとめと発表の仕方』において学習内容をまとめる『ポイント』が例示されている。また、ワークシートの記入例として『問題解決カード』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、熊本城など伝統文化に関連する写真やコラムを取り上げた部分には『伝統文化』マークが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、基本題材や参考題材を配列し、体験的な活動を例示した『問題解決例』が掲載されている。基礎的な実習例や実験例を示した『活動』が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、関連する内容に『理科4年 電流の働き』など、学習学年や単元名が取り上げられ、『小学校』マークが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報の特性に関連する内容を取り上げた情報モラルの節が構成されている。プログラミングの基本操作を例示した『プログラミング手帳』が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の見通しを示した『目標』や関連する『キーワード』が掲載されている。また、節ごとに『まとめよう』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の導入に『目標』と『技術室にはどのような工具があるか調べよう』などの導入例を示した『考えてみよう』『調べてみよう』が掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動について、体験的な活動を通して取り組む課題を取り上げた『活動』マークが掲載されている。ワークシート例が『問題解決カード』として掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、技術の見方・考え方を例示した『最適化の窓』が掲載されている。見方・考え方に関するコメントを取り上げた『ミカタン』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を解決する力を養う学習過程について、問題の発見、課題の設定、設計・計画、製作などの過程を取り上げた『問題解決カード』が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 各編の1章が原理・法則としくみ、2章が問題解決、3章が社会の発展と技術に関する内容などで構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適用するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪技術・家庭(技術分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(技術分野-4～技術分野-10)を参照。

発行者の略称	教図	書名	New技術・家庭 技術分野 明日を創造する New技術・家庭 技術分野 明日を創造する技術ハンドブック
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各編の1章では導入題材例において繊維方向による強度の違いなどの原理・法則を例示した『しくみの理解』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、設計を4ステップで表した問題解決の考え方を例示し、実習をプラス面、マイナス面から取り上げた『やってみよう』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各編の最後に社会の中の技術の発展と課題を取り上げた『編のまとめ』問題が掲載されている。</p>		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、全編を通して多様性を認め合う項目や他者との共生に関する項目を取り上げた『共生』マークが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報化社会における情報のプラス面やマイナス面が例示された『情報モラルと情報の扱い方』が掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、『Society5.0』による未来社会を考察する活動や、社会で活躍する人々を取り上げた『特集→Technology』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、対話的な学びの例が取り上げられ、『やってみよう』という項目には『友だちからのコメント記入欄』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科との関連を取り上げた『リンク』マークが掲載されている。巻末の資料には、都道府県別の博物館が掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、設計に関して『構想図』などの図を記入するワークシート『設計計画表にまとめよう』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化や社会の技術に関連する技術者を取り上げたコラム『スゴ技』や『技ビト』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、1章『不思議な本立て』という導入題材、2章で『調味料ホルダー』という基本題材などの体験活動を例示し、図や写真を用いた実習例が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各章の冒頭に『リンク』マークが記され、『小学校・算数、図画工作』などが記載されたり、高等学校での実習例などが掲載されたりしている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、個人情報発信などで起こる問題を課題とした『やってみよう』が掲載されている。別冊『技術ハンドブック』にプログラミングの基礎技能が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習の見通しを示したキャラクターのコメントや、『めあて』が掲載されている。自己評価を取り上げた『ふり返る』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の導入に『めあて』が掲載され、また、学習の流れが『見つける』『学ぶ』『ふり返る』の3ステップで例示され、それぞれのマークが掲載されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動について、実践的に画面のデザインを考える活動などを例示した『やってみよう』や『つくってみよう』の項目が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、社会で使われている技術のプラス面、マイナス面の両面について取り上げた『技術のプラス面とマイナス面』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を解決する力を養う学習過程について、『問題を発見する』や『構想を具体化する』などの4つのステップを例示した問題解決の『設計の手順』やワークシート例が掲載されている。</p>		
4 分量・装丁 表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 各編の1章は知識・技能の習得に関すること、2章は設計・計画に関すること、3章は社会の技術を評価することに関する内容で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型は、技能を掲載した別冊『技術ハンドブック』とともに、A4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《技術・家庭(技術分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(技術分野-4～技術分野-10)を参照。

発行者の略称	開隆堂	書名	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、実験方法を記載し、体験的に身に付くように拡大写真や連続したイラストを例示した『動作のポイント』が掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、それぞれの過程での考え方を取り上げた『問題解決の流れ』が掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会の中の技術や技術の在り方、活用方法などの課題について取り上げた『参考』や『豆知識』が掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、福祉の問題を解決する例を取り上げた『介助用ロボットコンテストを考えた設計-』の実習例が掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報化社会で情報を発信するときのモラルが例示された『情報を発信するときに注意する視点』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、今までの技術の歴史と社会との関わりが取り上げられた『技術の工夫・創造と私たちの未来』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、対話的な学びの例を取り上げた『調べてみよう』や『考えてみよう』、『話し合ってみよう』が掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、関連する教科と単元を取り上げた『中学校他教科との関連』や『他教科』マークが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、工程表の書き方を例示した『ミニ植物工場の制作工程表』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、歴史年表が取り上げられ『技術に関するおもな歴史』が掲載されている。伝統的な技術を取り上げた『受け継がれ発展する技術』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実践的・体験的な実習例を示し、『問題解決の手順』や『一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック』などの実習例が掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、各編の導入や項目ごとに学年や単元名を取り上げた『小学校との関連』や『小学校』マークが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『情報を発信するときに注意する視点』が掲載されている。また、巻末資料には、プログラミングの基本操作が掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、考えるポイントを例示したキャラクターのコメントが掲載されている。節の最後には、自己評価について取り上げた『ふり返り』が掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 学習の導入に『学習の目標』が掲載され、また、導入例として、学習内容についての問いかけを取り上げた『調べてみよう』や『考えてみよう』が掲載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動について、知識の理解に関する『実験』が掲載されている。また、実習例に学習過程を例示した『問題の発見』や『評価・改善』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、ガイダンスには、『工夫』『技術のしくみ』『科学的な原理・法則』の視点から電気ストーブを例に、『技術の見方・考え方』が掲載されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 課題を解決する力を養う学習過程について、製作者の意図が取り上げられた『いすに込められた工夫の例』が掲載されている。学習過程を例示した『問題解決の流れ』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 各編の1は生活と社会の技術、2は問題解決、3はこれからの技術に関する内容で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるようなデザイン上の配慮をしています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅱ】

教科種目名《技術・家庭(技術分野)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く『知識・技能』を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、各編には関連する技術の知識について取り上げた『技術のとびら』が掲載されている。また、問題解決に必要な実践的な技能を取り上げた『TECH Lab』が掲載されている。
教図	「知識・技能」の習得について、1章では、導入題材例『不思議な本立て』において繊維方向による強度の違いといった原理・法則が取り上げられた『しくみの理解』が掲載されている。実習に必要な技能の工具の使い方などを取り上げた別冊『技術ハンドブック』が設定されている。
開隆堂	「知識・技能」の習得について、原理・原則を体験的に取り組めるように例示した『実験』マークが掲載されている。また、技能の注意点を取り上げた図では拡大写真を用いたり、『動作のポイント』としてイラストで動きが掲載されたりしている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各編の2章には、着目する視点を例示した『問題解決カード』というワークシート例や『チェック 技術の見方・考え方』という項目が掲載されている。
教図	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各編2章では、設計を4ステップにまとめた問題解決の考え方を取り上げた『設計の手順』が掲載されている。各編3章では、実習した技術についてプラス面、マイナス面について取り上げた『やってみよう』が掲載されている。
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、各編2章の導入に問題の発見から評価・改善までのそれぞれの過程での考え方や検討する内容を取り上げた『問題解決の流れ』が掲載されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各編導入に社会の中で利用されている技術を取り上げた『発見！技術の最適化』や『技術の匠』、また各ページ下部に『技術の工夫』が掲載されている。
教図	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各編の導入で技術の発展例を示したり、編末で技術の発展について問う『編のまとめ』が掲載されている。また、各編3章では、社会の中の技術のプラス面、マイナス面、両面の例が掲載されている。
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、社会の中の技術について紹介し、技術の在り方や活用の方法などの課題を取り上げた『参考』や『豆知識』が掲載されている。また、編末問題では、考えを深める問題を例示した『学びを深めよう』が掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力] の「人権教育」について、エネルギー変換の技術を利用した問題解決例として、福祉に役立つ機構モデルを取り上げた『自動車の乗降装置』が掲載されている。
教図	[思いやる力] の「人権教育」について、『情報の技術により便利になった例』など全編を通して、多様性の認め合いや他者との共生に関する項目を取り上げた『共生』マークが掲載されている。
開隆堂	[思いやる力] の「人権教育」について、福祉の問題を解決するエネルギー変換の技術を利用した実習例として、『介助ロボットコンテストを考えた設計-』が掲載されている。
⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力] の「情報化」について、情報モラルを事例として取り上げた『安全に利用するための情報モラル』では『情報検索の便利な点と注意すべき点』が掲載されている。
教図	[たくましく生きる力] の「情報化」について、情報化社会における『情報モラルと情報の扱い方』の項目で、情報のプラス面とマイナス面を比較しながら例示した『情報モラルを考えた情報の扱い方』が掲載されている。
開隆堂	[たくましく生きる力] の「情報化」について、『情報モラル』の節では、情報化社会で情報を発信するときの周囲に与える影響を取り上げた『情報を発信するときに注意する視点』が掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力] 社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力] の「働くことの大切さ」について、各編の最後にこれからの技術の資料を取り上げた『これからのエネルギー変換の技術について考える』などを例示した『未来のTechnology』ワークシートが掲載されている。
教図	[社会とかかわる力] の「働くことの大切さ」について、『Society5.0』による未来社会を考察する活動や、社会で活躍する人々を例示した『特集→Technology』や『技ビト』が掲載されている。
開隆堂	[社会とかかわる力] の「働くことの大切さ」について、『電話機の発展と技術にかかわる態度』などで社会の中での技術の役割や主体的に関わる態度を例示した『技術の工夫・創造と私たちの未来』が掲載されている。

3 内容と構成

- 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、『学校の机や椅子などの技術の工夫を見つけよう』において、話し合う対話的な活動を取り上げた『活動』が記載されている。キャラクターが対話することで設計要素を検討できるように例示した『問題解決例』が掲載されている。
教図	主体的・対話的で深い学びについて、『やってみよう』では、『自分が設計をして製作をした作品を、グループで発表しよう!』の中で対話を例示した『友だちからのコメント記入欄』が掲載されている。
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、各節の冒頭では、導入課題として例示した『調べてみよう』や『考えてみよう』、『話し合ってみよう』という項目が掲載されている。技術の最適化の例などが『参考』として掲載されている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、各編最初のページに『理科3年 力学的エネルギー』など教科名と単元名を示した『他教科とのつながり』が掲載されている。また、関連を示した『他教科』のマークが掲載されている。
教図	カリキュラム・マネジメントについて、『1 材料の技術と加工の技術を見つけよう』では『中学校・保健体育、理科』との関連が例示された『リンク』マークが掲載されている。巻末資料には、都道府県別の博物館が掲載されている。
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、各編最初のページにその編の中にある『中学校他教科との関連』がまとめて記載されている。また、『理科 身の回りの物質とその性質』など、他教科との関連に『他教科』マークが掲載されている。

- 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、ガイダンスの『技術分野の学習方法』では、『まとめと発表の仕方』において学習内容をまとめる『ポイント』が例示されている。ワークシートの記入例として『問題解決カード』が掲載されている。
教図	言語能力の育成について、巻末資料に設計に関して『構想図』などの図を記入するワークシート『設計計画表にまとめよう』が掲載されている。
開隆堂	言語能力の育成について、『アクティビティ図』や部品の取り付け位置に吹き出しをつけた図について取り上げた『ミニ植物工場の制作工程表』が掲載されている。

⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、新国立競技場や熊本城など伝統文化に関連する写真や『技術の匠』といったコラムで伝統文化について取り上げた『伝統文化』マークが掲載されている。
教図	伝統や文化に関する教育の充実について、『からくり人形と設計図』が取り上げられて『伝統文化』マークが記載されている。また、コラム『スゴ技』『技ビト』では、法隆寺の建築技術など伝統文化や社会の技術について解説されている。
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、各編導入では、技術の年表が取り上げられ『技術に関するおもな歴史』が掲載されている。また、ガイダンスでは、『受け継がれ発展する技術』について、巻末資料では、各都道府県の伝統的な技、材料、工芸が掲載されている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、『リモコンラック』や『絵本ラック』など基本題材や参考題材など、体験的な活動を例示した『問題解決例』が掲載されている。基礎的な実習例や実験例が示された『活動』が掲載されている。
教図	体験活動の充実について、各編では、1章『不思議な本立て』という導入題材、2章で『調味料ホルダー』という基本題材などのように1章、2章において体験活動を例示し、図や写真を用いた実習例が掲載されている。
開隆堂	体験活動の充実について、各編の2章では、実践的・体験的な題材が例示され、『問題解決の手順』や『一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック』などの実習例が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、関連する内容に『理科4年 電流の働き』など、学習学年や単元名が取り上げられた『小学校』マークが掲載されている。各編導入では、『小 理科3～6年』のようにまとめて記載されている。
教図	学校段階間の円滑な接続について、各学習項目の冒頭のところに『リンク』マークが記され、『小学校・算数、図画工作』など関係する教科が記載されている。B編では、高等学校での実習の様子が掲載されている。
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、各編導入に教科、学年、単元名が取り上げられた『小学校との関連』が掲載されている。また、関連する内容には、『6年 電気の利用』と取り上げられ、関連が『小学校』マークで記載されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、『情報検索の便利な点と注意すべき点』などの情報の特性に関連する内容を取り上げた情報モラルの節が構成されている。巻末付録『プログラミング手帳』にScratch、ドリトル、JavaScript+HTMLの例が掲載されている。
教図	情報活用能力の育成について、D編の1章に、個人情報発信など情報の扱い方で起こりうる問題を課題とした『やってみよう』や情報モラルのプラス面、マイナス面の両面が掲載されている。また、プログラミングの基礎技能にScratch、なでしこ、ドリトルの例が掲載されている。また、別冊『技術ハンドブック』にプログラミングの基礎技能が掲載されている。
開隆堂	情報活用能力の育成について、情報を発信するときに注意する事例などを例示した『情報を発信するときに注意する視点』などが記載されている。また、巻末の『資料プログラミング』にScratch、ドリトルの基本操作の例が掲載されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、節の冒頭部分には、学習の見通しを示した『目標』や、関連する『キーワード』が掲載されている。節の最後には、『まとめよう』や『自己評価』が掲載されている。
教図	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各節には、冒頭部分に学習の見通しを示した、『めあて』と節の最後に『振り返る』が対応して掲載されている。問題の発見のしかたや工夫の例などを考えるポイントを取り上げたキャラクターのコメントが掲載されている。
開隆堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、考えるポイントを例示したキャラクターのコメントが記載されている。節の最後などには『振り返り』を配置し、自己評価ができるように設定されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	学習の導入に『目標』と『技術室にはどのような工具があるか調べましょう』などの導入例を示した、『考えてみよう』や『調べてみよう』、『話し合ってみよう』、『やってみよう』が掲載されている。
教図	学習の導入に『めあて』が掲載され、また、学習の流れが『見つける』、『学ぶ』、『振り返る』の3ステップで例示され、それぞれのマークが掲載されている。基礎技能を例示した『別冊ハンドブック』が構成されている。
開隆堂	学習の導入に『学習の目標』が掲載され、また、導入例として、学習内容について『身の回りの製品は、じょうぶにするためにどのような工夫がされているだろうか』などを取り上げた『調べてみよう』や『考えてみよう』が掲載されている。
⑯ 実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	
東書	実践的・体験的な活動について、『活動 必要な工具や加工方法を考えて、加工体験をしよう』などで『活動』マークが掲載されている。ワークシート例が取り上げられ、『問題解決カード』として掲載されている。
教図	実践的・体験的な活動について、『解答者の画面デザインしよう』などの活動を例示した『やってみよう』や、各編の2章では、実習を進める際に必要な作業手順が『つくってみよう』として掲載されている。
開隆堂	実践的・体験的な活動について、『実験 金属の性質』などで、体験的な活動を通して知識を習得する題材が設定されている。各編の2章の実習例では、思考力・判断力・表現力等の育成のため『問題の発見』や『評価・改善』などの学習過程があわせて記載されている。
⑰ 「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	
東書	「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、ガイダンス資料に技術の見方・考え方が示された『最適化の窓』が掲載されている。また、ヒントとして『ミカタン』の『環境への負荷についても考える必要があるよ』など関連するコメントが掲載されている。
教図	「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、各編の3章（D編は4章）では、技術のプラス面、マイナス面の両面の例を資料として取り上げた『技術のプラス面とマイナス面』が掲載されている。
開隆堂	「技術の見方・考え方」を働かせた学習について、ガイダンス資料には、電気ストーブを例に『工夫』や『技術のしくみ』、『科学的な原理・法則』から説明している『技術の見方・考え方』が、見開き2ページで掲載されている。
⑱ 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	
東書	課題を解決する力を養う学習過程について、学習過程を『問題の発見、課題の設定』『設計・計画』『製作』『評価、改善・修正』『新たな問題の発見』に分類して取り上げられた『問題解決カード』が掲載されている。
教図	課題を解決する力を養う学習過程について、『問題を発見する』『目的や条件をもとに構想を考える』『構想を具体化する』『設計をまとめる』の4つのステップを例示した『設計の手順』が掲載されている。また、巻末資料に『設計計画表にまとめよう』というワークシートが付けられている。
開隆堂	課題を解決する力を養う学習過程について、製作者の意図がインタビュー形式で取り上げられた『いすに込められた工夫の例』が掲載されている。各編2章1節には、問題解決の手順について例示した『問題解決の流れ』が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	見開き 2 ページを基本として学習内容が設定され、各編の 1 章が原理・法則としくみ、2 章が問題解決、3 章が社会の発展と技術に関する内容で構成されている。
教図	見開き 2 ページを基本として学習内容が設定され、各編の 1 章はつくって・育てて学ぶこと、2 章はじっくり学ぶこと、3 章は学びを深め生かすことに関する内容で構成されている。
開隆堂	見開き 2 ページを基本として学習内容が設定され、各編の 1 は生活と社会の技術、2 は問題解決、3 はこれからの技術に関する内容で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型は A B 判が採用されている。
教図	判型は、技能を掲載した別冊『技術ハンドブック』とともに、A 4 変型判が採用されている。
開隆堂	判型は A B 判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適用するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教図	『ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されています。』と表記されている。
開隆堂	『カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるようなデザイン上の配慮をしています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	68ページ 寄木細工（箱根町） 109ページ 三浦大根 156ページ 蒸気機関車（新橋－横浜間で運行） 194ページ 学校に設置された蓄電池（横浜市）、自転車や電気自動車の共同利用（横浜市） 221ページ 市民の困りごとをチャットボットで解決（横浜市職員）
教図	19ページ マンホールのふた（横浜市） 35ページ 日本の伝統技術－箱根寄木細工－ 91ページ 神奈川県の栽培漁業（水産技術センター） 91ページ 都市農業の風景（横浜市） 110ページ 「水産生物を育てる技術」（神奈川県立海洋科学高等学校） 150ページ 太陽光パネル（川崎市） 267ページ 「はやぶさ2」（相模原市） 285ページ 「先輩からのメッセージ 水産」（神奈川県立海洋科学高等学校） 裏表紙の裏④ページ 「博物館に行ってみよう！」（神奈川県 神奈川県立歴史博物館、東芝科学未来館）
開隆堂	119ページ 三浦ダイコン 156ページ 「子どもの目の発達に配慮したLED照明 体育館への導入例」（川崎市） 179ページ ソーラーカー（平塚市の工科高校） 195ページ 電信サービスの開始（東京－横浜間） 294ページ 「日本各地の伝統的な技・材料・工芸Map」箱根寄木細工（神奈川県）

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	別冊				
東書	有				
教図	有	有			
開隆堂	有				

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	冊数	別冊			
東書	1	602			
教図	2	618	108		
開隆堂	1	557			

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪技術・家庭(家庭分野)≫

※詳細については、資料Ⅱ(家庭分野-4～家庭分野-7)を参照

発行者の略称	東書	書名	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、巻頭に家族・家庭の基礎的な機能などの『家庭分野のガイダンス』が示されている。各章末の『学習のまとめ』や実習の『いつも確かめよう』が設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、実習例として難易度が示された『マイバッグ』『ミニトートバッグ』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭には目標が提示されており、巻末にはコンクールなどを取り上げた『学んだことを発表しよう』のコーナーが設定されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、家族や地域の人と関わる体験などの題材が『家庭生活と地域とのかかわり』などに設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「消費者教育」について、自立した消費者に関するエシカル消費や消費者市民社会の説明などが『私たちの消費生活と環境』などに示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域との関わりの中で共生・協働する活動例が『地域での協働を目指して』などに示されている。</p>
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、他者との考えの交流を図るグループワークなどの活動例が『やってみよう』『考えてみよう』で示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、各編に『小学校』『リンク』などのマークが示され、学習内容と関連する教科や内容が示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、課題を設定して、調べたことをまとめ、それをもとに発表する活動が『幼児との関わり方の工夫』などで示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『日本の食文化と和食の調理』など、衣・食・住などで取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実習の際に確認する写真、説明文、実習例などが『いつも確かめよう』などのコーナーで示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、『家庭分野のガイダンス』において、小学校と中学校の学習の内容が同じページに並べて記載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報の収集及びその活用を検討し、意思決定をするプロセスが『よりよい商品の選択と購入のための意思決定のプロセス』において示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教科書の冒頭に『教科書の構成』が示されている。また、見開き2ページに『目標』から『まとめよう』までが配置されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 包丁の持ち方や姿勢、食品の切り方など実習の技能などが、各編において『いつも確かめよう』で示されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動を通じた既習事項の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、知識・技能を活用する例が『弁当作りに挑戦しよう』などで示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、学びの視点がキャラクターの吹き出しなどで示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活の中から課題を設定し解決する力を養う学習過程について、課題の設定、解決策の検討、実践の具体例が『生活の課題と実践』において提示されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 全5編『私たちの食生活』『私たちの衣生活』『私たちの住生活』『私たちの消費生活と環境』『私たちの成長と家族・地域』と選択『生活の課題と実践』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《技術・家庭(家庭分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(家庭分野-4～家庭分野-7)を参照

発行者の略称	教図	書名	New技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、『日常の1食分の調理』など、課題解決学習の流れが『問題を発見する』など6つのまとまりで示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、知識や技能を活用した課題解決の流れが『問題の発見』『課題を設定する』などで示されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、家庭分野の目標が、巻頭の『私の成長と家庭分野の学習』に示されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、子育てをめぐる問題や子育てを支援する仕組みが、写真や絵などで『子どものすこやかな成長のために』に取り上げられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「消費者教育」について、自立した消費者、持続可能な社会の実現について『消費生活が社会に与える影響を考えよう』などで取り上げられている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、中学生として地域の人々と協力・協働する活動例が『地域の人々と協力・協働しよう』で示されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、話し合う活動や、発表する活動の例が『考えてみよう』『話し合ってみよう』『調べてみよう』などのコーナーで示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、小学校家庭科や他教科と関連する内容が『リンク』マークで示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、課題解決学習の方法や、計画、各グループでのディベート、評価などの活動が『学びを生かそう』で示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『地域の食文化を知ろう』など衣・食・住の各章で、取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、実習例が掲載されている。また、調理例のページの下部に食物アレルギーの対応が提示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、『ガイダンス』において小学校との関連が示されるとともに、関連する内容について『リンク』マークが示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、商品を選択し購入する意思決定のプロセスの題材が『買い物の意思決定のプロセス』において設定されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『この教科書の構成』で『見つめる』『学ぶ』『ふり返る』の3ステップで構成されていることが記載され、活動例などが具体的に示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各編において、『やってみよう』『学びを生かそう』章末のまとめ』が基礎・基本から、発展的な題材へと順に記載されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、自分の生活の中から問題を発見する活動例が『生活の課題と実践』に示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、各項目の冒頭に、日常生活と学習内容をつなげるコーナーが『見つめる』として示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活の中から課題を設定し解決する力を養う学習過程について、各章において、課題解決のプロセスの記載とともに、課題解決に取り組む活動例が『学びを生かそう』などで設定されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 全3編『家族・家庭生活』『衣食住の生活』『消費生活・環境』と選択『生活の課題と実践』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4変型判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されています。』と表記されている。</p>

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《技術・家庭(家庭分野)》

※詳細については、資料Ⅱ(家庭分野-4～家庭分野-7)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、ポイントとなる語句は太字で示されている。また、『しょうが焼き』など、基礎的な調理手順や調理理論が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、住空間についてグループで話し合う活動例が『住まいの空間』などに示されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、家庭生活と社会の仕事の関連について『家庭を支える社会』などで示されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「共生」について、地域に住む多様な人びととの交流の様子が、写真などで『多様な人びとが暮らす地域』に示されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「消費者教育」について、持続可能な社会の実現に向けた自立した消費者に関する取組が、『消費行動が社会に与える影響』で、示されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域ボランティアに参加するなどの活動例が、『家庭生活と地域での活動』において、示されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、ガイダンスで『主体的・対話的で深い学びをしよう』として学びの流れが示され、関連する活動が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、各編の冒頭に『小学校での学び』が示されており、ページの右上に『他教科』『リンク』のマークが示されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、絵本の読み聞かせやインタビュー、話し合い、レポートのまとめ、発表などの活動例が『幼児とのかかわり』などで示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統的な文化が『地域の食文化』など衣・食・住の各内容において、取り上げられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、調理実習などの理論や根拠が写真、説明文などが『調理方法Q&A』に示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容との関連性が『家庭分野のガイダンス』で示され、各章において関連するものについては、『小学校での学び』として示されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『商品購入に必要な情報と活用の仕方』などが『情報を活用した上手な購入』で示されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各項目の冒頭右上に『学習の目標』、見開き左ページ上部に各章の名称が示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 各編において、学習のポイントや情報を吹き出しで伝えるキャラクターが『幼児の発達と衣生活、食生活』などにおいて示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 実践的・体験的な活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、家族の気持ちや立場を考えるロールプレイングなどの活動例が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、ガイダンスで見方・考え方の視点が示され、各節の終末に見方・考え方を生かした活動『生活にいかそう』が設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 生活の中から課題を設定し解決する力を養う学習過程について、生活や学習の中で課題を見つけ、解決に向けて実践していく題材が『生活の課題と実践』において、記載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 全3編『家族・家庭生活』『衣食住の生活』『消費生活・環境』と『生活の課題と実践』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるようなデザイン上の配慮をしています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《技術・家庭(家庭分野)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、巻頭に家族・家庭の基礎的な機能などの『家庭分野のガイダンス』が示されている。各章末に知識の習得に関する『学習のまとめ』や、実習について技能の習得に関する『いつも確かめよう』などが設定されている。
教図	「知識・技能」の習得について、『「日常の1食分の調理」について、考え、工夫する』などで、課題解決学習の流れが説明文と図によって実習例が示されている。また、調理実習では、材料・調理手順など調理のポイントなどが示されている。
開隆堂	「知識・技能」の習得について、ポイントとなる語句は太字で示されている。『しょうが焼き』の実習例において『しょうがを入れるとどうなるの?』『なぜ、フライパンを熱してから油を入れるの?』などのQ&Aにより、基礎的な調理手順や調理理論が示されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、ガイダンスにおいて『問題解決する筋道と見方・考え方』として課題解決の流れが具体的な例とともに示されており、難易度が示された実習例として『マイバッグ』『ミニトートバッグ』などが掲載されている。
教図	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、知識や技能を活用した課題解決の流れが『「家族・家庭や地域との関わり」の課題と実践』のなかの『問題の発見』『課題を設定する』などで示されている。
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、部屋の空間について話し合ったり、バリアフリーについて考えたり、家族の部屋の使い方を工夫したりする活動例が『住まいの空間』など示されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭で目標が提示されており、巻末にはコンクールを取り上げた『学んだことを発表しよう』のコーナーで、中学生が活動する写真などが取り上げられている。
教図	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、家庭分野の目標が巻頭の『私の成長と家庭分野の学習』に示されている。また、『センパイに聞こう!』では複数の分野で活躍する人からのメッセージが写真と文で掲載されている。
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『家庭生活を支える社会の仕事』や『家庭生活を支える社会の仕組み』に関する記述や図などが『家庭を支える社会』において示されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「共生」について、幼児や高齢者、外国の人、障がいのある人についての記載、防災訓練、ごみの収集活動、幼児や高齢者との関わりなどの題材が『家庭生活と地域とのかかわり』などに示されている。
教図	[思いやる力]の「共生」について、児童憲章や子どもの権利条約、児童虐待の防止、ユニセフの取組などが、写真や絵などで『子どものすこやかな成長のために』に取り上げられている。
開隆堂	[思いやる力]の「共生」について、乳幼児や高齢者、障がいのある人や外国の人、LGBTなど、地域に住む人々との交流やピクトグラムなどが写真などで『多様な人びとが暮らす地域』に示されている。
⑤ 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「消費者教育」について、自立した消費者に関する持続可能な社会、エシカル消費、消費者市民社会の説明などが『私たちの消費生活と環境』などに示されている。
教図	[たくましく生きる力]の「消費者教育」について、自立した消費者に関するエシカル消費、フェアトレードなどのトピック、持続可能な社会の実現などが『消費生活が社会に与える影響を考えよう』『環境に及ぼす影響を考えて行動しよう』などで取り上げられている。
開隆堂	[たくましく生きる力]の「消費者教育」について、消費者としての視点と自覚を持ち、持続可能な社会の実現に向け、自立した消費者に関する取組が『消費行動が社会に与える影響』『消費行動が環境に与える影響』で示されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域の小学生たちとの合同総合防災訓練など、中学生としての地域との関わり方や地域でできることを考える活動例が『地域での協働を目指して』などに示されている。
教図	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、中学生として地域の人々と協力・協働する例が写真や絵などで『地域の人々と協力・協働しよう』に記載されている。
開隆堂	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、地域ボランティアに参加する中学生についての記載や、『先輩からのエール』として、関連する職業に就いている方とのQ&Aが、『家庭生活と地域での活動』において示されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	主体的・対話的で深い学びについて、他者との考えの交流を図るためのグループワークなどの活動例が、『やってみよう』『考えてみよう』『調べてみよう』『話し合ってみよう』などで示されている。
教図	主体的・対話的で深い学びについて、話し合う活動や、発表する活動の例が『考えてみよう』『話し合ってみよう』『調べてみよう』などのコーナーで示されている。
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、ガイダンスで『主体的・対話的で深い学びをしよう』として、学びの流れが示され、『私の興味・関心』『話し合ってみよう』『考えてみよう』などの活動が設けられている。
⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、各編に『小学校』『リンク』などのマークが示され、『災害への対策』では、『他教科』として社会科、『リンク』として巻末の防災・減災手帳、『Dマーク』として保健体育科や理科など、関連する教科や内容が示されている。
教図	カリキュラム・マネジメントについて、小学校家庭科や他教科と関連する内容が『リンク』マークで示されている。『災害に備えた安全な住まい方を考えよう』では、保健体育科や社会科、理科との関連が『リンク』マークで示されている。
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、各編の冒頭に『小学校での学び』が示されており、ページの右上に『他教科』『リンク』のマークが示されている。理科や保健体育科と関連したことを示すマークが、『体に入った栄養素のゆくえ』や『栄養素のはたらきと6つの基礎食品群』において示されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、課題を設定して、調べたことをまとめ、それをもとに発表する活動や、ふれあい体験後にお礼の手紙を書く活動などが『幼児との関わり方の工夫』などで示されている。
教図	言語能力の育成について、課題解決学習の方法、計画、グループでのディベート、評価、改善などの活動が『学びを生かそう』で示されている。
開隆堂	言語能力の育成について、絵本の読み聞かせやインタビュー、話し合い、レポートのまとめ、発表などについての活動例が『幼児とのかかわり』のふれあい体験などで示されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統的な日本文化が写真や地図などで『日本の食文化と和食の調理』『日本の衣文化』『日本各地の住まい』などで取り上げられている。
教図	伝統や文化に関する教育の充実について、地域の食文化や地産地消、全国各地の郷土料理、和食の調理、地域の伝統的な器など日本の伝統的な文化が『地域の食文化を知ろう』などで取り上げられている。
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、郷土料理や地域の食材、また各地の伝統工芸品など日本の伝統的な文化が、『地域の食文化』などで取り上げられている。
⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、実物大の食品の掲示や、実習の際に確認する野菜の切り方などの段階ごとの写真、説明文、実習例などが、『私たちの食生活』や『いつも確かめよう』で示されている。
教図	体験活動の充実について、調理などの実習例が掲載されている。また、調理例のページの下部に小麦や卵、乳などの食物アレルギーの対応が『つくってみよう』に示されている。
開隆堂	体験活動の充実について、『ますます好きになる肉の調理』『こんなにおいしい魚の調理』などで、調理実習などの理論や根拠が写真、説明文などが『調理方法Q&A』に示されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、全体の冒頭の『家庭分野のガイダンス』において、中学校の学習内容と小学校の学習内容がページの上と下に並べて記載されている。各編の導入には『小学校家庭科の内容』が示されている。
教図	学校段階間の円滑な接続について、『ガイダンス』において小学校との関連が示されるとともに、「調理の基礎」では、小学校で学んだ『じゃがいもの調理』に関連させた実習例など『リンク』マークが示されている。
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校の学習内容との関連性が『家庭分野のガイダンス』で示され、各章において関連するものについては、『小学校の学び』として示されている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、情報を収集及びその活用を検討し、意思決定をするプロセスが『よりよい商品の選択と購入のための意思決定のプロセス』において5つの段階で示されている。
教図	情報活用能力の育成について、課題の設定、解決方法の検討、情報収集、比較検討、決定、消費、評価と見直しを行う題材が『買い物の意思決定のプロセス』において示されている。
開隆堂	情報活用能力の育成について、『情報の発信源』『商品購入に必要な情報と活用の仕方』『本当に必要な物資・サービスを購入するプロセス』が『情報を活用した上手な購入』で示されている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、冒頭に『教科書の構成』が示されている。また、各節が見開き2ページとなっており、『目標』から『まとめよう』までが配置されている。
教図	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、『この教科書の構成』で『見つめる』『学ぶ』『ふり返る』の3ステップで構成されていることや、『調べてみよう』『体験してみよう』『話し合ってみよう』などの活動例が示されている。
開隆堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各項目の冒頭右上に『学習の目標』が示されている。また、見開き左ページの上部に各章の名称がインデックスで示されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	実習時に、包丁の持ち方や姿勢、食品の切り方、作業する手元や姿勢の写真、左利きの作業例、作業のポイントなど実習の技能が、各編において文や写真、図で『いつも確かめよう』に示されている。
教図	各編において、『やってみよう』『学びを生かそう』『章末のまとめ』が基礎・基本の知識・技術の習得を図るものから発展的な題材へと順に記載されている。
開隆堂	各編において、学習のポイントや情報を吹き出しで生徒に伝えるキャラクターが、『幼児の発達と衣生活、食生活』『栄養素のはたらきと6つの基礎食品群』などで示されている。
⑯ 実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がされているか。	
東書	実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、知識・技能を活用する例が『弁当作りに挑戦しよう』などで示されている。
教図	実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、自分の生活の中から問題を発見し、知識・技能を活用する取組『生活の課題と実践』などに示されている。
開隆堂	実践的・体験的な学習活動を通じた知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等の育成について、家族の気持ちや立場を考えるロールプレイングなど実践的・体験的な学習活動例が『中学生にとっての家族』に示されている。
⑰ 「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	
東書	「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、『加工食品の特徴』などで、学びの視点が、キャラクターの吹き出しなどで示されている。
教図	「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、生徒同士の対話から日常生活と学習内容をつなげるコーナーが『見つめる』として、『家庭生活と地域の関わりを知ろう』などに示されている。
開隆堂	「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習について、『家庭分野のガイダンス』で学びの視点が示され、各節の終末に見方・考え方を日常生活に生かす活動『生活にいかそう』が設定されている。
⑱ 既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	
東書	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程について、知識・技能を活用し、課題設定、解決策の検討、実践、実践後の発表などの具体例が『生活の課題と実践』において提示されている。
教図	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程について、生活の中から課題を設定するプロセスが『学びを生かそう』の『課題を設定する』に記載されているとともに、課題解決に取り組む活動例が示されている。
開隆堂	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程について、生活や学習の中で課題を見つけ、課題解決に向けて実践していく題材が『生活の課題と実践』において、掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	全5編『私たちの食生活』『私たちの衣生活』『私たちの住生活』『私たちの消費生活と環境』『私たちの成長と家族・地域』と選択『生活の課題と実践』で構成されている。
教図	全3編『家族・家庭生活』『衣食住の生活』『消費生活・環境』と選択『生活の課題と実践』で構成されている。
開隆堂	全3編『家族・家庭生活』『衣食住の生活』『消費生活・環境』と『生活の課題と実践』で構成されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
教図	判型はA 4変型判が採用されている。
開隆堂	判型はA B判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』と表記されている。
教図	『ユニバーサルデザインの考え方に基づいて編集されています。』と表記されている。
開隆堂	『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』『カラーユニバーサルの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるようなデザイン上の配慮をしています。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	91ページ 三浦だいこん 95ページ けんちん汁 99ページ 容器包装を少なくする取り組みの例（九都県市）神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市 219ページ 防災訓練（横浜市） 280ページ 笑顔満点！疲労回復 スタミナ弁当（神奈川県）
教図	69ページ 『センパイに聞こう！「地域で子育てをシェアしましょう！ 地域の頼り合い支援会社」』（横浜市） 150ページ 三浦だいこん 151ページ 『かながわブランド』マーク 153ページ しらす丼 156ページ けんちん汁 191ページ 『メッセージ「お裁縫は想像の世界を広げてくれます！」』（横浜市） 260ページ 横浜市消費生活センター
開隆堂	58ページ 地域での多文化共生活動の例（横浜市）、目の不自由な人との交流（横浜市） 143ページ けんちん汁 150ページ 『先輩からのエール「食べるときにおいしくー横浜のシウマイ弁当」』 283ページ 鎌倉彫の小物入れ

② URL、二次元コード等の掲載の有無					
発行者名					
東書	有				
教図	有				
開隆堂	有				

③ 一冊ごとの重量(g)					
発行者名	冊数	重量(g)			
東書	1	606			
教図	1	633			
開隆堂	1	570			

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	東書	書名	NEW HORIZON English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文法事項を使い方と形の両面から整理した『Grammar for Communication』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、まとまった文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自分の楽しみとして英語を読む『プレジャー・リーディング』などを取り上げた『学び方コーナー』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、差別に対して非暴力で立ち向かったガンディーを取り上げた『A Legacy for Peace』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国際協力のキャンペーンによる国境を越えた助け合いを取り上げた『Beyond Borders』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、井戸掘りの国際協力ボランティアを取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、各Unitの最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、技術・家庭科(家庭分野)と関連して、食品表示を取り上げた『Learning HOME ECONOMICS in English』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、コミュニケーションを図るうえで、相手のもっている知識に合わせて話したり書いたりする配慮を示した『Point of View』が掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本の伝統工芸である陶芸や伝統文化である落語に取り組む外国人を取り上げた『Foreign Artists in Japan』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、スクールキャンプなどの体験を振り返る活動を取り上げた『My Favorite Event This Year』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、即興的な対話につながる課題を取り上げた『Plus One』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、ニュージーランドの姉妹校とインターネット電話をする場面を取り上げた『Friends in New Zealand』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、領域ごとの活動内容を説明する動物キャラクターが設定され、その吹き出しで活動のヒントが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞を並列に導入し、リスニングから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞くことから導入されている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコンで明示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、オーストラリアやイタリアなどの世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 0～11』、第2学年は『Unit 0～7』、第3学年は『Unit 0～6』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はA4判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『特別支援教育の観点から、読みやすさと書きやすさを追求した欧文用ユニバーサルデザインフォントを一部に採用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪外国語(英語)≫

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	SUNSHINE ENGLISH COURSE 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、場面から新出文法事項をマンガ形式の短い対話で示した『Scenes』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書本文の情報から答えを自由に推測する問いを示す『?』のアイコンなどが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、辞書の使い方を各学年の冒頭で3回に分けて取り上げた『辞書を使いこなそう』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、アメリカや南アフリカにおける人種差別反対運動を取り上げた『Live Life in True Harmony』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、国内外の路上の屋台で食べられているもののことを取り上げた『Taste of Culture』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、登校中の『子ども安全パトロール』を取り上げた『Junior Safety Patrol』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、領域別の目標を自己評価する『英語で「できるようになったこと」リスト』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、保健体育科と関連して、睡眠時間と健康の関係を取り上げた『Good Night. Sleep Tight.』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、導入・展開・まとめの順で話を構成することなどを示した『話の組み立て方を考えよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、大掃除やおせち料理といった日本の年末年始の風習に外国人一家が取り組む様子を取り上げた『The Year-End Events』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ハンバーガーショップでの注文を通した役割演技を取り上げた『ハンバーガーショップへ行く』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、1,000語超の物語文を取り上げた『Further Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、AI技術の可能性と今後の課題点などを取り上げた『Is AI a Friend or an Enemy?』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、表面にイラスト・裏面に関連する英語を記した『アクションカード』などが用意されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が段階的に導入され、題材への興味付けから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校で学んだ表現などが扱われている。全編を通し、場面シラバスから導入されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、エルトゥールル号の人命救助活動から始まったトルコと日本の友好関係を取り上げた『Friendship beyond Time and Borders』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Program』と表記し、第1学年は『Program 1～10』、第2学年は『Program 1～8』、第3学年は『Program 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮をしています。』『特別支援教育の視点から、書かれている内容が読み取りやすくなるように配慮をしています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	三省堂	書名	NEW CROWN English Series 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文の仕組みなどを考える問いとともに新出文法事項を示した『POINT』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、聞き取ったことをもとに自分の意見の発信につなげる『Take Action! Listen』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、英語に触れる手立てとして、英語で映画や音楽を聞くことなどを取り上げた『For Self-study』などが掲載されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、公民権運動に関するローザ・パークスやマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの活動を取り上げた『I Have a Dream』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、留学生が参加するイングリッシュキャンプでの体験を取り上げた『English Camp』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、富士山の登山道の美化活動などを取り上げた『Green Festival』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、教科書内で扱った主なパートの振り返り箇所を示した『What Can I Do?』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連して、霧の発生の仕組みを取り上げた『Every Drop Counts』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、ディスカッションで意見をまとめ、参加者全員が役割を意識することなどを示した『ディスカッションをしよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、フランスで行われたマンガやアニメなどを紹介するイベントでの体験などを取り上げた『The World's Manga and Anime』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、広島への修学旅行を通した平和体験学習を取り上げた『The Story of Sadako』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、自分から英語に触れる手立てを示した『For Self-study』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、イベントの募集案内からアピールする内容を考えて発表する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、聞き取り教材『Take Action! Listen』で扱われた英文の原稿『Audio Scripts』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、内容への動機付けから始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校での文構造などが整理されている。小学校の既習語から発信語彙が抽出され、再掲されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、オーストラリアの世界遺産ウルルと先住民族の歴史を取り上げた『Uluru』などが掲載されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～8』、第2学年は『Lesson 1～7』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書はユニバーサルデザインに配慮しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	教出	書名	ONE WORLD English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、文法事項をまとめた文脈の中で示してから整理した『Grammar』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教科書本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について表現する『Task』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、家庭学習による復習の仕方、授業以外での英語力の高め方などを取り上げた『How to Study』などが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、貧困や強制労働に苦しむ子どもたちのことを知り、12歳で行動を起こした少年の活動を取り上げた『Free the Children』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、NFL(全米フットボール連盟)の日本人トレーナーなどを取り上げた『Sports Legends』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、北海道の旭山動物園での取組を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、領域別の目標を顔のアイコンで自己評価する『Can-Do自己チェックリスト』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、社会科(地理分野)と関連して、北海道の自然環境を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、代名詞に注意して読み、文章を正しく読み取ることを示した『Tips for Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、先祖を弔う海外の風習と日本の盆踊りとの類似点や相違点を取り上げた『How to Celebrate Halloween』などが掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、ビデオ通話で、海外の中学生と交流する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、4つの読み物教材を取り上げた『Further Reading』などが掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、インターネットのブログとそれについてのメッセージのやり取りの場面などを取り上げた『Our Summer Stories』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教科書内に朱書きされた内容を隠すマスキングシートなどが用意されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、領域統合型の活動へと段階的に設定されるとともに、並行してチャット活動などが設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう!』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、イラストやゲームでの復習場面が設定されている。小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、世界に広がる地球温暖化やゴミ処理問題などの環境問題を取り上げた『Helping the Planet』などが掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～9』、第2学年は『Lesson 1～9』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	光村	書名	Here We Go! ENGLISH COURSE 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、新出文法事項が使われた箇所などを教科書本文に戻って再びチェックする『Grammar Hunt』などが掲載されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、モデルの文章を読んでそれに近いテーマで自己表現をする『Goal』などが掲載されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、将来に向けて、どのように英語を学び続けていくかなどを取り上げた『Your Coach』などが掲載されている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、世界の現状や社会問題を『100人の村』に例え、全ての人が平等に扱われていない実態を取り上げた『How Do We Live?』などが掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、大阪で包丁専門店を営むカナダ人を取り上げた『世界を舞台に働く人』などが掲載されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、海岸を掃除する活動について書かれたポスターの情報を読み取る活動を取り上げた『ポスター』などが掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、巻末の『CAN-DO List』と連動した目標を振り返るチェック項目を示した『ふり返り』などが掲載されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、理科と関連して、絶滅危惧種の現状とその原因を取り上げた『Living With Animals』などが掲載されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、自己表現を読み取る目的を示した『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』などが掲載されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、海外で広がる絵文字文化などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、小学校や水族館での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、英語学習を続けていく手立てを示した『Your Coach』が掲載されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、AI技術による翻訳機が存在が外国語の習得に与える影響などを取り上げた『AI Technology and Language』などが掲載されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、他ページと比べて紙質や大きさを変えた帯教材『Let's Talk!』などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が並列に導入され、領域統合型の活動へと段階的に設定されるとともに、並行してリテリング活動などが設定されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞く、話す、書くの順に活動が設定されている。帯活動で発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、アラブ首長国連邦・イギリス・ルワンダのそれぞれの中学校生活をとり上げた『School Life Around the World』が掲載されている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～8』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～8』で構成されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、小学校との接続期の英文には、書き文字との差異が少ない書体を独自に開発し、使用しています。』『日本語の文のうち、ふきだし内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名 ≪外国語(英語)≫

※詳細については、資料Ⅱ(英語-7～英語-17)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	BLUE SKY English Course 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<ul style="list-style-type: none"> ○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、新出文法事項の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示された『Targetのまとめ』などが掲載されている。 ② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、3つのステップでミニスピーチを作成する『Express Yourself』などが掲載されている。 ③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、各Unitで扱われたテーマに関連した追加情報を取り上げた『More Information』などが掲載されている。
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。 ④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『みんなにやさしい社会』に役立っていることを取り上げた『Society for All』などが掲載されている。 ⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「国際化」について、海外からの転校生とふだんすることや好きなことについてのやり取りを取り上げた『海外からの転校生』などが掲載されている。 ⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、「ゆるキャラ」を通じた地域の活性化などを取り上げた『Lively Towns in Japan』などが掲載されている。
3 内容と構成			<p>≪教科・種目共通の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、まとまった文章を読み取り、内容に関連した自分の意見や考えを述べる『Read & Think』などが掲載されている。 ⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、数学科と関連して、英語の物語として扱われた数学パズルを取り上げた『River Crossing Puzzle』などが掲載されている。 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、テーマに合うスピーチを段階に沿って作成し、発表する構成の『Express Yourself』などが掲載されている。 ⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、秋田竿灯祭りや長岡花火大会ができた背景などを取り上げた『Festivals Have Meanings』などが掲載されている。 ⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、遠足で訪れた美術館で「だまし絵」を見る場面を取り上げた『美術館で』が掲載されている。 ⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがある。高校への接続については、ディスカッションや長文の作文を取り上げた『Further Study』が掲載されている。 ⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、海外の学校のホームページの情報をヒントに自分の学校の紹介文を発表する活動を取り上げた『学校を紹介しよう』などが掲載されている。 ⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各Unitで扱われたテーマに関する日本語コラム『More Information』などが掲載されている。 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。 ⑮ <input type="checkbox"/> be動詞と一般動詞が段階的に導入され、目標の確認から始め、領域統合型の活動へと段階的に設定されている。 <p>≪各教科・種目別の観点≫(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑯ <input type="checkbox"/> 言語の使用場面や言語の働きについて、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。 ⑰ <input type="checkbox"/> 小学校と関連した構成について、小学校の既習事項を確認するページがあり、耳から学習した英語を文字と結び付ける流れで構成され、他ページと比べイラストが大きく使用されている。 ⑱ <input type="checkbox"/> 国際理解を深めることについて、世界中で病気や災害に苦しむ子どもたちに折り紙を教えた盲目の日本人を取り上げた『Origami Ambassador』などが掲載されている。
4 分量・装丁表記等			<ul style="list-style-type: none"> ⑲ <input type="checkbox"/> 中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～10』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～6』で構成されている。 ⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。 ㉑ <input type="checkbox"/> 『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。』『メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』と表記されている。

【資料Ⅱ】

教科種目名《外国語(英語)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習の『Practice』、技能別の練習の『Mini Activity』が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Grammar for Communication』で、扱われた表現が使い方と形の両面から整理され、実際にそれらを使用する活動が設定されている。
開隆堂	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容に触れる前に、マンガ形式の短い対話の『Scenes』で、場面から新出文法事項が示されている。続いて、それに関連した聞く活動、表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『英語のしくみ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示され、吹き出しで追加のヒントがキャラクターのセリフとして述べられている。
三省堂	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、『POINT』で新出文法事項が示されるが、最初はそれについての直接的な解説はされず、文の仕組みなどを考える問いが設けられている。続いて、文型練習の『Drill』、聞く活動、話すことと書くことを結びつけた活動が設定されている。ある程度の活動が終わった後、『文法のまとめ』で、扱われた表現について説明やヒントなどが示されている。
教出	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、新出文法事項が示され、その英文の仕組みについて説明が添えられている。続いて、文型練習、聞く活動、『Think & Try!』で自分で考える文を含んだ表現の練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Grammar』で、扱われた表現をまとめた文脈の中で示してから整理されている。その後、ペアでの会話練習が設定されている。
光村	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、本文内容に関連した聞く活動、話す活動、書く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Active Grammar』で、扱われた表現がまとめた文脈の中で示されるとともに、それらの表現が使われた箇所などを教科書本文に戻って再びチェックする『Grammar Hunt』が設定されている。
啓林館	「知識・技能」の習得について、教科書本文内容の導入後、聞く活動が設定されている。続いて新出文法事項が示され、説明が添えられている。その後、文型練習、例にならって考える表現練習が設定されている。ある程度の活動が終わった後、文法事項のまとめの『Targetのまとめ』で、扱われた表現の注目すべき箇所がマーカーや太字などで示されるとともに、その表現を実際に使用する活動が設定されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』で、『"All about Me" Poster (第1学年)』『Research and Presentation (第2学年)』『Let's Have a Mini Debate (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で活動の目標が明示され、アイコンとともに『目的・場面・状況』が明示され、互いに作ったポスターを読んで感想を伝え合ったり、クラスメイトに調査としてインタビューをしたり、立場に沿ったメモを作ったりすることなどが行われている。また、まとめた文章を概要把握、詳細理解、自己表現の3段階で読み取る『Read and Think』などの活動が設定されている。
開隆堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Our Project』で、『あなたの知らない私 (第1学年)』『「夢の旅」を企画しよう (第2学年)』『記者会見を開こう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で活動の目標が明示され、マッピングで情報を整理したり、リハーサルで互いにアドバイスをし合ったり、原稿メモについてペアでアドバイスしたりすることなどが行われている。また、教科書本文の情報から答えを自由に推測する問い(推論発問)が、『Q&A』の中に『?』のアイコンで示されている。
三省堂	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『理想のロボットを発表しよう (第1学年)』『修学旅行のプランを提案しよう (第2学年)』『ディスカッションをしよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で『何について』『何をやる』などの設定を生徒が書き込んで確認し、モデルとなる発表を聞いたり、ペアで提案内容を考えたり、参加者全員に役割を決めてディスカッションしたりすることなどが行われている。また、聞き取ったことをもとに自分の意見の発信につなげる『Take Action! Listen』などの活動が設定されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『オリジナルの標識を考えて発表しよう! (第1学年)』『行ってみたい名所を紹介しよう! (第2学年)』『英語で卒業スピーチをしよう! (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、タイトルと同一の活動目標が示され、モデル発表を聞いてメモを取ったり、アイデアのメモをもとに話す順番を決めたり、マッピングの手法で考えを整理したりすることなどが行われている。また、教科書本文とは異なる場面の英語を聞いてその内容について表現する『Task』などの活動が設定されている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『You Can Do It!』で、『「ドリームファミリー」を紹介しよう (第1学年)』『日本のおもしろいものを紹介しよう (第2学年)』『3年間を締めくくる言葉を考えよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、冒頭で状況設定などが示され、グループ発表を聞き合ったり、代表を決めたり、ペアで紹介するものを決めたり、モデルとなる英語の詩から作成者の学校生活を想像したりすることなどが行われている。また、モデルの文章を読んでそれに近いテーマで自己表現をする『Goal』などの活動が設定されている。
啓林館	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、複数の単元のまとめとして、領域統合型のプロジェクト活動『Project』で、『日記を書こう (第1学年)』『あこがれの職業を発表しよう (第2学年)』『有名人にインタビューしよう (第3学年)』などの活動が設定されている。これらの活動では、段階的に手順が示され、よく使われる語句が紹介されたり、発表を聞いて相手に質問したり、モデル対話を聞いてわかったことをメモしたりすることなどが行われている。また、3つのステップでミニスピーチを作成する『Express Yourself』などの活動が設定されている。

③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『学び方コーナー』で、英語学習法として、自分の楽しみとして英語を読む『プレジャー・リーディング』などが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で2回に分けて紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Room』が、関連したイラストなどととも、プロジェクト活動の次のページ以降や巻末に掲載されている。
開隆堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『Steps』で、相手にわかりやすい説明をするコツなどが紹介されている。辞書の使い方について、各学年の冒頭で3回に分けて『辞書を使いこなそう』などで紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Web』が、コーナーとして設けられるとともに、巻末資料に場面別の表現などが掲載されている。
三省堂	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『For Self-study』で、英語に触れる手立てとして、英語で映画や音楽を聞くことなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で英和辞書・和英辞書の活用の仕方が紹介されている。追加の表現をまとめた一覧『Word Bank』が、会話表現活動の右ページに設けられるとともに、巻末の『いろいろな単語』で、カテゴリー別の語句などが掲載されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『How to Study』で、家庭学習による復習の仕方、授業以外での英語力の高め方、『シャドーイング』という練習方法などが紹介されている。辞書の使い方について、各学年の巻末で3回に分けて紹介されている。小学校で学習した表現をまとめた一覧『Word List①』が、第1学年の巻末にカテゴリー別で掲載されるとともに、第2・第3学年で、教科書内の活動と関連した単語や表現を記したカードが設けられている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『Your Coach』で、将来に向けて、どのように英語を学び続けていくかなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で紹介されている。各学年の冒頭に見開きで『英語の学び方ガイド』が掲載されている。追加の表現をまとめた一覧『Active Words』が、会話練習の帯教材の次のページ以降に、イラストを添えたり、時系列で示したり、反意語を示したりして掲載されている。
啓林館	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、学び方のコツなどをまとめた『付録』で、英文を書くときのルール、言語の働き別の会話表現、英文の読み方のコツなどが紹介されている。辞書の使い方について、第1学年で紹介されている。第2・第3学年の各Unitの最後の『More Information』で、扱われたテーマに関連した追加情報が日本語で記されている。追加の表現をまとめた一覧『Tool Box』が、プロジェクト活動と同一のページ内に設けられるとともに、巻末の『Word Box』で、項目別に五十音順で掲載されている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、ケニアの病院で働く女性を取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、ユニバーサルデザインなどを取り上げた『Universal Design』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、差別に対して非暴力で立ち向かったガンディーを取り上げた『A Legacy for Peace』などが掲載されている。
開隆堂	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、個人ができることやできないことについて取り上げた『タレントショーを開こう』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、アメリカや南アフリカにおける人種差別反対運動を取り上げた『Live Life in True Harmony』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、女子が教育を受ける権利を訴えたマララ・ユスフザイの活動を取り上げた『Malala's Voice for the Future』などが掲載されている。
三省堂	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、車いすバスケットボール選手本人のエッセイを取り上げた『Wheelchair Basketball』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、オーストラリアの先住民族に対する配慮などを取り上げた『Uluru』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、公民権運動に関するローザ・パークスやマーチン・ルーサー・キング・ジュニアの活動を取り上げた『I Have a Dream』などが掲載されている。
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、好きなものなどが異なる人物同士を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Person』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、盲導犬と人との関わりなどを取り上げた『Service Dogs』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、貧困や強制労働に苦しむ子どもたちのことを知り、12歳で行動を起こした少年の活動を取り上げた『Free the Children』などが掲載されている。
光村	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、6人のプロフィールから共通点・相違点について読み取る『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、困った状況の中で友人に相談したり、助け合ったりする場面を取り上げた『Staging a Musical』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、世界の現状や社会問題を『100人の村』に例え、全ての人が平等に扱われていない実態を取り上げた『How Do We Live?』などが掲載されている。
啓林館	[思いやる力]の「人権教育」について、第1学年では、登場人物が互いにできること・できないことについて話す場面を取り上げた『エミリーの家で』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第2学年では、キャラクターのアンパンマンが自分のものを分け与える場面を取り上げた『What is a Hero?』などが掲載されている。 [思いやる力]の「人権教育」について、第3学年では、『みんなにやさしい社会』に役立っていることを取り上げた『Society for All』などが掲載されている。

⑤ [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、フィリピンで食べられているシニガンというスープやハロハロというデザートを取り上げた『A Speech about My Brother』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、国内外の世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、国際協力のキャンペーンによる国境を越えた助け合いを取り上げた『Beyond Borders』などが掲載されている。
開隆堂	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、書道や百人一首をアメリカ人の生徒に教える場面を取り上げた『Let's Enjoy Japanese Culture.』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、国内外の路上の屋台で食べられているものごとを取り上げた『Taste of Culture』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、日本の弁当やインドの弁当配達人について取り上げた『Bentos Are Interesting!』などが掲載されている。
三省堂	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、留学生が参加するイングリッシュキャンプでの体験を取り上げた『English Camp』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、ニュージーランドから来る中学生たちの歓迎会について取り上げた『Things to Do in Japan』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、フランスのパリで行われた日本文化を紹介するイベントを取り上げた『The World's Manga and Anime』などが掲載されている。
教出	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、オーストラリアの中学生とのビデオ通話の場面を取り上げた『School Life in Two Countries』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、英語による落語を取り上げた『Rakugo in English』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、NFL(全米フットボール連盟)の日本人トレーナーなどを取り上げた『Sports Legends』などが掲載されている。
光村	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、世界の挨拶や、中学生の生活の様子を取り上げた『世界の中学生』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、大阪で包丁専門店を営むカナダ人を取り上げた『世界を舞台に働く人』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、外国と日本の学校の違いについて取り上げた『School Life Around the World』などが掲載されている。
啓林館	[たくましく生きる力]の「国際化」について、第1学年では、海外からの転校生とふだんすることや好きなことについてのやり取りを取り上げた『海外からの転校生』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第2学年では、香港やハワイなどへの旅行を取り上げた『Traveling Overseas』などが掲載されている。 [たくましく生きる力]の「国際化」について、第3学年では、イスラム教徒のハラールフードなどを取り上げた『Food Cultures』などが掲載されている。
⑥ [社会とかかわる力] 社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、井戸掘りの国際協力ボランティアを取り上げた『Think Globally, Act Locally』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、自分の町のおすすめの場所を紹介する活動について取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、町で取り組んでいる防災面での外国人支援を取り上げた『Be Prepared and Work Together』などが掲載されている。
開隆堂	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、登校中の『子ども安全パトロール』を取り上げた『Junior Safety Patrol』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、職業体験を受け入れたスーパーマーケットや病院などを取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、自分の住む町をPRする活動を取り上げた『あなたの町を世界にPRしよう』などが掲載されている。
三省堂	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、富士山の登山道の美化活動などを取り上げた『Green Festival』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、農場での職場体験プログラムなどを取り上げた『My Dream』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、国際交流イベントで町や地域の文化を紹介する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』などが掲載されている。
教出	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、北海道の旭山動物園での取組を取り上げた『Holiday in Hokkaido』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、書店や保育園で職場体験に取り組む様子を取り上げた『Workplace Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、ワシなどの猛禽類の保護活動などを取り上げた『The Eagles in Hokkaido』などが掲載されている。
光村	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、地元の夏祭りを楽しむ場面などを取り上げた『Enjoy the Summer』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、小学校や水族館での職場体験を取り上げた『Work Experience』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、海岸を掃除する活動について書かれたポスターの情報を読み取る活動を取り上げた『ポスター』などが掲載されている。
啓林館	[社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第1学年では、山形県でサクランボ農家を営む祖父の姿を取り上げた『ぼくのおじいさん』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第2学年では、海外で働く日本人について取り上げた『Working Overseas』などが掲載されている。 [社会とかかわる力]の「地域貢献活動」について、第3学年では、「ゆるキャラ」を通じた地域の活性化などを取り上げた『Lively Towns in Japan』などが掲載されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の目次が『学習の見直しを立てよう』のタイトルで示され、巻末に『学習を振り返ろう』のタイトルで学年別のCAN-DOリスト形式の学習到達目標が示されている。第1学年には小学校の学習到達目標、第3学年には高校の学習到達目標も示されている。各Unitの最初に『GOAL』として目標が示され、最後に『CHECK』としてその目標を達成したかどうかの振り返りが示されている。グループなどで対話する場面として、互いに向いていると思う仕事を伝え合い、そのアドバイスをもとに表現につなげる活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think and Express Yourself』で、読み取った内容に関連した自分のことについて表現する活動などが設定されている。
開隆堂	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に前後の学年も含めた全体の構成が示され、巻末の『英語で「できるようになったこと」リスト』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、自己評価する項目が示されている。各Programの最初に3観点別の目標が示され、後のプロジェクト活動の目標と連動している。グループなどで対話する場面として、アイデアを出し合って英語でチャットをする活動などが設定されている。生徒が考える場面として、読み取った内容から自由に答えを推測する推論発問などが設定されている。
三省堂	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に『この教科書のしくみ』が示され、巻末の『What Can I Do?』で領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、教科書内で扱った主なパートの振り返り箇所が示されている。各Lessonの最初に、扱われる新出文法事項に関する英文や活動の目標が示されている。グループなどで対話する場面として、提案するテーマについて話し合う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、モデルとなるスピーチ原稿と書き加えられたメモを見て工夫している点を考える活動などが設定されている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書で英語を学ぶみなさんへ』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Do自己チェックリスト』で前後の学年も含めた領域別の目標が示されている。それぞれの目標について、顔の表情のアイコンで自己評価する項目が示されている。各Lessonの終わりに3観点別の振り返りの機会が設けられている。グループなどで対話する場面として、スピーチを聞いて感想を言う活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『Think & Try!』で、読み取った内容に関連した表現活動が設定されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭に学期ごとに区切られた全体構成が示され、巻末の『CAN-DO List』で学年の大きな1つの目標と領域別の目標が示されている。それぞれの目標は、学年が上がるにつれ、以前の学年の目標が併せて示されている。『CAN-DO List』と連動した目標を達成したかどうかを振り返るチェック項目が、各Unit末などに『ふり返り』として設定されている。グループなどで対話する場面として、留学生が楽しめる観光プランを考える活動などが設定されている。生徒が考える場面として、『About You』というアイコンで示された箇所に、自分のことに関連して表現する活動が設定されている。
啓林館	主体的・対話的で深い学びについて、学習を見直し振り返る場面として、巻頭の『この教科書の使い方』で全体の構成が示され、巻末の『Can-Doリスト』で第1学年のうちから中学校3年間を見通した領域別の目標が示されている。この目標は、中学校学習指導要領に示されている領域別の目標にほぼ文言が合わせられている。各Unitの最初に、パートごとの目標や扱われる文法事項が示されている。グループなどで対話する場面として、発表を聞いた後で発表者に質問する活動などが設定されている。生徒が考える場面として、まとまった文章を読み取り、内容に関連した自分の意見や考えを述べる『Read & Think』が設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)

東書	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、物語の文章構成を取り上げた『Learning LITERATURE in English』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科(家庭分野)と関連して、食品表示を取り上げた『Learning HOME ECONOMICS in English』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、食物連鎖を取り上げた『Learning SCIENCE in English』が掲載されている。 また、各学年とも、他教科と関連する内容は鎖の形の同一のアイコンで示されている。
開隆堂	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、国語科と関連して、書道や百人一首を取り上げた『Let's Enjoy Japanese Culture.』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、技術・家庭科(技術分野)と関連して、カワセミを模して作られた新幹線の形状を取り上げた『High-Tech Nature』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、保健体育科と関連して、睡眠時間と健康の関係を取り上げた『Good Night. Sleep Tight.』が掲載されている。 また、「ごんぎつね」など、複数の小学校の国語科で扱われた物語が、英文で掲載されている。
三省堂	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、保健体育科と関連して、車いすバスケットボールを取り上げた『Wheelchair Basketball』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、理科と関連して、霧の発生の仕組みを取り上げた『Every Drop Counts』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、歴史・公民的分野と関連して、アメリカの公民権運動を取り上げた『I Have a Dream』が掲載されている。 また、伝統文化、異文化理解、自然理解など、複数の教科と関連した題材が設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、地理的分野と関連して、北海道の自然環境を取り上げた『Holiday in Hokkaido』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、理科と関連して、ペンギンの生態を取り上げた『Six Amazing Things about Penguins』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、技術・家庭科(技術分野)と関連して、インターネットのニュースや広告動画を取り上げた『News and Ads』が掲載されている。 また、教科書内の各単元と並行して扱う教材として、『Activities Plus』が設定されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、地理的分野と関連して、日本と世界の時差を取り上げた『世界の時刻』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、美術科と関連して、葛飾北斎『富嶽三十六景』を取り上げた『音声ガイド』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、理科と関連して、絶滅危惧種の現状とその原因を取り上げた『Living With Animals』が掲載されている。 また、『Story Retelling』『Let's Talk!』などの帯教材が設定されている。
啓林館	カリキュラム・マネジメントについて、第1学年では、数学科と関連して、英語の物語として扱われた数学パズルを取り上げた『River Crossing Puzzle』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第2学年では、地理的分野と関連して、国土面積などの国別ランキングを取り上げた『Let's Compare』が掲載されている。 カリキュラム・マネジメントについて、第3学年では、歴史的分野と関連して、歴史上の人物について関連した出来事を取り上げた『What Can Photos Tell?』が掲載されている。 また、部活動、火災訓練、修学旅行などの学校行事と関連する題材が設定されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、第1学年では、登山の計画において、地図や表をもとにテキストメッセージでやり取りしている様子を読み取り、結論を導く『Let's Climb Mt. Fuji』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、コミュニケーションを図るうえで、相手のもっている知識に合わせて話したり書いたりする配慮を示した『Point of View』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ディベートにおいて、自分の意見を主張する手立てなどを示した『Word Room』が掲載されている。 また、各学年とも、国語科との関連を図り、物語の読み方や、英語俳句を書く活動などが示されている。
開隆堂	言語能力の育成について、第1学年では、導入・展開・まとめの順で話を構成することなどを示した『話の組み立て方を考えよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、会話を続け、深めることにおいて、あいづちや疑問詞を使った疑問文を組み合わせるとよいといった具体例などを示した『会話をつなげ、深めよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、言いたいことをどう表現したらいいかわからないときの手立てとして、自分や相手の知っている簡単な表現に言い換えることなどを示した『簡単な表現で言いかえよう』が掲載されている。 また、各学年とも、ページ内にある『Try』で、即興的なやり取りを促す題材が示されている。
三省堂	言語能力の育成について、第1学年では、内容を考えて整理する手立てなどについて示した『学校生活や行事を紹介するメールを書く』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、ディスカッションで意見をまとめ、参加者全員が役割を意識することなどを示した『ディスカッションをしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、イベントのチラシから必要な情報を読み取り、そのイベントについての質問に答える題材などを示した『イベントのチラシ』が掲載されている。 また、各学年とも、表現を行う活動で『キャラクターのひとりごと』が示され、表現をまとめるに至る思考過程について示されている。
教出	言語能力の育成について、第1学年では、代名詞に注意して読み、文章を正しく読み取ることなどを示した『Tips for Reading』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、書くことを整理するコツとして、すぐに文章を書き始めないで、マッピング図を描いて書くことを整理することを示した『Tips for Writing』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、読み手にわかりやすい文章を書くことにおいて、ジャンルなどが大きなことから細かいことの順に書くことなどを示した『Tips for Writing』が掲載されている。 また、各学年とも、教科書内の各単元と並行して扱う『Activities Plus』で、継続的な会話練習が設定されている。
光村	言語能力の育成について、第1学年では、自己表現を読み取る目的を示した『自己紹介で共通点・相違点を見つけよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、留学生に合う自分の町の観光プランを作ることに際して、自己紹介から相手の知りたいことを読み取り、その内容を基に考える活動を取り上げた『わが町観光プランをおすすめしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ある場所の未来の予想をすることにおいて、同じ場所の過去と現在の写真について、相違点をあげるグループ活動を取り上げた『「過去」と「現在」の相違点を挙げよう』が掲載されている。 また、各学年とも、教科書本文の見開きのページに、「聞く」「読む」「話す」「書く」の技能別の活動が一つずつ設けられている。
啓林館	言語能力の育成について、第1学年では、例を参考に表現したいことを選び、それを基に原稿を書くことなどを示した『自己紹介をしよう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第2学年では、別の人のやり取りを聞き、意見のまとめ方の練習をする活動を取り上げた『自分の意見を言おう』が掲載されている。 言語能力の育成について、第3学年では、ディスカッションをする際、モデル対話の人物の意見を読み取り、自分の表現につなげる活動を取り上げた『ディスカッションをしよう』が掲載されている。 また、各学年とも、テーマに合うスピーチを段階に沿って作成し、発表する構成の『Express Yourself』が掲載されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本の伝統工芸である陶芸や伝統文化である落語に取り組む外国人を取り上げた『Foreign Artists in Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、カレーを例にあげ、外国の食文化が日本に取り入れられて独自に発達したことを取り上げた『Food Travels around the World』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『Kawaii』など、日本語がそのまま外国語として受け入れられた例を取り上げた『Discover Japan』が掲載されている。
開隆堂	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、大掃除やおせち料理といった日本の年末年始の風習に外国人一家が取り組む様子を取り上げた『The Year-End Events』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、アニメやマンガといった日本のポップカルチャーを取り上げた『A Gateway to Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、弁当文化から派生したキャラ弁や駅弁のを取り上げた『Bentos Are Interesting』が掲載されている。
三省堂	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本での思い出として風呂敷を買ったり花火を見たりした話などを取り上げた『Discover Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、海外で活動する英語落語家の大島希巳江の取組などを取り上げた『Rakugo Goes Overseas』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、フランスで行われたマンガやアニメなどを紹介するイベントでの体験などを取り上げた『The World's Manga and Anime』が掲載されている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、オーストラリアの生徒に日本の学校の様子を説明する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、先祖を弔う海外の風習と日本の盆踊りとの類似点や相違点を取り上げた『How to Celebrate Halloween』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、『umami』という言葉が英語となり海外で知られていることなどを取り上げた『Washoku, or Japanese Cuisine』が掲載されている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、除夜の鐘・年越しそば・初詣・おみくじなどの日本の年末年始の行事を取り上げた『New Year Holidays in Japan』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、海外で広がる絵文字文化などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、帰国する外国人生徒が体験したいこととして挙げた、着物の着付け・折り紙などについての会話を聞き取る活動を取り上げた『Tina's Speech』が掲載されている。
啓林館	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年では、日本最古のマンガといわれている鳥獣戯画などを取り上げた『日本のマンガ文化』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第2学年では、秋田竿灯祭りや長岡花火大会ができた背景などを取り上げた『Festivals Have Meanings』が掲載されている。 伝統や文化に関する教育の充実について、第3学年では、生卵を食べたりはしを使用したりする日本の食文化などを取り上げた『Food Cultures』が掲載されている。

⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、第1学年では、スクールキャンプなどの体験を振り返る活動を取り上げた『My Favorite Event This Year』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、翻訳会社での職業体験に取り組む様子を取り上げた『My Future Job』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、日本にいる外国人を対象とした避難訓練を取り上げた『Be Prepared and Work Together』が掲載されている。
開隆堂	体験活動の充実について、第1学年では、ハンバーガーショップでの注文を通じた役割演技を取り上げた『ハンバーガーショップへ行こう』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、スーパーマーケット・病院・郵便局での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、会見役と記者役に分かれてスピーチやそれに関する質問をする活動を取り上げた『記者会見を開こう』が掲載されている。
三省堂	体験活動の充実について、第1学年では、ボランティア活動についてのスピーチを聞きに行く場面を取り上げた『Green Festival』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、職場体験プログラムや実際に働く人の体験談を取り上げた『My Dream』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、広島への修学旅行を通じた平和体験学習を取り上げた『The Story of Sadako』が掲載されている。
教出	体験活動の充実について、第1学年では、ビデオ通話で、海外の中学生と交流する場面を取り上げた『School Life in Two Countries』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、『サンタラン』という入院している子どもたちを支援するチャリティイベントを取り上げた『The Gift of Giving』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、カナダでのホームステイ体験を取り上げた『Aya Visits Canada』が掲載されている。
光村	体験活動の充実について、第1学年では、外国のカフェで注文をするやり取りの役割演技を取り上げた『カフェ』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、小学校や水族館での職場体験の様子を取り上げた『Work Experience』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、校内での合唱コンクールを取り上げた『The Chorus Contest』が掲載されている。
啓林館	体験活動の充実について、第1学年では、遠足で訪れた美術館で「だまし絵」を見る場面を取り上げた『美術館で』が掲載されている。 体験活動の充実について、第2学年では、地震発生時の行動、防災用品、学校の火災訓練を取り上げた『In Case of Emergency』が掲載されている。 体験活動の充実について、第3学年では、広島への修学旅行を通じた平和体験学習を取り上げた『Passing Down Memories』が掲載されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、聞くことから導入されている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコンで明示されている。 高校への接続について、第3学年の巻末に示した『CAN-DOリスト』には、高校の領域別の目標が示されている。読む分量の増加に合わせて、本編中の読み物教材の使用語数が段階的に増やされている。図やイラストの内容を表現する活動などを取り上げた『いざというとき役立つ標識』や、即興的な対話につながる課題を取り上げた『Plus One』などが掲載されている。
開隆堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校で学んだ表現などが扱われている。全編を通し、場面シラバスから導入されている。 高校への接続について、通常からまとまりのある文章を読む活動が繰り返され、学年が上がるにつれ語数が増やされている。第3学年の最後には1,000語超の物語文を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。
三省堂	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、小学校での学びを振り返り、文構造などが整理されている。小学校の既習語から発信語彙が抽出され、再掲されている。 高校への接続について、補充語彙リストの『Word Bank』が設定されている。まとまりのある文章を読む活動の語数が段階的に増やされている。自分から英語に触れる手立てを示した『For Self-study』が掲載されている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、イラストやゲームでの復習場面が設定されている。小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。 高校への接続について、通常からスパイラルに活動を積み重ね、段階的に扱う語数や表現が増やされている。第3学年の最後には、4つの読み物教材を取り上げた『Further Reading』が掲載されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、「聞く」「話す」「書く」の順に活動が設定されている。帯活動で発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。 高校への接続について、通常から読む機会と読む量が段階的に増やされている。第3学年では、文章を読み比べ、自分の意見を表現する活動が扱われている。英語学習を続けていく手立てを示した『Your Coach』が掲載されている。
啓林館	学校段階間の円滑な接続について、小学校の既習事項を確認するページがあり、耳から学習した英語を文字と結び付ける内容で構成され、他ページと比べイラストが大きく使用されている。 高校への接続について、通常から段階的に語数を増やしながら読む活動が扱われている。第3学年の最後に、ディスカッションや長文の作文を取り上げた『Further Study』が掲載されている。補充の読み物教材も2点扱われている。

⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、第1学年では、ニュージーランドの姉妹校とインターネット電話をする場面を取り上げた『Friends in New Zealand』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、情報技術の活用の仕方を考える活動を取り上げた『Learning TECHNOLOGY in English』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、宿題について友人とテキストメッセージを送り合う場面を取り上げた『Haiku in English』が掲載されている。
開隆堂	情報活用能力の育成について、第1学年では、撮影した写真について説明する活動を取り上げた『私が選んだ1枚』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、本やインターネットでの情報収集のアドバイスを取り上げた『こんな人になりたい』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、AI技術の可能性と今後の課題点などを取り上げた『Is AI a Friend or an Enemy?』が掲載されている。
三省堂	情報活用能力の育成について、第1学年では、写真を添えて学校生活を紹介するメールを書く活動を取り上げた『学校生活や行事を紹介するメールを書こう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、レストランのメニュー情報から誰にどの食べ物をすすめるのかを考える活動を取り上げた『レストランのメニュー』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、イベントの募集案内からアピールする内容を考えて発表する活動を取り上げた『国際交流イベントに出展しよう』が掲載されている。
教出	情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットのブログとそれについてのメッセージのやり取りの場面などを取り上げた『Our Summer Stories』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、電子メールで書き手の意向を理解するコツを取り上げた『Tips for Reading』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、インターネットのニュースやコマーシャル動画を取り上げた『News and Ads』が掲載されている。
光村	情報活用能力の育成について、第1学年では、インターネットの記事から必要な情報を抽出する活動を取り上げた『ウェブサイト』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、世界中のテキストメッセージで使われる絵文字のやり取りの留意点などを取り上げた『Emojis - From Japan to the World』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、AI技術による翻訳機が存在が外国語の習得に与える影響などを取り上げた『AI Technology and Language』が掲載されている。
啓林館	情報活用能力の育成について、第1学年では、まとめたメモを基に紹介文を書く活動などを取り上げた『友だちにインタビューしよう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第2学年では、海外の学校のホームページの情報をヒントに自分の学校の紹介文を発表する活動を取り上げた『学校を紹介しよう』が掲載されている。 情報活用能力の育成について、第3学年では、ディスカッションを行ううえで情報を整理して意見をまとめる活動などを取り上げた『ディスカッションをしよう』が掲載されている。
⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、領域ごとの活動内容を説明する動物キャラクターが設定され、その吹き出しで活動のヒントが掲載されている。英語の問いに対する回答例、海外の駅名に併記されたカタカナ、英単語の意味に対応したイラストが用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材に限らず、まとまりのある文章に使用単語数が併記されている。
開隆堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、マンガ形式による場面理解、英単語の意味に対応した写真、形容詞を視覚的に理解するイラスト、目標文の一覧とその日本語訳の併記、表面にイラスト・裏面に関連する英語を記した『アクションカード』が用意されている。学習活動などの補助として、ページ番号付近の単元の目標番号を示すアイコン、音読回数（5回分）のチェック欄が設けられている。
三省堂	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、『Drill』内にある英語と関連したイラスト、新しく登場するキャラクターの人物紹介欄、言語活動の設定の記入欄、聞き取り教材『Take Action! Listen』で扱われた英文の原稿（巻末の『Audio Scripts』）、思考過程を明示するキャラクターの『ひとりごと』が用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数や段落番号が併記されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各課で扱う文法事項について示した目次内の囲み、過去の学年のものも含めた日本語訳付きの『重要構文復習リスト』、ものや人などを説明するゲームに使用する絵カードが用意されている。学習活動などの補助として、音読回数（10回分）のチェック欄、教科書内に朱書きされた内容を隠すマスキングシートが用意されている。
光村	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、教科書が全編通してストーリー化されていたり、語句の意味に対応した写真が用意されたりしている。学習活動などの補助として、音読のやり方の指示がアイコンで示されていたり、読み物教材の使用語数が併記されたりしている。他ページと比べて帯教材『Let's Talk!』の紙質や大きさを変え、すぐ後に並行して使用する『Active Words』の欄が設けられている。
啓林館	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、内容理解などの補助として、各Unitで扱われたテーマに関する日本語コラム『More Information』、語句の意味に対応したイラスト、日本語訳付きの『基本文のまとめ』、英語の文字の発音の仕方の説明、赤いボールの位置や動きで示された前置詞のイメージ図が用意されている。学習活動などの補助として、読み物教材の使用語数が併記されている。

⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真などから場面などを想像するリスニングで導入 ②教科書本文の概要把握 ③基本文をもとにした練習活動 ④『Mini Activity』で各技能の習得を図る ⑤『Read and Think (第2・3学年)』でまとまった文章を3段階のステップ(概要把握、詳細理解、表現につなげる)で読む ⑥領域統合型の『Unit Activity』で成果を確認 ⑦複数の単元のまとめとして行う領域統合型の『Stage Activity』などで設定されている。また、各技能別に特化した活動、他教科との技能連携題材、読み物教材などが設定されている。
開隆堂	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が段階的に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①写真やリスニングで題材への興味付けを行い、学習の見通しを立てる ②マンガ形式の短い対話で基礎・基本の習得を図る ③教科書本文の題材内容について考える ④自分の言葉で本文をリテリングする(第1学年Program 9から設定) ⑤学んだ表現をもとに即興で自己表現する ⑥複数の単元のまとめとして行う領域統合型の活動を行うなどで設定されている。また、ペアによるスモールトーク、表現するうえでの技能の紹介、語彙力の増強活動、技能別のコミュニケーション活動、読み物教材などが設定されている。
三省堂	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されるとともに、現在完了形が第2学年の終わりに導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①学ぶ内容への動機付けをし、学習の見通しを立てる ②教科書本文の概要を把握する ③基本文を確認し、文法事項や文構造を理解する ④基本文の練習活動を行う ⑤聞く活動から始める技能別の活動を行う ⑥まとまりのある英文を3段階のステップ(背景知識活性化、繰り返し読む、発信)で読み取る ⑦目的・場面・状況に応じてまとまりのある文章を書く ⑧目的・場面・状況に応じて発表する ⑨複数の単元のまとめとして、領域統合的な活動を行うなどで設定されている。また、聞き取り活動、やり取り活動、読み物教材などが設定されている。
教出	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞と一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①教科書本文ごとの目標を確認 ②教科書本文の内容理解 ③基本文の確認 ④基本文を用いた練習活動 ⑤まとまった内容の振り返りやタスク活動 ⑥文法事項や文構造の整理 ⑦複数単元のまとめとしての領域統合型の課題解決活動などで設定されている。また、並行して帯活動で行うペアによる即興でのチャットやスピーチ、言語の使用場面に応じた活動、技能を高めるコツの紹介、読み物教材、英語の勉強の仕方についてのアドバイスなどが設定されている。
光村	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が並列に導入されている。各学年とも、構成は基本的にストーリー仕立てで、①目標の確認とストーリーの予想 ②教科書本文を理解しながら音読練習 ③本文中で基本文や語彙を確認 ④目的や場面に沿った練習活動 ⑤基本文のルールなどの再確認 ⑥アウトプットと振り返り活動 ⑦複数単元のまとめとして行う領域統合型の言語活動などで設定されている。また、並行して帯教材で扱うリテリング活動、即興でのやり取り活動、領域別の練習教材、国際理解を深める教材、読み物教材などが設定されている。
啓林館	文法事項について、小学校で扱ったbe動詞、一般動詞が段階的に導入されている。各学年とも、基本的な構成は、①テーマに沿った目標の確認 ②教科書本文の概要理解 ③新出文法や新出語句の確認 ④音声での新出文法の確認 ⑤新出文法の練習や表現活動 ⑥テーマに沿ったまとまった文章の読み取り(概要理解、要約、内容について考える) ⑦テーマに沿った発表活動 ⑧背景知識の補足資料 ⑨複数単元のまとめとして行う領域統合型の活動などで設定されている。また、新出文法の振り返り、「話す」「聞く」「読む」の各技能の学習、追加のディスカッション・ライティング活動(第3学年)、追加の読み物教材(第3学年)などが設定されている。
⑯ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	言語の使用場面について、地域のおすすめの場所を紹介する場面を取り上げた『My Favorite Place in Our Town』などが掲載されている。この活動は、どのようなおすすめを紹介してほしいのかを「聞くこと」から始め、自分で考えたおすすめのことを「書くこと」「話すこと[やり取り]」をし、グループのメンバーが考えた内容を「読むこと」を行い、「話すこと[発表]」で紹介するという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「聞き直す」「褒める」「説明する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
開隆堂	言語の使用場面について、他人にあまり知られていない自分のことを伝える自己紹介活動の場面を取り上げた『あなたの知らない私』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」「読むこと」から始め、自分のスピーチのアイデアについて「話すこと[やり取り]」「書くこと」を行い、マッピングなどで自分の考えを整理し、即興のスピーチを繰り返していく中で原稿をまとめ、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「繰り返す」「礼を言う」「発表する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
三省堂	言語の使用場面について、将来の夢がテーマのスピーチコンテストで発表する場面を取り上げた『将来の夢を紹介しよう』などが掲載されている。この活動は、モデルスピーチを「聞くこと」から始め、ペアやグループで「話すこと[やり取り]」をして互いの興味を確認し、モデルスピーチを「読むこと」で文の構成などを参考にし、自分のスピーチを「書くこと」を行い、練習をして「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「報告する」「申し出る」「依頼する」などが取り上げられている。
教出	言語の使用場面として、紹介したい日本の文化の一つを選んで発表する場面を取り上げた『日本の文化を紹介しよう!』などが掲載されている。この活動は、日本の文化について紹介された英文を「読むこと」から始め、それを参考に紹介したい日本の文化を考えてメモを作り、メモを参考に「書くこと」を行う。その後グループ内で「話すこと[発表]」「聞くこと」を行い、互いに質問や感想を言い合う「話すこと[やり取り]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「挨拶をする」「褒める」「描写する」「意見を言う」「質問する」などが取り上げられている。
光村	言語の使用場面として、ウェブサイトの掲示板の内容を参考に議論に参加する場面を取り上げた『学校に必要なものを考えて意見を伝えよう』などが掲載されている。この活動は、掲示板に書かれた意見を「読むこと」から始め、その内容についての賛否を考え、グループで議題を決め「話すこと[やり取り]」「聞くこと」を行い、「書くこと」で議論を整理する。最後に、そのテーマについての自分の賛否を「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「謝る」「説明する」「反対する」「質問する」などが取り上げられている。
啓林館	言語の使用場面について、有名人や歴史上の人物などに架空のインタビューをする場面を取り上げた『有名人にインタビューしよう』などが掲載されている。この活動は、ALTにインタビューしている対話「話すこと[やり取り]」からわかったことについてメモを取りながら「聞くこと」から始め、それを参考にインタビューしたい人物を決めて質問事項を「書くこと」を行う。ペアで作った原稿を「読むこと」などを通して練習し、「話すこと[発表]」につなぐという流れで構成されている。この活動における言語の働きとして、「相づちを打つ」「歓迎する」「報告する」「申し出る」「質問する」などが取り上げられている。

⑪ 小学校と関連した構成となるよう、小学校外国語活動及び外国語科で扱った音声や語彙、表現を取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭の『Unit 0』で学習内容を振り返り、『Unit 1～5』で学習内容を文法面から整理している。単元全体の本文を聞くことから始め、小学校で慣れ親しんだ表現を使って話す活動を行い、中学校の活動につなげている。全編を通し、小学校の既習事項が『小』のアイコン、語彙については『小学校の単語』と囲みで明示されている。『Sounds and Letters』で、音と文字の関係を示した活動が設定されている。1年時の巻末のCan-Doリストは、小学校の目標も表記されている。
開隆堂	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Get Ready』『Program 0』を設け、小学校で学んだ表現、アルファベット、つづり字と発音など文字に関わる内容が扱われている。全編を通し、マンガ形式の『Scenes』で、新出表現が場面シラバスから導入されている。ペアのスマールトークのコーナー『Try』が各課2～3か所設けられている。巻末資料として、カテゴリーごとにまとめられた『小学校で学んだ単語』が設定されている。目次では、小学校の時に学んだ表現が青字で表記されている。
三省堂	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Hello, Everyone!』『Starter』が設けられるとともに、『Lesson 1～3』が接続単元として設定されている。この中で、小学校で学んだ言葉の使用場面、語句・表現、アルファベットと文字の読み方などを振り返り、文法事項や文構造が整理されている。小学校で扱った語の中から発信語彙が抽出され、再掲語として各ページの下に卵型のアイコンで表示されている。発音に関して、段階的に音声のルールが示されている。
教出	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Springboard』が設けられ、イラストを使ったリスニングやゲーム、アルファベットや英語の書き方のルールなどを通して、小学校で慣れ親しんだ表現の復習場面が設定されている。『Activity』で、小学校で扱ったコミュニケーション活動が扱われている。『Activities Plus』の最初の内容は、小学校で学んだ日付や曜日の表現が扱われている。巻末の語彙リストを『Word List①』『Word List②』に分け、『Word List①』には小学校の既習語彙がグループ別に掲載されている。
光村	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Be Friends!』が設けられ、小学校で扱った語句と表現を用い、「聞くこと」から始め、「話すこと」、「書くこと」へとつなぐ流れが設定されている。その後の『Unit 3』までは、本文をマンガ形式のレイアウトにすることで扱う文字数が減らされている。帯活動の『Sounds and Letters』で、発音とつづりのルールを学ぶ教材が扱われている。巻末の『Word List』『基本本文のまとめ』では、小学校での既習事項に桜の花びらのマークが付けられている。
啓林館	小学校の既習事項を確認するページがあり、第1学年の冒頭に『Let's Start』が設けられ、小学校で学習した内容を聞くことから振り返り、耳から学習した英語を文字と結び付ける流れで構成されている。他ページと比べイラストが大きく使用されている。アルファベットの大文字と小文字を順番通りに書く練習をする『アルファベットを読み書きしよう』が設定されている。小学校の行事の英語の名称が、巻末の『Word Box』に記載されている。
⑫ 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などを、生徒の発達の段階や興味・関心に即して効果的に取り上げるなど、工夫や配慮がなされているか。	
東書	国際理解を深めることについて、第1学年では、国際交流イベントを通して知る世界の水問題を取り上げた『Think Globally, Act Locally』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、オーストラリアやイタリアなどの世界遺産を取り上げた『World Heritage Sites』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、世界のエネルギー資源の可採年数や自給率などの諸問題を取り上げた『Power Your Future』が掲載されている。
開隆堂	国際理解を深めることについて、第1学年では、フィンランドの自然や気象などを取り上げた『A Trip to Finland』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、エルトゥールル号の人命救助活動から始まったトルコと日本の友好関係を取り上げた『Friendship beyond Time and Borders』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、チョコレート産業の隠された部分について取り上げた『The Story of Chocolate』が掲載されている。
三省堂	国際理解を深めることについて、第1学年では、家族紹介を通して知るイギリスの文化を取り上げた『My Family, My Hometown』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、オーストラリアの世界遺産ウルルと先住民族の歴史を取り上げた『Uluru』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、多言語国家であるインドの姿を取り上げた『Languages in India』が掲載されている。
教出	国際理解を深めることについて、第1学年では、世界に広がる地球温暖化やゴミ処理問題などの環境問題を取り上げた『Helping the Planet』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、鎌倉の大仏、姫路城、グランドキャニオンなどの観光名所を取り上げた『Castles and Canyons』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、カナダでのホームステイ体験を取り上げた『Aya Visits Canada』が掲載されている。
光村	国際理解を深めることについて、第1学年では、外国の物語であるイソップ童話の「ライオンとネズミ」を取り上げた『The Lion and the Mouse』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、ニューヨーク旅行を通しての様々な観光地を取り上げた『Tour in New York City』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、アラブ首長国連邦・イギリス・ルワンダのそれぞれの中学校生活を取り上げた『School Life Around the World』が掲載されている。
啓林館	国際理解を深めることについて、第1学年では、アメリカ人が感じる日本の不思議なものを取り上げた『学校で』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第2学年では、香港・ハワイ・シンガポール・ニュージーランドへの旅行を取り上げた『Traveling Overseas』が掲載されている。 国際理解を深めることについて、第3学年では、世界中で病気や災害に苦しむ子どもたちに折り紙を教えた盲目の日本人を取り上げた『Origami Ambassador』が掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 0～11』、第2学年は『Unit 0～7』、第3学年は『Unit 0～6』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Stage Activity』、聞き取り教材『Let's Listen』、会話教材『Let's Talk』、読み物教材『Let's Read』などが設定されている。
開隆堂	中心となる単元名を『Program』と表記し、第1学年は『Program 1～10』、第2学年は『Program 1～8』、第3学年は『Program 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Our Project』、技能別の活動『Power-Up』、読み物教材『Reading』などが設定されている。
三省堂	中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～8』、第2学年は『Lesson 1～7』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、技能別の活動『Take Action!』、読み物教材『Reading for Fun』『Reading for Information』などが設定されている。
教出	中心となる単元名を『Lesson』と表記し、第1学年は『Lesson 1～9』、第2学年は『Lesson 1～9』、第3学年は『Lesson 1～7』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、技能別の活動『Tips』、読み物教材『Reading』などが設定されている。
光村	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～8』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～8』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『You Can Do It!』、技能別の活動『Daily Life』、読み物教材『Let's Read』などが設定されている。
啓林館	中心となる単元名を『Unit』と表記し、第1学年は『Unit 1～10』、第2学年は『Unit 1～8』、第3学年は『Unit 1～6』で構成されている。また、領域統合型のプロジェクト活動『Project』、聞き取り教材『Let's Listen』、会話教材『Let's Talk』、読み物教材『Read and Think』などが設定されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA4判が採用されている。
開隆堂	判型はA B判が採用されている。
三省堂	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はA B判が採用されている。
光村	判型はA B判が採用されている。
啓林館	判型はA B判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『特別支援教育の観点から、読みやすさと書きやすさを追求した欧文用ユニバーサルデザインフォントを一部に採用しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
開隆堂	『カラーユニバーサルの視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの生徒が見やすくなるように配慮をしています。』『特別支援教育の観点から、書かれている内容が読み取りやすくなるように配慮をしています。』と表記されている。
三省堂	『この教科書はユニバーサルデザインに配慮しています。』『カラーユニバーサルデザインに配慮して編集しています。』『見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『生徒の学習負担を軽減できるよう、小学校との接続期の英文には、書き文字との差異が少ない書体を独自に開発し、使用しています。』『日本語の文のうち、ふきだし内などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。
啓林館	『個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました。』『メディア・ユニバーサル・デザイン協会の認証を申請中です。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
東書	なし
開隆堂	なし
三省堂	3年の50ページ 『Yokohama has many things to see.』の英文
教出	1年の76ページ 『中華街』の写真 2年の66ページ 『鎌倉の大仏』の写真 3年の19ページ 京急線、JR根岸線を使って横浜スタジアムまで案内する表現
光村	2年の117ページ 『神奈川冲浪裏』の写真
啓林館	3年の68ページ 『安藤百福発明記念館 横浜』にある安藤百福の像の写真

② URL、二次元コード等の掲載の有無						
発行者名	1年	2年	3年			
東書	有	有	有			
開隆堂	有	有	有			
三省堂	有	有	有			
教出	有	有	有			
光村	有	有	有			
啓林館	有	有	有			

③ 一冊ごとの重量(g)						
発行者名	冊数	1年	2年	3年		
東書	3	408	391	383		
開隆堂	3	381	370	354		
三省堂	3	359	343	356		
教出	3	368	368	363		
光村	3	383	380	381		
啓林館	3	328	344	313		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	東書	書名	新訂 新しい道徳3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、各内容項目に関連した道徳的諸価値に関する発問が、教材末に『考えよう』として設定されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、役割演技などをおして、人と関わることで多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止の視点から、複数の教材に関連付けた、いじめ・人権について学ぶユニット『いじめのない世界へ』が各学年に設定されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、情報モラルと友情の問題を扱った『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『働くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』などが掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、冒頭に、学ぶ内容項目に関連した学びの観点が示されている。また、各単元末に主題に関する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、各教科と関連した教材として、例えば、技術・家庭科と関連した『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、巻頭の『話し合いの手引き』では、話し合いの進め方が示されている。また、巻末には意見発表の方法の1例としてホワイトボードが設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『古都の雅、菓子的心』、『島唄の心を伝えたい』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、役割演技など、学習した内容項目に関わる活動内容が『ACTION!』に示されている。『席替え』では役割演技をもとに考えを話し合う活動が設けられている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』に掲載されている教材などが配置されている。高等学校との関連について、職業や将来に関する教材が配置されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、SNSによるいじめ問題など、現代的な情報モラルを扱う教材が配置されている。投稿サイトへの友人の悪口に関する教材などが取り上げられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、吹き出しで、活動のポイントを示している『考えたいグー』というキャラクターが設けられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『1年間で学ぶこと』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、考えたり、思ったりしたことを記述する欄『つぶやき』が、各教材の下部に設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論をおして多面的・多角的な考え方にふれる教材『傍観者でいいのか?』や、『ACTION!』などのコーナーに議論の場が設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、『もし、あの日にもどれるならば』など、役割演技をしたり、話し合ったりする、体験的な学習を取り上げる『ACTION!』が設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、28の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	教出	書名	中学道徳3 とびだそう未来へ
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連			<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材名の下に、道徳的諸価値につながる発問が示されている。『道徳の学びを記録しよう』に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、体験的な学習をとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『やってみよう』のコーナーが設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に、『道徳の学びを振り返ろう』が巻末にそれぞれ設けられている。</p>
2 かながわ教育ビジョンとの関連			<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、いじめの問題についての教材では、関連する教材でユニットが生まれ、3年間をとおして、継続して学習する設定がなされている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『ルールとマナー』や『自分で決める』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『「どうせ無理」をなくしたい』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。</p>
3 内容と構成			<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、主題名の下に、導入の発問が示されている。教材末『学びの道しるべ』のコーナーに、話し合いの流れや、視点を変える発問が示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、行事との関連が図られた教材『三年生を送る会』などが配置されている。社会科(歴史的分野)と関連した『六千人の命のビザ』が配置されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『道徳科で学びを深めるために』では、話し合いの手引きが示されている。教材末に考えを整理し、話し合い、交流する『学びの道しるべ』が設けられている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、『“庶民の笑い”を絶やさない～落語家・桂米朝さんの生涯～』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『裏庭でのできごと』など、教材に関連した役割演技をとおして、自分の考えを振り返り、話し合うコーナー『やってみよう』が教材末に設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、入学当初は、ひらがなで書かれた詩や、漫画などが用いられている。高等学校との関連について、キャリア教育・社会参画を扱った教材が配置されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年に情報モラルに関する教材などが設定されている。SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなど、身近な問題に関する教材が設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、基本的に右ページ始まりで教材が配置されている。キャラクターの吹き出しなど、文章は基本的に文節の区切りで改行されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『学びの道しるべ』には立場を置き換え、視点を変えて考えさせる発問が示されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、オリエンテーション『道徳科で学びを深めるために』では、考えを出し、話し合う中で、議論を深めていく発問や、授業の流れが示されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、登場人物等の立場になって考えたり、役割演技をしたりするコーナー『やってみよう』が各学年に設けられている。</p>
4 分量・装丁表記等			<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。</p>

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	光村	書名	中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○ 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、教材名のとらに、関連する内容項目が示されている。主題に関する発問が、各教材末の『考えよう』に示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、別の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻末に、学びに向かう自分の思いや、学んだことを記録する、『学びの記録』がシーズンごとに設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』のコーナーが、各学年に設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『私の話を聞いてね』や『言葉の向こうに』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私の働く理由』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、めあてや発問が示されている『考えよう』のコーナーが教材末に設けられている。『深めたいむ』では教材と関連した活動的な学習が設定されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、発達の段階に応じて、1年間を3シーズンに分けた学習計画が示されている。社会科と関連した『日本のお米』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『広げよう 人と人との関係づくり』では、ペア活動やアンガーマネジメントなど、相互理解に向けた話し合い活動の例が示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、郷土の伝統や文化を守ることの大切さにふれた『なのおしもん』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、各学年、教材中の発問のあとに設定されている、『見方を変えて』や、『深めたいむ』のコーナーで、役割演技や鑑賞のポイントが示されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』から教材が配置されている。高等学校との関連について、複数教材からなるユニット『新しい進路へはばたく』が設けられている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、情報モラルに関する、SNSによるトラブルや、スマートフォンを持っていない友人との付き合い方など、『相互理解・寛容』などに関連した教材が配置されている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、冒頭に、学習指導要領の各視点の印が色別に異なる絵柄で表示されている。また、『考えよう』など、項目ごとにイラストが用いられている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『道徳の授業を始めよう!』のコーナーに、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、各内容項目に関する発問が分類された表が示されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』で学んだ内容を、視点や立場を変えて振り返る発問が、『見方を変えて』『つなげよう』というコーナーに設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』の下に他者の視点に立つコーナー『見方を変えて』や、以前の学習と関連付けて考える『つなげよう』が配置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、生徒が役割演技をすることで、別の視点から教材を振り返る『見方を変えて』が、各学年の『考えよう』のコーナーの中で取り上げられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、31の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『教科書本文等には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	日文	書名	中学道徳 あすを生きる 3 中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。主題に関する発問が、各教材末『考えてみよう』『自分に+1』に示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容が他教科や活動とつなげて示された『プラットホーム』のコーナーが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、集団生活を複数の教材から考えるユニット『いじめと向き合う』や、役割演技を行い「いじめ」について考える『プラットホーム』が設けられている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『近くにいた友』や『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、問題解決的な学習に関する教材『あったほうがいい?』などが設けられ、続けて学習活動の例を示した『学習の進め方』のコーナーが配置されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科や活動とつなげる『プラットホーム』のコーナーが設けられている。国語科と関連した『トマトとメロン』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、別冊『道徳ノート』に自分と他者の考えを記述する欄が設けられている。『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、地域に生きる人の姿や、文化、伝統への心や思いにふれた『奈良筆に生きる』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『学習の進め方』のコーナーに、役割演技をとおして考える発問、体験学習の進め方、深めるヒント、活動例の写真などが掲載されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、第1学年で、中学校生活への希望を感じさせる詩が設けられ、第3学年で選挙に関する教材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての教材が扱われている。『プラットホーム』というコーナーでは、SNSの長所・短所・注意点などが取り上げられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で、教材名の下に主な登場人物の写真やイラストが配置されている。学習の進め方では、活動の様子が写真を用いて紹介されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『内容項目別教材一覧』に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、『学習の進め方』や『学習を深めるヒント』が設けられている。また、自分との関わりの中で、振り返る『自分に+1』などが設定されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論を行う際に、友達の意見や話し合いの内容をメモする欄が別冊『道徳ノート』に設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、活動例の写真を提示し、生徒の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している学習教材が、『学習の進め方』に設定されている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	学研	書名	新・中学生の道徳 明日への扉 3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した発問が各教材末『考えよう』に示されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ+プラス』などのコーナーが設定されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返るページ『マイプロフィール』が巻頭に、『心の四季』『学びの記録』が巻末に設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「人権教育」について、いじめ防止に関連した教材『卒業文集最後の二行』などが配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ+プラス』が配置されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「情報化」について、『日曜日の朝に』、『アップロード ダウンロード』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、生徒自らが問いを見つけ、考え、話し合ったことを自分の生き方につなげるという、学習の流れが『考えを深める4つのステップ』として示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科と関連した複数の教材でユニットが組まれている。保健体育科と関連した『真の国際人 嘉納治五郎』などが設けられている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、考えを端的に記述し、立場や根拠をもって議論したり、話し合いの中で学んだことを記録したりする特設ページ『深めよう』が各学年に設定されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、日本文化や伝統文化を伝承することの意義について取り上げた『日本の心と技』など、伝統的な文化に関する教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、各学年に、道徳的行為に関する体験的な活動が設けられている『クローズアップ+プラス』や、役割演技などが取り上げられている『深めよう』が配置されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、入学当初にオリエンテーションのページが設けられている。第3学年では選挙に関する教材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、『ネットがないと生きていけない?』など、各学年で情報モラルなどに関した内容が取り上げられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、図表や挿し絵、写真が本文と関連して配置されている。学習指導要領の各視点の印が色別に異なるマークで表示されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻末に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、自分との関わりの中で振り返る『深めよう』のコーナーが設けられている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、別の視点から、自分の考えを振り返る『クローズアップ』が設けられている。教材末『深めよう』では、『話し合おう』が設定されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、問題解決的な学習『二つの心の対話を演じてみよう』などが『深めよう』に設けられている。役割演技をする『やってみよう』が設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、ユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	廣あかつき	書名	中学生の道徳 自分をのばす3 中学生の道徳ノート 自分をのばす3
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』、『考えを広げる・深める』に示されている。巻末の内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、今の自分の視点で振り返る発問などが、『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、毎時間の学習の記録を記述するコーナーや、自分の考えを振り返るコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> 「思いやる力」の「人権教育」について、『ヨシト』など、いじめに関する教材が配置されている。また、『いじめを許さない 私たちの心』のコーナーが各学年の巻末に掲載されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> 「たくましく生きる力」の「情報化」について、『ネット将棋』、『情報社会をいきていくために』など、情報モラルに関する問題を取り上げた教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> 「社会とかかわる力」の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、問題の全体像をつかむ『学習の手がかり』が教材末に設定されている。他者と考えを交流する発問や活動が『考えを広げる・深める』に示されている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、他教科・領域等との関わりが『内容一覧』に示されている。理科と関連した『あのハチドリのように』などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、教材ごとに考えを書き込む欄や、年間の学習を通して学んだことを自由に記述する欄が設けられた別冊『中学生の道徳ノート』が用意されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、和太鼓を例に取り上げた『音を宿す』や、『相馬野馬追の季節』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、『考える・話し合う』において、登場人物になり役割演技をしたり、具体的な場面を追体験したりすることで、見方や考え方の違いに気づく活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、道徳科の時間で学ぶことが説明されている。高等学校との関連について、将来の自分について考える『二度とない人生だから』などが設定されている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての内容が扱われている。インターネット上でのマナーやSNSにコメントしたことによるトラブルに関する教材が設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真などが掲載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 巻末に、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関する教材ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、課題解決に関して『考える・話し合う』が設定されている。『thinking』のコーナーには前の教材に関連した実話や詩が掲載されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、議論につながる発問が、『考えを広げる・深める』に設けられている。議論した内容を広げるコーナー『thinking』が設けられている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、体験的な学習をとおして、道徳的価値についての考えを振り返る、役割演技や動作化などの活動が、教材末『考える・話し合う』に設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はAB判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 『この教科書は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。』と表記されている。</p>		

【資料 I】

※書名の表記は第3学年のものに統一

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

※詳細については、資料Ⅱ(道徳-8～道徳-16)を参照

発行者の略称	日科	書名	道徳 中学3 生き方を創造する
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>① <input type="checkbox"/> 「知識・技能」の習得について、主題に関する発問が、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』に設定されている。巻末に教材と関連する内容項目が示されている。</p> <p>② <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」の育成について、話し合いをとおり、多面的・多角的な考え方に触れる発問などが、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』に示されている。</p> <p>③ <input type="checkbox"/> 「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、1年間の心の成長と、1年間の道徳科の時間を振り返るそれぞれのページをとおりして、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。</p>		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に沿っているか。</p> <p>④ <input type="checkbox"/> [思いやる力]の「人権教育」について、『プロレスごっこ』や『コンスタンチン君 命のリレー』など、いじめ防止や生命尊重に関する教材が配置されている。</p> <p>⑤ <input type="checkbox"/> [たくましく生きる力]の「情報化」について、『グループ』、『もっと知りたい SNSで広がったボランティア活動』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する教材が設定されている。</p> <p>⑥ <input type="checkbox"/> [社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『仕事と心』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。</p>		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通の観点》</p> <p>○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑦ <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びについて、『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』では、教材の主題に関する問いが示されている。また、巻末に振り返りをするページが設けられている。</p> <p>⑧ <input type="checkbox"/> カリキュラム・マネジメントについて、学習指導要領の内容項目の順で教材が配列されている。理科と関連した『ニッポニア・ニッポン』という教材などが設定されている。</p> <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑨ <input type="checkbox"/> 言語能力の育成について、『二つの足跡』では、話し合い活動の例が示されている。『ニュースで討論「支え合いは当たり前」』では、討論の仕方の例が示されている。</p> <p>⑩ <input type="checkbox"/> 伝統や文化に関する教育の充実について、地域に尽くした先人の心や考えなどにふれる『銅像が教えてくれたこと』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。</p> <p>⑪ <input type="checkbox"/> 体験活動の充実について、教材末『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』において、役割演技をとおりして考えたことを話し合うことで、自己の考えを振り返る活動が設定されている。</p> <p>⑫ <input type="checkbox"/> 学校段階間の円滑な接続について、入学当初、『今日からはじまる』という詩が掲載されている。高等学校との関連について、社会参画やキャリア教育に関する教材が設けられている。</p> <p>⑬ <input type="checkbox"/> 情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関する教材が取り扱われている。SNSのよさについて考える『もっと知りたい』が教材の後に設けられている。</p> <p>⑭ <input type="checkbox"/> 生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。各学年で、本文の難解な部分を補助する脚注が記載されている。</p> <p>○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <p>⑮ <input type="checkbox"/> 『学習指導要領対応表』に、各教材を道徳科で学習する4つの視点と、各内容項目の内容ごとに分類した表が配置されている。</p> <p>《各教科・種目別の観点》(それぞれの教科・種目の観点は観点-2～5を参照)</p> <p>⑯ <input type="checkbox"/> 「考える道徳」につながる内容構成について、生徒の日常生活の中で答えが1つではない道徳的な課題を、自分自身の問題として3年間をとおりして学ぶ教材『リョウとマキ』が配置されている。</p> <p>⑰ <input type="checkbox"/> 「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末に、意見交換をすることで、多様な価値観と出会う『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』のコーナーが設置されている。</p> <p>⑱ <input type="checkbox"/> 道徳的行為に関する体験的な学習について、教材に関係のある日常生活での体験をとおりして、自らの考えを振り返る『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』が教材末に設けられている。</p>		
4 分量・装丁表記等	<p>⑲ <input type="checkbox"/> 22の内容項目を含む、37の主たる教材が配置されている。</p> <p>⑳ <input type="checkbox"/> 判型はB5判が採用されている。</p> <p>㉑ <input type="checkbox"/> 編修趣意書には、『生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。』と表記されている。</p>		

【資料Ⅱ】

教科種目名《特別の教科 道徳(道徳)》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「知識・技能」の習得について、『考えよう』として教材末に内容項目に関連した道徳的諸価値を理解する主発問を示している。また、自分のこととして考えられる『自分を見つめよう』が設定されている。
教出	「知識・技能」の習得について、学習のねらいを示すことで見通しをもって授業に取り組めるよう、教材冒頭に道徳的諸価値につながる発問を設けている。また、『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに教材と関連する内容項目が示されている。
光村	「知識・技能」の習得について、教材名のとなりに、関連する内容項目が示されている。教材を通して何を学ぶのか、主題に関する発問が、各教材末の『考えよう』に示されている。また、1年間を『自ら考えて』『広い視野で』『共に学び合いながら』という3つのシーズンに分けてテーマが設定されている。
日文	「知識・技能」の習得について、内容項目に関連した主題が教材名の上に示されている。ねらいに迫る発問の例が、『考えてみよう』、『自分に+1』として教材末に設けられている。また、『プラットフォーム』では学習内容が他教科や活動とつなげて示されている。
学研	「知識・技能」の習得について、教材から学んだことを、今後の自分に関連付ける発問が、各教材末『考えよう』に示されている。巻頭に道徳の授業への向き合い方として、『考えを深める四つのステップ』を明示している。
廣あかつき	「知識・技能」の習得について、道徳的諸価値に関する発問が『学習の手がかり』や、『考えを広げる・深める』に示されている。巻末に内容一覧に、教材と関連する内容項目が示されている。また、『thinking』という理解を助ける補助資料のページが設けられている。
日科	「知識・技能」の習得について、教材末に考えたり、話し合ったりする視点や、主題に関する発問が記載されている、『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』が設定されている。また、巻頭『道徳科って何を学ぶの?』に、道徳科を学ぶ意義などが示されている。巻末『学習指導要領対応表』に教材と関連する内容項目が示されている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、役割演技など、人と関わることをとおして、多面的・多角的な考え方に触れる『ACTION!』のコーナーが設けられている。また、人と関わることをとおして、様々な考えに触れる活動型の教材が設定されている。
教出	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、体験的な学習をとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れる教材『不自然な独り言』、『裏庭での出来事』などが『やってみよう』のコーナーに設けられている。
光村	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだあとに、別の人物の視点から振り返る『見方を変えて』や『つなげよう』のコーナーが設定されている。また、1年間の学びを振り返る『道徳の学びを振り返ろう』が巻末に設けられている。
日文	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、学習内容を他教科や活動とつなげ、考えや視野を広げる『君の心を打つ言葉』などが『プラットフォーム』のコーナーに配置されている。また、教材末に、自らの考え方をより深く考える『考えてみよう』『自分に+1』が設けられている。
学研	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、視点や学習内容の違う関連情報を取り扱った、『クローズアップ』『クローズアッププラス』などのコーナーが設定されている。また、教材の終わりに、生徒全員が同じテーマで思考する『考えよう』が設定されている。
廣あかつき	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、教材を学んだ後に、今の自分の視点から振り返ったり、考えたりする発問が、教材末『学習の手がかり』の中に配置された『考えを広げる・深める』のコーナーに設けられている。
日科	「思考力・判断力・表現力等」の育成について、話し合うことをとおして、複数の人物の多面的・多角的な考え方に触れ、自分自身の考えを見つめる、『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』のコーナーが教材末に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、授業について振り返ったり、教材から学び、心に残っていることを記述したりする『自分の学びを振り返ろう』が設定されている。また、自己を見つめ自己の学びを振り返る『1年間で学ぶこと』のページや、自由に思いを書き込む『つづやき』をはじめ、その時の自分の考えを記述したり、振り返りをしたりするページが設定されている。
教出	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返り、これから学びたいこと、がんばりたいことを記述する欄が巻頭に配置されている。巻末には『道徳の学びを記録しよう』や『これからを生きる皆さんへ』、『道徳の学びを振り返ろう』が設けられている。
光村	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻末に、学んでいくにあたっての自分の思いや、毎時間後に記録した学習内容を記述し、学期ごとに振り返り、自分の成長を確かめるコーナー『学びの記録』がシーズンごとに設定されている。
日文	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の『道徳科での学び方』で学習過程が示されている。また、『考えてみよう』では、主題に関する発問が示され、自分の考えを記述したり、考えを振り返ったりする別冊『道徳ノート』が設定されている。
学研	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、巻頭の自己を見つめる『マイプロフィール』、巻末の心の成長を振り返る『心の四季』『学びの記録』において各学期の振り返りができる構成になっている。また、巻末には学期ごとの学習のまとめが設定されている。
廣あかつき	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、自己を見つめ、振り返るコーナーや、毎時間の学習の記録や、心に残っている授業の記録を記述するコーナーが、別冊『中学生の道徳ノート』に設定されている。
日科	「学びに向かう力・人間性等」の涵養について、1年間の心の成長を振り返るページと、1年間の道徳科の時間を振り返るページをとおして、道徳科で学びたいことを記述するコーナーが設けられている。教材の後の『込められた想い』『もっと知りたい』などで、自分ができることについて考えるコーナーが設けられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

④ [思いやる力]他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる。	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育 など)	
東書	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止の視点から、第1学年『傍観者でいいのか』など、各学年に、複数の教材を関連付けて、いじめ・人権について学ぶユニット『いじめのない世界へ』が設定されている。また、各学年に、人間としての生き方を深く考える、ユニット『いのちを考える』が設定されている。
教出	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめや差別について考える教材には、目次において各ページにマークが付けられている。また、いじめの内容について関連した教材でユニットを組むことで、3年間をとおして継続して学習する設定がなされている。
光村	[思いやる力]の「人権教育」について、『魚の涙』や『三年目の「ごめんね」』など、いじめの問題を扱った教材に関連した『深めたいむ』が設けられている。学級づくりや人間関係づくりについて、いじめ問題の解決に結びつく教材が学年の前半に配置されている。
日文	[思いやる力]の「人権教育」について、『いじめと向き合う』では複数の教材から他者を尊重した集団生活について考えるユニットが各学年で設定されている。また、「いじめ」を重点テーマとして役割演技をする『プラットホーム』が設定されている。
学研	[思いやる力]の「人権教育」について、いじめ防止に関連した『卒業文集最後の二行』などの教材が配置されている。「生命尊重」などを取り上げた、『クローズアップ』が配置されている。また、いじめや命をテーマとした『クローズアップ+プラス』や、自己肯定感について考えさせる『あなたへ質問』が設定されている。
廣あかつき	[思いやる力]の「人権教育」について、『ヨシト』や『卒業文集最後の二行』など、いじめについて取り扱った教材が配置されている。道徳科の時間に考えた『人間としての在り方や生き方』を振り返り、いじめについて考えさせる『いじめを許さない 私たちの心』という教材が、巻末に掲載されている。
日科	[思いやる力]の「人権教育」について、『プロレスごっこ』、『いつかは言いたい二度目のごめん』や『コンスタンチン君 命のリレー』など、いじめ防止や生命尊重に関する教材が配置されている。また、国境や文化を越えて道徳的価値を形成する教材が配置されている。
⑤ [たくましく生きる力]自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる。	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力 など)	
東書	[たくましく生きる力]の「情報化」について、情報モラルと友情の問題を扱った第1学年『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』や、第3学年『スマホに夢中!』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。
教出	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『ルールとマナー』や第2学年『SNSについて考えよう』、第3学年『歩きスマホをどうするか』など、SNSやスマートフォンの扱い方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。
光村	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『私の話を聞いてね』や『言葉の向こうに』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材が設定されている。『情報モラル』のテーマで複数教材からなるユニットが組まれている。
日文	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『近くにいた友』『違いを意識したコミュニケーション』や第2学年『インターネットでの情報発信』など、SNSを利用した社会との関わり方に関する問題を取り上げた教材や、情報の正しい活用方法について考えられるコラムが設定されている。
学研	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『日曜日の朝に』、第2学年『つい言い過ぎて』、第3学年『アップロード ダウンロード』など、SNSやスマートフォンの使い方に関するトラブル、課題を取り上げた教材や、『クローズアップ』『ネットがないと生きていけない?』などのコーナーが配置されている。
廣あかつき	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『ネット将棋』、第3学年『情報社会をいきていくために』など、情報モラルに関する問題を取り上げた教材が設定されている。また、年代の近い主人公や筆者の教材が設定されている。
日科	[たくましく生きる力]の「情報化」について、第1学年『グループ』、『もっと知りたい SNSで広がったボランティア活動』、第2学年『ネット将棋』など、SNSやスマートフォンの使い方に関する課題を扱った教材が配置されている。
⑥ [社会とかかわる力]社会とかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる。	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動 など)	
東書	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『働くってどんなこと?』や社会参画に関する教材『本が泣いています』が掲載されている。「生きること」に関して、『桂歌丸 生涯・落語』や『ぼくの使命 野村萬斎』などの著名人の経験などが紹介されるコーナー『PLUS+』が設けられている。
教出	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『「どうせ無理」をなくしたい』や社会参画に関する教材『選ぶということ』が掲載されている。「生きること」について、竹下佳江など、身近な先人の生き方から学ぶ教材が掲載されている。
光村	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私の働く理由』が掲載されている。「生きること」について、環境教育など現代的な課題について取り上げたコラム『広げよう』のコーナーが設けられている。
日文	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『私は清掃のプロになる』や社会参画に関する教材『あったほうがいい?』が掲載されている。「生きること」について、環境問題、安全教育など、現代的社会的な課題を考えられる教材が設けられている。
学研	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『掃除の神様が教えてくれたこと』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、ユニット学習として『夢に向かって共に輝く』『地球と地域の未来のために』などが設定されている。
廣あかつき	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『午前一時四十分』や社会参画に関する教材『加山さんの願い』が掲載されている。「生きること」について、巻末に、現代社会の諸問題や現状を紹介する、第1学年『よりよい未来をつくるために』などのコーナーが設定されている。
日科	[社会とかかわる力]の「働くことの大切さ」について、キャリア教育に関する教材『仕事と心』や社会参画に関する教材『町内会デビュー』が掲載されている。「生きること」について、家族の一員としての自覚に関する、第1学年『形見』などの教材が設定されている。

3 内容と構成

○ 中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮

東書	主体的・対話的で深い学びについて、教材の冒頭には、学ぶ内容項目に関連した学びの観点が示されている。また、教材末に主題に関する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。第1学年『楽寿号に乗って』では、冒頭の『ボランティア活動に参加して』とテーマが示されている。また、各単元末にテーマに対する発問『考えよう』『自分を見つめよう』が設けられている。
教出	主体的・対話的で深い学びについて、主題名の下に、導入の発問が示されている。教材末『学びの道しるべ』のコーナーに、話し合いの流れや、視点を変える発問が示されている。また、巻頭に『学びを深めるために』、巻末に『学びの振り返り』のページが配置されている。
光村	主体的・対話的で深い学びについて、全学年において教材末に『考えよう』が設けられ、めあてと発問が示されている。また、各学年の『深めたいむ』のコーナーでは読み物教材と関連した活動的な学習や話し合い活動が設定されている。
日文	主体的・対話的で深い学びについて、第1学年『あったほうがいい?』、第2学年『「自分」ってなんだろう』など、問題解決的な学習に関する教材のあとに、問題解決に向けた活動の例を示した『学習の進め方』のコーナーが設けられている。
学研	主体的・対話的で深い学びについて、各学年の始めに、生徒自らが問を見つけ、考え、話し合ったことを、自分の生き方につなげる学びの流れが、『考えを深める4つのステップ』として示されている。また、各学年に『道徳で学ぶこと・考えること』が設定されている。
廣あかつき	主体的・対話的で深い学びについて、何を考えるのか、全体像をつかむことで主体的に学ぶ見通しをもつ『学習の手がかり』が教材ごとに設けられている。また、『考えを広げる・深める』では、他者と考えを交流する発問や活動が示されている。
日科	主体的・対話的で深い学びについて、巻頭で1年間の流れと教科書の使い方を提示し、巻末には振り返りをするページが設けられている。単元末『考え、話し合ってみよう』そして、深めよう』に作品に関連した発展的な問いが設定されている。

⑧ 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮

(教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、中学校3年間や義務教育学校9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、生徒が学習を進めたり教員が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など)	
東書	カリキュラム・マネジメントについて、各教科と関連した教材はページの右下にマークと教科名で示されている。第1学年では、技術・家庭科と関連した『短文投稿サイトに友達の悪口を書く』という教材が設定されている。
教出	カリキュラム・マネジメントについて、『三年生を送る会』や『旅立ちの日に』など、学校生活や行事との関連が図られた教材が設定されている。第2学年では、社会科(歴史的分野)と関連した『六千人の命のビザ』という教材が設定されている。
光村	カリキュラム・マネジメントについて、発達段階に応じて、1年間を3シーズンに分けた年間の学習計画が示されている。社会科と関連した教材として第1学年では『日本のお米』、第3学年では『一票を投じることの意味』という教材が設定されている。
日文	カリキュラム・マネジメントについて、学習内容を他教科や活動とつなげる『プラットフォーム』のコーナーが配置され、『地球で分かち合う、幸せな未来』、『環境保全と持続可能な社会』などが取り上げられている。第1学年では、国語科と関連した『トマトとメロン』という書写や詩に関する教材が設けられている。
学研	カリキュラム・マネジメントについて、理科に関連した教材からなる『地球と地域の未来のために』など、他教科と関連した複数の教材からなるユニット学習が設定されている。第1学年では、保健体育科と関連した教材『真の国際人 嘉納治五郎』などが設けられている。
廣あかつき	カリキュラム・マネジメントについて、他教科・領域・現代的な課題等との関わりが、『内容一覧』に示されている。第1学年、理科と関連した教材『あのハチドリのように』、第2学年では、総合的な学習の時間と関連した『加奈子の職場体験』などが設定されている。
日科	カリキュラム・マネジメントについて、学習指導要領の内容項目の順で教材が配列されている。理科と関連した第1学年『ニッポニア・ニッポン』という教材などが設定されている。第2学年では、音楽科と関連した『パートリーダー』という教材が設定されている。

○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。

⑨ 言語能力の確実な育成	
東書	言語能力の育成について、巻頭の『話し合いの手引き』では、話し合いの進め方が示されている。また、巻末には意見発表の方法の1つの例としてホワイトボード用のペンで記入するページが設けられている。第1学年のコラム『PLUS+探究の対話「p4c」』では、ルールに沿った対話の仕方の例として『p4c』という手法が示されている。
教出	言語能力の育成について、全学年の巻頭の『道徳科の学びを深めるために』では、学習の進め方や話し合い活動の手引きが示されている。教材末では、自分の考えを整理し、話し合い、考えを交流する『学びの道しるべ』が設けられている。第1学年の『ルールとマナー』では、考えを記入し、話し合いに結びつけていく方法が示されている。
光村	言語能力の育成について、『広げよう 人と人の関係づくり』では、話し合い活動の手引きが示されている。ペア活動やアンガーマネジメントなど、相互理解に向けた話し合い活動が示されている。また、生徒が意見を出す『考えよう』が、すべての教材に設定されている。第1学年の『深めたいむ』では、グループでの話し合い活動が示されている。
日文	言語能力の育成について、全学年で自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられ、それらを対比させながら学習する別冊『道徳ノート』に、自分の考えと他者の考えを記述する欄が設けられている。『学習の進め方』では、話し合いの進め方が写真や、イラストを用いて、考え、議論する話し合い活動が示されている。
学研	言語能力の育成について、考えを端的に記述したり、根拠をもって議論したり、話し合いの中で学んだことを記録したりする特設ページ『深めよう』が各学年に掲載されている。第1学年の『裏庭での出来事』では、『深めよう』において今後の生き方につながる話し合い活動の例が示されている。
廣あかつき	言語能力の育成について、自己を見つめる考えを自由に記述し、教材ごとに考えを書き込む欄や年間の学習を通して学んだことを書く欄を設けた『中学生の道徳ノート』が用意されている。各教材末『考えを広げる・深める』では多面的・多角的に考えながら話し合う活動例や発問例が示されている。
日科	言語能力の育成について、第1学年『二つの足跡』では、話し合い活動の例が示されている。第2学年『ニュースで討論「支え合いは当たり前」』では、討論の仕方の例が示されている。各学年、自らの考えをもとに議論するページが用意されている。
⑩ 伝統や文化に関する教育の充実	
東書	伝統や文化に関する教育の充実について、第1学年、『古都の雅、菓子司の心』では、菓子司の仕事を通して、日本の伝統や文化として守り伝えていかなければならないものを取り上げられている。第3学年『島唄の心を伝えたい』など、伝統的な文化を形成する様々な心に関する教材が各学年で取り上げられている。
教出	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化の継承や発展を通して、国や地域の文化に関する教材が掲載されている。第1学年では『“庶民の笑い”を絶やさない～落語家・桂米朝さんの生涯～』という教材で、伝統文化の一つとして落語が、第3学年『日本の伝統文化将棋』では、伝統文化の一つとして将棋が取り上げられている。
光村	伝統や文化に関する教育の充実について、伝統文化の継承や発展を通して、国や地域の文化についての教材が掲載されている。第1学年『なおしもん』では、郷土の伝統や文化を守る大切さ、継承してきた職人達への思いが取り上げられている。第2学年『一枚の布から』では、伝統を受け継ぐことについての発問が設けられている。
日文	伝統や文化に関する教育の充実について、地域に生きる人の姿や、文化、伝統への心や思いにふれて、新たな文化の創造と発展を考える教材が設定されている。第1学年『奈良筆に生きる』では、伝統や文化を継承していく際に必要なことが取り上げられている。第3学年『父は能楽師』では、文化や芸能を受け継ぐことについて考えさせる発問が設けられている。
学研	伝統や文化に関する教育の充実について、『日本の心と技』など、国の文化の尊重について取り上げた教材が設定されている。第1学年では、『日本の心と技』で、日本文化の魅力と伝統文化を伝承することの意義が取り上げられている。第2学年『金閣再建 黄金天井に挑む』では、日本の文化や伝統を受け継いでいくことについての発問が設けられている。
廣あかつき	伝統や文化に関する教育の充実について、和太鼓を例に取り上げた『音を宿す』など、『国の文化の尊重』に関することを取り扱った教材が設定されている。第1学年では、狂言や琵琶、落語など日本の伝統文化と外国との関わりなどが取り上げられている。第2学年『相馬野馬追の季節』では、伝統文化を尊重する態度や、郷土について考える発問が設けられている。
日科	伝統や文化に関する教育の充実について、地域に尽くした先人の心や考えなどにふれる『銅像が教えてくれたこと』など、伝統的な文化に関することを取り扱った教材が設けられている。第1学年『銅像が教えてくれたこと』では、郷土の伝統文化を学び、地域に尽力した人への尊敬と感謝の気持ちが取り上げられている。第2学年『「道」の文化』では、『柔道』『茶道』の世界を通して、日本の作法を理解することが取り上げられている。

⑪ 体験活動の充実	
東書	体験活動の充実について、役割演技をすることで、学習した内容項目に関わる体験活動として、『ACTION!』というコーナーが設定されている。第1学年、読み物教材『席替え』では、役割演技をもとに考えを話し合う活動『くじ引きの後の場面をやってみよう』が取り上げられている。
教出	体験活動の充実について、『裏庭のでできごと』など、読み物教材に関連した役割演技をとおして、自分を見つめ、振り返ることができる問いが設定されている。第1学年『不自然な独り言』の『やってみよう』では、ペアの役割演技が取り上げられている。
光村	体験活動の充実について、各学年、教材中の発問のあとに設定されている、『見方を変えて』や、『深めたいむ』のコーナーで、学びを深める演技や鑑賞のポイントが記されている。第1学年『父の言葉』では、役割演技が取り上げられている。
日文	体験活動の充実について、『学習の進め方』に、役割演技をとおして考える発問、体験学習の進め方、深めるヒント、活動例の写真など、考えを深める視点が掲載されている。第1学年『近くにいた友』では、役割演技が取り上げられている。
学研	体験活動の充実について、各学年に、道徳的行為に関する体験的な活動ができる『クローズアップ+プラス』や『深めよう』のページが、掲載されている。第1学年『釣りざおの思い出』では2つの心が対話をする、という形式での役割演技が取り上げられている。
廣あかつき	体験活動の充実について、『考える・話し合う』において、読み物の登場人物になり役割演技をしたり、具体的な場面を体験したりすることで、見方や考え方の違いに気づく体験活動が設定されている。第1学年では、場面の中の複数の登場人物の立場に立って考える教材が取り上げられている。
日科	体験活動の充実について、教材末『考え、話し合ってみよう そして、深めよう』において、役割演技をとおして考えたことを話し合うことで、自己の考えを振り返る活動が設定されている。第2学年では、グループでの体験活動が示されている。
⑫ 学校段階間の円滑な接続	
東書	学校段階間の円滑な接続について、小学校の『私たちの道徳』に掲載されている教材などが配置されている。第1学年では、小学校道徳科の教材である『橋の上のおおかみ』という教材が取り上げられている。職業や将来について題材にしている教材を掲載することで、高等学校との関連が図られている。
教出	学校段階間の円滑な接続について、入学当初は、ひらがなで書かれた詩や、イラストや漫画などを用いるなど、小学校道徳科との接続を円滑にする手立てが施されている。第2・3学年では、キャリア教育・社会参画を扱う教材を配置し、高等学校との接続を図る手立てが施されている。
光村	学校段階間の円滑な接続について、『私たちの道徳』（小学校）に掲載されている教材などを配置することで、小学校との関連が図られている。第1学年では、小学校道徳科の教材である『橋の上のおおかみ』という教材が取り上げられている。第3学年の最後の『シーズン』には、『新しい進路』という複数の内容項目を扱うユニットで高等学校との関連が図られている。
日文	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、巻頭に中学校生活への希望を感じさせる詩が掲載され、第3学年では選挙に関する教材、『自分、相手、周りの人』や『サトシの一票』など、高等学校での学習内容につながる教材が設けられている。
学研	学校段階間の円滑な接続について、第1学年では、オリエンテーションのページに小学校の学習内容からの変化の確認が示されている。第3学年では選挙に関する題材など、高等学校での学習内容につながる教材が設定されている。また、『未来への扉』に高等学校の学習内容への接続に対する心構えを記入するページが設けられている。
廣あかつき	学校段階間の円滑な接続について、第1学年の巻頭で、中学校生活のスタートにあたって、道徳科の時間で学ぶことが説明されている。高等学校との関連について、第3学年では、中学校生活を振り返り、将来の自分について考える『二度とない人生だから』などが設定されている。
日科	学校段階間の円滑な接続について、中学校生活への希望を感じさせる『今日からはじまる』という詩が巻頭に掲載されている。また、先哲・著名人の体験や夢を用いた教材が各学年に設定され、社会参画やキャリア教育など、高等学校との接続が図られている。
⑬ 情報活用能力の育成	
東書	情報活用能力の育成について、SNSによるいじめ問題など、現代的な情報モラルを扱う教材が配置されている。第1学年の『短文投稿サイトに友達の悪口を書くと』では悪口を投稿したことにより、友だち関係が悪化する「友情・信頼」等の内容が取り上げられている。第2学年『「いいね」のために』では、動画をアップする際のルールに関する発問が設けられている。
教出	情報活用能力の育成について、各学年に情報モラルに関する教材などが設定されている。SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなど、身近な問題に関する教材で、「自主・自律・自由と責任」、「節度、節制」などの内容項目が取り扱われている。第1学年、『自分で決める』では、SNSによる生活の乱れや、個人情報の取り扱いなどに関する発問が設けられている。
光村	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての教材が扱われている。SNSにコメントしたことによるトラブルや、スマートフォンを持っていない友人との付き合い方などを題材とし、「相互理解・寛容」、「遵法精神・公德心」等の内容項目が設けられている。
日文	情報活用能力の育成について、各学年で扱われている。SNS上のコミュニケーションは日常のコミュニケーションと何が違うのかなど、SNSの長所・短所・注意点などに関する『プラットホーム』というコーナーが、教材のあとに設けられている。第1学年では画像を無断拝借することについての教材『使っても大丈夫』が設定されている。
学研	情報活用能力の育成について、『ネットがないと生きていけない?』など、各学年で情報モラルなどに関した内容が取り上げられており、関連情報により生き方の選択肢を増やす『クローズアップ』のコーナーや、意見や考えを記述する『深めよう』が教材の後に設けられている。第1学年ではSNSで悪口を言い合うことに関する教材『うわさで決めるの?』が設けられている。
廣あかつき	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関しての内容が扱われている。インターネット上でのマナーやSNSにコメントしたことによるトラブルなどの教材が「自主、自立、自由と責任」「相互理解・寛容」等の内容で取り上げられている。第1学年の『言葉の向こうに』ではインターネットを活用してコメントをすることに関する問題が取り上げられている。
日科	情報活用能力の育成について、各学年で情報モラルに関した教材が取り扱われている。SNS上のコミュニケーションの難しさが「公平・公正」等の内容項目で取り上げられている。SNSのよさについて、ボランティア活動の広がりから考える『もっと知りたい』のコーナーが教材の後に設けられている。

⑭ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫	
東書	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で共通した『考えタイガー』というキャラクターが、活動のポイントを示している。会話文や設問は、文節の区切りで改行されている。
教出	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教材は基本的に右ページ始まりで設定されている。導入や『学びの道しるべ』、キャラクターの吹き出しなど、文章は基本的に文節の区切りで改行されている。
光村	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、教材の冒頭に、学習指導要領の各視点の印が、色別に区別しやすい4種類の異なるデザインで表示されている。また、『考えよう』など、様々な項目にイラストが用いられている。
日文	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、各学年で、教材名の下に主な登場人物の欄が配置されている。また、『私の生き方』など、様々な項目にイラストが用いられている。学習の進め方では、活動の様子が写真を用いて紹介されている。
学研	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、図表や挿し絵、写真を本文と関係させて配置している。学習指導要領の各視点が、それぞれ異なる色やマークで表示されている。また、『クローズアップ』や、『深めよう』など、様々な項目にイラストが用いられている。
廣あかつき	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点の印が色別に表示されている。教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真などが掲載されている。各学年で、行間を均一に保つなど読みやすさへの配慮がなされている。第1学年『ガジュマルの木』など、教材の内容に関連した1ページのフルカラー写真が掲載されている。
日科	生徒の学習上の困難さに応じた工夫について、学習指導要領の各視点が、異なる色や印で表示されている。第1学年『銀色のシャープペンシル』など、各学年で本文の難解な語句を補助する脚注が記載されている。
⑮ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	
東書	『1年間で学ぶこと』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。その時間に学ぶことについて、教材の冒頭に、学ぶ内容項目に関連したテーマや投げかけが示されている。
教出	『道徳の学びを記録しよう』のコーナーに、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関わる観点ごとに分類した表が配置されている。教材の冒頭に学習のねらいを明確にする問いが設けられている。また、教材の終わりに学習の流れが例示されている『学びの道しるべ』が設けられている。
光村	『道徳の授業を始めよう！』のコーナーに、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、各内容項目に関する発問が分類された表が示されている。巻頭の『二十二のキーワード』に、各内容項目のキーワードが示されている。各内容項目が学校生活に関連付けられ、シーズンごとのユニットとして分類、整理されている。
日文	『内容項目別教材一覧』に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。主題名が、冒頭、教材名の上に配置されている。また、この教科書で学ぶテーマが、いくつかの内容項目ごとに分類されている。
学研	巻末に、各教材を、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目、内容項目に関わる主題名ごとに分類した表が配置されている。巻頭の『よりよく生きるための22の鍵』に、各内容項目のキーワードが示されている。教材で学んだことと類似した内容のものを、別の視点から考える『クローズアップ』が設定されている。
廣あかつき	巻末に、道徳科で学習する4つの視点と、内容項目に関する教材ごとに分類した表が配置されている。各教材の終わりに、めあてや問い『学習の手がかり』や、『考える・話し合う』が設定されている。
日科	『学習指導要領対応表』に、各教材を道徳科で学習する4つの視点と、各内容項目の内容ごとに分類した表が配置されている。各内容項目順に教材が配置されている。学習の流れを提示した『道徳科って何を学ぶの？』が巻頭に設定されている。
⑯ 道徳的な課題を生徒が自分との関わりの中で、主体的に考え、自分の考え、感じ方を明確にすることができるよう、「考える道徳」につながる内容構成になっているか。	
東書	「考える道徳」につながる内容構成について、自分ごととして主体的に考え、自分の考えを記述する欄『つぶやき』が、各教材の下部に設定されている。第1学年『探究の対話「p4c」』や、第2学年『不安な気持ちを整えてみよう』など、各学年に活動を取り入れた教材が設定されている。
教出	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『学びの道しるべ』には立場を置き換え、視点を変えて考えさせる発問が示されている。各学年、話し合いなど、多面的・多角的に考える『やってみよう』という項目が設定されている。
光村	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』では、教材で学んだ内容を、視点や立場を変えて振り返る発問や、考え方のヒントが、『見方を変えて』『つなげよう』というコーナーに設けられている。
日文	「考える道徳」につながる内容構成について、考え、議論する道徳や、対話的・協働的な学びにつながる『学習の進め方』や『学習を深めるヒント』が設けられている。また、自分との関わりの中で、主体的に考える『考えてみよう』『自分に+1』という場面が設定されている。
学研	「考える道徳」につながる内容構成について、自分との関わりの中で、主体的に考える『深めよう』には『見つけよう』『考えよう』『生き方につなげよう』などのコーナーが設けられている。
廣あかつき	「考える道徳」につながる内容構成について、教材末に、課題解決に向け発問を手がかりとして自らが考える『考える・話し合う』が設定されている。また、学んだ内容を広める『thinking』では、前の教材で学習した内容をもとにした、実話や詩が掲載されている。
日科	「考える道徳」につながる内容構成について、各学年の発達段階に応じて、答えが1つではない道徳的な課題を、生徒一人ひとりが自分自身の問題として、3年間をとおして考える教材が各学年に配置されている。『リョウとマキ』は学年間でつながる生徒の日常が描かれている。

⑰ 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるために、多様な考え方、感じ方と出あい交流する「議論する道徳」につながる内容構成になっているか。	
東書	「議論する道徳」につながる内容構成について、議論をとおして多面的・多角的な考え方にふれる教材『傍観者でいいのか』、『三つのいのちについて考える』や、『ACTION!』『PLUS+』などのコーナーに議論する場が設定されている。
教出	「議論する道徳」につながる内容構成について、オリエンテーション『道徳科で学びを深めるために』では、考えを出し、話し合う中で、議論を深めていく発問や、授業の流れ、授業の様子がイラストなどで示されている。
光村	「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末『考えよう』の下に、多面的・多角的に考え、他者の視点に立つコーナー『見方を変えて』が設けられている。また、『つなげよう』では以前学んだページなどを振り返り、多面的・多角的に考える発問が掲載されている。
日文	「議論する道徳」につながる内容構成について、多面的・多角的な視点で考え、議論を行う際に、友達の意見や話し合いの内容をメモする欄が別冊『道徳ノート』に設けられている。また、各学年とも、自分ごととして考えを深めていく『考えてみよう』『自分に+1』などが設定されている。
学研	「議論する道徳」につながる内容構成について、別の視点から、自分の考えを振り返るコーナー『クローズアップ』が設けられている。教材末『深めよう』では、『話し合おう』『生き方につなげよう』など、話し合うことで異なる考え方に会えるコーナーが設定されている。
廣あかつき	「議論する道徳」につながる内容構成について、議論につながる発問が、『考えを広げる・深める』に設けられている。議論した内容を広げるコーナー『thinking』が設けられている。話し合いをとおして、多面的・多角的な考え方を交流する問いが、別冊『道徳ノート』に設けられている。
日科	「議論する道徳」につながる内容構成について、教材末に、自分の考えを持ち、意見交換をし、多様な価値観と出会う『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』のコーナーが設置されている。第1学年『プロレスごっこ』など、答えを1つに絞ることができない日常的なテーマを扱った教材が配置されている。
⑱ 発達の段階に応じて、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れるための工夫や配慮がなされているか。	
東書	道徳的行為に関する体験的な学習について、『もし、あのときにもどれるならば』など、各学年で、教材の一場面を役割演技するなど、体験的な学習を取り上げる、『ACTION!』が設定されている。また、2時間扱いで考える問題解決的な学習が設定されている。
教出	道徳的行為に関する体験的な学習について、役割演技や日常の体験を想起して話し合う活動を取り入れ、考えたことをさらに深める教材が設けられている。『やってみよう』など登場人物等の立場になって考えたり、役割演技したりする活動が設けられている。
光村	道徳的行為に関する体験的な学習について、生徒が役割演技をすることで、別の視点から教材を振り返る『見方を変えて』が、各学年の『考えよう』のコーナーの中で取り上げられている。第1学年では『考えよう 相手のことを考えて行動するとき大切なのは、どんなことだろう』が設けられている。
日文	道徳的行為に関する体験的な学習について、第1学年『近くにいた友』など、体験的な学習教材が『学習の進め方』に設定されている。中学生の発達段階に合った体験学習が示されている。また、活動例の写真を提示し、生徒の配置や必要な小道具、配慮事項などを具体的に示している。
学研	道徳的行為に関する体験的な学習について、問題解決的な学習で考えを深める『深めよう』のコーナーが設けられている。また、第1学年『二つの心の対話を演じてみよう』など、教材の内容をもとに、役割演技をする『やってみよう』のコーナーが設けられている。
廣あかつき	道徳的行為に関する体験的な学習について、体験的な学習をとおして、道徳的価値について自らの考えを振り返る、役割演技や動作化などの活動が、教材末『考える・話し合おう』に設けられている。第1学年『島 耕作 ある朝の出来事』などで役割演技が設けられている。
日科	道徳的行為に関する体験的な学習について、教材に関係のある日常生活での体験を振り返り、自らの考えを振り返る『考え、話し合ってみよう』そして、『深めよう』が教材末に設けられている。第1学年『私のいいところはどこ』など、互いの意見を認め合う体験的な学習が設けられている。

4 分量・装丁・表記等

⑱ 各内容の分量とその配分は適切であるか。	
東書	22の内容項目を含む、28の主たる教材が配置されている。
教出	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
光村	22の内容項目を含む、31の主たる教材が配置されている。
日文	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
学研	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
廣あか つき	22の内容項目を含む、35の主たる教材が配置されている。
日科	22の内容項目を含む、37の主たる教材が配置されている。
⑳ 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	判型はA B判が採用されている。
教出	判型はB 5判が採用されている。
光村	判型はB 5判が採用されている。
日文	判型はB 5判が採用されている。
学研	判型はA B判が採用されている。
廣あか つき	判型はA B判が採用されている。
日科	判型はB 5判が採用されている。
㉑ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が読みやすく理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	
東書	『全ての生徒の色覚特性に適応するようにデザインしています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
教出	『色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを使用しています。』と表記されている。
光村	『カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています。』『教科書本文等には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザイン書体を採用しています。』と表記されている。
日文	『この教科書はカラーユニバーサルデザインに配慮しています。』『見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。』と表記されている。
学研	『この教科書は、環境に配慮した紙、インキ、印刷方式を使用し、ユニバーサルデザインに配慮して製作しています。』と表記されている。
廣あか つき	『この教科書は、色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています。』と表記されている。
日科	編修趣意書には、『生徒が学びやすく、先生が教えやすい紙面を目指して編集を行いました。』と表記されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載

東書	2年 15ページ 横浜市戸塚区の団地（横浜市） 2年 102ページ 航路図（横浜） 2年 107ページ 杉原千畝のお墓（鎌倉市） 3年 96ページ 神奈川県道徳授業研究会 3年 189ページ パティシエの紹介（神奈川県） 3年 190ページ 相模人形芝居（神奈川県）
教出	1年 91ページ 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏 1年 201ページ 二宮尊徳（神奈川県） 2年 185ページ 小柴昌俊（神奈川県） 3年 185ページ 吉川英治（神奈川県）
光村	1年 178ページ 箱根寄せ木細工 2年 166ページ 箱根駅伝に挑む 3年 36ページ 神奈川県厚木市立睦合東中学校の取組 3年 106ページ 横浜ベイブリッジの写真
日文	1年 81ページ 神奈川県道徳授業研究会 2年 138ページ 二宮尊徳（小田原市）
学研	2年 44ページ ヨコスカネイビーパーカー（横須賀市） 2年 75ページ 読売ジャイアンツ寮（川崎市） 2年 123ページ 真鶴半島（神奈川県） 2年 145ページ 富嶽三十六景 神奈川沖浪裏
廣あかつき	2年 96ページ 路上に散った正義感（横浜市）
日科	3年 184ページ 二宮尊徳（小田原市） 3年 裏表紙 江の島と江ノ島電鉄の風景写真、鶴岡八幡宮のぼんぼり祭

② URL、二次元コード等の掲載の有無

発行者名	1年	1年 ノート	2年	2年 ノート	3年	3年 ノート
東書	有	有	有	有	有	有
教出	有	有	有	有	有	有
光村	有	有	有	有	有	有
日文	有	無	有	無	有	無
学研	有	有	有	有	有	有
廣あかつき	有	無	有	無	有	無
日科	無	無	無	無	無	無

③ 一冊ごとの重量(g)

発行者名	総冊数	1年	1年 ノート	2年	2年 ノート	3年	3年 ノート
東書	3	386	401	400			
教出	3	384	358	357			
光村	3	333	344	348			
日文	6	339	85	337	84	338	85
学研	3	356	377	379			
廣あかつき	6	374	116	345	115	338	116
日科	3	335	332	334			